太田城跡

市道 3175・3181・3182・3184 号線（JT 跡地外周）
道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第 15 集

２０２１

茨城県常陸太田市教育委員会

太田城跡（おおたじょうあと）

市道 3175・3181・3182・3184 号線（JT 跡地外周）
道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第 15 集

2021

茨城県常陸太田市教育委員会

序

常陸太田市は、平成16年12月1日の1市1町2村の合併により、茨城県内第1位の面積を誇る市となりました。市域には300か所を超える埋蔵文化財包蔵地がみられ、県内第2位の規模を誇る前方後円墳の梵天山古墳をはじめ、全長100mを越える星神社古墳と高山塚古墳、久慈郡寺の推定地とされる長者屋敷遺跡など、貴重な遺跡が数多くあります。

当市では、これらの貴重な遺跡の保護・保存を図るとともに、その性格を明らかにすることによって活用を図ることができるようにすることを目的として、市内遺跡事業に取り組み、調査を進めてまいりました。

本報告書は、それらの調査の成果を報告することを目的として刊行するもので、令和元年に実施された太田城跡の発掘調査で得ることができた成果について盛り込みました。

当市では、総合計画のなかで「地域資源に磨きをかけた観光の振興」をかかげ、その中で歴史資源の保護と活用を進めております。文化財とその周辺環境も含めた総合的な文化財保護及び活用施策の充実を図り、歴史資源に磨きをかけ、地域の活性化に結びついていくものと考えております。本報告書が、そのような歴史資源の保護・活用の一助になるとともに、この成果が少しでも多くの方々のお役に立つことができれば幸いです。

最後になりましたが、調査から報告書の刊行までご指導・ご協力を賜りました皆様に、厚くお礼申しあげます。

令和3年3月

常陸太田市教育委員会
教育長　石川　八千代

例　言

1．　本書は、茨城県常陸太田市栄町102番地の1に所在する「太田城跡」埋蔵文化財調査報告書である。

2．　発掘調査は、市道3175・3181・3182・3184号線（JT跡地外周）道路改良工事に伴うもので、常陸太田市より委託を受けた(株)東京航業研究所が、常陸太田市教育委員会文化課の指導の下に実施した。

3．　今次調査の現地調査及び整理・報告書作成期間は以下の通りである。

現　地　調　査　令和元年6月10日～同年9月30日

整理・報告書作成　令和2年6月11日～令和3年3月23日

4．　調査体制

調査主体者	常陸太田市教育委員会	教育長	石川八千代
調査指導	常陸太田市教育委員会文化課		山口憲一
事務局	常陸太田市教育委員会文化課	課長	岩間勇二
	同　文化振興係	係長	小澤光徳
	同　文化振興係	主事	川崎祐子
	同　文化振興係	主事	田所由紀
	同　文化振興係	主事	萩谷友里恵
調査・整理担当	諸星　良一　現地調査・整理作業・報告書作成		

5．　発掘調査及び整理・報告書作成に際しては、下記の関係機関・各位よりご指導・ご協力を賜った。ご芳名を記して謝意を表する次第である。

茨城県教育委員会、(有)立原建設、阿久津久、宮田　毅、宮田裕紀枝、小菅将夫、早田　勉、猪狩俊哉、石川太郎、長井光彦（敬称略、順不同）

6．　本書の作成は常陸太田市教育委員会文化課の指導の下、(株)東京航業研究所が行った。執筆は、第1章　第1節を山口憲一、第1章　第2節、第2章～第4章・第6章を諸星が執筆した。火山灰分析に関しては、(株)火山灰考古学研究所に委託し、第5章に分析結果を掲載した。

7．発掘調査および整理作業参加者は次の通りである。

発掘調査

井坂桂一、上野千枝子、遠藤知成、柏　勝、金沢信好、久野周也、栗原昌子、高久照美、野口　守、檜山　博、矢崎福司、横須賀陽三、和田美帆

整理作業

石原好美、稲毛あゆみ、大川亜弓、大久保文子、岡田ヒサ子、小森暁生、斉藤雅司、酒井成男、髙橋　昇、田上達恵、田口陽祐、田邉文章、竹内あい、中原はつね、中山幸恵、林　洋子、平野由美子、布施比登美、松坂靖子、松山純示、村井健三、村上京子、持田つる子、柳澤美樹、大和　修、山羽　孝、横溝晴枝（敬称略、順不同）

凡　例

1．本遺跡の名称・調査区の略号はOTJを使用する。

2．遺構は、竪穴建物跡、竪穴状遺構＝SI、溝跡、堀跡＝SD、井戸＝SE、土坑＝SK、土壙＝ST、性格不明遺構＝SX、焼土遺構＝SL、ピット＝PITで示す。一部遺構が重複した場合はアルファベット小文字を付し区別した。

3．土層注記は、土層の粒径、由来、性質によって、ローム、火山灰、シルト質土、砂質土に区分し、新版標準土色帳を色相、明度、彩度を基準にして土層を定義し、粘性、しまり、および含有物とその直径、相対的含有量について記録した。必要に応じて、遺構内の土壌を採集し、火山灰分析を実施し、遺跡の自然史と火山灰編年類のデータを収集し、遺構、遺跡の相対的年代や性格の理解に努めた。

4．遺構図のスケールは、平面図が1/60、竈、焼土範囲は1/30である。遺物図のスケールは、1/3を原則とするが、遺物のサイズや性格に応じて変更し、その都度スケールを付した。

挿図の表現については、以下のスクリーントーンを使用した。

遺構

焼土　竈構築材　竈構築材（泥岩）　竈範囲　硬化面

遺物

内面黒色処理　器面赤彩　断面が黒ベタ表現の土器は須恵器である。

遺物分布

土壌サンプル◎

5．遺構図の北方向は座標北を示し、土層断面図、断面図の水準の標高は、海抜標高である。

6．遺構観察表の法量計算値で、（　）内の数値は推定値、〈　〉内の数値は残存値を示した。

7．調査記録、出土遺物は常陸太田市教育委員会で保管している。

目　次

序 ／ 例言 ／ 凡例 ／ 目次
第１章　本調査に至る経緯と経過……1
　第１節　本調査に至る経緯……1
　第２節　本調査の経過と概要……1
第２章　遺跡の位置と環境……3
　第１節　地理的環境……3
　　（１）常陸太田市の位置……3
　　（２）太田城跡の地形・地質……3
　第２節　歴史的環境……5
　　（１）太田城跡について……5
　　（２）遺跡分布について……5
　　（３）過去の調査について……7
第３章　調査方法と基本層序……15
　第１節　調査方法……15
　第２節　基本層序……16
第４章　遺構と遺物……17
　第１節　遺構と遺物の概要……17
　第２節　縄文時代……17
　　（１）遺構の概要……17
　　（２）竪穴建物跡……17
　第３節　弥生時代……19
　　（１）遺構の概要……19
　　（２）竪穴建物跡……19
　第４節　古墳時代……27
　　（１）遺構の概要……27
　　（２）竪穴建物跡……27
　第５節　奈良・平安時代……137
　　（１）遺構の概要……137
　　（２）竪穴建物跡……137
　第６節　中世……160
　　（１）遺構の概要……160
　　（２）堀跡……160
　　（３）柵列……167
　第７節　時期不明の遺構……168
　　（１）遺構の概要……168
　　（２）竪穴建物跡……168
　　（３）井戸……172
　　（４）溝跡……176
　　（５）土坑……177
　　（６）性格不明遺構……183
　　（７）ピット……184
　第８節　調査区内・遺構内出土遺物……187
　　（１）遺物の概要……187

第５章　火山灰分析……207
第１節　はじめに……207
第２節　調査地点の土層層序……207
（１）SD01 覆土断面……207
（２）SD02 覆土断面……207
（３）SD03 壁面……208
（４）SI09 覆土断面……208
（５）SD03 覆土断面……208
第３節　テフラ検出分析……209
（１）分析試料と分析方法……209
（２）分析結果……209
第４節　屈折率測定……211
（１）測定試料と測定方法……211
（２）測定結果……213
第５節　考察……213
（１）テフラ粒子の由来について……213
（２）テフラの産状から推定される遺構の層位や年代……214
第６節　まとめ……214
第６章　総括……217
第１節　地形・地質・立地・火山灰分析……217
（１）地形・地質・立地……217
（２）火山灰分析……217
第２節　各時代の概要……218
（１）後期旧石器時代……218
（２）縄文時代……218
（３）弥生時代……218
（４）古墳時代……218
（５）奈良・平安時代……218
（６）中世以降……219
第３節　遺物の概要……220
（１）古銭……220
（２）石製品……220
（３）土器……220
Summary……221
引用・参考文献……223

挿図目次

第1図　太田城跡位置図
第2図　太田城跡とその周辺の地形区分図・地質概念図（常陸太田市史編さん委員会1984に加筆）
第3図　発掘調査位置図
第4図　太田城図
第5図　遺跡分布図
第6図　全体図
第7図　基本層序柱状模式図
第8図　26号竪穴建物跡
第9図　26号竪穴建物跡出土遺物
第10図　18号竪穴建物跡
第11図　18号竪穴建物跡出土遺物（1）
第12図　18号竪穴建物跡出土遺物（2）
第13図　18号竪穴建物跡出土遺物（3）
第14図　42号竪穴建物跡
第15図　42号竪穴建物跡出土遺物
第16図　1・2号竪穴建物跡（1）
第17図　1・2号竪穴建物跡（2）
第18図　1号竪穴建物跡出土遺物
第19図　2号竪穴建物跡出土遺物
第20図　3・5号竪穴建物跡
第21図　3号竪穴建物跡出土遺物
第22図　5号竪穴建物跡出土遺物（1）
第23図　5号竪穴建物跡出土遺物（2）
第24図　4号竪穴建物跡
第25図　4号竪穴建物跡出土遺物（1）
第26図　4号竪穴建物跡出土遺物（2）
第27図　6号竪穴建物跡
第28図　6号竪穴建物跡出土遺物
第29図　7号竪穴建物跡
第30図　9・10号竪穴建物跡（1）
第31図　9・10号竪穴建物跡（2）
第32図　9号竪穴建物跡出土遺物（1）
第33図　9号竪穴建物跡出土遺物（2）
第34図　10号竪穴建物跡出土遺物
第35図　11・14号竪穴建物跡
第36図　11号竪穴建物跡出土遺物（1）
第37図　11号竪穴建物跡出土遺物（2）
第38図　14号竪穴建物跡出土遺物
第39図　12号竪穴建物跡
第40図　12号竪穴建物跡出土遺物
第41図　15・16号竪穴建物跡（1）
第42図　15・16号竪穴建物跡（2）
第43図　15号竪穴建物跡出土遺物
第44図　16号竪穴建物跡出土遺物（1）
第45図　16号竪穴建物跡出土遺物（2）
第46図　19号竪穴建物跡
第47図　19号竪穴建物跡出土遺物
第48図　20・31号竪穴建物跡（1）
第49図　20・31号竪穴建物跡（2）
第50図　20・31号竪穴建物跡（3）
第51図　20号竪穴建物跡出土遺物
第52図　31号竪穴建物跡出土遺物
第53図　21・22号竪穴建物跡（1）
第54図　21号竪穴建物跡（2）
第55図　21号竪穴建物跡出土遺物
第56図　22号竪穴建物跡出土遺物
第57図　23号竪穴建物跡
第58図　23号竪穴建物跡出土遺物
第59図　24・25号竪穴建物跡
第60図　24号竪穴建物跡出土遺物（1）
第61図　24号竪穴建物跡出土遺物（2）
第62図　25号竪穴建物跡出土遺物
第63図　27・28・29号竪穴建物跡
第64図　28号竪穴建物跡出土遺物
第65図　29号竪穴建物跡出土遺物
第66図　30・35号竪穴建物跡（1）
第67図　30・35号竪穴建物跡（2）
第68図　32号竪穴建物跡
第69図　33号竪穴建物跡
第70図　33号竪穴建物跡出土遺物
第71図　36号竪穴建物跡
第72図　36号竪穴建物跡出土遺物
第73図　37号竪穴建物跡
第74図　37号竪穴建物跡出土遺物
第75図　38号竪穴建物跡（1）
第76図　38号竪穴建物跡（2）
第77図　38号竪穴建物跡出土遺物
第78図　39号竪穴建物跡（1）

第 79 図　39 号竪穴建物跡（2）
第 80 図　39 号竪穴建物跡出土遺物
第 81 図　40 号竪穴建物跡
第 82 図　41 号竪穴建物跡
第 83 図　41 号竪穴建物跡出土遺物（1）
第 84 図　41 号竪穴建物跡出土遺物（2）
第 85 図　43 号竪穴建物跡
第 86 図　43 号竪穴建物跡出土遺物
第 87 図　44 号竪穴建物跡
第 88 図　44 号竪穴建物跡出土遺物
第 89 図　45 号竪穴建物跡
第 90 図　45 号竪穴建物跡出土遺物
第 91 図　48 号竪穴建物跡
第 92 図　48 号竪穴建物跡出土遺物
第 93 図　51 号竪穴建物跡
第 94 図　52 号竪穴建物跡
第 95 図　52 号竪穴建物跡出土遺物
第 96 図　58 号竪穴建物跡
第 97 図　58 号竪穴建物跡出土遺物
第 98 図　59 号竪穴建物跡
第 99 図　61・62 号竪穴建物跡（1）
第 100 図　61・62 号竪穴建物跡（2）
第 101 図　61 号竪穴建物跡出土遺物
第 102 図　64・67 号竪穴建物跡
第 103 図　64 号竪穴建物跡出土遺物
第 104 図　67 号竪穴建物跡出土遺物
第 105 図　66 号竪穴建物跡出土遺物
第 106 図　70 号竪穴建物跡
第 107 図　70 号竪穴建物跡出土遺物
第 108 図　71・73・74・75・84・85 号竪穴建物跡（1）
第 109 図　71・73・74・75・84・85 号竪穴建物跡（2）
第 110 図　71 号竪穴建物跡出土遺物
第 111 図　73 号竪穴建物跡出土遺物（1）
第 112 図　73 号竪穴建物跡出土遺物（2）
第 113 図　84 号竪穴建物跡出土遺物
第 114 図　72 号竪穴建物跡（1）
第 115 図　72 号竪穴建物跡（2）
第 116 図　72 号竪穴建物跡出土遺物
第 117 図　76・77 号竪穴建物跡（1）
第 118 図　76・77 号竪穴建物跡（2）
第 119 図　76 号竪穴建物跡出土遺物
第 120 図　77 号竪穴建物跡出土遺物
第 121 図　78 号竪穴建物跡
第 122 図　78 号竪穴建物跡出土遺物
第 123 図　79 号竪穴建物跡
第 124 図　80 号竪穴建物跡
第 125 図　80 号竪穴建物跡出土遺物（1）
第 126 図　80 号竪穴建物跡出土遺物（2）
第 127 図　81 号竪穴建物跡（1）
第 128 図　81 号竪穴建物跡（2）
第 129 図　81 号竪穴建物跡（3）
第 130 図　81 号竪穴建物跡出土遺物
第 131 図　86 号竪穴建物跡
第 132 図　87 号竪穴建物跡（1）
第 133 図　87 号竪穴建物跡（2）
第 134 図　87 号竪穴建物跡出土遺物
第 135 図　88 号竪穴建物跡（1）
第 136 図　88 号竪穴建物跡（2）
第 137 図　88 号竪穴建物跡（3）
第 138 図　88 号竪穴建物跡出土遺物
第 139 図　89 号竪穴建物跡（1）
第 140 図　89 号竪穴建物跡（2）
第 141 図　89 号竪穴建物跡出土遺物（1）
第 142 図　89 号竪穴建物跡出土遺物（2）
第 143 図　90 号竪穴建物跡（1）
第 144 図　90 号竪穴建物跡（2）
第 145 図　90 号竪穴建物跡出土遺物
第 146 図　8 号竪穴建物跡
第 147 図　8 号竪穴建物跡出土遺物
第 148 図　46 号竪穴建物跡
第 149 図　46 号竪穴建物跡カマド
第 150 図　46 号竪穴建物跡出土遺物（1）
第 151 図　46 号竪穴建物跡出土遺物（2）
第 152 図　47 号竪穴建物跡
第 153 図　47 号竪穴建物跡出土遺物
第 154 図　50 号竪穴建物跡
第 155 図　50 号竪穴建物跡カマド
第 156 図　50 号竪穴建物跡出土遺物（1）
第 157 図　50 号竪穴建物跡出土遺物（2）
第 158 図　53 号竪穴建物跡
第 159 図　53 号竪穴建物跡出土遺物
第 160 図　54 号竪穴建物跡
第 161 図　54 号竪穴建物跡カマド
第 162 図　54 号竪穴建物跡出土遺物
第 163 図　57 号竪穴建物跡
第 164 図　57 号竪穴建物跡出土遺物（1）

第 165 図　57 号竪穴建物跡出土遺物（2）
第 166 図　60 号竪穴建物跡（1）
第 167 図　60 号竪穴建物跡（2）
第 168 図　60 号竪穴建物跡出土遺物（1）
第 169 図　60 号竪穴建物跡出土遺物（2）
第 170 図　68 号竪穴建物跡
第 171 図　68 号竪穴建物跡出土遺物
第 172 図　1 号焼土遺構
第 173 図　1 号焼土遺構出土遺物
第 174 図　1 号堀跡
第 175 図　2 号堀跡（1）
第 176 図　2 号堀跡（2）
第 177 図　2 号堀跡出土遺物
第 178 図　3 号堀跡（1）
第 179 図　3 号堀跡（2）
第 180 図　3 号堀跡出土遺物
第 181 図　4 号堀跡
第 182 図　1 号欅列
第 183 図　17 号竪穴建物跡
第 184 図　49 号竪穴建物跡
第 185 図　55・56 号竪穴建物跡
第 186 図　55 号竪穴建物跡出土遺物
第 187 図　65 号竪穴建物跡
第 188 図　69 号竪穴建物跡
第 189 図　1・2 号井戸
第 190 図　3・4 号井戸
第 191 図　1 号井戸出土遺物
第 192 図　4 号井戸出土遺物
第 193 図　5 号溝跡
第 194 図　1 ～ 7 号土坑
第 195 図　8 ～ 12 号土坑
第 196 図　13 ～ 16 号土坑
第 197 図　17 ～ 24 号土坑
第 198 図　3 号土坑出土遺物
第 199 図　9 号土坑出土遺物
第 200 図　10 号土坑出土遺物
第 201 図　11 号土坑出土遺物
第 202 図　13 号土坑出土遺物
第 203 図　2 号性格不明遺構
第 204 図　2 号性格不明遺構出土遺物
第 205 図　遺構外出土遺物（1）
第 206 図　遺構外出土遺物（2）
第 207 図　遺構外出土遺物（3）
第 208 図　遺構外出土遺物（4）
第 209 図　遺構外出土遺物（5）
第 210 図　遺構外出土遺物（6）
第 211 図　遺構外出土遺物（7）
第 212 図　遺構外出土遺物（8）
第 213 図　遺構外出土遺物（9）
第 214 図　SD01 覆土（一部）の土層柱状図
第 215 図　SD02 覆土の土層柱状図
第 216 図　SD03 壁面（一部）の土層柱状図
第 217 図　SI09 覆土の土層柱状図
第 218 図　SD03 覆土の土層柱状図

表目次

第 1 表　遺跡一覧表
第 2 表　26 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 3 表　18 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 4 表　42 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 5 表　1 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 6 表　2 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 7 表　3 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 8 表　5 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 9 表　4 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 10 表　6 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 11 表　9 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 12 表　10 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 13 表　11 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 14 表　14 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 15 表　12 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 16 表　15 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 17 表　16 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 18 表　19 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 19 表　20 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 20 表　31 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 21 表　21 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 22 表　22 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 23 表　23 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 24 表　24 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 25 表　25 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 26 表　28 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 27 表　29 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 28 表　33 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 29 表　36 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 30 表　37 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 31 表　38 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 32 表　39 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 33 表　41 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 34 表　43 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 35 表　44 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 36 表　45 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 37 表　48 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 38 表　52 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 39 表　58 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 40 表　61 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 41 表　64 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 42 表　67 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 43 表　70 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 44 表　71 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 45 表　73 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 46 表　84 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 47 表　72 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 48 表　76 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 49 表　77 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 50 表　78 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 51 表　80 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 52 表　81 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 53 表　87 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 54 表　88 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 55 表　89 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 56 表　90 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 57 表　8 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 58 表　46 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 59 表　47 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 60 表　50 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 61 表　53 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 62 表　54 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 63 表　57 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 64 表　60 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 65 表　68 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 66 表　1 号焼土遺構出土遺物観察表
第 67 表　2 号堀跡跡出土遺物観察表
第 68 表　3 号堀跡出土遺物観察表
第 69 表　55 号竪穴建物跡出土遺物観察表
第 70 表　1 号井戸出土遺物観察表
第 71 表　4 号井戸出土遺物観察表
第 72 表　3 号土坑出土遺物観察表
第 73 表　9 号土坑出土遺物観察表
第 74 表　10 号土坑出土遺物観察表
第 75 表　11 号土坑出土遺物観察表
第 76 表　13 号土坑出土遺物観察表
第 77 表　2 号性格不明遺構遺物観察表
第 78 表　時期不明遺構計測表・ピット
第 79 表　遺構外出土遺物観察表
第 80 表　テフラ分析結果
第 81 表　屈折率測定結果
第 82 表　SD03 屈折率測定値

写真図版目次

図版1　調査区全景（上空から）
調査区（南上空から）
図版2　SI01・02 完掘 (北東より)
SI01 完掘 (北東より)
SI03・05 遺物出土状況 (東より)
SI03 遺物出土状況 (東より)
SI01 遺物出土状況 (北東より)
SI02 完掘 (南西より)
SI03 遺物出土状況 (東より)
SI04 完掘 (南より)
図版3　SI05 遺物出土状況 (南より)
SI06 遺物出土状況 (南より)
SI08 断面・P9 断面 (南より)
SI09 ｶﾏﾄﾞ遺物出土状況 (南より)
SI06 遺物出土状況 (南より)
SI07 完掘 (南より)
SI09 ｶﾏﾄﾞ遺物出土状況 (南より)
SI09 遺物出土状況 (南より)
図版4　SI10 ｶﾏﾄﾞ完掘 (南南東より)
SI11 遺物出土状況 (南西より)
SI14・SK07 断面 (南より)
SI15 遺物出土状況 (北東より)
SI11 遺物出土状況 (南西より)
SI12 遺物出土状況 (北東より)
SI15・PIT01 遺物出土状況 (東より)
SI16 完掘 (南東より)
図版5　SI17・SK01 完掘 (南より)
SI18 遺物出土状況 (南南東より)
SI19 カマド堀方完掘 (南より)
SI21 遺物出土状況 (北東より)
SI18 遺物出土状況 (南東より)
SI18 遺物出土状況 (北西より)
SI20 完掘 (南より)
SI22 遺物出土状況 (南より)
図版6　SI23 遺物出土状況 (南より)
SI24 遺物出土状況 (南南東より)
SI27・遺物出土状況 (南より)
SI29 完堀 (南より)
SI24・25 断面 A(東より)
SI26 完掘 (南より)
SI28 遺物出土状況 (西より)
SI30 遺物出土状況 (西より)
図版7　SI31 完掘 (南より)
SI33 遺物出土状況 (南より)
SI36 カマド遺物出土状況 (南より)
SI38 断面 A(西より)
SI32 断面 A(西より)
SI35 完堀 (南より)
SI37 完掘 (南より)
SI39・43 断面 A(東より)
図版8　SI40 遺構検出 (南より)
SI42 完掘 (東より)
SI45 完掘 (南より)
SI47 完掘 (東より)
SI41 遺物出土状況 (北より)
SI44 焼土検出状況 (東より)
SI46 遺物出土状況 (西より)
SI48 完掘 (西より)
図版9　SI49 完掘 (東より)
SI51 完堀 (北より)
SI53 完堀 (北より)
SI54 完堀 (南より)
SI50 遺物出土状況 (北より)
SI52 完堀 (北より)
SI54 遺物出土状況 (2)(南より)
SI55 完堀 (南より)
図版 10　SI56 完堀 (南より)
SI58 完堀 (北より)
SI60 遺物出土状況 (東より)
SI64 完掘 (西より)
SI57 完堀 (南より)
SI59 完堀 (東より)
SI61・62・63 断面 (東より)
SI65 完掘 (西より)
図版 11　SI66 断面 A(北より)
SI69 断面 B(北より)
SI70 完掘 (東より)
SI72 完掘 (北東より)
SI67 断面 (西より)
SI70 遺物出土状況 (南より)
SI71 遺物出土状況・SE04 完掘 (西より)
SI73・SL01 遺物出土状況 (南東より)

図版 12　SI73 遺物出土状況 (南東より)
SI75・84 完掘 (西より)
SI77 完掘 (西より)
SI79 完掘 (南より)
SI74 完掘 (東より)
SI76 完掘 (南より)
SI78 完掘 (南より)
SI80 遺物出土状況 (南より)
図版 13　SI81 ｶﾏﾄﾞ検出 (西より)
SI86 完掘 (東より)
SI88 ｶﾏﾄﾞ検出 (南より)
SI90 ｶﾏﾄﾞ検出 (南より)
SI85 完掘 (東より)
SI87 断面 A(西より)
SI89 ｶﾏﾄﾞ検出 (南より)
SD02 遺構検出 (東より)
図版 14　SD02 遺物検出状況 (東より)
SD03 断面 (東より)
SD05 完掘 (南西より)
SK09 遺物検出 (南西より)
SD03 断面 (東より)
SD04 完堀 (各方位より)
SE02 完掘 (西より)
SK10 遺物検出 (南より)

図版 15　遺物図版（1）
図版 16　遺物図版（2）
図版 17　遺物図版（3）
図版 18　遺物図版（4）
図版 19　遺物図版（5）
図版 20　遺物図版（6）
図版 21　遺物図版（7）
図版 22　遺物図版（8）
図版 23　遺物図版（9）
図版 24　遺物図版（10）
図版 25　遺物図版（11）
図版 26　遺物図版（12）
図版 27　遺物図版（13）
図版 28　遺物図版（14）
図版 29　遺物図版（15）
図版 30　遺物図版（16）
図版 31　遺物図版（17）
図版 32　遺物図版（18）
図版 33　遺物図版（19）
図版 34　遺物図版（20）
図版 35　遺物図版（21）
図版 36　遺物図版（22）
図版 37　遺物図版（23）
図版 38　遺物図版（24）
図版 39　遺物図版（25）
図版 40　遺物図版（26）
図版 41　遺物図版（27）
図版 42　遺物図版（28）
図版 43　遺物図版（29）
図版 44　遺物図版（30）
図版 45　遺物図版（31）
図版 46　遺物図版（32）
図版 47　遺物図版（33）
図版 48　遺物図版（34）
図版 49　遺物図版（35）
図版 50　遺物図版（36）
図版 51　遺物図版（37）

第１章　本調査に至る経緯と経過

第１節　本調査に至る経緯

常陸太田市では、平成29年９月に旧太田倉庫があった土地を日本たばこ産業株式会社より寄附を受けた。この土地に隣接する市道3175・3181・3182・3184号線は、住宅内を通る生活道路であり、近隣にある太田小学校へ通学する児童の通学路にもなっているが、一部現道幅が狭く、通行上支障をきたす状況にあったことから、現道拡幅による利便性の向上を目的とした改良工事が計画された。

当該区域は、かつて常陸佐竹氏が本拠をおいた太田城（茨城県遺跡地図番号08212129）が所在する場所であり、平成19年度と平成28年度に日本たばこ産業株式会社から依頼を受け、２度にわたる試掘調査を実施し、遺跡の存在を確認していることから、事業計画主体者である当市企画部企画課及び建設部都市計画課と、道路改良工事に伴う遺構並びに遺物包含層の取扱いについて、協議を行った結果、道路利用の安全面を鑑み、計画変更が不可能であることから、発掘調査を実施し、記録保存を行なうことで合意した。

これを受けて常陸太田市教育委員会では、栄町102番１地先の工事対象区域の内、2,800㎡以内を調査対象として発掘調査による記録保存を実施することとし、平成31年４月25日、（株）東京航業研究所と業務委託契約を締結。発掘調査を実施することとなった。

第２節　本調査の経過と概要

本調査は、令和元年６月10日より９月30日まで約３ヶ月間実施した。調査に先立ち調査担当者は、常陸太田市教育委員会と発掘調査に関する事前打ち合わせを実施し、調査に着手した。

６月10日、機材の搬入、および調査区北区の表土の掘削を開始した。降雨により午前で掘削を中止した。調査区北区・西区・南区の表土除去は６月20日までに終了した。

６月25日より、人力による調査区の清掃、遺構確認を北区から西区、南区の順番で実施し、ビニールシートで検出面を養生した。検出面の精査の結果、調査区南区は遺構が確認できなかったが、北区から西区で平安時代以前の竪穴建物跡などの遺構や遺物が多く確認されたため、北区の東端から反時計回りに遺構の調査を開始した。

７月３日、調査区北区端において、東西方向に広がる１号堀跡（SD01）の一部と思われる遺構が部分的に検出された。北区では、竪穴建物跡や他の遺構が多く検出されたため、順番に掘削、調査を継続し、７月17日より、北区の調査と並行して、遺構配置を確認していた西区北西の２号堀跡（SD02）の重機による掘削を開始した。同日には、隣接する常陸太田市立太田小学校の６年生の児童75名が教諭引率の元、遺跡の見学に訪れた。２号堀跡は18日まで掘削を行った後、人力による精査及び、分層、図面作成作業を実施した。

７月19日には、西区南西の３号堀跡（SD03）の検出面での遺構確認を行い、遺構配置を確認し重機による掘削の準備を行った。翌20日から、３号堀跡の重機による掘削を開始し、人力を併用しながら22日までに完掘し検出写真を撮影した。３号堀跡の調査は、27日の土層注記で終了した。

８月に入り、猛暑日が続いたが北区の遺構の調査を継続した。６日には２・３号堀跡の火山灰分析、地形、地理的分析のため、火山灰考古学研究所所長の早田勉氏が来跡した。北区の調査は、竪穴建物跡の重複が著しかったため９月上旬まで時間を要した。

８月24日（土）には、現地説明会を開催した。当日は天気に恵まれ200名以上の見学者が来跡し、発掘担当者たちによる出土遺物や遺構に関する説明を熱心に聞き入っていた。

調査区東区は、８月26日に重機を用いた掘削を実施し、30日に調査を終了した。東区北側では、１号堀跡の南側の掘方の一部を検出し、断面図、平面図、記録写真を作成した。また北側の南端では、これまで確認されていない東西に延びる４号堀跡（SD04）を検出したため、断面図、平面図、記録写真を作成した。

８月下旬からは、北区から順次西区の調査を実施し、堀跡以外の遺構の調査に着手した。西区はカクランの範囲が広いが、残りの調査区内で竪穴建物跡が重複して検出されたため、記録作業を実施しながら９月下旬まで掘削を行った。

９月25日にドローンによる景観撮影を実施した。９月下旬には、最後の竪穴建物跡の調査を実施しながら、埋め戻し作業、現場機材の片づけと搬出を実施した。

９月30日、ドローンによる景観撮影を実施し、重機による埋め戻し作業を終了し、プレハブ、仮設トイレの撤去を行い、現地を撤収した。

第２章　遺跡の位置と環境

第１節　地理的環境

（１）常陸太田市の位置

茨城県常陸太田市は、茨城県の北東部で県都水戸市から北に約 20㎞に位置している（第１図）。市制は、昭和 29 年７月に周辺の１町６村が合併して施行され、翌年には久慈郡世谷村、河内村が、さらに平成 16 年 12 月には久慈郡金砂郷町、水府村、里美村が編入し、現在に至っている。

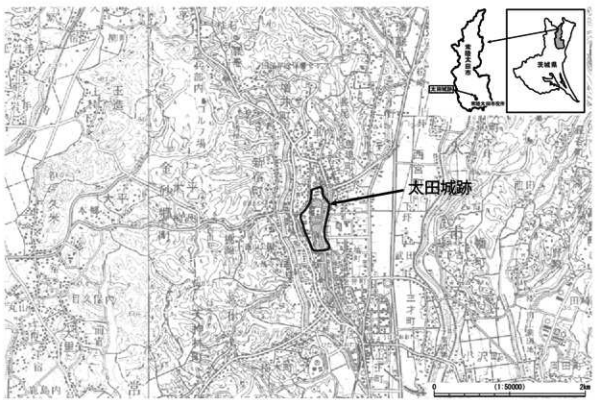
常陸太田市の総面積は、371.99㎢で茨城県内の自治体で最大の面積を有する南北 40㎞、東西 15㎞の範囲で、現在の市役所の位置は北緯 36 度 32 分 18 秒、東経 140 度 31 分 52 秒である。市域は北部が福島県東白川郡矢祭町、北東は高萩市、東から南東は日立市、南部は那珂市、北西は久慈郡大子町、西から南西は常陸大宮市に接している。

現在の常陸太田市の人口は、47,586 人（令和３年３月１日現在）である。

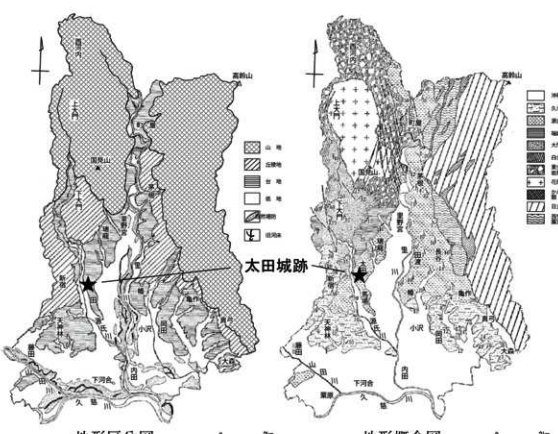
（２）太田城跡の地形・地質

太田城跡（県遺跡地図番号 08212129）は、南北最大長 980 m、東西最大幅 510 mに及ぶ広大な範囲であり、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世の各時代にわたる複合遺跡である。

遺跡の立地する地形の基盤層は、第三紀中新世中期の凝灰岩質頁岩、あるいは泥岩の源氏川層で下位は瑞竜層、上位は不整合に久米層が堆積している（第２図）。源氏川層の構成物は、基本的に堆積岩の泥岩で、薄青緑色凝灰岩や軽石質凝灰岩が含まれるが連続性はあまりなく、化石はあまり含まれない（常陸太田市史編さん委員会 1984）。源氏川層より上位の久米層は、灰色から黄褐色の細粒砂と泥が混合した砂質泥岩や貝化石、珪藻化石からなる砂礫層である。これより上位の地層は、第四紀更新世の堆積物で、氷期と間氷期の気候変動による地形の浸食、風化の作用により堆積した地層や火山灰層などで構成されている遺跡の遺構確認面の一部では、ローム層が確認されているが、相対的に久米層より上位の地層であり、その年代的上限は不明であるが、台地の標高を考慮するとこのローム層には、約４万年前に降灰した赤城 - 鹿沼軽石から、姶良丹沢火山灰、今市軽石などの指標火山灰が含まれていると思われるが、今回の火山灰分析以外に後期旧石器時代の調査事例同様に、火山灰層の分析事例に乏しくその詳細は不明である。後述の火山灰分析の結果から、北関東地方の榛名山や甲信地方北部から北関東地方の浅間山を供給源とする指標火山灰が同定されたため、今後の発掘調査においても当該地域の自然史の解明と遺跡と遺構の相対年代を判断するために、遺構の覆土と自然堆積層を対象とした火山灰分析が実施されることが望ましい。



第 1 図　太田城跡位置図



第 2 図　太田城跡とその周辺の地形区分図・地質概念図（常陸太田市史編さん委員会 1984 に加筆）

第２節　歴史的環境

（１）太田城跡について

太田城跡は（県遺跡地図番号 08212129）、阿武隈高地の国見山から続く中位砂礫段丘上で、西側は源氏川、東側は谷津川に挟まれ南北に細長く続く台地上に所在する。台地の標高は 38 mほどである（第３・４図）。

太田城の築城は、平安時代末期の天仁２年（1109）に藤原秀郷流の藤原通延によるものと推定されている。天承元年（1131）には、佐竹氏の３代隆義が天神林町の馬坂城から太田城に居城を移した。その後、佐竹氏は金砂山合戦（1180）や南北朝時代の戦乱、佐竹氏一族である山入与義との内乱（1407）の際には、一時的に城を明け渡したが、天正 19 年（1591）に 20 代義宣が水戸城に進出するまで、太田城を居城とした。その後、太田城は、義宣の父義重の居城となり「北城」とも呼ばれた。

佐竹義宣は、関ヶ原の合戦後の慶長７年（1602）に、豊臣秀頼の家臣で五大老の徳川家康から石高 20 万石で出羽国（現秋田県）に減転封の国替えを命ぜられたことにより水戸城から転居し、水戸城と共に太田城は接収された。

江戸時代になると、寶永４年（1707）に水戸藩家老中山備前守信敏が太田村内への屋敷構を命ぜられ太田城跡に屋敷を建設した（常陸太田市史編纂委員会 1984）。当時この場所は、「太田御殿」とも呼ばれていたが、実際には中山備前守は、太田城跡の屋敷には居住せず鷹狩りの際の宿泊施設、休憩所として利用した。

文化元年（1804）に、中山備前守の知行替え後に、火災により屋敷が焼失した（常陸太田市史編纂委員会 1984）。

天保２年（1831）三月に、九代藩主徳川斉昭により太田村と近隣村は、太田城再建ための「太田御殿並西御山旧跡御普請御用人足」の動員令が発せられた。しかし、「太田御殿」の再建はすぐには開始されず、天保 12 年（1841）から翌年にかけて実施された。

天保８年（1837）、太田城の西側に隣接して郷校益習館が創設される。

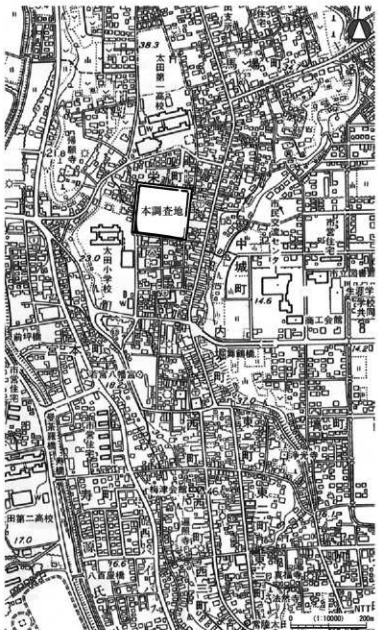
弘化２年（1844）には、付属施設である鐘楼の建設計画が進められ、同年 12 月までに完成して御殿内の諸施設が整備され、藩の宿泊施設として利用された（常陸太田市史編さん委員会 1984）。

安政３年（1856）、郷校益習館が若八幡宮近くに移転し、太田郷校（文武館）と改称する。

文久２年（1862）、幕末となり尊王攘夷運動が激しくなると、水戸藩の尊王攘夷派の人々の取り締まりのため「太田御殿」を本拠地として利用し活動した（常陸太田市史編さん委員会 1984）。これ以後の太田城に関する記録は現状では確認されていない。

（２）遺跡分布について

太田城跡周辺の遺跡分布を概観すると、縄文時代から近世の各時代に属する遺跡が、太田城跡周辺の源氏川、谷津川、中江川流域の地形上に分布している（第５図、第１表）。時代別の遺跡分布の推移をみると、縄文時代から弥生時代が漸減し、古墳時代は爆発的に古墳や横穴墓が流域全体で



第3図　発掘調査位置図

出典）弘化3年「太田村御検地反別絵図」
土塁　堀

第4図　太田城図
（常陸太田市史編さん委員会 1984）

構築されるようになり、古墳時代に太田城跡の周辺地域に他地からの権力者や社会集団が植民した可能性がある。奈良～平安時代になると、遺跡数は減少し、太田城が機能する中世には遺跡数が漸減し、館として小野館跡（No.17）、今宮館跡（No.14）、馬洲館跡（No.6）、幡館跡（No.36）、城として小野崎城跡（No.16）、馬坂城、久米城とその西城の竜貝城が構築される。

遺跡分布の河川と地形ごとのまとまりを各河川で概観すると、西側の源氏川では上流に、平安時代末の延長元年に創建されたとされる勝楽寺跡（No.10）とその貞応2年（1223）に創建された勝楽寺跡の子院正法院跡（No.12）、右岸に永正12年（1515）創建されたと伝えられる極楽寺（No.8）が分布する。やや下流の左岸には、古墳時代、奈良～平安時代の森後台遺跡（No.7）、右岸には福寿台遺跡（No.9）が分布する。

下流の右岸には、延寶５年（1677）に徳川光圀の尊母の供養のために創建されたNo.47の旧久昌寺、さらに西には水戸光圀の隠居所の西山御殿跡（No.46）が分布している。その他の右岸の遺跡は、古墳時代の陣馬・元太田山・山吹山・所化塚・三味堂・宮ケ作横穴墓群（No.42・44・45・48・49・50）と太田山埴輪窯跡（No.43）などが集中して分布しており、さらに下流には縄文時代から奈良・平安時代までの集落遺跡である稲木遺跡（No.51）と稲木古墳群が分布している。

谷津川左岸には、中世の小野館跡（No.17）右岸には縄文時代から奈良平安時代の集落遺跡の馬場遺跡（No.3）と亀の子山古墳、中江川との合流点より下流に縄文時代から中世に及ぶ集落遺跡の馬洞館跡（No.6）と古墳時代の馬場横穴（No.42）が分布する。

中江川流域は、上流から左岸には弥生時代から平安時代の元瑞龍遺跡（No.23）、古墳時代の瑞龍A・B横穴墓群（No.19・20）、縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ大集落遺跡の瑞龍遺跡（No.18）、小野崎道盛の築城とされる小野崎城（No.16）、古墳時代の白鶯古墳群と中世の今宮館跡（No.14）と古墳時代の白鶯横穴墓群（No.13）が分布しており、この地域にも古墳時代、中世の人々の生活の痕跡が多く残されている。

中江川と里川に挟まれた谷底平野には、奈良・平安時代の集落遺跡中井川遺跡（No.15）が分布している。

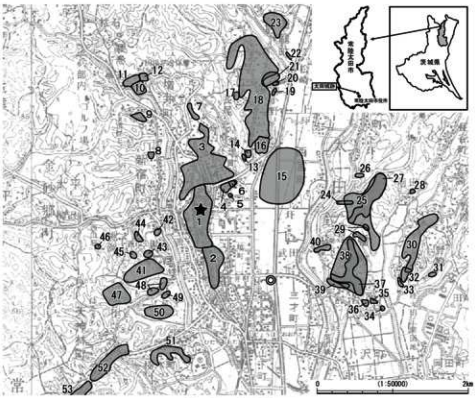
里川左岸は、上流から古墳時代の幡山北横穴墓群（No.26）、幡山古墳群・幡山西横穴墓群（No.24）、幡山東横穴墓群（No.29）、古墳時代～平安時代の幡台下遺跡（No.40）、幡台古墳群と縄文時代から中世に及ぶ集落の幡台遺跡（No.37）、古墳時代の幡バッケ横穴墓（No.39）、中世の幡館跡（No.36）、縄文時代の森東貝塚（No.35）と築崎貝塚（No.34）など古墳時代の遺跡が多く分布している。

さらに東側の茂宮川流域には、上流から右岸に縄文時代～平安時代までの集落の前田遺跡（No.28）、上流から古墳時代の高貫遺跡（No.30）、高貫古墳群（No.32）、高貫西横穴墓群（No.33）が分布し、さらに東側の高貫川右岸には高貫東横穴墓群（No.31）が分布し、古墳時代の遺跡の分布が集中している。

源氏川より西側の地域では、山田川流域に遺跡が多く分布している。上流から左岸には古墳時代の玉造横穴墓、弥生時代～平安時代の集落の中平遺跡、さらに下流には中世の竜貝城と小野崎通種が築城した久米城、右岸では上流から岩手坪遺跡が古墳時代、馬ケ尻遺跡が古墳時代～平安時代の集落で、下流の右岸には、古墳時代から平安時代の大平遺跡、奈良・平安時代の久米遺跡、縄文時代～中世の大集落遺跡である長者屋敷遺跡、古墳時代の十王下・十王台・宿町古墳がまとまって分布し、古墳時代の目久保内遺跡、中世の大里荒谷城跡、北宿古墳なども分布している。さらに、縄文時代～平安時代の集落の万空内遺跡、弥生時代～古墳時代の糠塚古墳・おひい蔵遺跡、弥生時代～平安時代の集落の前宮遺跡、古墳時代の集落の宮崎前遺跡などが台地上に分布しており、遺跡の密集度が高い。やや東寄りには、天神林刑部丞正恒が築城の馬坂城が分布している。

（3）過去の調査について

平成19年（2007）に、土地所有者の日本たばこ産業不動産が所有地の有効活用のための開発を前提とした事業取り組みの申し出があったため、翌年に常陸太田市教育委員会により太田城の遺構



第５図　遺跡分布図

確認のための確認調査が実施された（第６図）。調査は、平成 20 年２月に８日間実施され、敷地内において 20 本のトレンチが設定され、掘削された。調査の結果、太田城の遺構が確認できたのは、合計７本のトレンチ内（９～14・18）で、北側の 18 トレンチと南側の９～ 14 トレンチの合計２か所から堀跡が検出された。

北側では、調査区北側中央の 18 トレンチ内において、東西に延びる幅 3.5 m、深さ 2.5 mの薬研堀の堀跡が検出された。この堀跡の南側の検出面では、焼土層とピットが検出された。この堀跡について調査者担当者は、太田城の三郭と北郭を区画する堀跡であると推定している。

南側の堀跡は、９トレンチにおいて、南北方向に延びる堀跡が確認され、現地表面から深さ 4.5 m、10･11 トレンチにおける遺構確認面での幅は９mを測る。この堀跡は、９トレンチから北に延びて、12 トレンチ付近で西側に曲がり、13･14 トレンチの位置する西方向に延びていることが確認された。この 14 トレンチの西側に、今回の発掘調査で検出された３号堀跡が位置している。この堀跡について調査者担当者は、太田城の本郭を区画する堀跡であると推定している。

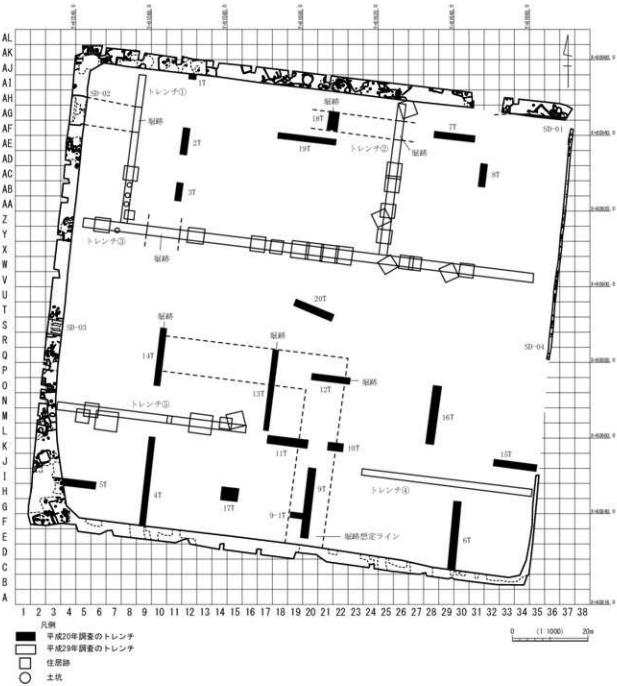
平成 29 年（2017）に、土地所有者の日本たばこ産業から、所有地内での事業実施のための詳細な試掘調査実施の要望により、常陸太田市教育委員会により詳細な試掘調査が実施された。第二次試掘調査は、平成 29 年１月に３日間実施され、５本のトレンチが設定され掘削された。調査の結果、太田城の遺構が確認できたのは合計３本の北側トレンチ内（１～３）である。調査区北西のトレンチ①で遺構番号１と東よりのトレンチ②で遺構番号 23 において東西に延びる溝跡が検出され、これらは第一次試掘調査の 18 トレンチの堀跡の検出範囲を挟んで両側に位置している。これらより

第1表　遺跡一覧表

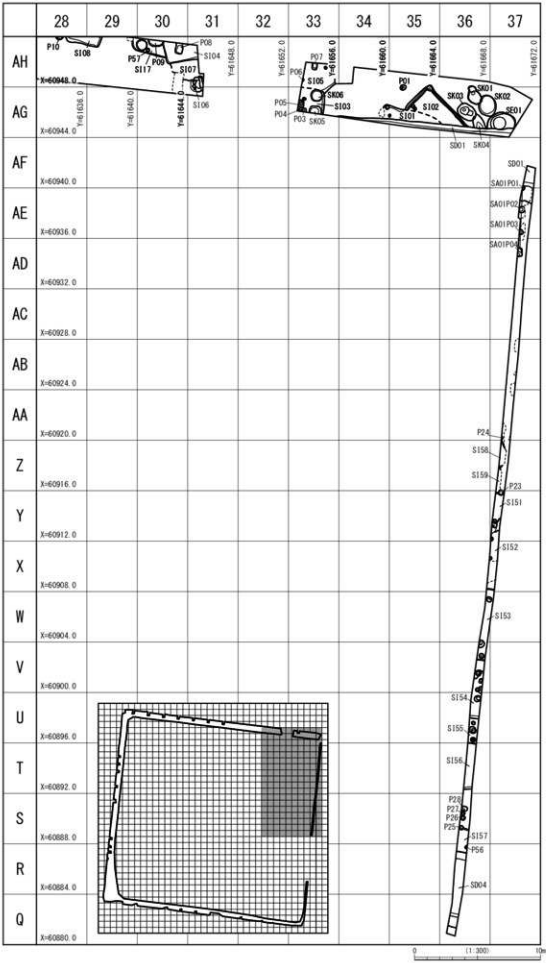
No.	遺跡名	立地	時代・時期					
			縄文	弥生	古墳	奈良平安	中世	近世
1	太田城跡	源氏川左岸・中位砂礫段丘群	○	○	○	○	○	○
2	掘ケ丘遺跡	源氏川左岸・中位砂礫段丘群			○	○	○	
3	馬場遺跡	源氏川左岸・中位砂礫段丘群	○	○	○	○		
4	貞淵遺跡	谷津川右岸・中位砂礫段丘群	○	○	○	○		
5	馬場横穴	谷津川右岸・中位砂礫段丘群			○			
6	馬渕館跡	谷津川右岸・中位砂礫段丘群					○	
7	森後台遺跡	源氏川左岸・中位砂礫段丘群			○	○		
8	極楽寺跡	源氏川右岸・中位砂礫段丘群					○	
9	福寿台遺跡	源氏川右岸・中位砂礫段丘群			○	○		
10	勝楽寺跡	源氏川左岸・中位砂礫段丘群					○	
11	池前遺跡	源氏川左岸・中位砂礫段丘群			○	○		
12	正法院跡	源氏川左岸・中位砂礫段丘群					○	
13	白鷺横穴墓群	谷津川・中江川合流点・中位砂礫段丘群			○			
14	今宮館跡	谷津川・中江川合流点・中位砂礫段丘群					○	
15	中井川遺跡	里川右岸・谷底平野				○		
16	小野崎城跡	中江川右岸・中位砂礫段丘群					○	
17	小野館跡	谷津川左岸・中位砂礫段丘群					○	
18	瑞龍遺跡	谷津川左岸・中位砂礫段丘群	○	○	○	○		
19	瑞龍B横穴墓群	中江川右岸・中位砂礫段丘群			○			
20	瑞龍A横穴墓群	中江川右岸・中位砂礫段丘群			○			
21	瑞龍古墳群	谷津川左岸・中位砂礫段丘群			○			
22	身隠山横穴墓群	中江川左岸・中位砂礫段丘群			○			
23	元瑞龍遺跡	中江川左岸・中位砂礫段丘群		○	○	○		
24	幡山西横穴墓群	里川左岸・上位砂礫台地			○			
25	幡山古墳群	里川左岸・上位砂礫台地			○			
26	幡山北横穴墓群	里川左岸・上位砂礫台地			○			
27	幡山遺跡	里川左岸・上位砂礫台地	○	○	○			
28	前田遺跡	茂宮川右岸・崖および斜面	○					
29	幡山東横穴墓群	里川左岸・上位砂礫台地			○			
30	高貫遺跡	茂宮川左岸・上位砂礫台地	○	○	○	○		
31	高貫東横穴墓群	高貫川右岸・崖および斜面			○			
32	高貫古墳群	茂宮川左岸・上位砂礫台地			○			
33	高貫西横穴墓群	茂宮川左岸・崖および斜面			○			
34	築崎貝塚	里川左岸・中位砂礫段丘群	○					
35	森東貝塚	里川左岸・谷底平野	○					
36	幡館跡	里川左岸・上位砂礫台地					○	
37	幡台遺跡	里川左岸・上位砂礫台地	○	○	○	○		
38	幡台古墳群	里川左岸・上位砂礫台地			○			
39	幡バッケ横穴墓群	里川左岸・上位砂礫台地			○			
40	幡台下遺跡	里川左岸・上位砂礫台地			○	○		
41	山吹山横穴墓群	源氏川右岸・崖および斜面			○			
42	陣馬横穴墓群	源氏川支流右岸・中位砂礫段丘群			○			
43	元太田山頭輪窯跡	源氏川右岸・丘陵			○			
44	元太田山遺跡	源氏川右岸・丘陵		○	○			
45	元太田山横穴墓群	源氏川右岸・丘陵			○			
46	西山御殿跡(西山荘)	源氏川右岸・谷底平野						○
47	旧久昌寺跡	源氏川右岸・丘陵						○
48	所化塚横穴墓群	源氏川右岸・崖および斜面			○			
49	三昧堂横穴墓群	源氏川右岸・丘陵			○			
50	宮ヶ作横穴墓群	源氏川右岸・丘陵			○			
51	稲木遺跡	源氏川右岸・上位砂礫台地	○	○	○	○		
52	長瀬平遺跡	源氏川右岸・上位砂礫台地	○	○	○	○	○	
53	押葉平遺跡	山田川砂岩・上位砂礫台地	○	○	○	○	○	

南側のトレンチ③でも遺構番号９の溝跡が検出されている。いずれも、部分的な遺構の検出であったため、詳細は不明である。

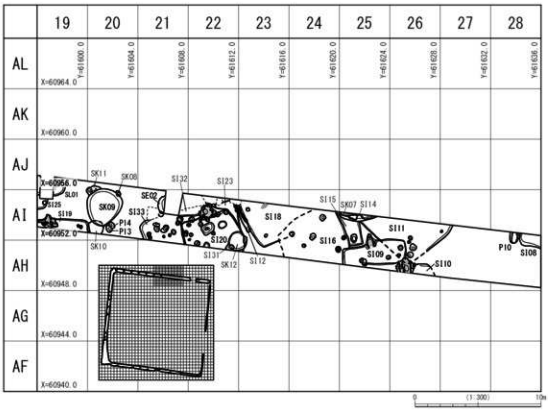
また、他の時代の遺構として、古墳時代から奈良平安時代までの住居跡等の遺構が数多く検出された。



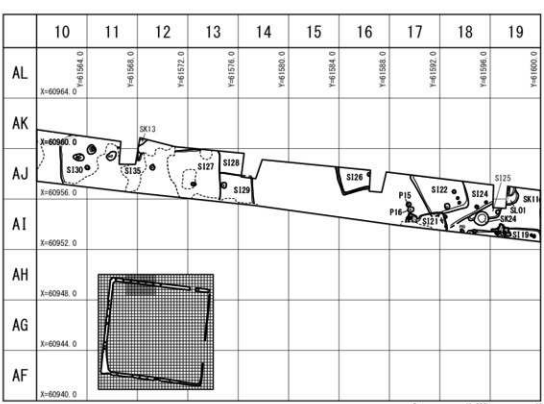
第６図　全体図


28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
AH
AG
AF
AE
AD
AC
AB
AA
Z
Y
X
W
V
U
T
S
R
Q
X=60948.0
X=60944.0
X=60940.0
X=60936.0
X=60932.0
X=60928.0
X=60924.0
X=60920.0
X=60916.0
X=60912.0
X=60908.0
X=60904.0
X=60900.0
X=60896.0
X=60892.0
X=60888.0
X=60884.0
X=60880.0
Y=61636.0
Y=61640.0
Y=61644.0
Y=61648.0
Y=61652.0
Y=61656.0
Y=61660.0
Y=61664.0
Y=61668.0
Y=61672.0
P10
S108
P57
S117
P09
S107
P08
S104
S106
P07
P06
S105
P05
P04
P03
SK06
S103
SK05
P01
S102
S101
SK03
SK01
SK02
SE01
SD01
SK04
SD01
SA01P01
SA01P02
SA01P03
SA01P04
P24
S158
S159
P23
S151
S152
S153
S154
S155
P01
S156
P22
P27
P26
P25
S157
P56
SD04
0
(1:300)
10m

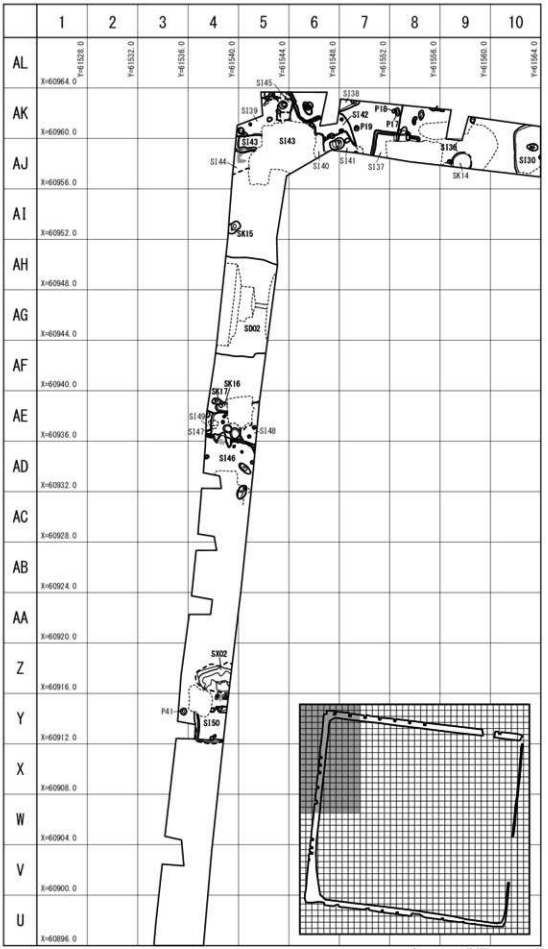
区割図①


19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
AL
AK
AJ
AI
AH
AG
AF
Y=61600.0
Y=61604.0
Y=61608.0
Y=61612.0
Y=61616.0
Y=61620.0
Y=61624.0
Y=61628.0
Y=61632.0
Y=61636.0
X=60964.0
X=60960.0
X=60956.0
X=60952.0
X=60948.0
X=60944.0
X=60940.0
SK11
SK08
SL01
SI25
SI19
SK09
SI33
P14
P13
SK10
SE02
SI32
SI23
SI20
SI31
SK12
SI12
SI18
SI15
SK07
SI14
SI16
SI11
SI09
SI10
P10
SI08
0
(1:300)
10m

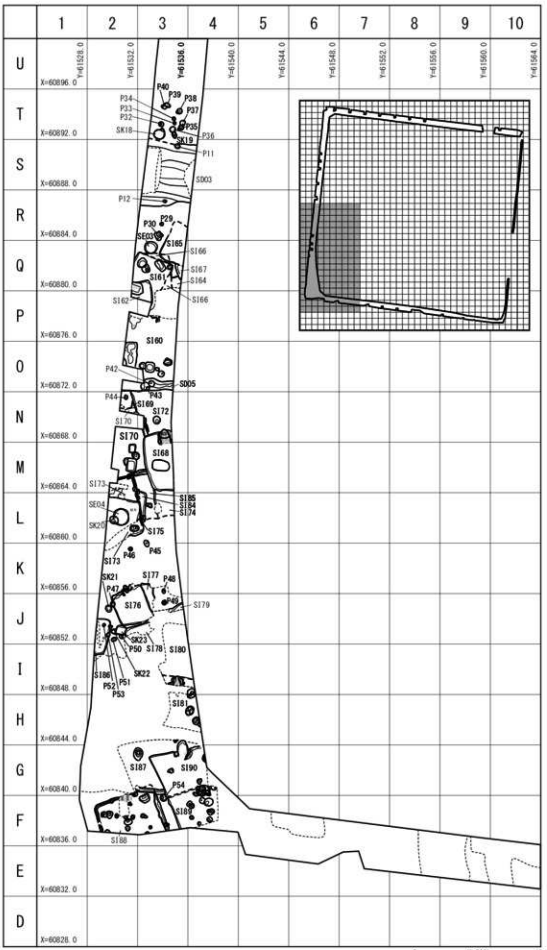
区割図②


10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
AL
AK
AJ
AI
AH
AG
AF
Y=61564.0
Y=61568.0
Y=61572.0
Y=61576.0
Y=61580.0
Y=61584.0
Y=61588.0
Y=61592.0
Y=61596.0
Y=61600.0
X=60964.0
X=60960.0
X=60956.0
X=60952.0
X=60948.0
X=60944.0
X=60940.0
SK13
SI30
SI35
SI27
SI28
SI29
SI26
P15
P16
SI21
SI22
SI24
SI25
SK11
SL01
SK24
SI19
0
(1:300)
10m

区割図③


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
AL
AK
AJ
AI
AH
AG
AF
AE
AD
AC
AB
AA
Z
Y
X
W
V
U
Y=61828.0
Y=61832.0
Y=61836.0
Y=61840.0
Y=61844.0
Y=61848.0
Y=61852.0
Y=61856.0
Y=61860.0
Y=61864.0
X=60964.0
X=60960.0
X=60956.0
X=60952.0
X=60948.0
X=60944.0
X=60940.0
X=60936.0
X=60932.0
X=60928.0
X=60924.0
X=60920.0
X=60916.0
X=60912.0
X=60908.0
X=60904.0
X=60900.0
X=60896.0
S145
S138
S139
S142
P18
P17
P19
S143
S143
S136
S130
S144
S140
S141
S137
SK14
SK15
SD02
SK16
SK17
S149
S147
S148
S146
SK02
P41
S150
0
(1:300)
10m

区割図④


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
U
T
S
R
Q
P
O
N
M
L
K
J
I
H
G
F
E
D
Y=61528.0
Y=61532.0
Y=61536.0
Y=61540.0
Y=61544.0
Y=61548.0
Y=61552.0
Y=61556.0
Y=61560.0
Y=61564.0
X=60896.0
X=60892.0
X=60888.0
X=60884.0
X=60880.0
X=60876.0
X=60872.0
X=60868.0
X=60864.0
X=60860.0
X=60856.0
X=60852.0
X=60848.0
X=60844.0
X=60840.0
X=60836.0
X=60832.0
X=60828.0
P40
P39
P38
P34
P33
P32
P37
P35
SK18
P36
K19
P11
SD03
P12
P29
P30
SE03
S165
S166
S167
S164
S161
S162
S166
S160
P42
SD05
P44
P43
S169
S172
S170
S170
S168
S173
SK20
SE04
S185
S184
S174
S175
P46
P45
S173
SK21
S177
P48
P47
S176
S179
SK23
P50
S178
S180
S186
P52
P51
P53
SK22
S181
S182
S187
S190
P54
S183
S188
0
(1:300)
10m

区割図⑤

第３章　調査方法と基本層序

第１節　調査方法

発掘調査は、調査範囲内の表土を試掘調査で遺構が確認された深度まで掘削し除去した。重機による表土の掘削後、人力による検出面と壁面の精査を実施し、土層、遺構確認作業を実施した。

グリッドは４ｍ間隔で設定し、調査区の南西角を基準としたＸ軸をアルファベットのＡから、Ｙ軸を自然数の１から順番に振り分けて区画し、Ｘ軸とＹ軸のアルファベットと自然数の組み合わせをグリッド名とした。グリッドの基準線は、公共座標（世界測地系）を利用して設定した。

土層確認作業を実施したのち、自然層の基本層序を観察し、記録、図化した。遺構は、遺構確認面での遺構確認作業の終了後に、遺構内の土蔵の堆積状況の形状、特徴を確認するために、ほぼ直角に交わるように十字、あるいは一文字の土層観察用のベルトを設定して覆土の掘削を実施した。また、遺構の規模が大きい場合、あるいは遺構の重複が著しい場合、土層観察と遺構の先後関係確認のためのベルトを複数設定して掘削し、土層の堆積状況と遺構の形状の特徴を観察した。カクランが著しく遺構の輪郭が不定形の場合は、遺構の堆積状況や特徴が良好に把握できる位置に任意にベルトを設定し精査を行った。遺構の精査に関しては、土層の断面図と土層注記を作成、写真を撮影し、遺物は覆土の上層から検出されたもの、カクラン層出土のもの、小形のものは一括遺物として収納したが、大形のもの、遺構の床面と床面付近、竈内からの出土した遺物は、検出状況を撮影し遺物を測量してから収納した。

測量図のスケールは、断面は遺構では１/20、竈では１/10、平面図、微細図は、遺物平面分布図では１/20、炉跡や竈の微細図や遺物平面分布図では１/10とした。

遺構の測量は、アナログ図化の図面以外に、写真測量を併用して、断面図、遺物微細図、遺構平面図を上記のスケールで作成した。作成した図面は、番号順に登録し図面台帳に記入した。

デジタル測量が間に合わない場合は、簡易的な遣り方測量を実施するために、任意の測量基準点を二点以上検出面上に設定し、遺構、遺物の測量図の作成に使用した。これらの測量で用いた測量基準点は、後に設定位置を測量して、デジタル図面に合成した。

写真記録は、一眼レフ・デジタル・カメラ（Canon EOS6D：2,020万画素）を使用した。写真撮影は、平成29年度の文化庁の指針に則り、データはRAWとJPEGのデータ保存の設定で、写真台帳に必要事項を記録し、写真タイトル撮影後、デジタル・グレー・カードを撮影してから、２カット被写体を撮影した。また、必要に応じて、1,600万画素のコンパクト・デジタル・カメラを用いて記録データを撮影、保存した。遺跡の全景、景観写真は弊社所蔵のドローンを使用して撮影した。

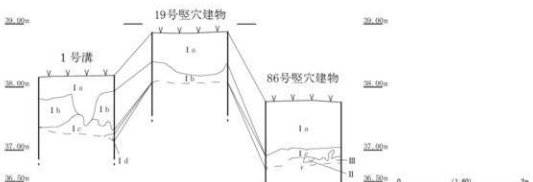
出土遺物は、遺跡略称（ＯＴＪ）、グリッド名、出土位置、遺構名、測量取り上げ番号、日付などをラベルに記入し、日付の古い順に収納番号を付した後、遺物収納台帳に記入し保管した。出土遺物は、現地調査と並行して洗浄、注記、保存処理などを行い、発掘調査終了後に、遺物収納台帳と共に、遺物収納用の点箱に収めて納品した。

第２節　基本層序

発掘調査区は、近代の日本たばこ産業の操業時代に顕著な土地利用が行われていたため、土地や土層の改変が顕著であり、土層の撹乱が深くまで及ぶ場所が多かった。各地点の基本層序は、遺構の調査の際に合わせて断面図と土層注記を作成した（第７図）。

Ⅰａ層は黒褐色土の現代までの表土層である。Ⅰｂ層は黒褐色土で部分的にローム塊やローム粒子を含む。場所によっては、二次堆積の白色粒子を含む。Ⅰｂ'層は３号堀跡のみで検出され二次堆積の白色粒子を全体に多くに含む。Ⅰｃ層は調査区で部分的に検出され、ローム塊やローム粒子、白色粒子を部分的に少量含む。Ⅰｄ層は１号堀跡のみで検出されローム塊を全体に多く含む。Ⅱ層は漸移層で、Ⅰ層とⅢ層の混合層である。Ⅲ層は軟質ローム層である。白色粒子は、地域火山灰の可能性があり、２・３号堀跡を対象として、火山灰分析を目的とした土壌サンプルを採集した。

調査区の北区と西区の表土除去作業において、Ⅰａ層以下において硬化した土層が近代の掘削、撹乱を受けレベル差を持ちながら部分的に検出された。表土除去は、この面が検出された場合は、その面を遺構確認面とした。この硬化した土層を整地層とした。この整地層と基本層序の間には、必然的に不整合面が介在すると思われる。今回の発掘調査は、太田城の敷地の周辺部であるが、この整地面が厳密に中世の太田城の時代の生活面であるかどうかの判断を現時点で下すことは困難である。今後、敷地内の良好な堆積状況の調査地点において、中世の生活面と基本層序を比較検討する必要があろう。



基本層序
Ⅰa.　黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性強い、砂礫、ガラスなど現代の廃棄物を含む。
Ⅰb.　黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性強い、白色粒子（φ１～３mm）を全体に少量、ローム塊を部分的に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に含む。
Ⅰb'.　黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性強い、白色粒子（φ1～10mm）を全体に多く、ローム塊（φ10～20mm）を部分的に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
Ⅰc.　黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性強い、白色粒子（φ1～3mm）を部分的に散漫、ローム塊（φ10～30mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
Ⅰd.　黒褐色土　10YR3/1　締り弱い、粘性強い、ローム塊を全体に多く、ローム粒子を全体に少量含む。
Ⅱ.　黒褐色土・黄褐色土　10YR2/3・5/6　締り強い、粘性弱い、ローム塊・ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。漸移層
Ⅲ.　黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性強い、ソフト・ローム層

整地層
Ⅰ.　黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性強い、ローム塊を部分的に多量に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第７図　基本層序柱状模式図

第４章　遺構と遺物

第１節　遺構と遺物の概要

第１次発掘調査では、縄文時代から中世にわたる遺構、竪穴建物跡85軒、堀跡４条、溝跡１条、井戸４基、土坑24基、焼土遺構１基、柵列１基、性格不明遺構１基、ピット53基などを検出した。

遺物は、縄文時代の土器、石器、弥生時代後期の土器、石器、土製品、古墳時代から平安時代の土師器、須恵器、土製品、鉄製品、石製品、土師質土器、瓦質土器、陶磁器、銭貨などが出土した。

第２節　縄文時代

（１）遺構の概要

縄文時代は、竪穴建物跡１軒が検出されている。

（２）竪穴建物跡

26号竪穴建物跡（第８・９図・第２表）

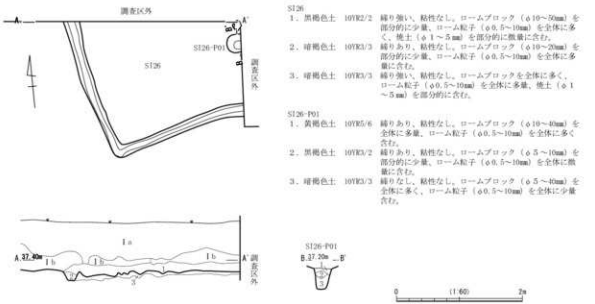
平面位置　AJ－15・16

重複関係　なし

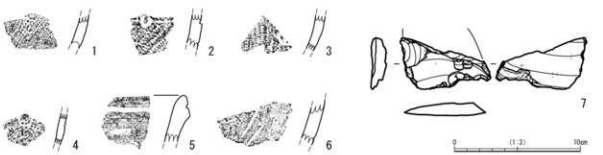
遺構形態　遺構は西壁と南壁の一部が検出された。長軸2.67ｍ以上、短軸2.44ｍ以上、深さ0.25mを測る。床は踏み締まりがなく壁は急角度で立ち上がる。ピットは１基検出されたが主柱穴はない。覆土は黒褐色土と暗褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、縄文時代前期の土器、メノウ製の微細剥離のある剥片 、片麻岩の石核＋台石＋凹石 、土師器甕、坏、ロクロ整形で内面黒色処理の坏などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から縄文時代前期と推定される。



第8図　26号竪穴建物跡



第9図　26号竪穴建物跡出土遺物

第2表　26号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	縄文土器深鉢	口径：- 高さ：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	5未満	にぶい赤褐(5YR4/4)	口縁部外面横位ナデ、頸部外面斜位ヘラナデ・指押え、頸部内面横位ヘラナデ
2	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	5%未満	褐(7.5YR4/6)	口縁部に沿って沈線が巡る
3	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子	良好	5%未満	にぶい褐(7.5YR5/4)	RL施文後、半裁竹管状工具による押引
4	縄文土器深鉢	口径：- 高さ：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲	良好	5未満	にぶい橙(7.5YR6/4)	半裁竹管状工具による押引後、縄文押圧
5	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・チャ・雲・石英・礫	良好	5%未満	にぶい褐(7.5YR5/4)	浅い沈線を施す
6	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	5%未満	明褐(7.5YR5/6)	RL施文後半裁竹管状工具による円形刺突

図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	所見
7	二次加工された剥片	メノウ	1.7	3.9	0.5	3.2	下部に細かな連続する加工が施される。

第３節　弥生時代

（１）遺構の概要

弥生時代の遺構は、調査区の北側の位置で竪穴建物跡２軒が検出されている。

（２）竪穴建物跡

18号竪穴建物跡（第10～13図・第３表）

平面位置　AI－23・24、AH－23

重複関係　16号竪穴建物跡より古く、12号竪穴建物跡より古い。

遺構形態　遺構は床面と西壁と南壁の一部を検出した。長軸4.27ｍ以上、短軸3.63ｍ以上、深さ0.37ｍを測る。床は踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。ピットは２基検出され、いずれも主柱穴である。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、縄文時代前期の繊維土器、弥生時代後期の十王台式土器、土師器甕、高坏、坏、須恵器蓋、鉄滓１点（18.0ｇ）、土製紡錘車、敲石＋磨石、敲石、磨石、台石＋凹石、凹石＋磨石、調整剥片、アプライト、片岩製の礫、砂岩、チャート、片岩、花崗岩、桂化木、泥岩、玄武岩、片麻岩の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から弥生時代後期と推定される。

42号竪穴建物跡（第14～15図・第４表）

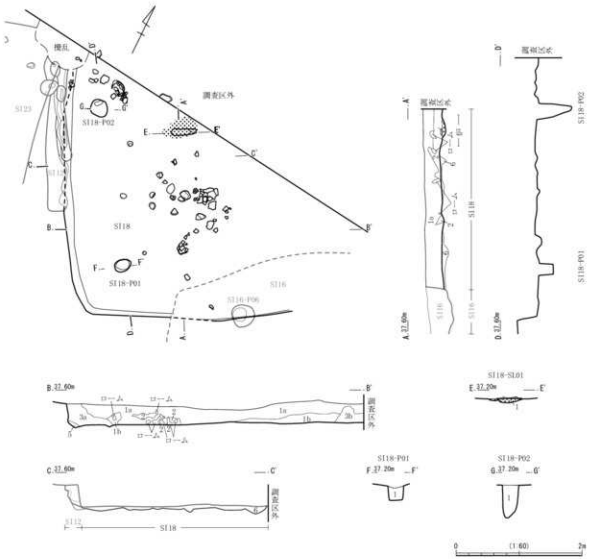
平面位置　AJ・AK－40・41

重複関係　38・40・41号竪穴建物跡より古い。

遺構形態　遺構は床面と東壁の一部を検出した。長軸3.98ｍ以上、短軸2.46ｍ以上、深さ0.19ｍを測る。床はほぼ平坦で、掘方は浅いが壁は急角度で立ち上がる。ピットは５基検出されたが主柱穴はない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、弥生時代後期の十王台式土器、縄文時代前期、後期、晩期の土器、泥岩製の磨石＋敲石、土師器甕、須恵器甕などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から弥生時代後期と推定される。



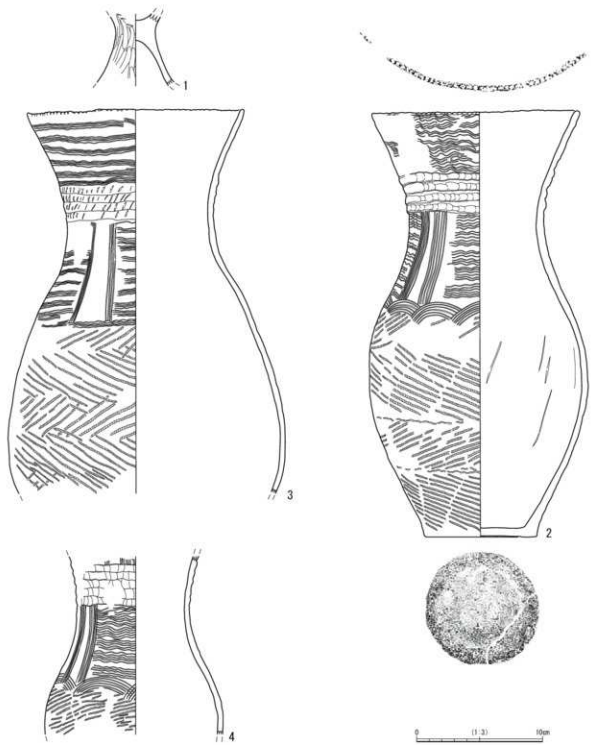
SI18
1a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性なし。炭化物（φ1～10mm）を部分的に微量，ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量，焼土（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。
1b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性なし。炭化物（φ3～5mm）を部分的に微量，ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に，焼土（φ5～15mm）を部分的に少量含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性あり。炭化物（φ5～10mm）を部分的に微量，ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に，焼土（φ3～5mm）を部分的に少量含む。
3a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
3b．黒色土　10YR2/1　締り強い，粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量，焼土（φ1～5mm）を部分的に少量含む。
4．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性あり。ロームブロック（φ10～100mm）を部分的に多く，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
5．褐色土　10YR4/6　締り強い，粘性あり。ロームブロック全体に多量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
6．黄褐色土　10YR5/8　締り強い，粘性あり。ロームブロック全体に多量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI18-SL01
1．黒色土　10YR2/1　締りなし，粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量，焼土（φ5～20mm）を部分的に含む。
2．赤褐色土・黒褐色土　5YR4/6＋2/2　締りなし，粘性あり。　焼土を全体に多量，ロームブロックを部分的に多量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

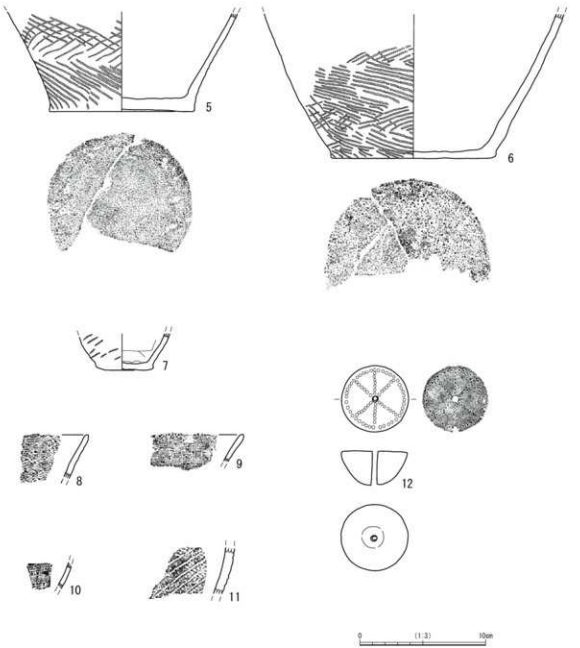
SI18-P01
1．黒褐色土　10YR2/2　締りあり，粘性強い。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に微量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。

SI18-P02
1．黒褐色土　10YR2/2　締りあり，粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

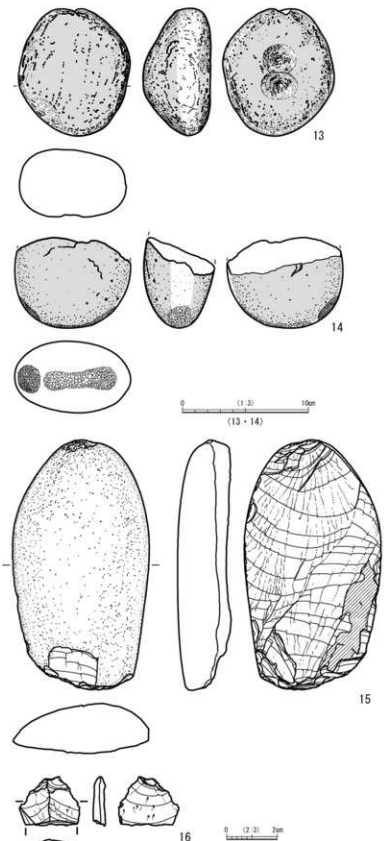
第10図　18号竪穴建物跡



第11図　18号竪穴建物跡出土遺物（1）



第12図　18号竪穴建物跡出土遺物（2）

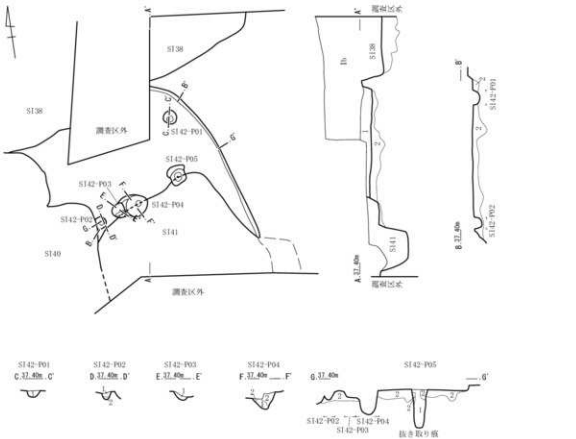


第13図　18号竪穴建物跡出土遺物（3）

第３表　18号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	弥生土器 高坏	口径：- 器高：〈5.7〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	10%	にぶい黄橙(10YR7/3)	外面縦位ミガキ
2	弥生土器 壺	口径：16.2 器高：33.8 底径：8.8	白色粒子・石英・礫	良好	75%	にぶい黄橙(10YR7/4)	口唇部縄文、口縁部外面に６本一単位の櫛歯状工具による波状文を反時計回りに４段施す。頸部外面上半部押圧のある隆帯を４条巡らす。頸部外面下半部６本一単位の櫛歯状工具による弧線文施文後波状文を５段。胴部外面付加条による羽状縄文、底部外面砂底
3	弥生土器 壺	口径：17.0 器高：〈30.2〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲	良好	35%	にぶい黄橙(10YR7/4)	口唇部キザミ、口縁部外面に４本一単位の櫛歯状工具による波状文を時計回りに５段施す。頸部外面上半部キザミのある隆帯を４条巡らす。頸部外面下半部４本一単位の櫛歯状工具による縦区画の施文後波状文、胴部外面付加条２種による羽状縄文
4	弥生土器 壺	口径：- 器高：〈14.0〉 底径：-	白色粒子・雲・石英・礫	良好	25%	にぶい黄橙(10YR6/3)	口縁部外面に６本一単位の櫛歯状工具による縦区画後横位波状文、頸部外面上半部押圧のある隆帯を５条巡らす。頸部下半が同一櫛歯状工具による反時計回りの弧線文後縦区画後波状文を下から上に６段施す。胴部外面付加条による羽状縄文か
5	弥生土器 壺	口径：- 器高：〈7.7〉 底径：11.4	白色粒子・黒色粒子・雲・石英	良好	10%	にぶい橙(7.5YR6/4)	胴部外面付加条２種による羽状縄文、底部外面砂底
6	弥生土器 壺	口径：- 器高：〈11.4〉 底径：13.0	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	15%	にぶい黄橙(10YR6/4)	胴部外面付加条２種による羽状縄文、底部外面砂底
7	弥生土器 小型壺	口径：- 器高：〈2.9〉 底径：4.5	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	20%	にぶい黄褐(10YR5/3)	胴部外面軸縄不明＋Ｌ縄文
8	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・石英	良好	5% 未満	灰褐 (7.5YR4/2)	口唇部キザミ、口縁部外面４本一単位の櫛歯状工具による波状文
9	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英	良好	5% 未満	にぶい黄橙(10YR6/3)	口唇部縄押圧、口縁部外面11本を一単位とする櫛歯状工具による波状文
10	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・雲	良好	5% 未満	灰黄褐(10YR5/2)	胴部外面軸縄不明＋Ｌ縄文
11	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	5% 未満	にぶい黄橙(10YR6/4)	胴部外面付加縄２種
12	土製品 紡錘車	口径：5.3 器高：2.7 孔径：0.6	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲	良好	100%	にぶい黄橙(10YR7/3)	竹管状工具による円形刺突

図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	所見
13	敲石・凹石・磨石	砂岩	10.0	8.8	5.3	619.5	表はドーム状で裏は全体に平ら。表裏とも広い平滑面を持つ。表中央には連なる凹みあり。
14	磨石・敲石	砂岩	7.2	9.2	5.6	473.1	上部を大きく欠損。表裏面に平滑面、下部に敲打痕あり。
15	両極剥片	凝灰岩	10.0	5.5	1.9	148.0	上下の中央部に同時に加撃。打点やバルブはその後の調整でなくなる。
16	調整剥片	砂岩	1.9	2.4	0.5	2.0	下部を欠損。上部より表裏面に調整を施される。



0 (1:60) 2m

SI42
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ１～２mm）を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に含む。
2．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI42-P1
1．黒褐色土　10YR2/2　締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

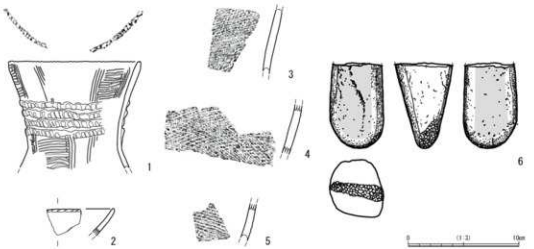
SI42-P2
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に微量に含む。
2．暗褐色土　10YR3/4　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI42-P3
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

SI42-P4
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。焼化物（φ１～５mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

SI42-P5
1．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を含む。
2．暗褐色土　10YR3/4　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第14図　42号竪穴建物跡



第 15 図　42 号竪穴建物跡出土遺物

第 4 表　42 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
1	弥生土器 甕	口径：11.8 器高：〈9.6〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	5%	にぶい褐（7.5YR6/3）	頸部押圧隆帯４条、４本１単位の櫛歯状工具による縦区画と横位線、更新部刻み
2	弥生土器 高坏	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・雲・石英	良好	5% 未満	灰白（10YR8/2）	口唇部縄文
3	弥生土器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・石英・礫	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/3）	付加縄２種による羽状縄文
4	弥生土器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英	良好	5% 未満	にぶい橙（7.5YR7/4）	付加縄２種による羽状縄文
5	弥生土器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	灰黄褐（10YR5/2）	付加縄２種

図版番号	器種	石材	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	所見
6	敲石 磨石または砥石	泥岩	<7.7>	4.8	<5.2>	232.9	下端部は敲打痕あり。表裏面中央は平滑面で、そのまわりは面取りが行われた様になっており、滑らか。そのため砥石の可能性も含んだ。

第４節　古墳時代

（１）遺構の概要

古墳時代の遺構は、竪穴建物跡 65 軒が検出されている。

（２）竪穴建物跡

１号竪穴建物跡（第 16 ～ 18 図・第５表）

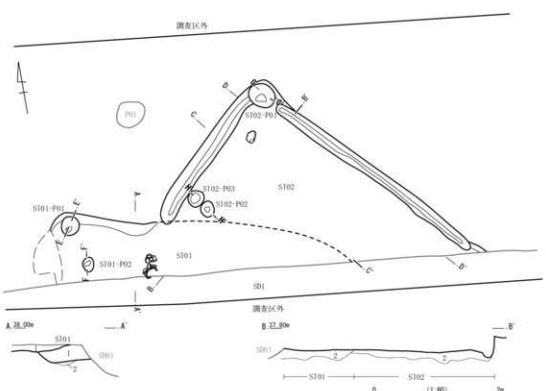
平面位置　AG － 34 ～ 36

重複関係　１号堀跡より古く、２号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構はプランの南側が１号溝跡に切られているが平面形は隅丸方形と推定される。長軸 4.77 m以上、短軸 1.13 m以上、深さ 0.23 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されず、ピットは床面から３基検出されたが主柱穴ではない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、有段口縁を含む土師器甕、須恵器甕、弥生時代後期の十王台式土器、瀬戸美濃の陶器、チャート、泥岩、片岩の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期と推定される。



第 16 図　１・２号竪穴建物跡（１）

SI01
1．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、シルト質土を部分的に多量に、焼土（φ1～10mm）部分的に少量含む。
2．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性あり。ロームブロック、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI01-P02
1．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10mm～）を部分的に微量、ローム粒子（φ1～3mm）を部分的に微量含む。

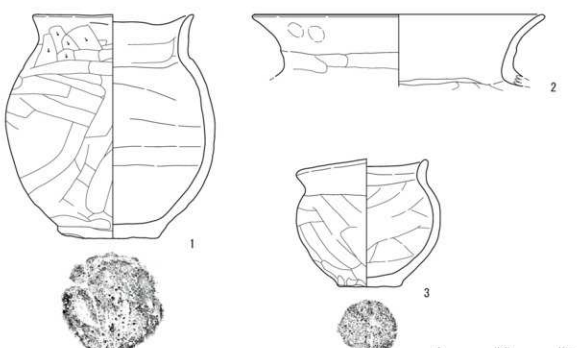
SI02
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI02-P01
1．黒褐色土　10YR2/2　締りなし、粘性なし。ロームブロック、ローム粒子を含む。

SI02-P02
1．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10mm～）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に微量に含む。

SI02-P03
1．黒褐色土　10YR2/3　締りあり、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。
2．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ15～30mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第17図　1・2号竪穴建物跡（2）



第18図　1号竪穴建物跡出土遺物

第5表　1号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：12.6 器高：17.8 底径：7.4	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・チャ・礫	良好	90%	赤褐 (2.5YR4/6)	口縁部外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ、底部木葉痕
2	土師器 甕	口径：(23.0) 器高：〈5.7〉 底径：-	白色粒子色粒子・黒色粒子・石英・礫	良好	5%未満	橙 (5YR7/6)	口縁部内外面横位ナデ・指頭痕、頸部外面横位ヘラケズリ、頸部内面ヘラナデ・ナデ
3	土師器 小型甕	口径：10.0 器高：10.2 底径：4.6	白色粒子色粒子・黒色粒子・礫	良好	85%	明赤褐 (5YR5/6)	口縁部外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ、底部木葉痕

2号竪穴建物跡（第16・17・19図・第6表）

平面位置　AH－35・AG－35・36

重複関係　1号堀跡、1号竪穴建物跡より古い。

遺構形態　遺構はプランの南側を1号堀跡と1号竪穴建物跡に切られているが、平面形は隅丸方形と推定される。長軸4.67 m以上、短軸2.79 m以上、深さm 0.27を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されず、ピットは2基検出されたが主柱穴ではない。覆土は、黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕、甑、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、須恵器甕、蓋、壺、縄文時代前期の土器、弥生時代後期の十王台式土器、常滑焼の甕、砂岩、泥岩の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

第19図　2号竪穴建物跡出土遺物

第6表　2号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 甑	口径：- 器高：〈2.1〉 底径：(8.6)	白色粒子・赤色粒子色粒子・石英	良好	5未満	にぶい橙 (7.5YR7/4)	外面ヘラケズリ、内面ナデ

3号竪穴建物跡（第20・21図・第7表）

平面位置　AG・AH－33

重複関係　6号土坑、5号ピットより古く、5号竪穴建物跡、5号土坑、3・4号ピットより新しい。

遺構形態　遺構は床面と東壁の一部を検出した。長軸2.06 m以上、短軸1.95 m以上、深さ0.13 mを測る。床面はほぼ平坦で踏み締まりがあり、掘り方は浅いが壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されず、ピットは1基検出されたが主柱穴ではない。覆土は褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕、坏、須恵器甕、土師質土器小皿、砂岩製二次加工石器、石英製磨石、石英の礫、泥岩、粘板岩の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

５号竪穴建物跡（第 20・22・23 図・第 8 表）

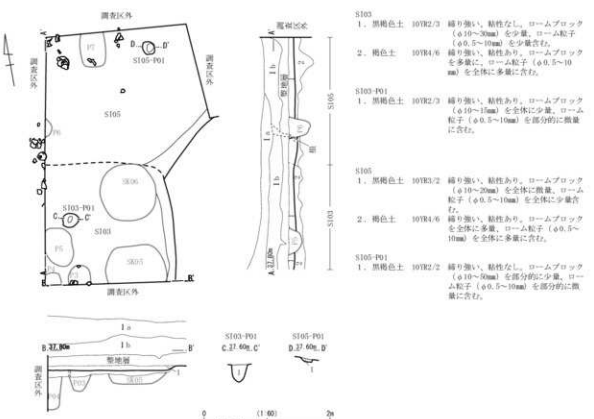
平面位置　AG・AH － 33

重複関係　３号竪穴建物跡、６・７号ピットより古い。

遺構形態　遺構は床面と東壁の一部が検出された。長軸 3.16 m以上、短軸 2.82 m以上、深さ 0.15 m以上を測る。床は踏み締まりがあり、掘り方は浅いが壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されず、ピットは１基検出されたが主柱穴ではない。覆土は褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁、有段口縁）、高坏、甑、須恵器蓋、石英製礫器、砂岩、アプライトの礫片である。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期末と推定される。



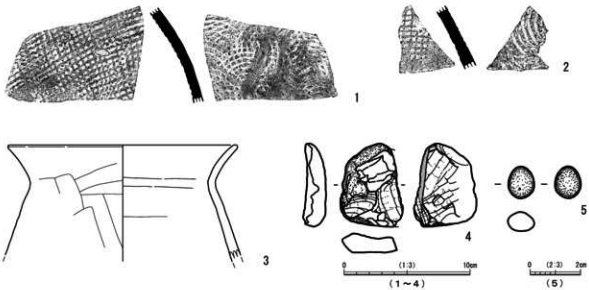
SI03
1．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ローム ブロック（φ10～30mm）を少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を少量含む。
2．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性あり。ローム ブロック を多量に、ローム粒子（φ0.5～10 mm）を全体に多量に含む。

SI03-P01
1．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性あり。ローム ブロック（φ10～15mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に微量に含む。

SI05
1．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性あり。ローム ブロック（φ10～20mm）を全体に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
2．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性あり。ローム ブロック を全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI05-P01
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ローム ブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に微量に含む。

第 20 図　３・５号竪穴建物跡



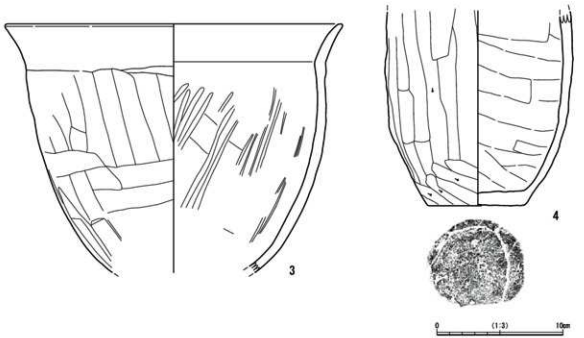
第 21 図　3号竪穴建物跡出土遺物

第 7 表　3号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・礫	良好	5%未満	灰 (N6/0)	外面格子状タタキ、内面同心円状当て具痕、自然釉かかる
2	須恵器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・石英・礫	良好	5%未満	灰 (N4/0)	外面格子状タタキ、内面同心円状当て具痕
3	土師器 甕	口径：(18.0) 器高：(9.3) 底径：-	白色粒子色粒子・黒色粒子・チャ・礫	良好	5%未満	橙 (7.5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
4	二次加工石器	砂岩	<5.0>	5.0	1.6	51.4	表面は自然面が多く、右側縁は折損。裏面は中央に主要剥離面で周辺部から二次加工が施されている。
5	磨石	石英	1.3	1.1	0.8	1.4	表面は非常に平滑。

第 22 図　5号竪穴建物跡出土遺物（1）



第 23 図　5 号竪穴建物跡出土遺物（2）

第 8 表　5 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 高坏	口径：13.2 器高：11.2 底径：(9.0)	白色粒子・チャ・雲・石英・礫	良好	70%	橙 (7.5YR6/6)	坏部外面上位横位ナデ・下位ヘラナデ・ナデ、坏部内面ミガキ・ナデ、脚部外面縦位ヘラナデ、裾部内外面横位ナデ、坏部外面上位～内面赤彩
2	土師器 鉢	口径：19.4 器高：〈10.4〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・チャ・石英礫	良好	70%	橙 (7.5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
3	土師器 甕	口径：(26.6) 器高：〈20.0〉 底径：-	白色粒子・赤色粒子色粒子・雲・石英・礫	良好	60%	橙 (7.5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位・横位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
4	土師器 甕	口径：- 器高：〈15.5〉 底径：(7.6)	白色粒子・石英・礫	良好	15%	明赤褐 (5YR5/6)	外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

4 号竪穴建物跡（第 24 ～ 26 図・第 9 表）

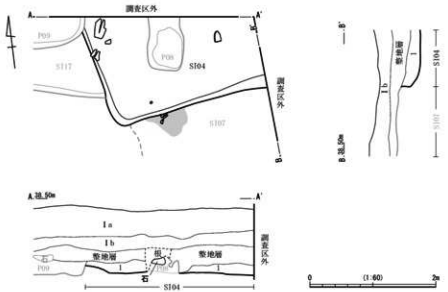
平面位置　ＡＨ－ 30・31

重複関係　8・9 号ピットより古く、7・17 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部、西壁と南壁の一部が検出された。長軸 2.69 m以上、短軸 1.72 m以上、深さ 0.26 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黄褐色土の自然堆積層である。

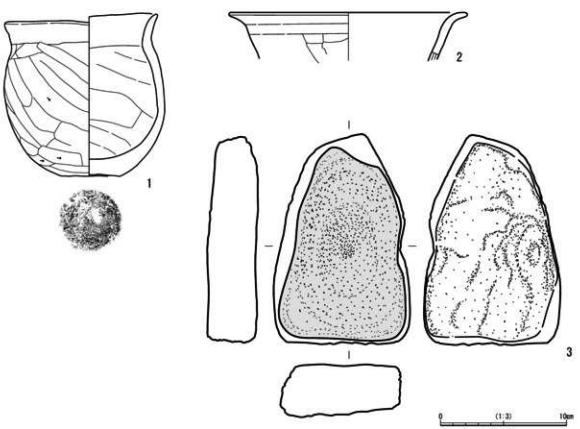
遺　　物　出土遺物は、土師器甕、甑、坏（内面黒色処理、赤彩）、須恵器甕、高台付坏、ロクロ整形の坏、縄文時代前期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、石英製の楔形石器、凝灰岩製の器種不明の石器、チャート製の石鏃未製品、片麻岩の磨石、砂岩、片岩製の礫片などである。

時　　期　古墳時代後期

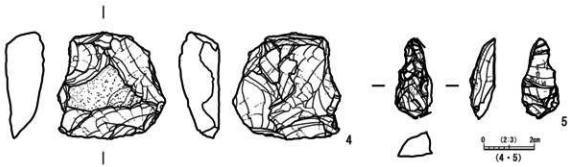


S104
1．黄褐色土　10YR5/8　締り強い。粘性なし。炭化物（φ5～20mm）を部分的に少量、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第24図　4号竪穴建物跡



第25図　4号竪穴建物跡出土遺物（1）



第26図　4号竪穴建物跡出土遺物（2）

第9表　4号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
1	土師器 甕	口径：11.8 器高：12.9 底径：4.8	白色粒子・黒色粒子・礫	良好	99%	赤褐（5YR4/6）	口縁部内外面横位ナデ、外面横位・縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
2	土師器 甕	口径：(18.6) 器高：3.9 底径：-	白色粒子・石英・礫	良好	5%未満	橙（5YR6/6）	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ケズリ、内面横位ナデ

図版番号	器種	石材	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	所見
3	石皿	片麻岩	21.2	10.8	4.0	1325.5	ほぼ自然面を使用。表面は全体に平滑で、中央部がやや凹む。裏面はほぼ自然面のみ。
4	楔形石器	石英	4.4	4.3	1.5	29.5	表裏面とも上下より調整が行われ、断面は上下部分が尖る。
5	石鏃未製品	チャート	3.2	15.0	1.0	3.9	肉厚の素材で調整時に右側が大きく欠損する。

6号竪穴建物跡（第27・28図・第10表）

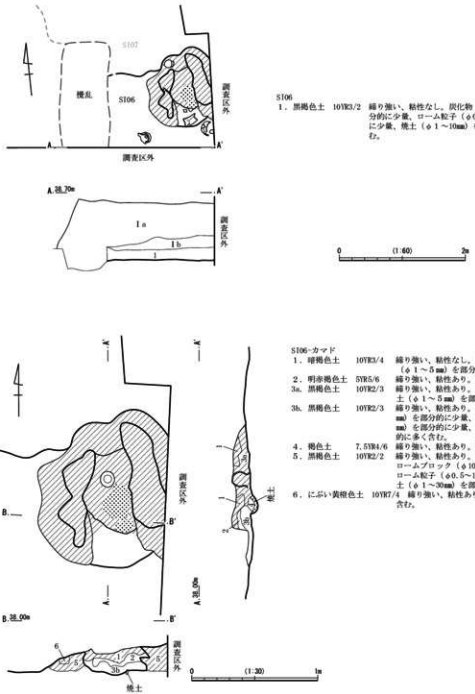
平面位置　AG・AH－30・31

重複関係　7号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は竈周辺部のみが検出された。長軸1.69ｍ以上、短軸1.60ｍ以上、深さ0.21ｍを測る。床は踏み締まりがある。竈は北壁付近より検出され、推定の壁寄り内側に位置している。竈内からは赤彩の塊が検出されている。土坑、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁）、壺（単口縁）、赤彩の塊、縄文時代前期、中期の土器、弥生時代後期の十王台式土器などである。

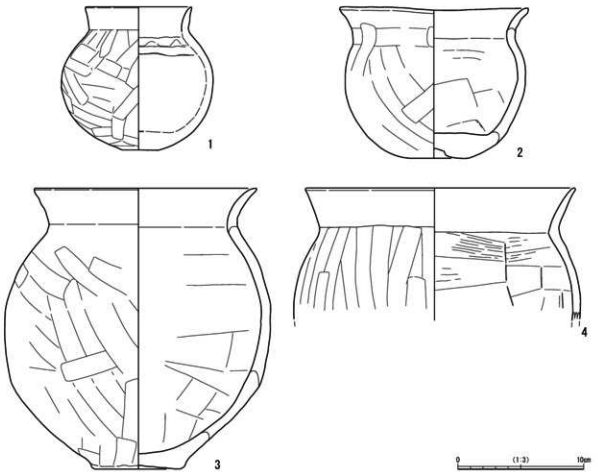
時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期末と推定される。



SI06
1．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。炭化物（φ5～10mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ1～10mm）を部分的に微量に含む。

SI06-カマド
1．暗褐色土　10YR3/4　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多く、焼土（φ1～5mm）を部分的に含む。
2．明赤褐色土　5YR5/6　締り強い、粘性あり。焼土を全体に多量に含む。
3a．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性あり。シルトを部分的に多く、焼土（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。
3b．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に少量、焼土（φ1～5mm）を部分的に多く含む。
4．褐色土　7.5YR4/6　締り強い、粘性あり。焼土を全体に多量に含む。
5．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。シルトを部分的に多量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に多く、焼土（φ1～30mm）を部分的に多く含む。
6．にぶい黄橙色土　10YR7/4　締り強い、粘性あり。シルトを全体に多量に含む。

第27図　6号竪穴建物跡



第 28 図　6 号竪穴建物跡出土遺物

第 10 表　6 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 小型壺	口径：8.2 器高：11.4 底径：2.7	白色粒子・石英・礫	良好	95%	赤褐 (2.5YR4/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
2	土師器 甕	口径：14.8 器高：12.0 底径：4.6	白色粒子・雲・石英・礫	良好	90%	赤褐 (2.5YR4/8)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
3	土師器 甕	口径：(17.4) 器高：22.3 底径：(6.8)	白色粒子・石英	良好	45%	赤褐 (2.5YR4/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
4	土師器 甕	口径：(21.2) 器高：〈10.6〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	15%	にぶい赤褐 (5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

7号竪穴建物跡（第29図）

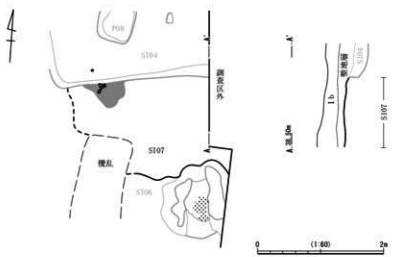
平面位置　AH－30・31

重複関係　4・6号竪穴建物跡より古い。

遺構形態　遺構は床面のみが検出された。長軸2.60ｍ以上、短軸1.63ｍ以上を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがある。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕、須恵器甕、縄文時代前期の興津式、須恵器甕などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期と推定される。



第29図　7号竪穴建物跡

9号竪穴建物跡（第30～33図・第11表）

平面位置　AI・AH－25・26

重複関係　10号竪穴建物跡より古く、11・16号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面と北壁、東壁と西壁の一部を検出した。長軸5.08ｍ以上、短軸2.52ｍ以上、深さ0.29ｍを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で両袖が検出されている。シルト質土を母材とし泥岩の大きな板材を構築材として天盤と支柱に使用している。燃焼部は焼成を強く受けて赤化している。覆土内からは廃棄された土師器が多量に検出されている。ピットは5基検出され、ピット1・2が主柱穴の可能性がある。覆土は暗褐色土と灰黄褐色土などの自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は床面直上で多くが検出されている。土師器甕（刷毛調整、単口縁、常陸型）、高坏（掘り方埋土内）、坏、須恵器甕、蓋、土師質土器こね鉢、14世紀の常滑焼甕、泥岩製の支脚、砂岩、花崗岩、片岩製の敲石、片麻岩、アプライト製の磨石、砂岩製礫、砂岩、片岩、花崗岩、泥岩の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

10号竪穴建物跡（第30・31・34図・第12表）

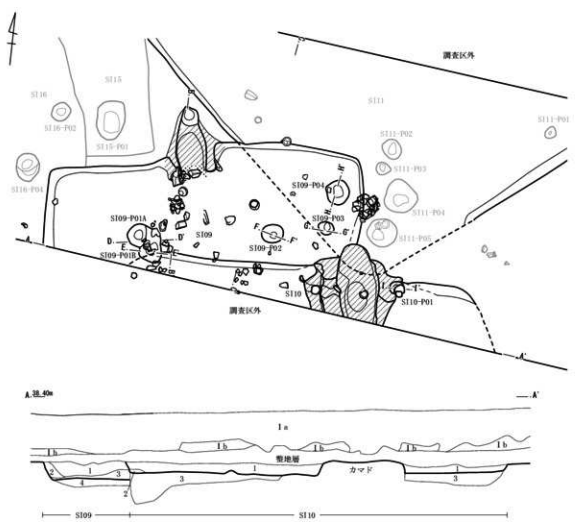
平面位置　AH－25・26

重複関係　9・11号竪穴建物跡より新しい。

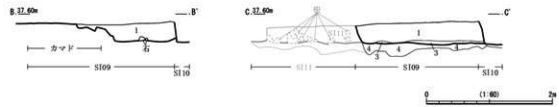
遺構形態　遺構は床面と北壁、西壁と東壁の一部を検出した。長軸5.81 m以上、短軸1.73 m以上、深さ0.22 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で両袖が検出され、シルト質土を母材とし泥岩の大きな板材を構築材として使用している。燃焼部は形成されておらず焼土も発達していない。ピットは検出されていない。覆土は暗褐色土と黒褐色土などの自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁、常陸型、刷毛調整）、須恵器坏蓋模倣の坏、埦、須恵器甕、縄文時代前期の興津式土器、弥生時代後期の十王台式土器、片麻岩製の磨石、石英製の楔形石器、流紋岩製の剥片、泥岩の竈構築材、砂岩、石英製の礫、砂岩、チャート、片岩、泥岩、石英の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



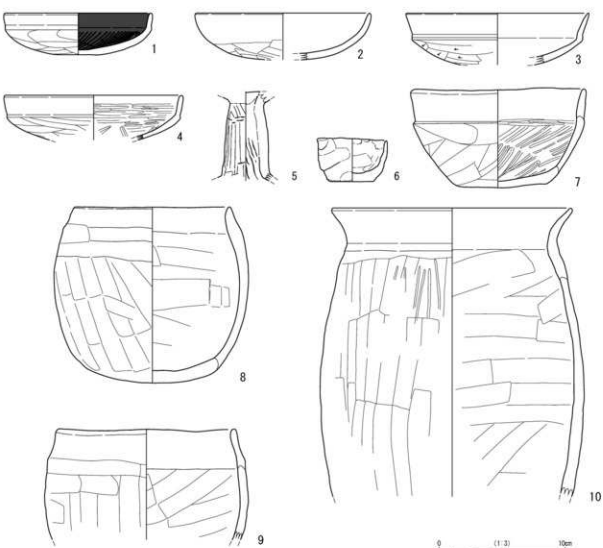
第30図　9・10号竪穴建物跡（1）



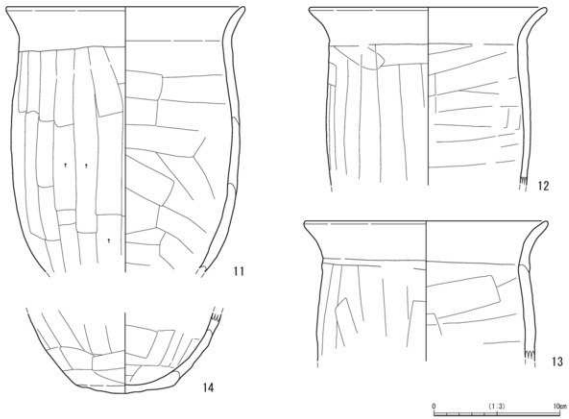
SI09
1．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性あり。ローム粒子（φ0.5~10mm）を全体に少量、ロームブロックを部分的に少量含む。
2．灰黄褐色土　10YR4/2　締り強い、粘性あり。ローム粒子（φ0.5~10mm）を全体に多く、ロームブロックを部分的に微量に含む。
3．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締り強い、粘性あり。ローム粒子（φ0.5~10mm）を全体に多く、ロームブロックを全体に少量含む。
4．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを多量、ローム粒子（φ0.5~10mm）を全体に多量に含む。

SI10
1．黒褐色土　10YR2/2　締りなし、粘性あり。ローム粒子（φ0.5~10mm）を微量に含む。
2．灰黄褐色土　10YR5/2　締りあり、粘性あり。粘土を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5~10mm）を部分的に微量に含む。
3．暗褐色土　10YR3/4　締りあり、粘性あり。ローム粒子（φ0.5~10mm）を全体に多く含む。

第31図　9・10号竪穴建物跡（2）



第32図　9号竪穴建物跡出土遺物（1）

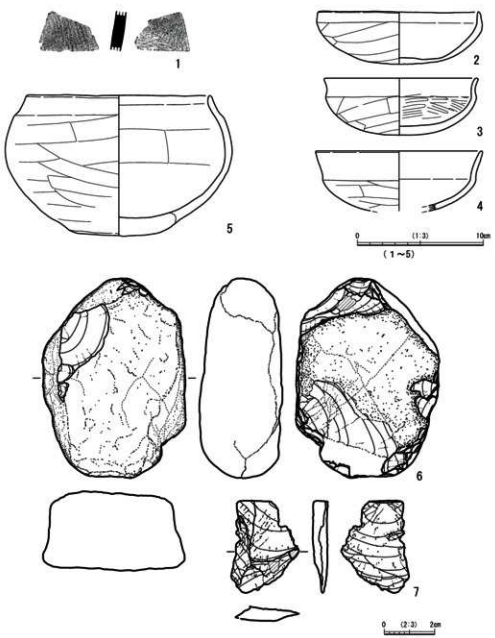


第 33 図　9 号竪穴建物跡出土遺物（2）

第 11 表　9 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 坏	口径：(11.6) 器高：3.4 底径：-	白色粒子・雲・石英	良好	15%	褐灰 (7.5YR4/1)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・黒色処理
2	土師器 坏	口径：(13.8) 器高：3.7 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲	良好	20%	にぶい黄橙 (10YR7/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
3	土師器 坏	口径：(14.4) 器高：〈4.1〉 底径：-	白色粒子・長・雲・石英・礫	良好	10%	にぶい褐 (7.5YR6/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
4	土師器 坏	口径：(15.0) 器高：〈3.8〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲	良好	5%	にぶい褐 (7.5YR6/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・・ナデ
5	土師器 高坏	口径：- 器高：〈7.8〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲	良好	10%	にぶい褐 (7.5YR6/3)	外面縦位ヘラケズリ・ナデ、内面ヘラナデ
6	土師器 ミニチュア	口径：5.8 器高：3.7 底径：3.6	白色粒子・石英・礫	良好	80%	橙 (7.5YR6/6)	内外面指押え・ナデ
7	土師器 鉢	口径：13.6 器高：7.8 底径：6.8	白色粒子・雲・石英	良好	90%	にぶい赤褐 (5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ、内外面煤付着
8	土師器 甕	口径：12.2 器高：14.0 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・礫	良好	95%	橙 (7.5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面上位横位ヘラケズリ・下位斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
9	土師器 甕	口径：(14.0) 器高：〈8.8〉 底径：-	白色粒子・石英・礫	良好	5%	にぶい赤褐 (5YR4/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面横位・縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
10	土師器 甕	口径：(18.8) 器高：〈22.9〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	10%	暗赤褐 (5YR3/2)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
11	土師器 甕	口径：(18.8) 器高：(21.1) 底径：-	白色粒子・石英・礫	良好	15%	にぶい褐 (7.5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
12	土師器 甕	口径：(18.8) 器高：(14.2) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長・石英・礫	良好	10%	橙 (5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
13	土師器 甕	口径：(19.0) 器高：(11.2) 底径：-	白色粒子・長・雲・石英・礫	良好	10%	橙 (5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
14	土師器 甕	口径：- 器高：(6.4) 底径：7.6	白色粒子・雲・石英	良好	5%	にぶい赤褐 (5YR5/4)	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ



第 34 図　10 号竪穴建物跡出土遺物

第 12 表　10 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	灰 (N5/0)	外面平行線タタキ、内面同心円状当て具痕
2	土師器 坏	口径：12.6 器高：4.2 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長・チャ・角・雲・針	良好	50%	橙 (5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
3	土師器 坏	口径：〈12.0〉 器高：〈4.5〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	50%	にぶい橙 (7.5YR7/4)	口縁部外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・ナデ
4	土師器 坏	口径：〈4.5〉 器高：〈4.8〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	5% 未満	橙 (7.5YR7/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
5	土師器 鉢	口径：14.4 器高：11.2 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	30%	にぶい褐 (7.5YR5/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面横位・斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
6	敲石	石英	8.0	5.7	3.1	200.8	下端部に敲打痕。面が平らになっている。
7	剥片	流紋岩	3.7	2.6	0.5	4.9	打点・打面をもつ縦長剥片。

11 号竪穴建物跡（第 35 ～ 37 図・第 13 表）

平面位置　AH・AI － 25 ～ 27

重複関係　9・10・14 号竪穴建物跡より古い。

遺構形態　遺構は床面、西壁と南壁の一部が検出された。主軸は北西－南東方向に傾く。長軸 5.80 m以上、短軸 4.84 m以上、深さ 0.34 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは 5 基検出され、4 号ピットが主柱穴であると思われる。2 号ピットと 5 号ピット覆土内から土師器甕が検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁、刷毛調整平底）、坏、須恵器坏蓋模倣の坏、赤彩の高坏、内面赤彩の埦、須恵器甕、凝灰岩、泥岩、粘板岩製の砥石、片麻岩製の敲石、砂岩、石英、花崗岩、片岩、石灰岩製の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

14 号竪穴建物跡（第 35・38 図・第 14 表）

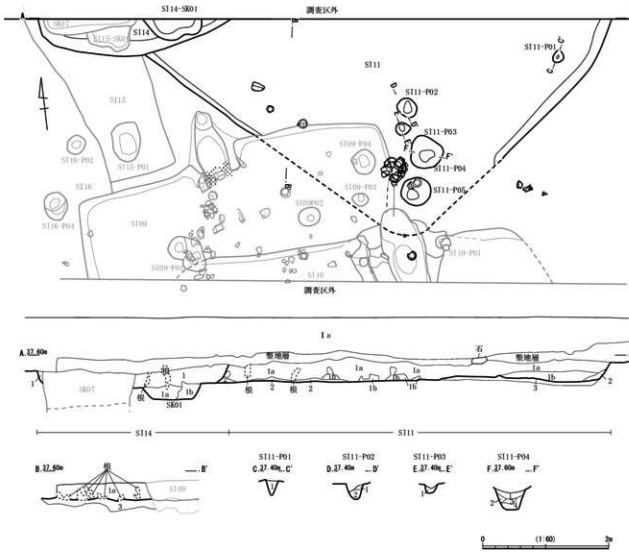
平面位置　AI － 24・25

重複関係　7 号土坑より古く、12・15 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面、西壁と南壁の一部を検出した。長軸 3.07 m以上、短軸 0.59 m以上、深さ 0.27 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈、ピットは検出されていないが、床面から土坑が 2 基検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕、須恵器坏蓋模倣の坏、砂岩、片岩製の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



SI11
1a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に多く含む。
1b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
3．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI11-P01
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～150mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

SI11-P02
1．暗褐色土　10YR3/3　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ5～10mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に微量に含む。
2．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ10～30mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

SI11-P03
1．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締りなし、粘性あり。ロームブロック（φ10～15mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

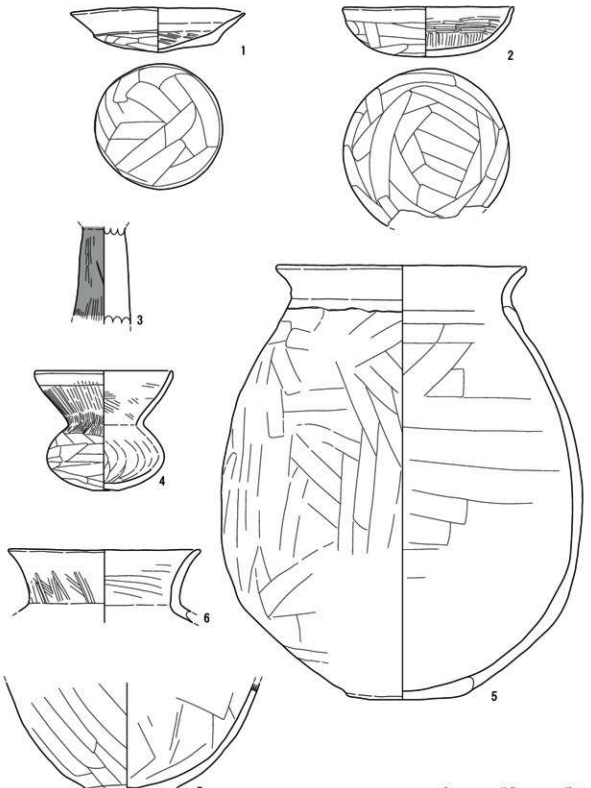
SI11-P04
1．黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性あり。ロームブロック（φ5～10mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に微量に含む。
2．暗色土　10YR4/4　締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ5～10mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3．黒褐色土　10YR2/2　締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ5～10mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
4．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締りあり、粘性あり。ロームブロック（φ10～15mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

SI11-P05
1．黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～15mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

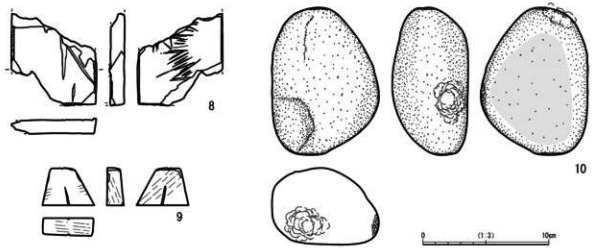
SI14
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

SI14-SK01
1a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
1b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第35図　11・14号竪穴建物跡



第 36 図　11 号竪穴建物跡出土遺物（1）

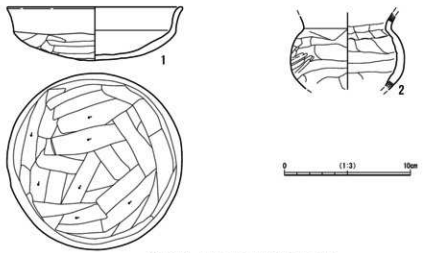


第 37 図　11 号竪穴建物跡出土遺物（2）

第 13 表　11 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
1	土師器 坏	口径：13.6 器高：3.6 底径：-	白色粒子・雲・石英	良好	100%	にぶい黄橙（10YR6/4）	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・・ナデ
2	土師器 坏	口径：13.2 器高：4.0 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・礫	良好	95%	橙（7.5YR6/6）	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・・ナデ
3	土師器 高坏	口径：- 器高：〈7.7〉 底径：-	白色粒子・石英	良好	20%	にぶい赤褐（2.5YR4/4）	外面縦位ミガキ・赤彩
4	土師器 坩	口径：10.8 器高：9.5 底径：1.8	白色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	99%	にぶい黄橙（10YR6/3）	口縁部外面横位ナデ、頸部外面ハケ、胴部外面ヘラナデ・ナデ、口縁部内面ミガキ、胴部内面ナデ
5	土師器 甕	口径：19.6 器高：34.4 底径：8.6	白色粒子・石英・礫	良好	90%	橙（7.5YR6/6）	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
6	土師器 甕	口径：（15.0） 器高：〈5.8〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	5%	明赤褐（5YR5/6）	口縁部外面横位ナデ、頸部外面縦位ミガキ、内面横位ナデ
7	土師器 甕	口径：- 器高：〈9.1〉 底径：6.2	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	5%	にぶい黄褐（10YR5/3）	外面斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

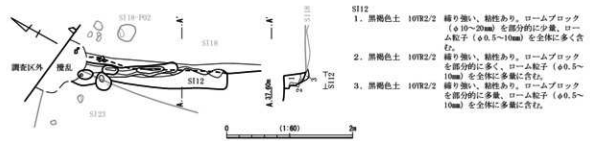
図版番号	器種	石材	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	所見
8	砥か	凝灰岩	<7.2>	<6.8>	1.2	67.9	長方形。大きく欠損。表は砥の丘部でふち。一部は残るが他はほとんど欠損しているものの、直線が残る。その後剥みが入る。砥石として使用か。
9	砥石	凝灰岩	<2.9>	4.1	1.4	23.4	上部欠損。上部面以外は滑面に平滑。上端部には幅 0.1cm の溝。表裏面とも幅 0.15cm の溝が入る。
10	磨石・敲石	片麻岩	11.6	8.6	6.0	814.4	自然礫を使用し、上下端・右側先端部が敲打によりやや平坦になっている。裏面中央は平滑になっており、磨石として使用された面。



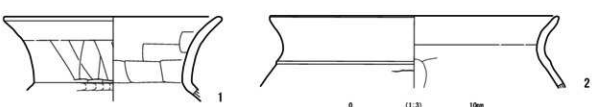
第 38 図　14 号竪穴建物跡出土遺物

第 14 表　14 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 坏	口径：13.8 器高：4.3 底径：-	白色粒子・雲・石英・礫	良好	100%	にぶい黄褐 (10YR5/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
2	土師器 坩	口径：- 器高：〈6.1〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲	良好	20%	にぶい黄橙 (10YR7/4)	外面ミガキ・ヘラナデ、内面ヘラナデ・ナデ



第 39 図　12 号竪穴建物跡



第 40 図　12 号竪穴建物跡出土遺物

第 15 表　12 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：(17.4) 器高：〈6.8〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	5% 未満	にぶい赤褐 (5YR5/4)	口縁部外面横位ナデ、頸部外面斜位ヘラナデ・指押え、頸部内面横位ヘラナデ
2	土師器 甕	口径：(23.0) 器高：〈5.8〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・チャ・石英	良好	5% 未満	橙 (7.5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、頸部内面指押え

12号竪穴建物跡（第39・40図・第15表）

平面位置　AI－22・23

重複関係　18号竪穴建物跡より古い。

遺構形態　遺構は18号竪穴建物跡に切られて西壁付近が検出された。長軸2.47ｍ以上、短軸0.45ｍ以上、深さ0.4ｍを測る。床は検出されていないが、壁は急角度で立ち上がる。壁沿いに周溝が検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、縄文時代前期の繊維土器、興津式土器、土師器甕、高坏、塊、瓦質土器、砂岩、チャート、片麻岩、泥岩、アプライトの礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代と推定される。

15号竪穴建物跡（第41～43図・第16表）

平面位置　AI－24・25・AH－25

重複関係　14・16号竪穴建物跡より古い。

遺構形態　遺構は、床面、南壁と東壁の一部が検出された。長軸2.92ｍ以上、短軸1.64ｍ以上、深さ0.17ｍを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されなかったが北東側の床面で検出された土師器内に焼土が検出されたことから火を焚いた可能性がある。ピットは床面南東から主柱穴が1基検出されている。覆土は褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁、刷毛調整）、焼成粘土塊、須恵器坏蓋模倣の坏、坩、塊、縄文時代前期の繊維土器、興津式土器、凝灰岩製の石鏃、泥岩、花崗岩製の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

16号竪穴建物跡（第41・42・44・45図・第17表）

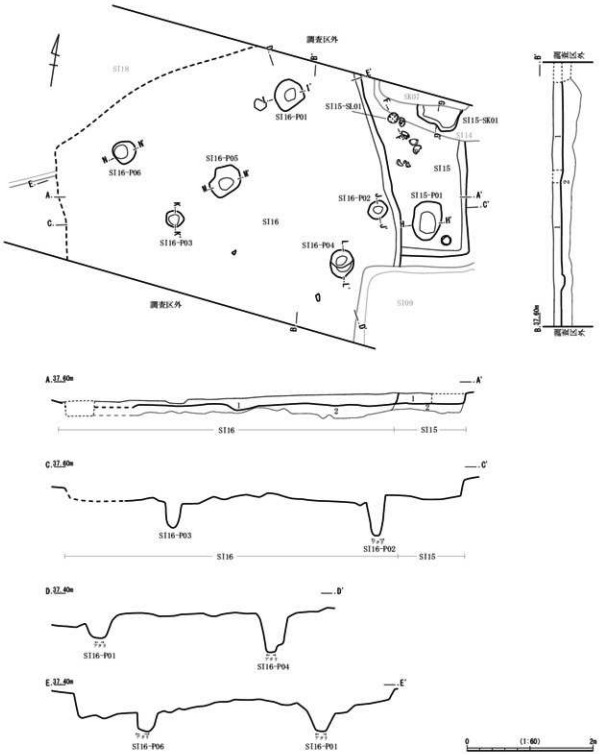
平面位置　AH・AI－23～25

重複関係　9号竪穴建物跡より古く、15・18号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は、床面と東壁の一部が検出され、長軸5.75以上ｍ、短軸4.11以上ｍ、深さ0.27ｍを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、掘り方は浅いが壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは6基検出され、内3基（1・4・6号ピット）が主柱穴であると思われる。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁、刷毛調整）、須恵器坏蓋模倣の坏、高坏、焼成粘土塊、須恵器甕、壺、縄文時代前期の諸磯式、興津式土器、弥生時代後期の十王台式土器、鉄製品、チャート製の微細剥離された剥片、頁岩製の石鏃未製品、砂岩製の敲石、石皿＋敲石＋磨石、凝灰岩製の砥石、砂岩製礫、砂岩、泥岩、凝灰岩、片岩、石英の礫片などである。

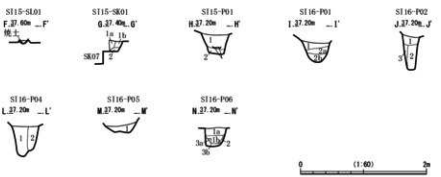
時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



SI15
1．褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI16
1．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～100mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ3～15mm）を部分的に少量含む。
2．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、炭化物（φ3～15mm）を部分的に少量含む。

第41図　15・16号竪穴建物跡（1）



SI15-SL01
1．明赤褐色土・黒褐色土　5YR5/6＋10YR2/2　締り強い、粘性なし。焼土を全体に多量に含む。

SI15-SK01
1a．にぶい黄褐色土　10YR5/3　締りあり、粘性なし。粘土（～φ70mm）を部分的に多量、ロームブロック（φ5～10mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。
1b．暗褐色土　10YR3/3　締りあり、粘性なし。ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～15mm）を部分的に微量、焼土（φ1～3mm）を 含む。粘土を含む。
3．褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～30mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

SI15-P01
1．黒褐色土　10YR3/2　締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。
2．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～30mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI16-P01
1．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。
2a．黒褐色土　10YR3/2　締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。
2b．暗褐色土　10YR3/3　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

SI16-P02
1．褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2．暗褐色土　10YR3/3　締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。
3．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

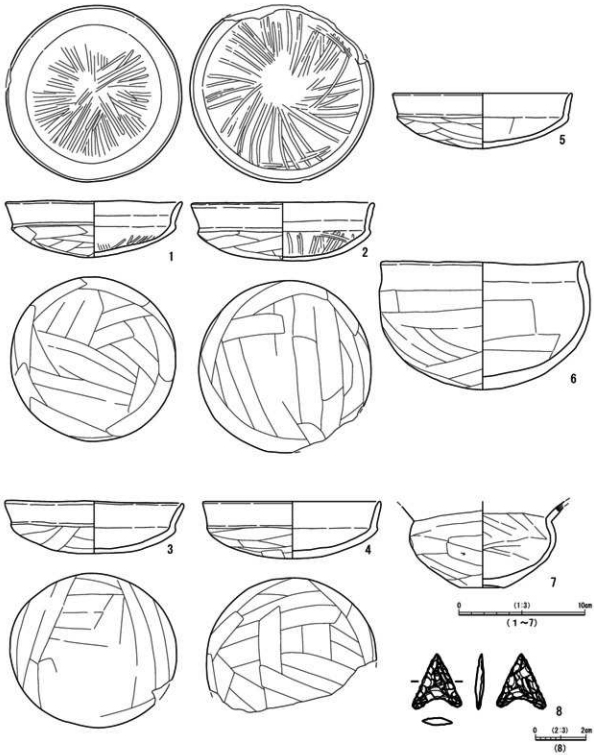
SI16-P03
1．暗褐色土　10YR3/3　締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
2．黒褐色土　10YR2/3　締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。
3．暗褐色土　10YR3/4　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

SI16-P04
1．黒褐色土　10YR3/2　締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。
2．灰黄褐色土　10YR4/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

SI16-P05
1．暗褐色土　10YR3/3　締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量含む。

SI16-P06
1a．黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
1b．黒褐色土　10YR3/1　締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。
2．暗褐色土　10YR3/4　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
3a．灰黄褐色土　10YR4/2　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
3b．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

第42図　15・16号竪穴建物跡（2）

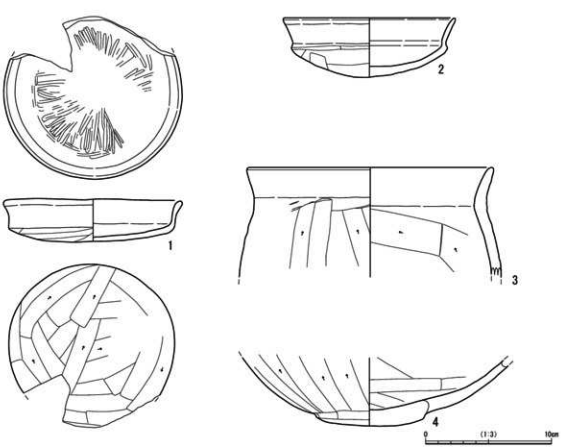


第43図　15号竪穴建物跡出土遺物

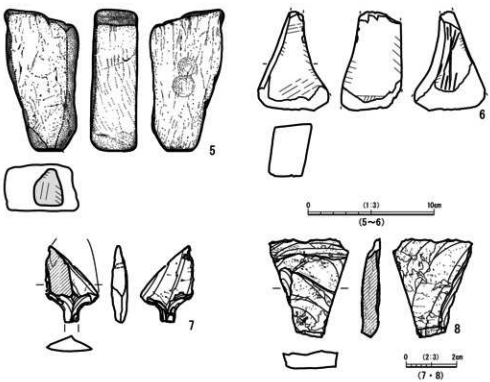
第16表 15号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 坏	口径：13.8 器高：4.5 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	99%	にぶい赤褐(5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面放射状にミガキ
2	土師器 坏	口径：14.2 器高：4.6 底径：-	白色粒子・赤色粒子・礫	良好	90%	灰褐(7.5YR4/2)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面放射状暗文
3	土師器 坏	口径：14.0 器高：4.2 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	99%	にぶい橙(7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
4	土師器 坏	口径：13.8 器高：4.5 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	55%	橙(7.5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
5	土師器 坏	口径：(14.0) 器高：4.4 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・礫	良好	55%	にぶい褐(7.5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
6	土師器 鉢	口径：15.8 器高：10.2 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	70%	明赤褐(5YR5/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面上位横位ヘラケズリ・下位斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
7	土師器 坩	口径：- 器高：(6.9) 底径：3.4	白色粒子・黒色粒子・礫	良好	30%	橙(7.5YR6/6)	外面横位・斜位ハケ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	所見
8	石鏃	凝灰岩	1.8	1.7	0.3	0.8	凹基無茎で側辺は直線的。非常に細かい調整が施される。



第44図 16号竪穴建物跡出土遺物（1）



第45図　16号竪穴建物跡出土遺物（2）

第17表　16号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
1	土師器 坏	口径：14.0 器高：3.4 底径：-	白色粒子・雲・石英・礫	良好	90%	にぶい褐（7.5YR5/3）	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・・ナデ
2	土師器 坏	口径：13.6 器高：4.8 底径：-	白色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	30%	にぶい橙（7.5YR6/4）	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
3	土師器 甕	口径：(19.2) 器高：〈8.7〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・チャ・石英・礫	良好	5%	にぶい橙（7.5YR6/4）	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位・斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
4	土師器 甕	口径：- 器高：〈5.3〉 底径：8.2	白色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	5%	にぶい橙（7.5YR6/4）	外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	器種	石材	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	所見
5	凹石・敲石・磨石	砂岩	11.2	5.8	3.6	469.8	基本自然石の形を利用。下部端部は平らで滑らか。角は丸みあり。敲打痕はみることができなかったが、磨いているからか。裏面中央に浅いが二つ並んだ凹みあり。
6	砥石	凝灰岩	<7.7>	<5.6>	<4.8>	186.4	上下部欠損。下部は風化でもろくなっている。全体に使われており、裏面はV字状の刻みが複数みられる。古代か。
7	石鏃未製品	頁岩	<3.2>	1.8	0.6	2.8	凸基有茎の未製品で茎部から基部にかけての成形後、上部欠損。風化著しい。
8	微細剥離された剥片	チャート	4.2	2.9	0.7	8.7	側縁部は節理面。上部に微細な剥離が施されている。

19号竪穴建物跡（第46・47図・第18表）

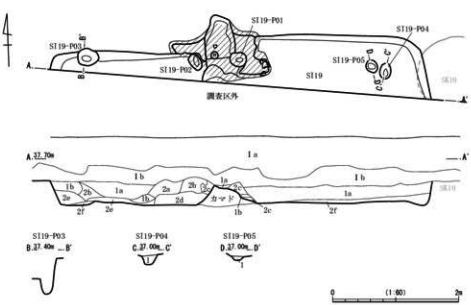
平面位置　AI－18～20

重複関係　10号土坑より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部と北壁、西壁と東壁の一部が検出された。長軸6.05ｍ以上、短軸1.33ｍ以上、深さ0.39ｍを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で両袖が検出されたが、シルト質土を母材として、部分的に泥岩製の構築材を使用している。竈の床面は煙出し口に向かい階段状で、覆土は焼土で充填されている。床面に焼成を受けた痕跡は確認できない。ピットは5基確認されているが主柱穴はない。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁、常陸型）、焼成粘土塊、須恵器坏蓋模倣の坏、塊、須恵器甕、蓋、坏、瀬戸焼の碗、砂岩、片岩製の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



SI19

1a．暗褐色土　10YR3/4　締りあり、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ1～3mm）を部分的に微量に含む。

1b．黒褐色土　10YR2/3　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に微量に含む。

2a．黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。

2b．黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

2c．灰黄褐色土　10YR4/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量、粘土（φ10～20mm）を全体に多く、焼土（φ1～5mm）を全体に少量含む。

2d．灰黄褐色土　10YR4/2　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。

2e．褐灰色土　10YR4/1　締り強い、粘性なし。粘土（φ30～70mm）を全体に多量に含む。

2f．褐色土　10YR4/4　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

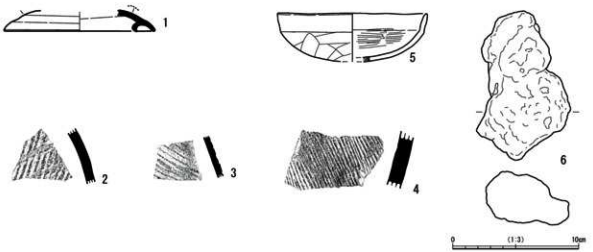
SI19-P04

1．褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

SI19-P05

1．褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

第46図　19号竪穴建物跡



第 47 図　19 号竪穴建物跡出土遺物

第 18 表　19 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 蓋	口径：- 器高：〈1.8〉 底径：〈12.0〉	白色粒子	良好	5% 未満	灰 (7.5Y5/1)	内外面ロクロナデ、頂部回転ヘラケズリ、返しを持つ
2	須恵器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子	良好	5% 未満	灰 (5Y6/1)	外面平行線状タタキ、内面ナデ
3	須恵器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子	良好	5% 未満	褐灰 (10YR6/1)	外面平行線状タタキ、内面ナデ
4	須恵器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・石英	良好	5% 未満	灰 (N5/0)	外面平行線状タタキ、内面ナデ
5	土師器 坏	口径：〈11.6〉 器高：〈3.9〉 底径：-	白色粒子・赤色粒子・石英	良好	10%	にぶい黄橙 (10YR7/4)	口縁部外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・ナデ
6	土製品 焼成粘土塊	長さ：11.8 幅：7.4 厚さ：4.2	白色粒子・赤色粒子・雲・礫	良好	100%	にぶい黄橙 (10YR7/3)	凹凸があり摩滅が激しい

20 号竪穴建物跡（第 48 ～ 51 図・第 19 表）

平面位置　AH・AI － 21 ～ 23

重複関係　23・31 ～ 33 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面と北壁、西壁と東壁の一部が検出された。平面形は隅丸方形を呈し、主軸はやや北北西に傾く。長軸 4.66 m以上、短軸 4.45 m、深さ 0.27 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈でやや東よりに位置している。竈の構築材はシルト質土を母材とし、部分的に泥岩の構築材を天盤に使用している。竈内の床面に燃焼部は形成されていないが、竈内の天井では部分的に焼土が堆積し焼成を受けている。北東床面で楕円形の土坑が 1 基検出されているが、ピットは検出されていない。31 号竪穴建物跡と遺構の主軸・壁溝の位置が一致するため、31 号竪穴建物跡の建て替えと考えられる。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁、刷毛調整）、須恵器坏蓋模倣の坏、高坏、塊、須恵器甕、蓋、坏、チャート製の小形磨石、片麻岩製の敲石＋磨石、片岩製の敲石＋磨石、凝灰岩製の砥石、泥岩

製の竈構築材、砂岩、アプライト、砂岩製の礫、片岩、泥岩、花崗岩、石英製の礫片などである。

時　　期　古墳時代後期と推定される。

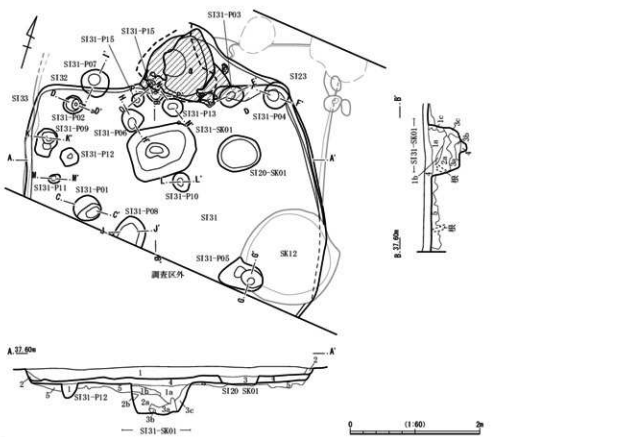
31号竪穴建物跡（第48～50・52図・第20表）

平面位置　AH・AI－21～23

重複関係　20号竪穴建物跡、12号土坑より古く、32・33号竪穴建物跡より新しい。

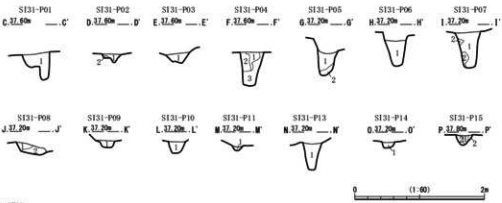
遺構形態　遺構は床面の一部と北壁、西壁と東壁の一部が検出した。長軸4.66m以上、短軸4.45m、深さ0.19mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は掘り方が浅いが急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。土坑は中央北壁寄りの床面から隅丸長方形の形状で1基検出される。ピットは15基検出されたが主柱穴はない。本住居の建替えと推定される20号竪穴建物跡の構築により、覆土は確認されていない。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁、ハケ目、赤彩）、器台、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、甑、須恵器蓋、高坏、縄文時代前期、中期、後期の土器片、チャート製の二次加工石器、砂岩、片麻岩、片岩製の礫片などである。



SI20・31
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。炭化物（φ1～20mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～15mm）を含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
3．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に多く、焼土（φ5～10mm）を部分的に微量に含む。
4．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
5．褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

第48図　20・31号竪穴建物跡（1）



SI31-SK01

1a. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。炭化物（φ３～５mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、粘土（φ10～20mm）を部分的に少量含む。

1b. 暗褐色土　10YR3/4　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

1c. にぶい黄褐色土　10YR4/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、粘土（φ10～20mm）を部分的に少量含む。

2a. にぶい黄褐色土　10YR4/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

2b. 褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

3a. 黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、粘土（φ10～30mm）を部分的に少量含む。

3b. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

3c. 暗褐色土　10YR3/4　締り強い、粘性なし。炭化物（φ１～５mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

4．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

5．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。炭化物（φ１～５mm）を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ１～10mm）を部分的に微量に含む。

SI31-P01

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、焼土（φ１～２mm）を部分的に微量、白色粒子（φ１～２mm）を全体に微量に含む。

SI31-P02

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

2．暗褐色土　10YR3/4　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI31-P03

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。炭化物（φ３～５mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～30mm）を、ローム粒子（φ0.5～10mm）を、焼土（φ３～10mm）を部分的に微量に含む。

SI31-P04

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ１～５mm）を全体に少量、シルトを部分的に多量に含む。

2．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

3．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI31-P05

1．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

2．褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI31-P06

1．黄褐色土　10YR5/6　締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI31-P07

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。粘土を部分的に、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

SI31-P08

1．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性あり。焼土を全体に多量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

2．褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI31-P09

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ１～５mm）を含む。

第 49 図　20・31 号竪穴建物跡（２）

SI31-P10
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

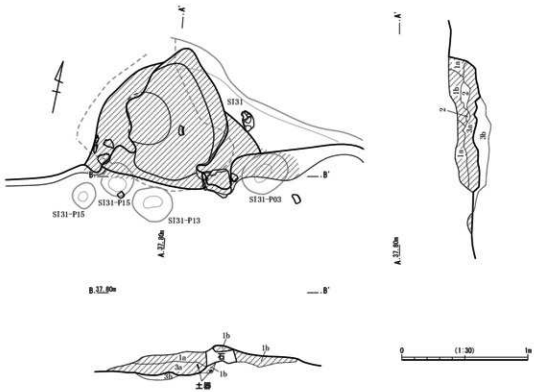
SI31-P11
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。炭化物（φ1～5mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～5mm）を部分的に少量含む。

SI31-P12
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に散量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

SI31-P13
1．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

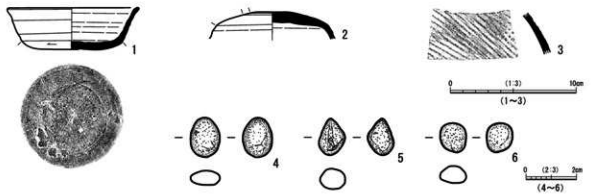
SI31-P14
1．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI31-P15
1．色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。



SI20-カマド
1a．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ1～15mm）を全体に少量含む。
1b．暗褐色土　10YR3/4　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土を全体に多量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2．明赤褐色土　5YR5/6　締り強い、粘性なし。焼土を全体に多量含む。
3a．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多く、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（～φ30mm）を全体に多く含む。
3b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルトを全体に少量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～5mm）を部分的に少量含む。

第50図　20・31号竪穴建物跡（3）

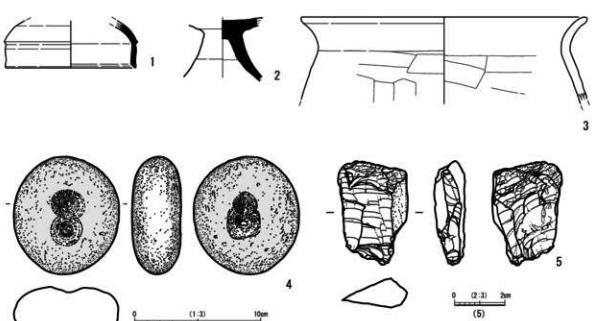


第 51 図　20 号竪穴建物跡出土遺物

第 19 表　20 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	須恵器 坏	口径：10.2 器高：3.3 底径：5.7	白色粒子・黒色粒子・礫	良好	70%	褐灰 (7.5YR5/1)	内外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラケズリ
2	須恵器 蓋	頂径：4.2 器高：〈2.1〉 底径：-	白色粒子・礫	良好	5% 未満	黄灰 (2.5Y6/1)	内外面ロクロナデ、頂部回転ヘラケズリ
3	須恵器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・石英・礫	良好	5% 未満	灰 (N5/0)	外面平行線状タタキ、内面ナデ

図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	所見
4	磨石	チャート	1.3	1.1	1.0	1.2	楕円形で、全体に平滑で光沢あり。
5	磨石	チャート	1.5	1.0	0.8	1.6	楕円形で、全体に平滑で光沢あり。
6	磨石	チャート	1.6	1.2	0.6	1.7	楕円形で、全体に平滑で光沢あり。



第 52 図　31 号竪穴建物跡出土遺物

第 20 表　31 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
1	須恵器 蓋	口径：－ 器高：〈3.7〉 底径：願径（10.2）	白色粒子・黒色粒子	良好	5% 未満	灰（N5/0）	内外面ナデ、外面上部回転ヘラケズリ
2	須恵器 高坏	口径：－ 器高：〈4.8〉 底径：－	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	20%	灰（N6/0）	内外面ロクロナデ
3	土師器 甕	口径：〈22.4〉 器高：〈7.0〉 底径：－	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	5%	にぶい黄褐（10YR5/4）	口縁部内外面横位ナデ、外面上位横位ヘラケズリ・下位縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	器種	石材	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	所見
4	磨石＋凹石	安山岩	9.2	8.4	3.9	439.7	円形の石で、表裏に平滑面が広がり、中央タテ方向に二つの凹が重なり合っている。
5	両極剥離石器	チャート	4.3	2.9	1.2	13.3	両極技法により上下方向からの調整が施される。

21 号竪穴建物跡（第 53 ～ 55 図・第 21 表）

平面位置　AH － 17・18

重複関係　22・24 号竪穴建物跡より新しい

遺構形態　遺構は部分的に床面と北壁、東壁の一部が検出された。長軸 3.05 m 以上、短軸 2.19 m 以上、深さ 0.37 m を測る。床はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で、両袖が検出された。シルト質土を母材として、部分的に泥岩の構築材を使用している。内部の使用面は焼成を受けてない。竈内の覆土からは炭化米 16.92 g（乾燥重量）が出土した。ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土、暗褐色土などの自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁）、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、須恵器甕、蓋、坏の破片、縄文時代前期、中期の土器片、メノウ製の火打石、凝灰岩製の磨製石器、多孔質安山岩製の凹石＋磨石＋敲石、砂岩、花崗岩、泥岩、片麻岩、アプライト製の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

22 号竪穴建物跡（第 53・56 図・第 22 表）

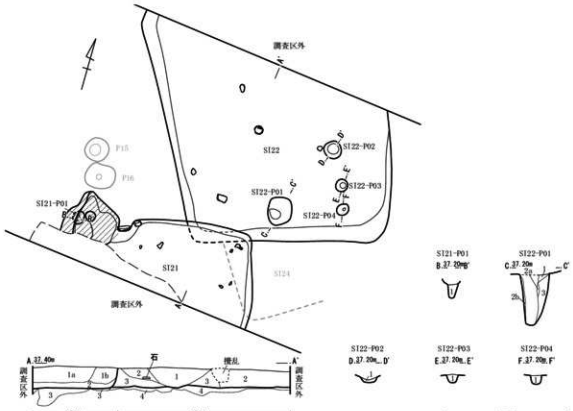
平面位置　AI・AJ － 17・18

重複関係　21 号竪穴建物跡より古く、24 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は部分的に床面と西壁と南壁、東壁の一部が検出された。長軸 4.43 m 以上、短軸 3.49 m 以上、深さ 0.33 m を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは 4 基検出されているが、主柱穴はない。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁）、須恵器坏蓋模倣の坏、埦、須恵器坏の破片、縄文時代前期、中期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、片麻岩製の敲石、砂岩、片麻岩製の礫、砂岩、泥岩、石英、凝灰岩の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



SI21

1a. 黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。
1b. 暗褐色土　10YR3/4　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ30～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2．灰黄褐色土　10YR4/2　締りあり、粘性あり。ロームブロック（～φ60mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。
3．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～15mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ5～6mm）を部分に微量に含む。

SI21-P01

1．黒色土　10YR2/1　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ5～10mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。

SI22

1．黒褐色土　10YR2/2　締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量、焼土（φ1～3mm）を部分的に微量に含む。
2．黒褐色土　10YR3/1　締りあり、粘性あり。ロームブロック（φ10mm～）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量、焼土（φ1～10mm）を部分的に微量に含む。
3．暗褐色土　10YR3/4　締りあり、粘性あり。ロームブロック（φ5～15mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
4．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

SI22-P01

1．暗褐色土　10YR3/4　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ7～10mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2a．褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10mm～）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2b．色土　10YR4/4　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ5～10mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3．黄褐色土　10YR5/6　締りあり、粘性なし。ローム粒子（φ0.5～10mm）を含む。

SI22-P02

1．黒褐色土　10YR2/3　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。

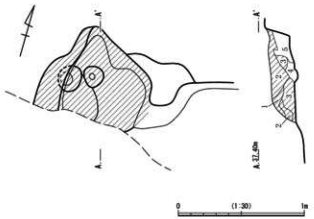
SI22-P03

1．黒褐色土　10YR3/1　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～15mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。

SI22-P04

1．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～15mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

第53図　21・22号竪穴建物跡（1）



SI21-カマド

1．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多く、炭化物（φ1～3mm）を全体に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～10mm）を部分的に少量含む。

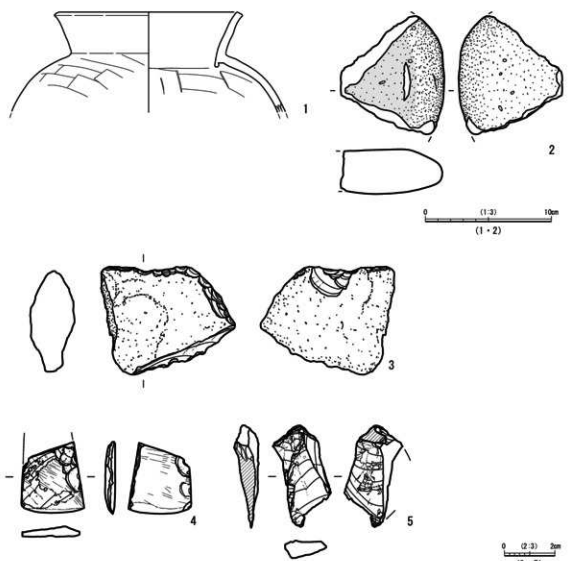
2．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。焼土（φ1～15mm）、ローム粒子（φ0.5～10mm）、シルト（φ1～10mm）を全体に含む。

3．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多く、ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に、焼土（φ2～30mm）を全体に多く含む。

4．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルトを部分的に少量、ロームブロックを全体に多量に、ローム粒子（φ0.5～10mm）全体に少量、焼土を含む。

5．褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性あり。白色粒子（φ1～2mm）、炭化物（φ1～5mm）を部分的に少量、ロームブロック、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。

第54図　21号竪穴建物跡（2）

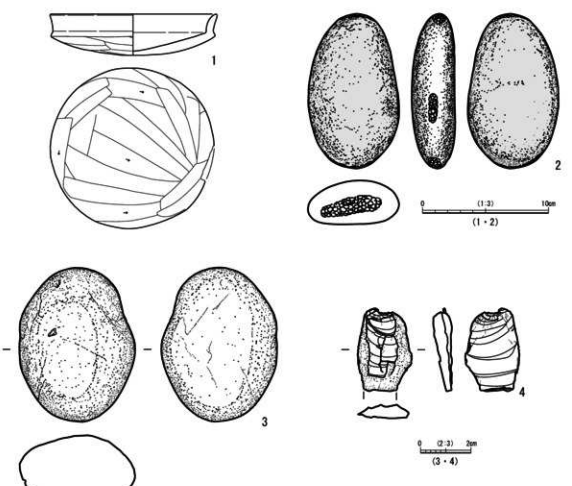


第55図　21号竪穴建物跡出土遺物

第 21 表　21 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：(14.0) 器高：<8.1> 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%	にぶい赤褐 (5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
2	石皿	多孔質安山岩	9.3	8.3	3.5	307.8	大きく欠損。円形か？表面はなだらかで中央部は浅い皿状で平滑。
3	火打石	メノウ	4.3	5.4	2.0	41.4	上・右側・縁辺部に連続する細かな剥離が連なる。下部は折断面にやや連続する剥離が連なる。表・裏では交互というわけでない。全体に被熱し、鈍くにごり、ややもろい。
4	磨製石器	凝灰岩	3.2	2.7	0.4	3.8	上部欠損。もとの形のものから剥落した部分で、再研磨したもの。非常に薄手。
5	剥片	チャート	<4.0>	<1.8>	0.9	4.9	打点は表面上部の調整により消失。



第 56 図　22 号竪穴建物跡出土遺物

第 22 表　22 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
1	土師器 坏	口径：13.0 器高：3.3 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・雲	良好	99%	赤褐 (2.5YR4/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ

図版番号	器種	石材	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	所見
2	磨石＋敲石	片麻岩	12.1	7.2	3.5	482.6	上下・下端部に敲打痕、右側縁の一部にも敲打痕あり。表・裏面とも広い平滑面あり。そのあとに敲打が行われている。
3	磨石	石英	6.1	4.7	2.3	94.2	全体に滑らか。
4	剥片	チャート	3.4	2.2	0.7	4.5	下部を欠損。打点をもった縦長剥片。赤色チャート。

23 号竪穴建物跡（第 57・58 図・第 23 表）

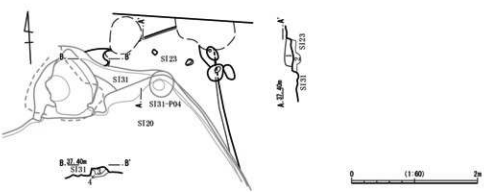
平面位置　AI－22・23

重複関係　20 号竪穴建物跡より古く、12 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部と北壁、東壁の一部が検出された。長軸 2.42 m以上、短軸 1.96 m以上、深さ 0.14 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で右袖の構築材の一部が検出されている。ピットは検出されていない。覆土は暗褐色土を主体とした自然堆積層である。

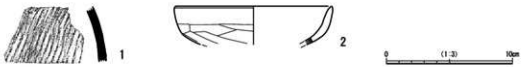
遺　　物　出土遺物は、土師器甕、須恵器坏蓋模倣の坏、須恵器甕、砂岩製の凹石＋敲石＋磨石、チャート製の磨石などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



SI23
1．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。シルトを部分的に多く、ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土を部分的に多く含む。
2．暗褐色土　10YR3/4　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3．明黄褐色土　10YR7/6　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土（φ1～5 mm）を部分的に少量含む。
4．暗褐色土　10YR3/4　締り強い、粘性なし。焼土（φ1～10mm）を全体に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

第 57 図　23 号竪穴建物跡



第 58 図　23 号竪穴建物跡出土遺物

第 23 表　23 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
1	須恵器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	灰 (N6/0)	外面平行線状タタキ、内面ナデ
2	土師器 坏	口径：(12.2) 器高：(3.0) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・礫	良好	20%	橙 (7.5YR7/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ

24 号竪穴建物跡（第 59 ～ 61 図・第 24 表）

平面位置　AJ － 18・19、AI － 17 ～ 19

重複関係　21・22 号竪穴建物跡より古く、25 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部と南壁の一部が検出された。長軸 4.85 m 以上、短軸 2.73 m 以上、深さ 0.27 m を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは 4 基検出されたが、主柱穴はない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁、ハケ目）、手づくね土器、須恵器坏蓋模倣の坏、鉢、須恵器甕の破片、ロクロ整形の土師器坏破片、縄文時代前期、中期の土器片、弥生時代中期の龍門寺式、後期の十王台式の土器片、砂岩製の凹石＋敲石＋磨石、チャート製の磨石、片岩製の敲石、砂岩製の凹石、砂岩、凝灰岩製の礫、砂岩、片麻岩、片岩、黴臭岩、石英などの礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

25 号竪穴建物跡（第 59・62 図・第 25 表）

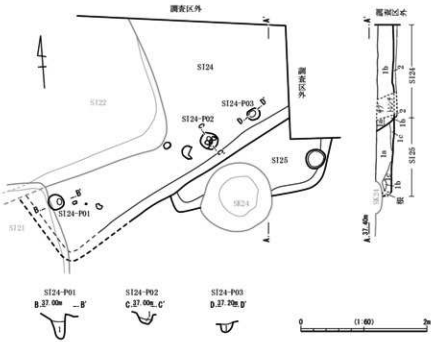
平面位置　AI － 18・19

重複関係　24 号竪穴建物跡、24 号土坑より古い。

遺構形態　遺構は床面の一部と南壁、西壁と東壁の一部が検出された。長軸 2.68 m 以上、短軸 1.17 m 以上、深さ 0.28 m を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは 1 基検出されたが、主柱穴ではない。覆土は黒褐色土を主体とした自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁、ハケ目調整、有段口縁）、須恵器坏蓋模倣の坏、須恵器甕、坏の破片、ロクロ整形の土師器坏の破片、縄文時代前期、中期の土器片、片岩製の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期末から後期初頭と推定される。



S124
1a．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
1b．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～70mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に含む。
2．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

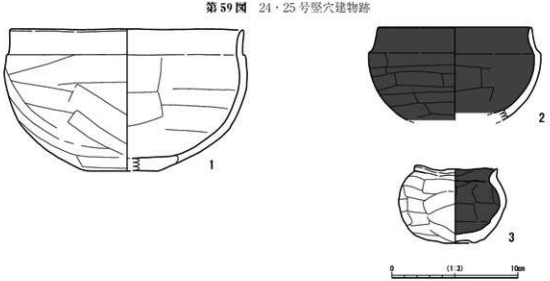
S124-P01
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

S124-P02
1．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。

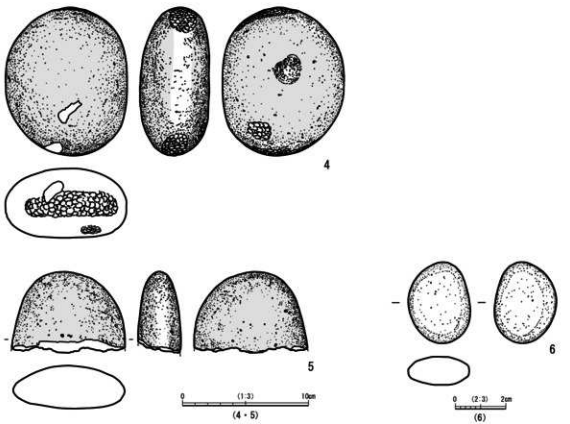
S124-P03
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

S125
1a．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ3～5mm）を部分的に少量含む。
1b．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
1c．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～50mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第59図　24・25号竪穴建物跡



第60図　24号竪穴建物跡出土遺物（1）



第61図 24号竪穴建物跡出土遺物（2）

第24表 24号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 鉢	口径：18.4 器高：11.3 底径：5.6	白色粒子・雲・石英・礫	良好	45%	赤褐 (2.5YR4/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
2	土師器 鉢	口径：(12.0) 器高：〈7.4〉 底径：-	白色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	10%	暗赤褐 (5YR3/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面横位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
3	土師器 ミニチュア	口径：6.2 器高：6.2 底径：2.2	白色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	90%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	内外面ヘラナデ・ナデ、内面全体に煤付着

図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	所見
4	磨石・敲石・凹石	砂岩	11.6	9.7	5.5	924.0	表は丸みを持ち、表はやや平坦。広い平滑面を持つ。上・下端部は敲打痕あり。裏面下方に磨り面の中に敲打痕。中央に浅いくぼみあり。
5	磨石	砂岩	<6.4>	<9.0>	<3.4>	259.4	扁平な磨石で、大きく欠損している。平滑面は表裏に大きく広がり、かなりよく使用されている。
6	磨石	チャート	3.3	2.4	1.1	12.9	楕円形で全体に滑らか。側縁部に面状に研磨痕が複数みられる。

第62図 25号竪穴建物跡出土遺物

第 25 表　25 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 坏	口径：- 器高：〈1.6〉 底径：(7.2)	白色粒子・礫	良好	5% 未満	灰 (5Y6/1)	内外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラケズリ

27 竪穴建物跡（第 63 図）

平面位置　AJ － 12・13

重複関係　28・29 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部と北壁と東壁の一部が検出された。長軸 4.03 m以上、短軸 3.55 m以上、深さ 0.22 mを測る。床はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは 1 基検出されているが、主柱穴はない。覆土は暗褐色土、黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（ハケ目、赤彩）、坏、赤彩の塊、須恵器甕の破片、ロクロ整形内面黒色処理の土師器坏、高台付坏、縄文時代前期、中期の土器片、弥生時代中期の龍門寺式、後期の十王台式の土器片、片岩製の凹石＋台石、砂岩製の敲石、砂岩製の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

28 号竪穴建物跡（第 63・64 図・第 26 表）

平面位置　AJ － 13・14

重複関係　27・29 号竪穴建物跡より古い。

遺構形態　遺構は床面の一部が検出された。長軸 2.07 m以上、短軸 1.76 m以上、深さ 0.14 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがある。竈は検出されていない。ピットは 1 基検出されているが、主柱穴ではない。覆土は暗褐色土と灰黄褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁、平底、有段口縁平底）の破片、砂岩製の台石＋敲石、アプライトの礫片などである。

時　　期　古墳時代中期と推定される。

29 号竪穴建物跡（第 63・65 図・第 27 表）

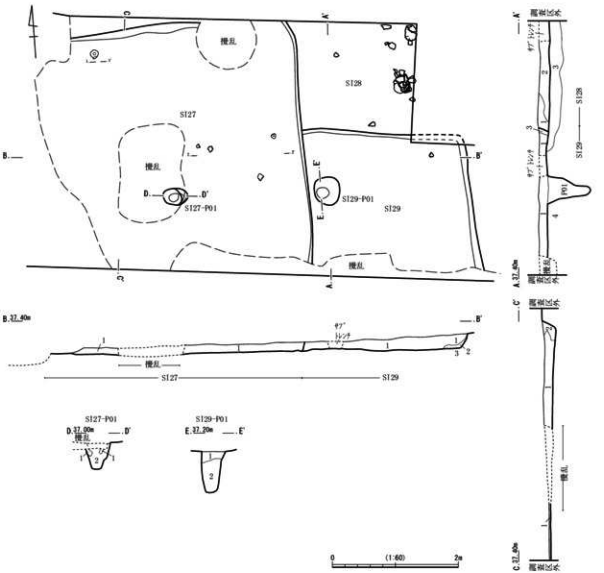
平面位置　AJ － 13・14

重複関係　27 号竪穴建物跡より古く、28 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部と北面、東壁の一部が検出された。長軸 2.89 m以上、短軸 2.25 m以上、深さ 0.28 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、掘り方は浅いが壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは 1 基、掘方から検出されたが、主柱穴ではない。覆土は黒褐色土とにぶい黄橙色土などの自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕、坏、赤彩の塊、縄文時代後期の土器片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期と推定される。



SI27
1．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
2．黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～15mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。

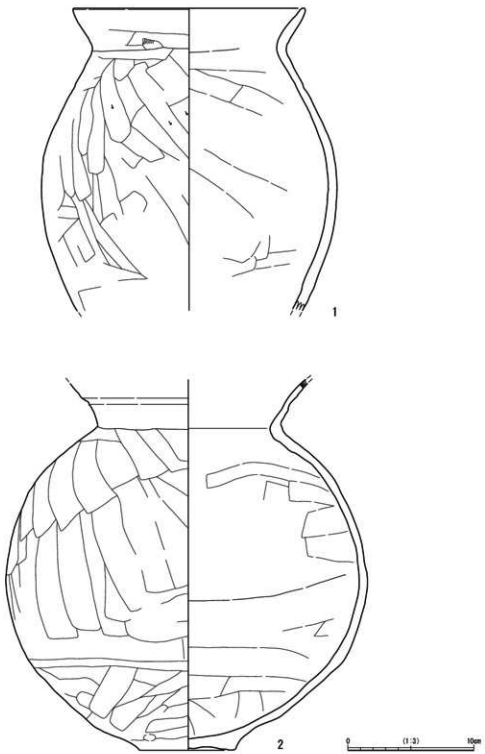
SI-27 P-01
1．黒褐色土　10YR2/3　締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。
2．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ10～50mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

SI28
1．暗褐色土　10YR3/3　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ7～10mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
2．灰黄褐色土　10YR4/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
3．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

SI29
1．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～40mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。
2．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～15mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
3．にぶい黄褐色土　10YR5/4　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI29-P01
1．褐灰色土　10YR4/1　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ15～30mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。
2．にぶい黄褐色土　10YR5/4　締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ10～15mm）を全体に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

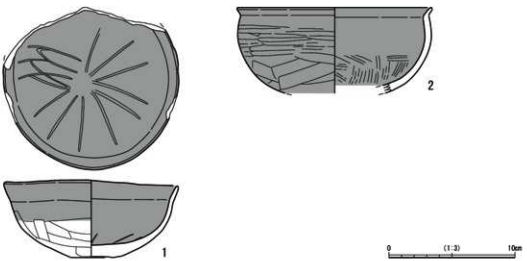
第63図　27・28・29号竪穴建物跡



第64図　28号竪穴建物跡出土遺物

第 26 表　28 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：(18.2) 器高：〈24.0〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・針・石英・礫	良好	30%	にぶい赤褐 (5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
2	土師器 壺	口径：〈29.2〉 器高：7.6 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・礫	良好	95%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位・斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ



第 65 図　29 号竪穴建物跡出土遺物

第 27 表　29 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 椀	口径：13.6 器高：6.2 底径：3.2	白色粒子・雲・石英・礫	良好	75%	赤褐 (2.5YR4/8)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面放射状暗文・ナデ、口縁部外面～内面赤彩
2	土師器 椀	口径：(15.2) 器高：〈6.8〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	10%	暗赤褐 (2.5YR3/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面上位横位ミガキ、外面下位ヘラケズリ、内面ミガキ・ナデ、全面赤彩

30 号竪穴建物跡（第 66・67 図）

平面位置　AJ・AK － 10・11

重複関係　35 号竪穴建物跡より古い。

遺構形態　遺構は床面の一部と北壁と西壁の一部が検出された。長軸 2.16 m以上、短軸 2.15 m以上、深さ 0.42 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていないが、２号ピット内から炉が１基検出されている。この炉が居住時に機能していたかは不明である。ピットは３基検出され、主柱穴は北西の１号ピットが該当するものと推定される。覆土は暗褐色土と黒褐色土などの自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁、赤彩、ハケ目）、須恵器坏蓋模倣の坏、土製の輪の羽口破片、泥岩製の竈構築材、縄文時代前期、中期、後期の土器片、弥生時代中期、後期の十王台式の土器片、砂岩、泥岩、片麻岩、玄武岩製の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

35号竪穴建物跡（第66・67図）

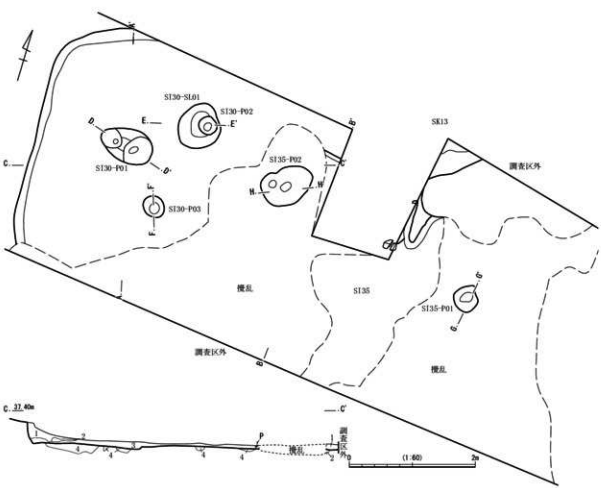
平面位置　AJ－11・12

重複関係　30号竪穴建物跡より新しい。

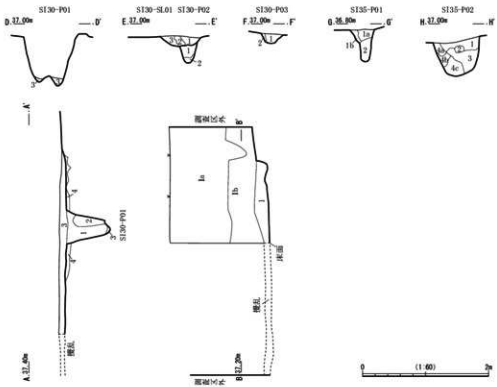
遺構形態　遺構は床面の一部と北壁の一部が検出された。長軸4.65m以上、短軸4.41m以上、深さ0.30mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は右袖の一部が部分的に検出されている。竈の構築材はシルト質土を母材とし、泥岩の構築材を部分的に使用した石組みの竈である。焚口の上位には泥岩の構築材を天盤として短軸方向に利用している。竈の使用面は赤化、硬化していない。ピットは2基検出され、主柱穴は北東の1号ピットが該当するものと推定される。覆土は掘り方が浅く黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁、有段口縁）、縄文時代前期の土器片、弥生時代中期、後期の十王台式の土器片、泥岩製の竈構築材などである。

時　　期　古墳時代後期と推定される。



第66図　30・35号竪穴建物跡（1）



SI30

1．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～15mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
2．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10mm～）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に微量に含む。
3．にぶい黄褐色土　10YR5/4　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
4．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～15mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。

SI30-SL01

1．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、地土を全体に多く含む。
2．黒色土　10YR1/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI30-P01

1．褐灰色土　10YR4/1　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
2．灰黄褐色土　10YR4/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～60mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
3．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI30-P02

1．褐色土　10YR4/4　締りあり、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、地土（φ1～10mm）を部分的に少量、シルト（φ1～5mm）を部分的に少量含む。

SI30-P03

1．黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～15mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に少量含む。
2．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ5～10mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

SI35

1．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～50mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、シルト（φ2～30mm）を部分的に多く含む。
2．明黄褐色土　10YR6/6　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI35-P01

1a．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ5～10mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、粘土（φ5～8mm）を部分的に微量に含む。
1b．暗褐色土　10YR3/4　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2．暗褐色土　10YR3/3　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

SI35-P02

1．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ5～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量、粘土（φ3～5mm）を部分的に微量に含む。
2．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3．灰黄褐色土　10YR4/2　締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ5～40mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
4a．暗褐色土　10YR3/4　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ5～30mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量、粘土（φ5～30mm）を部分的に少量含む。
4b．黒褐色土　10YR2/3　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ5～10mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。
4c．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～100mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

第67図　30・35号竪穴建物跡（2）

32号竪穴建物跡（第68図）

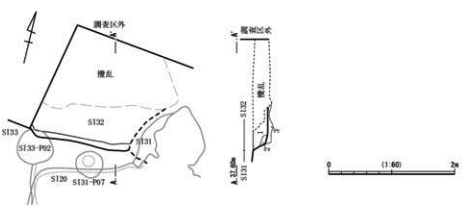
平面位置　AI－21・22

重複関係　20号竪穴建物跡より古く、31・33号竪穴建物より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部と西壁の一部が検出された。長軸2.04ｍ以上、短軸1.85ｍ以上、深さ0.23ｍを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は掘り方は浅いが急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁）、埦（赤彩）、須恵器坏、ロクロ整形の土師器坏の破片、陶器のすり鉢破片、縄文時代前期、弥生時代後期の十王台式の土器片、花崗岩、アプライト製の敲石、泥岩製の竈構築材２点、片麻岩、片岩製の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



S132
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～30mm）を全体に含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
3．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第68図　32号竪穴建物跡

33号竪穴建物跡（第69・70図・第28表）

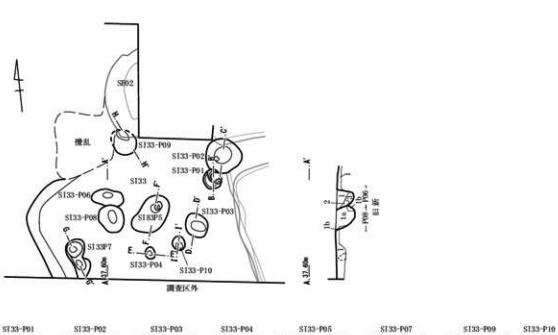
平面位置　AH・AI－21

重複関係　20・31・32号竪穴建物跡・2号井戸より古い。

遺構形態　遺構は床面の一部が検出された。長軸3.56ｍ以上、短軸3.15ｍ以上を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、掘り方は浅い。竈は検出されていない。ピットは10基検出されているが、主柱穴は不明である。覆土は黒褐色土と暗褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁のハケ目、単口縁、赤彩）、須恵器坏蓋模倣の坏、ミニチュア土器、鉢、須恵器甕、蓋、高台付坏、ロクロ整形の土師器坏、高台付坏の破片、土師質土器の小皿、陶器の埦、縄文時代前期、中期、後期の破片、片麻岩製の敲石、片岩製の礫、砂岩、片岩、片麻岩、石英製の礫片などである。

時　　期　古墳時代中期末と推定される。



S133

1．褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

S133-P01

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

S133-P02

1a．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性なし。炭化物（φ1～3mm）を部分的に微量、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

1b．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。粘土（φ5～30mm）を部分的に少量、ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

1c．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

S133-P03

1．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

S133-P04

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。炭化物（φ5～15mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

S133-P05

1a．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～3mm）を部分的に微量、ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、シルト（φ3～30mm）を部分的に含む。

1b．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

1c．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

S133-P06

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～3mm）を全体に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

2．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～3mm）を全体に少量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

3．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

S133-P08

1a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～50mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、白色粒子（φ1～3mm）を全体に少量含む。

1b．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

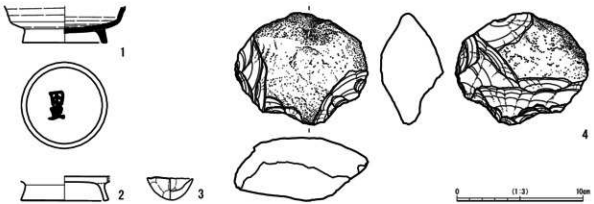
S133-P09

1．暗褐色土　10YR3/4　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～3mm）を全体に少量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

S133-P10

1．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第69図　33号竪穴建物跡



第 70 図　33 号竪穴建物跡出土遺物

第 28 表　33 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 高台付坏	口径：- 器高：〈1.9〉 底径：6.6	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・針・石英・礫	良好	20%	暗灰黄 (2.5Y5/2)	内外面ロクロナデ、高台部貼り付け、底部外面墨書あり
2	土師器 高台付坏	口径：- 器高：〈3.0〉 底径：(6.8)	白色粒子・黒色粒子・雲	良好	10%	橙 (7.5YR6/6)	内外面ロクロナデ、高台部貼り付け、内面黒色処理・細かなミガキ
3	土師器 ミニチュア	口径：3.6 器高：1.8 底径：-	白色粒子・雲・石英・礫	良好	99%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	内外面指押え・ナデ

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
4	礫器	片麻岩	8.7	10.5	4.9	458.7	表裏面とも自然面を残す。表より裏面の方の調整が新しい。連続する剥離調整が行われている。

36 号竪穴建物跡（第 71・72 図・第 29 表）

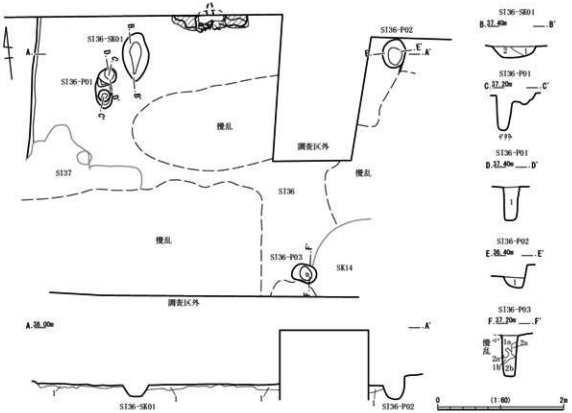
平面位置　AJ・AK－8・9

重複関係　37 号竪穴建物跡、14 号土坑より古い。

遺構形態　遺構は床面の一部、西壁と西壁の一部が検出され。長軸 6.04 m以上、短軸 4.60 m以上を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、掘り方は浅いが壁は急角度で立ち上がる。竈は北壁ほぼ中央で部分的に検出されている。竈の構築材はシルト質土を母材とし、部分的に泥岩の構築材を使用した石組で構成されている。土坑は竈の南西側で 1 基検出されている。ピットは 3 基検出されているが、主柱穴はない。覆土は明赤褐色土、暗褐色土などの自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕、縄文時代前期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、砂岩製の敲石、泥岩製の竈構築材、アプライト、片岩製の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



SI36

1．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI36-SB01

1．黒褐色土　10YR3/2　締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ10～40mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に散量に含む。
2．灰黄褐色土　10YR4/2　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～60mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、礫（φ30～50mm）を部分的に少量含む。

SI36-P01

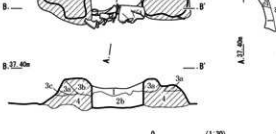
1．暗褐色土　10YR3/3　締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ10～70mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に散量に含む。

SI36-P02

1．黒褐色土　10YR3/2　締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ10～70mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に散量に含む。

SI36-P03

1a．黒褐色土　10YR2/3　締りなし、粘性強い、白色粒子（φ1～5mm）を部分的に散量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
1b．黒褐色土　10YR2/3　締りなし、粘性強い。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2a．褐色土　10YR4/6　締りあり、粘性強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2b．褐色土　10YR4/4　締りなし、粘性強い。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。



SI36-カマド

1．明赤褐色土　5YR5/6　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～3mm）を部分的に少量、焼土を全体に多量、シルトを部分的に少量含む。

2a．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～10mm）を部分的に少量含む。

2b．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ5～20mm）を部分的に少量含む。

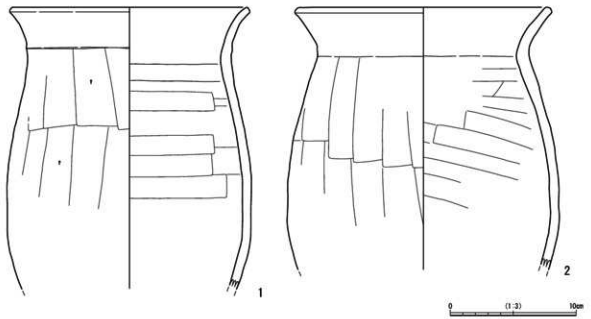
3a．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性強い、シルトを全体に多量、焼土を部分的に多量、白色粒子（φ1～3mm）を部分的に少量含む。

3b．明赤褐色土　5YR5/6　締り強い、粘性強い、焼土を全体に多量、シルトを全体に多量に含む。

3c．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性強い、シルトを全体に多く含む。

4．黒色土　10YR2/1　締り強い、粘性強い、シルトを部分的に多量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第71図　36号竪穴建物跡



第72図　36号竪穴建物跡出土遺物

第29表　36号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 長胴甕	口径：(18.6) 器高：(22.4) 底径：.	白色粒子・雲・石英・礫	良好	45%	にぶい黄橙 (10YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
2	土師器 長胴甕	口径：(19.8) 器高：(21.0) 底径：.	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	25%	にぶい赤褐 (5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

37号竪穴建物跡（第73・74図・第30表）

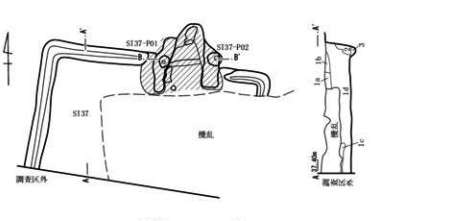
平面位置　AJ・AK－7・8

重複関係　36号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部と西壁の一部、北壁が検出された。長軸5.18ｍ以上、短軸2.91ｍ以上、深さ0.39ｍを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北壁中央から東よりに位置し、良好な遺存状況で検出された。竈構築材はシルト質土を母材として構築されている。ピットは竈袖下から２基検出された。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（常陸型、単口縁、複合口縁）、須恵器坏蓋模倣の坏、甑、須恵器甕の破片、土師質土器の坏、縄文時代前期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、チャート製の磨石、石英製の礫、泥岩、片麻岩、片岩製の礫片などである。

時　　期　古墳時代後期から奈良時代と推定される。



SI37

1a．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、シルト（φ5～10mm）を部分的に微量、白色粒子（φ1～3mm）を全体に少量含む。

1b．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、白色粒子（φ1～3mm）を全体に少量含む。

1c．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～3mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

1d．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～3mm）を部分的に少量、炭化物（φ10～20mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～100mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ1～10mm）を部分的に少量含む。

2．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。粘土（φ10～30mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

3．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI37-カマド

1a．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土（φ1～5mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に微量に含む。

1b．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

1c．明褐色土　7.5YR5/6　締り強い、粘性なし。焼土を全体に多量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に多量に含む。

1d．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締り強い、粘性なし。シルトを全体に中量、焼土（φ1～3mm）を部分的に中量含む。

2a．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。焼土（φ1～20mm）を部分的に少量、シルトを全体に多量に含む。

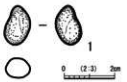
2b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～70mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～20mm）を部分的に少量、炭化物（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。

2c．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。焼土を全体に多く、シルト（φ1～10mm）を全体に少量含む。

2d．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルトを部分的に多く、焼土（φ3～10mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、ロームブロック（φ10mm～）を部分的に多量に含む。

3．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルトを全体に、ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に含む。

第73図　37号竪穴建物跡



第 74 図　37 号竪穴建物跡出土遺物

第 30 表　37 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
1	磨石	チャート	1.1	1.0	0.7	1.3	楕円形で、全体に平滑で光沢あり。

38 号竪穴建物跡（第 75 ～ 77 図・第 31 表）

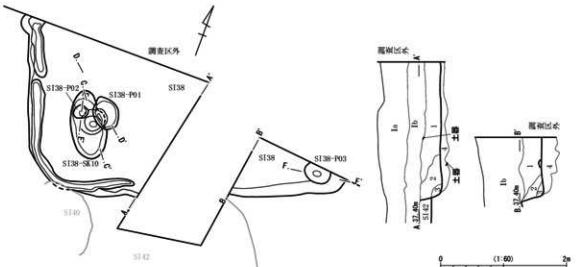
平面位置　AK － 7 ～ 9

重複関係　40 号竪穴建物跡より古く、42・45 号竪穴建物跡より新しい。

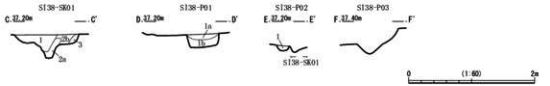
遺構形態　遺構は床面の一部と西壁、南壁の一部が検出された。長軸 3.56 m以上、短軸 3.27 m以上、深さ 0.42 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。周溝は西壁と南壁際の一部で検出された。竈は検出されていない。ピットは 3 基検出された。覆土は黒褐色土を主体とし、褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁、ハケ目、薄手）、須恵器坏蓋模倣の坏、須恵器甕、ロクロ整形の土師器坏の破片、縄文時代前期、中期の土器片、弥生時代後期十王台式の土器片、砂岩、アプライト、片岩製の礫片、近現代の陶磁器、ガラス電球などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第 75 図　38 号竪穴建物跡（1）



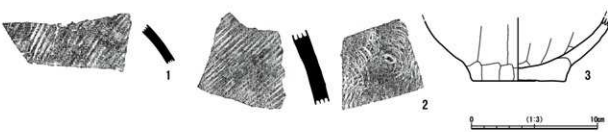
SI38
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～3mm）を全体に少量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～3mm）を全体に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に含む。
3．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～3mm）を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
4．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI38-SK01
1．黒褐色土　10YR2/3　締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ10～80mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～5mm）を全体に微量に含む。
2a．暗褐色土　10YR3/3　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
2b．暗褐色土　10YR3/4　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～15mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
3．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～15mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

SI38-P01
1a．暗褐色土　10YR3/3　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10mm～）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
1b．暗褐色土　10YR3/4　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～30mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

SI38-P02
1．黒褐色土　10YR2/3　締りなし、粘性なし。ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に微量に含む。

第 76 図　38 号竪穴建物跡（2）



第 77 図　38 号竪穴建物跡出土遺物

第 31 表　38 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・石英・礫	良好	5% 未満	灰 (N5/0)	外面平行線タタキ後横位ナデ、内面ナデ
2	須恵器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・礫	良好	5% 未満	灰 (N5/0)	外面平行線タタキ、内面同心円状当て具痕
3	土師器 甕	口径：- 器高：〈5.0〉 底径：7.4	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	10%	にぶい赤褐 (5YR4/4)	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

39 号竪穴建物跡（第 78 ～ 80 図・第 32 表）

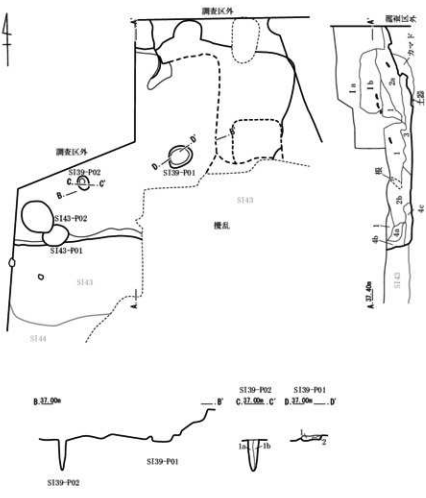
平面位置　AK － 4 ・ 5

重複関係　43 ～ 45 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面と北壁と南壁の一部が検出された。長軸 3.56 m以上、短軸 3.27 m以上、深さ 0.42 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北壁から検出されている。竈構築材はシルト質土を母材とし、両袖が部分的に検出されている。ピットは 2 基検出された。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（常陸型、単口縁ハケ目、ハケ目）、須恵器坏蓋模倣の坏、高坏（赤彩、脚部透かし有）、甕、塊、須恵器甕、蓋の破片、縄文時代前期の土器片、弥生時代中期の龍門寺式、後期の十王台式の土器片、砂岩製の磨石、泥岩製の竈構築材か、支脚破片、砂岩、片岩製の礫、砂岩、片岩、アプライト、片麻岩、泥岩、玄武岩製の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第 78 図　39 号竪穴建物跡（1）

SI39

1．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ１～３mm）を全体に少量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、焼土（φ１～20mm）を部分的に少量含む。

2a．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ１～３mm）を全体に、炭化物（φ１～５mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）全体に多く、焼土（φ１～10mm）を部分的に微量、シルト（φ５～20mm）を部分的に微量に含む。

2b．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。炭化物（φ１～５mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ１～10mm）を部分的に少量、白色粒子（φ１～３mm）を部分的に微量に含む。

3．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルトを部分的に多量、白色粒子（φ１～３mm）を部分的に少量、炭化物（φ１～５mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ１～10mm）を部分的に少量含む。

4a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。炭化物（φ１～５mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ１～３mm）を部分的に微量に含む。

4b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ１～３mm）を部分的に微量、炭化物（φ５～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に含む。

4c．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルト（φ１～10mm）を部分的に少量、炭化物（φ１～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に多量に含む。

SI39-P01

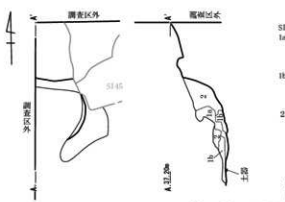
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

2．黄褐色土　10YR5/6　締りあり、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI39-P02

1．褐色土　10YR4/6　締りあり、粘性強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、シルト（φ0.5～10mm）を部分的に多く含む。

2．褐色土　10YR4/6　締りあり、粘性強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。



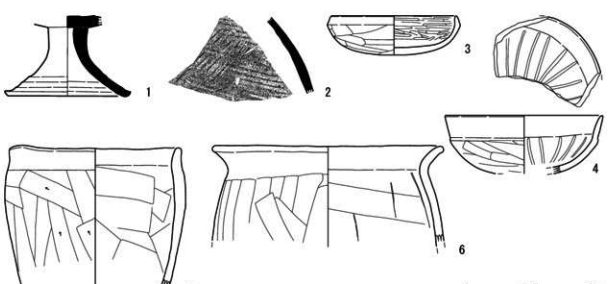
SI39-カマド

1a．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ１～10mm）を全体に多量に含む。

1b．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。シルト（φ１～10mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ１～10mm）を部分的に含む。

2．にぶい黄褐色土　10YR6/4　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土を部分的に多量に含む。

第 79 図　39 号竪穴建物跡（２）



第 80 図　39 号竪穴建物跡出土遺物

第 32 表　39 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 高坏	口径：- 器高：〈6.3〉 底径：9.9	白色粒子・黒色粒子・石英・礫	良好	45%	灰 (7.5Y6/1)	内外面ロクロナデ
2	須恵器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・雲・石英	良好	5% 未満	褐灰 (10YR6/1)	外面平行線タタキ後横位ナデ、内面横位ナデ
3	土師器 坏	口径：〈9.8〉 器高：3.1 底径：-	白色粒子・赤色粒子・雲	良好	30%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・・ナデ
4	土師器 坏	口径：〈12.4〉 器高：〈4.6〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英	良好	5%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面放射状暗文
5	土師器 甕	口径：〈13.0〉 器高：〈11.3〉 底径：-	白色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	5% 未満	にぶい黄褐 (10YR5/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位・斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
6	土師器 甕	口径：〈18.0〉 器高：〈8.0〉 底径：-	白色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	5%	灰褐 (7.5YR4/2)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位・斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

40 号竪穴建物跡（第 81 図）

平面位置　AJ・AK－8

重複関係　38・41・42 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は北壁と東壁の一部が検出された。長軸5.91 m、短軸3.28 m以上、深さ0.45 mを測る。床はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で部分的に検出されている。竈構築材はシルト質土を母材としている。ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕、器種不明の土器片、須恵器甕、弥生時代後期の十王台式の土器片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

41 号竪穴建物跡（第 82 ～ 84 図・第 33 表）

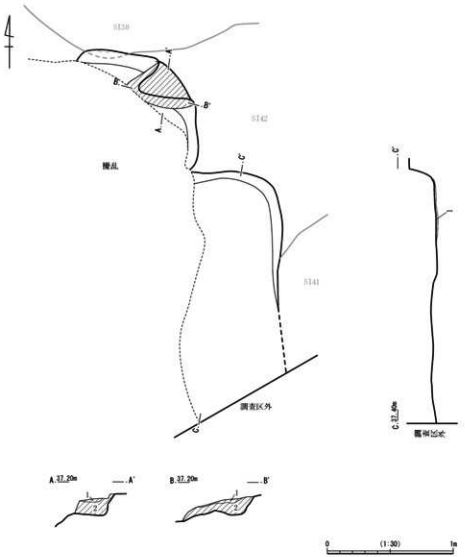
平面位置　AJ・AK－8・9

重複関係　40 号竪穴建物跡より古く、42 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部と北壁、東壁の一部が検出された。長軸 2.10 m以上、短軸 1.98 m以上、深さ 0.40 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。土坑が北東角の床面から 1 基検出され、覆土から土師器甕、甑、坏の破片が検出されている。ピットは 2 基検出されたが、主柱穴ではない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕、甑、須恵器坏蓋模倣の坏、縄文時代前期の土器片、弥生時代中期の龍門寺式、後期の十王台式の土器片、石英製の二次加工された礫片、砂岩、石英、片岩、石灰岩、アプライト、片麻岩などである。

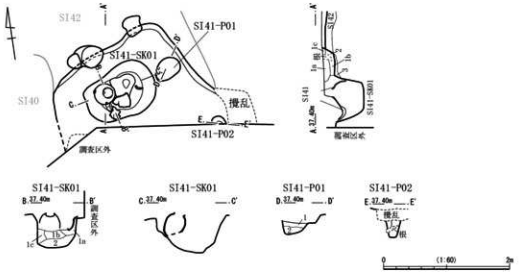
時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



SI40-カマド
1．にぶい黄褐色土　10YR5/4　縞り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土を全体に多く、炭化物（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。
2．暗褐色土　10YR3/3　縞り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ1～10mm）を全体に多く含む。

SI40
1．褐色土　10YR4/4　縞り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第81図　40号竪穴建物跡



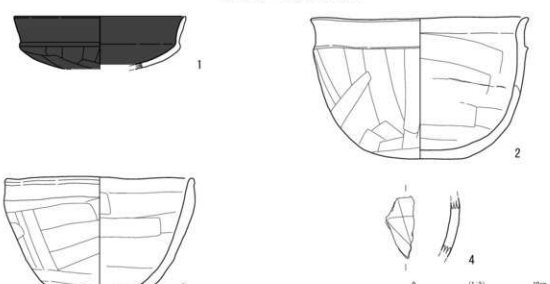
SI41
1a．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
1b．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、白色粒子（φ１～３mm）を部分的に微量に含む。
1c．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。白色粒子（φ１～３mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、炭化物（φ１～５mm）を部分的に微量、焼土（φ１～５mm）を部分的に微量に含む。
2．黒褐色土　10YR2/3　縞り強い、粘性なし。白色粒子（φ１～３mm）を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3．黄褐色土　10YR5/6　縞り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI41-P01
1．黒褐色土　10YR3/2　縞り強い、粘性なし。白色粒子（φ１～３mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
2．黒褐色土　10YR3/1　縞り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

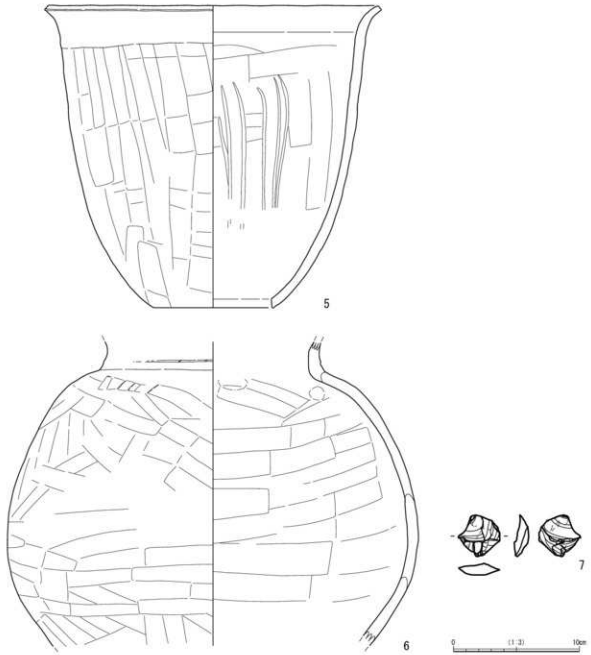
SI41-P02
1．黒褐色土　10YR3/2　縞り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

SI41-SK01
1a．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。白色粒子（φ１～３mm）を全体に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ10～20mm）を部分的に少量、炭化物（φ５～15mm）を部分的に少量含む。
1b．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
1c．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、白色粒子（φ１～３mm）を部分的に微量含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性強い、ロームブロック（φ10～70mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

第 82 図　41 号竪穴建物跡



第 83 図　41 号竪穴建物跡出土遺物（１）



第 84 図　41 号竪穴建物跡出土遺物（2）

第 33 表　41 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
1	土師器 坏	口径：(13.4) 器高：〈4.2〉 底径：-	白色粒子・雲・礫	良好	10%	黒 (7.5YR2/1)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ、全面黒色処理
2	土師器 鉢	口径：17.2 器高：11.3 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英	良好	70%	赤 (10R4/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位・斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
3	土師器 鉢	口径：(14.8) 器高：〈9.2〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	15%	暗赤褐 (5YR3/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面横位・縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
4	土師器 鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英	良好	5% 未満	にぶい赤褐 (5YR4/3)	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
5	土師器 坩	口径：26.2 器高：24.0 底径：9.0	白色粒子・黒色粒子・雲・石英	良好	70%	にぶい橙（7.5YR6/4）	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
6	土師器 壺	口径：- 器高：〈24.3〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	70%	にぶい黄橙（10YR7/4）	頸部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ・指頭痕

図版番号	器種	石材	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	所見
7	剥片	メノウ	3.4	3.3	0.9	7.5	やや厚手の縦長剥片。節理が多く剥離面は複雑。

43号竪穴建物跡（第85・86図・第34表）

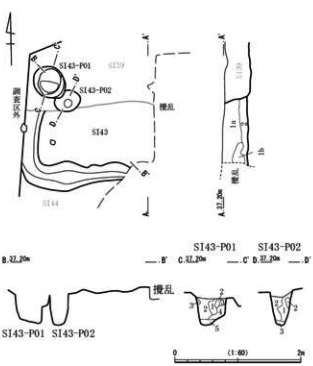
平面位置　AJ－4・5、AK－4～6

重複関係　39号竪穴建物跡より古く、44号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部と北壁、東壁、南壁の一部が検出された。長軸2.05 m以上、短軸1.6 m以上、深さ0.27 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、西壁と南壁の一部から周溝が検出されている。壁は急角度で立ち上がる。北東の覆土内からシルト質土が楕円状でまとまって発見されたが、機能は不明である。ピットは2基検出されたが、主柱穴は検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁、ハケ目調整）、手づくね土器、須恵器坏蓋模倣の坏、甑、須恵器甕の破片、縄文時代前期、後期の土器片、片岩製の器種不明の石器、砂岩の礫、泥岩、片岩製の礫片、骨片1点（0.3 g）などである。

時　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

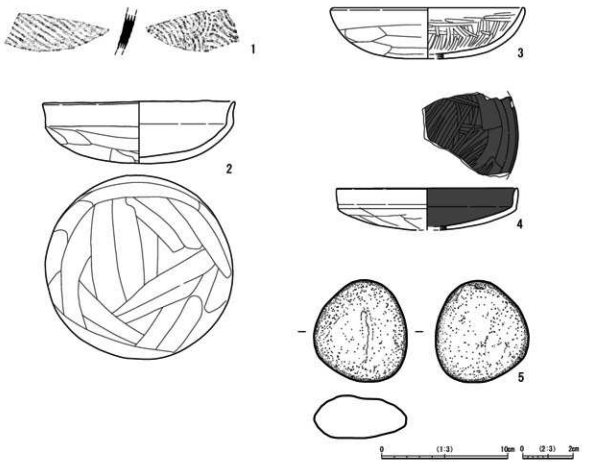


SI43
1a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に微量含む。
1b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に微量含む。
2．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。

SI43-P01
1．黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締りあり、粘性あり。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
3．褐色土　10YR4/6　締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
4．褐色土　10YR4/6　締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
5．黒褐色土　10YR3/1　締りあり、粘性あり。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。

SI43-P02
1．黒褐色土　10YR2/2　締りあり、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
2．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
3．褐色土・黄褐色土　10YR4/6＋5/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。

第85図　43号竪穴建物跡



第 86 図　43 号竪穴建物跡出土遺物

第 34 表　43 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	5% 未満	黒褐 (2.5Y3/1)	外面平行叩き痕、内面同心円状当て具痕
2	土師器 坏	口径：15.0 器高：4.9 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	99%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
3	土師器 坏	口径：(15.0) 器高：4.1 底径：-	白色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	20%	にぶい赤褐 (5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ
4	土師器 坏	口径：(14.2) 器高：(3.4) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲	良好	10%	黒褐 (10YR3/1)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・ヘラナデ・黒色処理

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
5	磨石	石英	4.1	3.7	1.7	32.8	扁平で楕円形、全体に平滑で光沢あり。

44号竪穴建物跡（第87・88図・第35表）

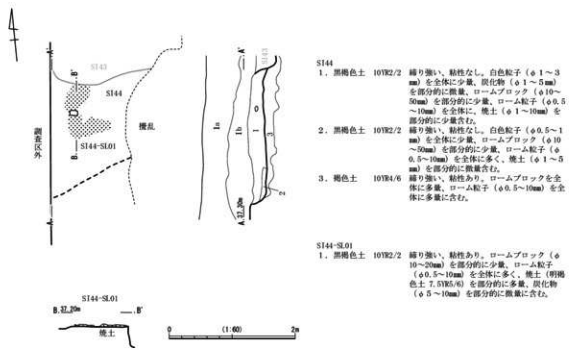
平面位置　AJ－4・5

重複関係　43号竪穴建物跡より古い。

遺構形態　遺構は床面の一部が検出されたのみである。長軸2.05ｍ以上、短軸1.60ｍ以上、深さ0.27ｍ以上を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがある。床面から地床炉が１基検出され不整形な焼土のまとまりが検出された。ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁、ハケ目調整）、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、弥生時代後期の十王台式の土器片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第87図　44号竪穴建物跡

第88図　44号竪穴建物跡出土遺物

第35表　44号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
1	土師器 坏	口径：(12.4) 器高：(3.4) 底径：-	白色粒子・雲	良好	5% 未満	にぶい褐（7.5YR5/3）	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ

45号竪穴建物跡（第89・90図・第36表）

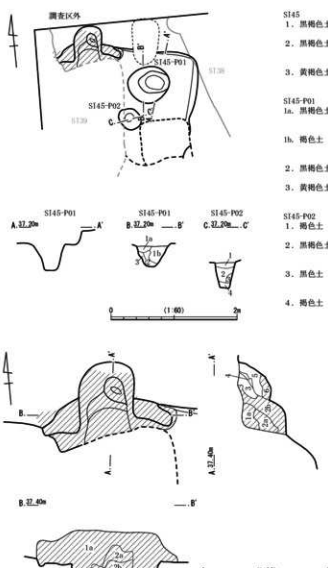
平面位置　AK－5・6

重複関係　38・39号竪穴建物跡より古い。

遺構形態　遺構は床面、北壁と東壁の一部が検出された。長軸2.24ｍ以上、短軸2.21ｍ以上、深さ0.22ｍを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北壁に設けられ、両袖と煙道部が部分的に検出された。竈構築材はシルト質土である。ピットは２基検出され、北東の床面で検出された１号ピットが主柱穴である。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（ハケ目調整）、須恵器坏蓋模倣の坏、縄文時代前期、中期の土器片、片岩製の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期末から後期初頭と推定される。



SI45
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルトを部分的に、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
3．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI45-P01
1a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
1b．褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI45-P02
1．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に多く含む。ローム粒子（φ0.5～10mm）を含む。
3．黒色土　10YR2/1　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
4．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI45-カマド
1a．黄橙色土　10YR8/6　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量に含む。
2a．暗褐色土　10YR3/4　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土（φ5～20mm）を部分的に含む。
2b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多く、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
3．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に少量、シルトを部分的に少量含む。
4．明褐色土　7.5YR5/6　締り強い、粘性なし。焼土を全体に多量、ロームブロックを部分的に多く含む。
5．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ5～20mm）を部分的に多く、炭化物（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。
6．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性なし。シルトを全体に、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第89図　45号竪穴建物跡

第 90 図　45 号竪穴建物跡出土遺物

第 36 表　45 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 坏	口径：(14.8) 器高：(3.2) 底径：-	白色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	10%	にぶい褐 (7.5YR5/4)	口縁部外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・ナデ

48 号竪穴建物跡（第 91・92 図・第 37 表）

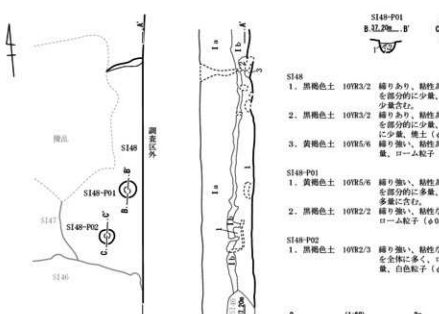
平面位置　AD・AE－5

重複関係　46・47 号竪穴建物跡より古い。

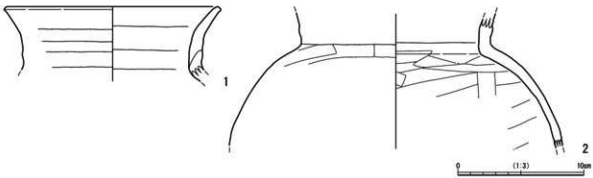
遺構形態　遺構は床面と北壁の一部が検出された。長軸 3.68 m以上、短軸 1.33 m以上、深さ 0.34 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は緩やかに立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは 2 基検出されているが、主柱穴はない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁、有段口縁、ハケ目調整）、高坏（赤彩あり）、須恵器坏蓋模倣の坏、須恵器甕、坏の破片、縄文時代前期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、泥岩製の竈構築材、泥岩製の礫、片岩製の礫片、15 世紀の瀬戸焼の陶器のおろし皿などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期末から後期初頭と推定される。



第 91 図　48 号竪穴建物跡



第 92 図　48 号竪穴建物跡出土遺物

第 37 表　48 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
1	土師器 甕	口径：〈16.8〉 器高：〈6.0〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	5%	にぶい褐（7.5YR5/4）	口縁部内外面横位ナデ
2	土師器 甕	口径：- 器高：〈10.7〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	10%	にぶい褐（7.5YR5/4）	頸部内外面横位ナデ、外面横位ヘラケズり、内面ヘラナデ・ナデ

51 号竪穴建物跡（第 93 図）

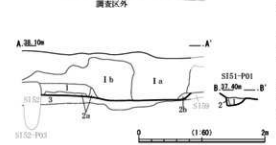
平面位置　Y－37

重複関係　52 号竪穴建物跡、23 号ピットより古く、59 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面と北壁の一部が検出された。長軸 2.42 m以上、短軸 0.80 m以上、深さ 0.29 mを測る。床ははぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは 1 基検出されたが主柱穴はない。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺　物　出土遺物はない。

時　期　遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



SI51
1a. 黒褐色土　10YR2/2　締りなし、粘性なし。ローム粒子（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。
1b. 黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ1～5mm）を部分的に少量含む。
1．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。焼化物（φ5mm～）を部分的に微量、ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に少量、焼土（φ3～5mm）を部分的に微量に含む。
2a. 暗褐色土　10YR3/4　締りあり、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に少量、焼土（φ3～5mm）を部分的に微量に含む。
2b. 暗褐色土　10YR3/4　締りあり、粘性なし。ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に少量含む。
3．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に多量に含む。

SI51-P01
1．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10mm～）を部分的に微量、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に微量に含む。
2．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～30mm）を全体に多く、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に多量に含む。

第 93 図　51 号竪穴建物跡

52号竪穴建物跡（第94・95図・第38表）

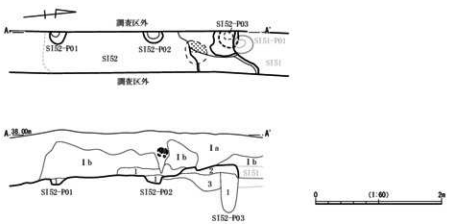
平面位置　X－36・37、Y－37

重複関係　51号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部と北壁の一部が検出された。長軸2.6 m以上、短軸0.65 m以上、深さ0.28 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、竈は左袖と焚口から煙道が検出されている。竈構築材はシルト質土である。ピットは2基検出されているが主柱穴はない。覆土は暗褐色土、灰黄褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁）、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、、ロクロ整形の坏、弥生時代後期の十王台式の土器片、砂岩製の礫、砂岩製の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

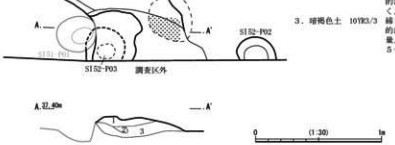


SI52
1．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ローム粒子（φ1～3 mm）を全体に微量、焼土（φ5～7 mm）を部分的に微量に含む。
2．灰黄褐色土　10YR4/2　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子（φ1～5 mm）を部分的に微量、焼土（φ5～10mm）を部分的に微量、粘土（φ5～10mm）を部分的に微量に含む。
3．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。焼土（φ5～20mm）を部分的に少量、粘土（φ5～30mm）を全体に多量に含む。

SI52-P01
1．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ローム粒子（φ1～3 mm）を全体に微量に含む。

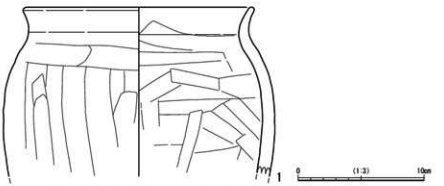
SI52-P02
1．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ローム粒子（φ1～3 mm）を全体に微量に含む。

SI52-P03
1．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ローム粒子（φ1～3 mm）を全体に微量に含む。



SI52-カマド
1．暗赤褐色土　2.5YR3/3　締り強い、粘性なし。炭化物（φ5～10mm）を部分的に微量、焼土（φ10～15mm）を部分的に多く、粘土（φ5～30mm）を全体に多量に含む。
2．褐色土　10YR4/4　締りなし、粘性なし。炭化物（φ20～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ1～3 mm）を全体に多く、焼土（φ10～15mm）を部分的に少量含む。
3．暗褐色土　10YR3/3　締りあり、粘性なし。炭化物（φ5～8 mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ1～3 mm）を全体に少量、焼土（φ2～5 mm）を部分的に微量、粘土（φ5～10mm）を部分的に微量に含む。

第94図　52号竪穴建物跡



第 95 図　52 号竪穴建物跡出土遺物

第 38 表　52 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：(17.8) 器高：〈13.5〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	10%	明赤褐 (5YR5/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面上位横位ヘラケズリ・下位縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ、常陸型甕

58 号竪穴建物跡（第 96・97 図・第 39 表）

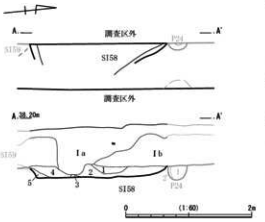
平面位置　Z－37

重複関係　59 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は、床面の一部と南壁の一部が検出され、長軸 2.16 m以上、短軸 0.52 m以上、深さ 0.22 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土、暗褐色土、灰黄褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕、坏、鉢、須恵器坏破片、弥生時代後期の十王台式の土器片、アプライト製の敲石などである。

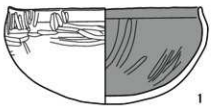
時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



SI58

Ia. 黒褐色土	10YR2/2	縞りなし、粘性なし、ローム粒子（φ1～5 mm）を部分的に微量に含む。
Ib. 黒褐色土	10YR3/2	縞りあり、粘性なし、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ1～5 mm）を部分的に少量含む。
2．灰黄褐色土	10YR4/2	縞りあり、粘性なし、ローム粒子（φ1～10mm）を全体に多量に含む。
3a．暗褐色土	10YR3/4	縞りなし、粘性なし、炭化物（φ5～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ5～10mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ1～3 mm）を全体に微量、焼土（φ1～5 mm）を部分的に微量含む。
3b．暗褐色土	10YR3/3	縞りあり、粘性なし、ロームブロック（φ10～30mm）を全体に少量、ローム粒子（φ1～3 mm）を全体に微量に含む。
4．黒褐色土	10YR2/3	縞りあり、粘性なし、ロームブロック（φ5～50mm）を全体に少量、ローム粒子（φ1～3 mm）を全体に少量含む。
5．褐色土	10YR4/4	縞り強い、粘性なし、ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ1～5 mm）を全体に多量に含む。

第 96 図　58 号竪穴建物跡



第 97 図　58 号竪穴建物跡出土遺物

第 39 表　58 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 椀	口径：15.2 器高：7.6 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	95%	にぶい赤褐 (5YR4/4)	口縁部内外面横位ナデ、内外面ミガキ、内面赤彩・煤付着

59 号竪穴建物跡（第 98 図）

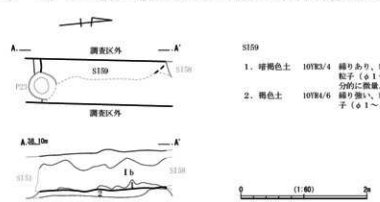
平面位置　Y・Z－37

重複関係　58 号竪穴建物跡より古い。

遺構形態　遺構は長軸 1.97 m以上、短軸 0.24 m以上、深さ 0.17 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがある。壁は南壁の一部が検出した。竈、ピットは検出されなかった。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物なし。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第 98 図　59 号竪穴建物跡

61 号竪穴建物跡（第 99 ～ 101 図・第 40 表）

平面位置　Q－2・3

重複関係　62・63 号竪穴建物跡より古い、66・67 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部、北壁、西壁と東壁の一部が検出された。長軸 4.06 m以上、短軸 3.10 m以上、深さ 0.25 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、掘り方は浅いが壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。北壁中央よりやや東よりの床面で隅丸長方形の土坑が 1 基検出されている。ピットは 3 基検出され、北西の 2・3 号ピットが主柱穴である。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　物　出土遺物は、土師器甕（常陸型）、須恵器坏蓋模倣の坏、須恵器坏の破片、弥生時代中期の龍門寺式、後期の十王台式の土器片、砂岩、片岩製の礫などである。

時　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

62号竪穴建物跡（第99・100図）

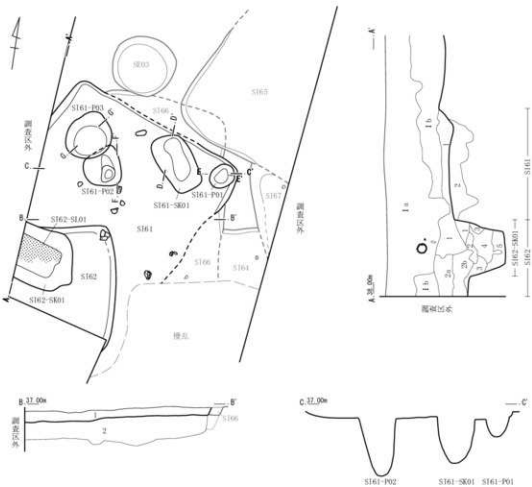
平面位置　P・Q－2・3

重複関係　60・61号竪穴建物跡より新しい。

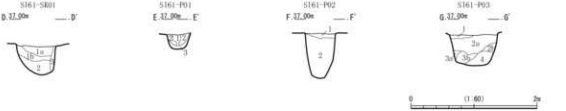
遺構形態　遺構は床面の一部、北壁と東壁の一部が検出された。長軸2.06ｍ以上、短軸1.52ｍ以上、深さ0.21ｍを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。西壁付近で土坑が1基検出され、覆土下層から炉跡が検出されている。ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　物　出土遺物は、縄文時代中期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、土師器甕（有段口縁、単口縁、ハケ目調整）、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、坩（ハケ目調整）などである。

時　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期末から後期初頭と推定される。



第99図　61・62号竪穴建物跡（1）



SI61
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。白色粒子（φ1～3mm）を全体に少量、炭化物（φ5～10mm）を部分的に微量、ローム ブロック（φ10～100mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ5～10mm）を部分的に少量、シルトを部分的に少量含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。シルトを部分的に少量、ローム ブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

SI61-SK01
1a．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性あり。ローム ブロック（φ10～50mm）を全体に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
1b．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性あり。ローム ブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性あり。ローム ブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3．にぶい黄褐色土　10YR5/4　締り強い、粘性あり。ローム ブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

SI61-P01
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ローム ブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ローム ブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
3．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性あり。ローム ブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

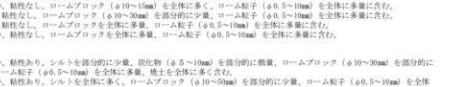
SI61-P02
1．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性あり。炭化物（φ5～10mm）を部分的に微量、ローム ブロック（φ10～30mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ3～10mm）を部分的に少量含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。炭化物（φ5～10mm）を部分的に少量、ローム ブロック（φ10～100mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ3～10mm）を部分的に微量に含む。

SI61-P03
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。粘土を全体に多量、シルトを全体に多量、炭化物（φ3～10mm）を部分的に、ローム ブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
2a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。炭化物（φ3～10mm）を部分的に少量、ローム ブロック（φ10～30mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土を部分的に多く、シルトを部分的に少量含む。
2b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ローム ブロック（φ10～15mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3a．黒色土　10YR2/1　締り強い、粘性なし。ローム ブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3b．褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性なし。ローム ブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
4．黒褐色土　10YR3/6　締り強い、粘性なし。ローム ブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI62
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。シルトを部分的に少量、炭化物（φ5～10mm）を部分的に微量、ローム ブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土を全体に多く含む。
2a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。シルトを全体に多く、ローム ブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、焼土（φ1～5mm）を部分的に少量含む。
2b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。シルトを部分的に少量、炭化物（φ5～10mm）を含む。ローム ブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ1～3mm）を部分的に少量含む。

SI62-SK01
1．褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性あり。ローム ブロック（φ10～20mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ5～20mm）を部分的に少量、炭化物（φ10～30mm）を部分的に少量含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ローム ブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ5～10mm）を全体に多く含む。
3．暗赤土　5YR6/8　締りあり、粘性あり。焼土を全体に多量に含む。
4．暗褐色土　10YR3/3　締りあり、粘性あり。炭化物（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム ブロック（φ10～20mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
5．黒褐色土　10YR2/2　締りあり、粘性あり。焼土を部分的に多く、ローム ブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に多く含む。

第100図　61・62号竪穴建物跡（2）



第101図　61号竪穴建物跡出土遺物

第40表　61号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
1	土師器 甕	口径：(22.6) 器高：(6.7) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	5%	にぶい橙（7.5YR6/4）	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

64 号竪穴建物跡（第 102・103 図・第 41 表）

平面位置　Q－3

重複関係　66・67 号竪穴建物跡より古い。

遺構形態　遺構は床面の一部と北壁の一部が僅かに検出され。長軸 0.98 m以上、短軸 0.81 m以上、深さ 0.29 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器は須恵器坏蓋模倣の坏、弥生時代後期の十王台式の土器片、泥岩製の支脚などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

67 号竪穴建物跡（第 102・104 図・第 42 表）

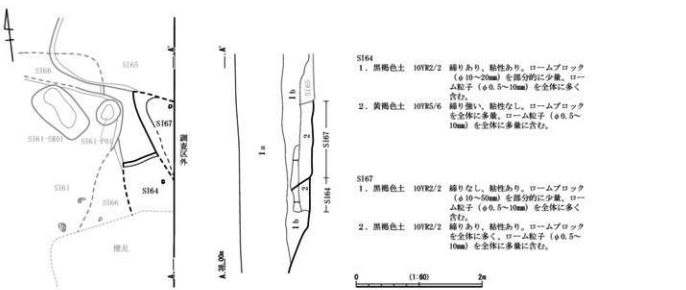
平面位置　Q－3

重複関係　65 号竪穴建物跡より古く、64 号竪穴建物跡より新しい。

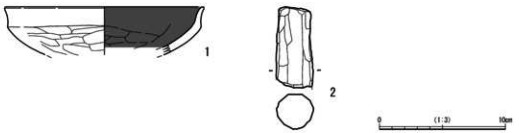
遺構形態　遺構は床面の一部、西壁の一部が検出された。、長軸 1.20 m以上、短軸 0.84 m以上、深さ 0.35 mを測る。床はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁、ハケ目調整）、器台（赤彩、ヘラミガキ、脚部に円孔あり）、須恵器坏蓋模倣の坏、須恵器甕の破片、ロクロ成形の高台付坏、土師質土器の小皿、皿、砂岩、片岩、片麻岩、珪化木の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



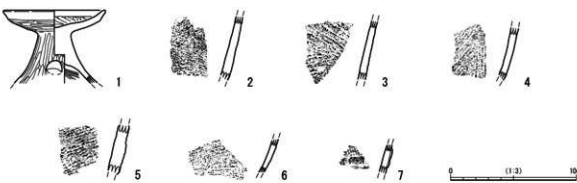
第 102 図　64・67 号竪穴建物跡



第 103 図　64 号竪穴建物跡出土遺物

第 41 表　64 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 坏	口径：(15.6) 器高：〈3.8〉 底径：.	白色粒子・赤色粒子・雲・針・石英	良好	10%	褐灰 (7.5YR4/1)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ナデ、内面黒色処理
2	石製品 支脚	長さ：6.6 幅：3.0 厚み：2.7	礫	良好	20%	浅黄橙 (10YR8/3)	泥岩またはホルンフェルス、外面ケズリ仕上げ



第 104 図　67 号竪穴建物跡出土遺物

第 42 表　67 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 器台	口径：8.0 器高：〈5.8〉 底径：.	白色粒子・黒色粒子・雲・針・石英・礫	良好	90%	褐 (7.5YR4/6)	口縁部内外面横位ナデ、台部外面横位ミガキ、台部内面ミガキ、脚部外面縦位ミガキ、脚部内面ハケ後ナデ、焼成前穿孔 1 箇所残
2	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	5% 未満	にぶい黄橙 (10YR7/4)	付加縄による羽状縄文
3	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	5% 未満	にぶい黄褐 (10YR5/3)	付加縄による羽状縄文
4	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・雲・石英	良好	5% 未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	付加縄による羽状縄文
5	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	5% 未満	黄褐 (10YR5/6)	軸縄不明＋L を施す
6	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・雲	良好	5% 未満	灰黄褐 (10YR5/2)	胴部上半部 5 本一単位の櫛歯状工具による波状文後縦区画を施す、胴部下半部付加縄を施す
7	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・赤色粒子・雲・礫	良好	5% 未満	灰黄褐 (10YR5/2)	微隆帯貼り付け後 5 本一単位の櫛歯状工具による縦区画

66 号竪穴建物跡（第 105 図）

平面位置　Q－3

重複関係　61 号竪穴建物跡、3 号井戸より古く、64 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部と北壁の一部が検出された。長軸 2.65 m以上、短軸 2.44 m以上を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、外面に刻線のある須恵器蓋である。

時　　期　遺構の切り合い関係から古墳後期と推定される。

第 105 図　66 号竪穴建物跡出土遺物

70 号竪穴建物跡（第 106・107 図・第 43 表）

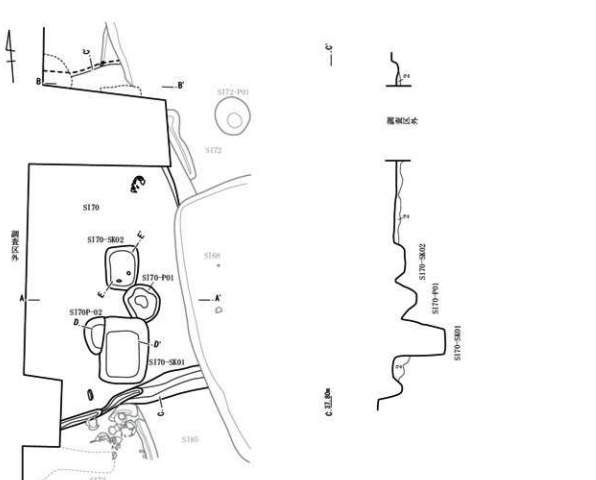
平面位置　M・N－2・3

重複関係　68・72 号竪穴建物跡より古く、69・73 号竪穴建物跡新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部、北壁と南壁の一部が検出された。長軸 5.84 m以上、短軸 3.11 m以上、深さ 0.31 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。南壁際に周溝が検出されている。竈は検出されていない。床面南側で隅丸長方形の土坑が 2 基検出されている。ピットは 2 基が検出され、1 号ピットは主柱穴の可能性がある。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（常陸型、単口縁、ハケ目調整）、器台（脚部に円孔あり）、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、須恵器甕、ロクロ整形の坏（内面黒色処理）、高台付坏、弥生時代後期の十王台式の土器片、アブライト製の敲石、砂岩、片岩製の礫、砂岩、片岩、泥岩の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



SI70
1b．黒褐色土　10YR2/2　縁りあり、粘性あり。白色粒子（φ１～３mm）を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土を部分的に多量に含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　縁り強い、粘性あり。　ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

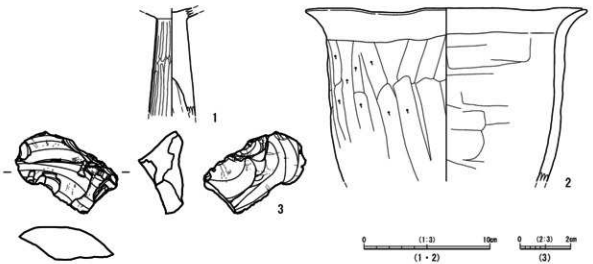
SI70-SK01
1．黒褐色土　10YR2/2　縁り強い、粘性あり。炭化物（φ３～５mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ0.5～10mm）を部分的に微量に含む。
2．褐色土　10YR4/6　縁りなし、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3a．黒褐色土　10YR2/2　縁りなし、粘性あり。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
3b．黒褐色土　10YR2/2　縁りあり、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI70-SK02
1a．黒褐色土　10YR2/2　縁り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
1b．黒褐色土　10YR2/2　縁りなし、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に少量含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　縁り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
3．黒褐色土　10YR2/2　縁りなし、粘性あり。ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

SI70-P01
1．黒褐色土　10YR2/2　縁りあり、粘性あり。白色粒子（φ１～２mm）を全体に、ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ５～10mm）を部分的に微量、炭化物（φ１～10mm）を部分的に微量に含む。
2．黄褐色土　10YR5/6　縁りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI70-P02
1．黒褐色土　10YR2/2　縁り強い、粘性あり。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
2．黄褐色土　10YR5/6　縁り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第106図　70号竪穴建物跡



第 107 図　70 号竪穴建物跡出土遺物

第 43 表　70 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
1	土師器 高坏	口径：- 器高：〈8.6〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	10%	灰黄褐（10YR4/2）	外面縦位ミガキ、内面ヘラナデ
2	土師器 甕	口径：〈22.0〉 器高：〈13.9〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	15%	にぶい黄褐（10YR5/3）	口縁部外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	器種	石材	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	所見
3	二次加工石器	メノウ	2.2	4.2	1.7	13.9	右側辺下部から下部右側にかけて二次加工が施される。

71 号竪穴建物跡（第 108 ～ 110 図・第 44 表）

平面位置　K－2・L－2・3

重複関係　4 号井戸、20 号土坑より古く、73 ～ 75、84・85 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部、北壁と東壁の一部が検出された。長軸 3.94 m以上、短軸 2.63 m以上、深さ 0.43 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（ハケ目調整、有段口縁、常陸型）、高坏、須恵器坏身模倣の坏、甑、埦（内面黒色処理）、鉢、須恵器甕、ロクロ整形の坏（内面黒色処理あり）、土師質土器の鍋、小皿、弥生時代後期の十王台式の土器片、片岩、アプライト製の敲石、メノウ製の火打石、チャート、片岩製の礫片、常滑焼の甕、瀬戸焼の鉢などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

73 号竪穴建物跡（第 108・109・111・112 図・第 45 表）

平面位置　L－2・3、M－2

重複関係　70・71号竪穴建物跡より古く、75・84・85号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部、東壁、71号竪穴建物跡を挟んで南壁の一部が検出された。長軸4.75m以上、短軸2.37m以上、深さ0.18mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。東壁際からは周溝が検出される。竈は検出されていないが北側の床面から炉跡が検出されている。ピットは2基検出され、南東側の攪乱層下位の掘方から検出された1号ピットが主柱穴の可能性がある。覆土は黒褐色土を主体とし、褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は床面北東角において出土しており、土師器甕（単口縁＋ハケ目）、台付甕、高坏（ハケ目調整、脚部に円孔）、埦（赤色、ハケ目調整、ミガキ）、坩、須恵器甕、蓋、坏、ロクロ成形の高台付坏、土師質土器の小皿、縄文時代中期阿玉台式の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、片岩製の砥石、瓦質の香炉破片、泥岩製の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期中葉～後葉と推定される。

74号竪穴建物跡（第108・109図）

平面位置　L・M－3

重複関係　68号竪穴建物跡より古く、85号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部、西壁の一部が検出された。長軸2.39m以上、短軸1.58m以上を測る。床はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は後世の攪乱により削平されている。

遺　　物　出土遺物はない。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前と推定される。

75号竪穴建物跡（第108・109図）

平面位置　L－3、M－2・3

重複関係　71・73号竪穴建物跡より古い、84・85号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は僅かに北東角と東壁の一部が検出された。長軸2.55m以上、短軸0.36m以上、深さ0.30mを測る。壁は急角度で立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物はない。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。

84号竪穴建物跡（第108・109・113図・第46表）

平面位置　L・M－3

重複関係　71・73・75号竪穴建物跡より古い、85号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は南北に細長く、床面の一部、東壁、北壁、南壁の一部が検出された。長軸2.44m以上、短軸0.57m以上、深さ0.28mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは南東隅の床面から1基検出されているが、主柱穴で

はない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　物　出土遺物は、土師器甕（常陸型、ハケ目調整）、土師質土器の小皿などである。

時　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古塚時代前期と推定される。

85号竪穴建物跡（第108・109図）

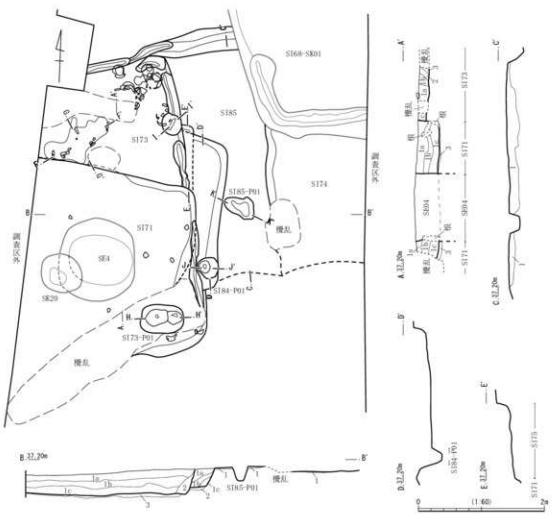
平面位置　L－3、M－2・3

重複関係　68・70・71・73～75・84号竪穴建物跡より古い。

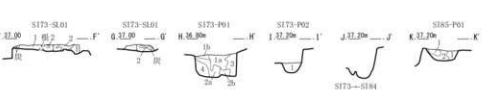
遺構形態　遺構は床面の一部が検出された。長軸4.00m以上、短軸1.74m以上を測る。床はほぼ平坦で、竈は検出されていない。南側の床面から1号ピットが検出されている。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺　物　出土遺物は、土師器甕などである。

時　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古塚時代前期と推定される。



第108図　71・73・74・75・84・85号竪穴建物跡（1）



S171
1a. 黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～3mm）を全体に多く、炭化物（φ5～10mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～30mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ3～10mm）を部分的に少量含む。
1b. 黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。白色粒子を部分的に、炭化物（φ5～20mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ5～20mm）を部分的に少量含む。
1c. 黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～3mm）を全体に、炭化物（φ5～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ3～10mm）を部分的に微量に含む。
2. 黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～3mm）を全体に、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ3～10mm）を部分的に微量に含む。
3. 黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。炭化物（φ1～10mm）を部分的に少量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ5～10mm）を部分的に少量、白色粒子（φ1～3mm）を全体に多く含む。

S173
1a. 黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～3mm）を部分的に微量に含む。
1b. 黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ3～3mm）を部分的に微量に含む。
1c. 黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
2. 褐色土　10YR4/6　縞り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3. 黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

S173-SL01
1. 黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、炭化物を部分的に多く、焼土を部分的に多量に含む。
2. 褐色土　7.5YR4/6　縞り強い、粘性なし。焼土を全体に多量に含む。

S173-P01
1a. 黒褐色土　10YR2/2　縞りあり、粘性あり。炭化物（φ5～15mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
1b. 黒褐色土　10YR2/2　縞りあり、粘性あり。炭化物（φ3～5mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2a. 黒褐色土　10YR2/2　縞りあり、粘性あり。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2b. 黒褐色土　10YR2/2　縞りあり、粘性あり。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3. 黒褐色土　10YR2/2　縞りあり、粘性あり。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
4. 明黄褐色土　10YR6/6　縞りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

S173-P02
1. 黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

S174
1. 明黄褐色土　10YR6/8　縞りあり、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

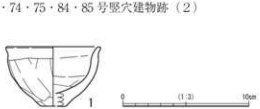
S175
1. 黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

S184
1a. 黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、炭化物（φ1～10mm）を部分的に多く含む。
1b. 黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
1c. 黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性あり。炭化物を全体に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ10～20mm）を部分的に微量に含む。

S185
1. 暗褐色土　10YR3/3　縞りあり、粘性あり。白色粒子（φ1～3mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

S185-P01
1. 黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に少量含む。
2. 黒褐色土　10YR3/2　縞り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

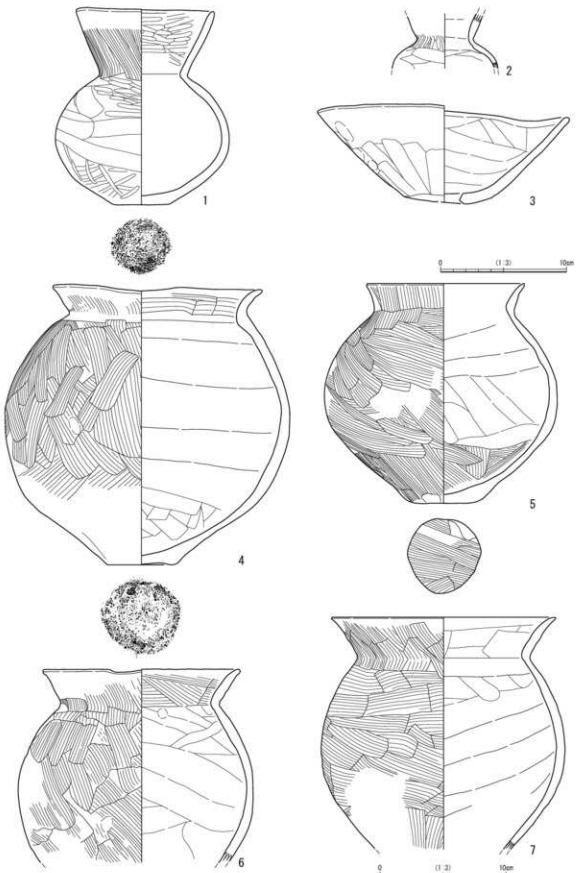
第109図　71・73・74・75・84・85号竪穴建物跡（2）



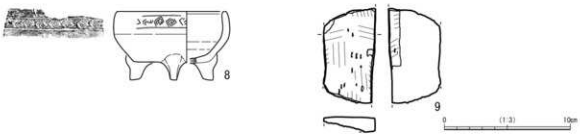
第110図　71号竪穴建物跡出土遺物

第44表　71号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 鉢	口径：(7.4) 器高：4.7 底径：(2.0)	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・針・チャ・石英・礫	良好	30%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラナデ、内面ヘラナデ・ナデ



第111図 73号竪穴建物跡出土遺物（1）



第 112 図　73 号竪穴建物跡出土遺物（2）

第 45 表　73 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 坩	口径：10.8 器高：15.6 底径：4.4	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・針・石英・礫	良好	100%	にぶい赤褐 (5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、頸部縦位ハケ後ナデ、外面ヘラナデ・ミガキ、内面ナデ
2	土師器 甕	口径：- 器高：〈4.4〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・針・石英・礫	良好	25%	赤褐 (5YR4/6)	頸部外面縦位ハケ、肩部横位・斜位ヘラナデ、内面ヘラナデ・ナデ
3	土師器 甕	口径：19.8 器高：8.0 底径：5.0	白色粒子・黒色粒子・針・石英	良好	95%	にぶい黄橙 (10YR7/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラナデ、内面ヘラナデ・ナデ
4	土師器 甕	口径：16.4 器高：22.1 底径：5.2	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・礫	良好	90%	にぶい赤褐 (5YR5/4)	口縁部外面縦位ハケ後横位ナデ、外面縦位・斜位ハケ、口縁部内面横位ハケ後横位ナデ、内面ヘラナデ・ナデ
5	土師器 甕	口径：12.4 器高：17.4 底径：4.2	白色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	95%	にぶい黄橙 (10YR6/4)	口縁部外面縦位ハケ、外面縦位・斜位ハケ、口縁部内面横位ハケ、内面ヘラナデ・ナデ、底部ハケ
6	土師器 甕	口径：(15.4) 器高：〈15.4〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・礫	良好	45%	にぶい橙 (7.5YR7/4)	口縁部外面斜位ハケ後横位ナデ、外面縦位・斜位ハケ、口縁部内面横位ハケ後横位ナデ、内面ナデ
7	土師器 甕	口径：(17.6) 器高：〈18.3〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・針・石英・礫	良好	25%	にぶい黄橙 (10YR7/3)	口縁部外面縦位ハケ、外面横位・斜位ハケ、口縁部内面横位ハケ、内面ヘラナデ・ナデ
8	陶磁器 瓦質香炉	口径：(8.4) 器高：5.5 底径：(5.8)	黒色粒子・赤色粒子・石英	良好	30%	灰 (N4/0)	口縁部に沿って帯状に沈線および雷文、三足

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
9	砥石	凝灰岩	<7.5>	<4.2>	<1.2>	49.4	上下部欠損。裏面も大きく欠損。砥石の部分は平滑で擦痕も確認できる。

第 113 図　84 号竪穴建物跡出土遺物

第 46 表　84 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：(13.2) 器高：〈9.6〉 底径：-	白色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	5%	にぶい赤褐 (5YR4/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位・斜位ヘラケズリ、内面ナデ

72 号竪穴建物跡（第 114 ～ 116 図・第 47 表）

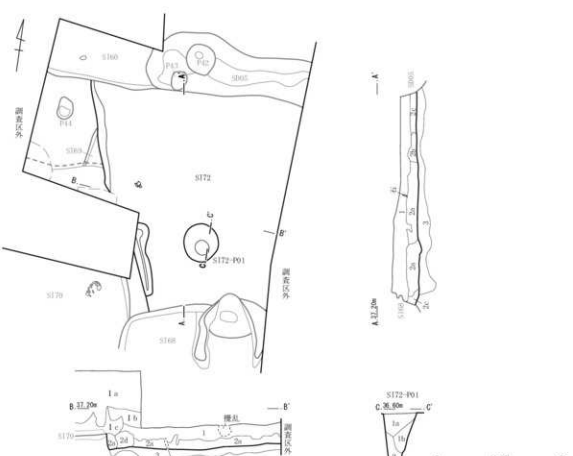
平面位置　N－2・3、M－3

重複関係　60・68 号竪穴建物跡、5 号溝跡より古く、69・70 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部、西壁の一部が検出された。長軸 3.79 m以上、短軸 3.24 m以上、深さ 0.45 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。西壁南よりの壁際に周溝が部分的に検出された。竈は検出されていない。ピットは南西側の床面で主柱穴の可能性がある 1 号ピットが検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁＋ハケ目調整、単口縁）、高坏（赤彩）、須恵器坏蓋模倣の坏、ロクロ整形の高台付坏、弥生時代中期の龍門寺式、後期の十王台式の土器片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



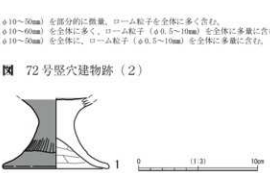
第 114 図　72 号竪穴建物跡（1）

SI72
1．黒褐色土　10YR2/2　縁りあり。粘性あり。白色粒子（φ1～2㎜）を全体に少量、炭化物（φ5～10㎜）を部分的に散量、ロームブロック（φ10～20㎜）を部分的に散量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多く、粘土（φ5～10㎜）を部分的に散量に含む。
2a．黒褐色土　10YR2/2　縁りあり。粘性あり。炭化物（φ5～10㎜）を部分的に散量、ロームブロック（φ10～50㎜）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量、焼土（φ5～10㎜）を部分的に散量に含む。
2b．黄褐色土・黒褐色土　10YR5/6＋2/2　縁りあり。粘性あり。炭化物（φ5～10㎜）を部分的に散量、ロームブロック（φ10～30㎜）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量に含む。
2c．黄褐色土　10YR5/6　縁りあり。粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量に含む。
2d．赤褐色土　5YR4/6　縁りあり。粘性あり。焼土を部分的に多量、炭化物（φ2～20㎜）を部分的に多く、ロームブロック（φ10～70㎜）を部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多く含む。
3．黄褐色土　10YR5/6　縁り強い。粘性強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量に含む。

SI72-SL01
1．明褐色土　7.5YR5/6　縁りあり、粘性なし。焼土を全体に多量、シルトを全体に多量に含む。
2．明赤褐色土　5YR5/6　縁りあり、粘性なし。焼土を全体に多量、炭化物を部分的に多量含む。

SI72-P01
1a．黒褐色土　10YR2/2　縁りあり。粘性あり。ロームブロック（φ10～50㎜）を部分的に散量、ローム粒子を全体に多く含む。
1b．黒褐色土　10YR2/2　縁りあり。粘性強い。ロームブロック（φ10～60㎜）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量に含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　縁りあり。粘性強い。ロームブロック（φ10～50㎜）を全体に、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量に含む。

第 115 図　72 号竪穴建物跡（2）



第 116 図　72 号竪穴建物跡出土遺物

第 47 表　72 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
1	土師器　高坏	口径：- 器高：〈5.8〉 底径：8.8	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・針・礫	良好	45%	にぶい赤褐（5YR4/4）	外面縦位ミガキ、坏部内面ナデ、外面・坏部内面赤彩、器面剥落

76 号竪穴建物跡（第 117 ～ 119 図・第 48 表）

平面位置　J・K－2・3

重複関係　77・78 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構はほぼ完全な形状で検出された。平面形状は隅丸長方形で、長軸 3.26 m以上、短軸 2.66 m以上、深さ 0.32 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北壁のほぼ中央に位置し、竈中央部と左右の構築材が不定形に残されている。竈構築材はシルト質土で、焚口は赤化、硬化していない。竈の左側の北壁下はテラス状となっている。土坑、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（常陸型、ハケ目調整、有段口縁）、器台（小形、赤色）、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、埦、鉢（内面黒色処理）、須恵器甕、蓋、坏、高台付坏、ロクロ整形の坏、16 世紀の瀬戸焼の皿の破片、鉄滓 1 点（11.9 g）、片岩製の鋸歯縁石器、泥岩製の竈構築材、砂岩、片岩製の礫などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。

77号竪穴建物跡（第117・118・120図・第49表）

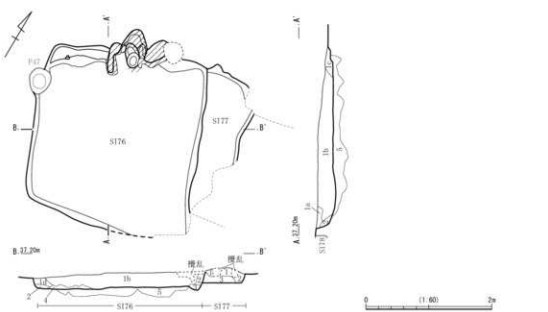
平面位置　J・K－3

重複関係　76号竪穴建物跡より古い。

遺構形態　遺構は床面の一部、北壁の一部、東壁の一部が南北に細長く検出され、長軸2.40ｍ以上、短軸0.84ｍ以上、深さ0.24ｍを測る。床はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（ハケ目調整）、高坏、土師質土器の小皿、瓦質の香炉破片、瓦質の鍋の破片、縄文時代前期、中期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、鉄滓１点（11.4ｇ）、石英の礫片などである。

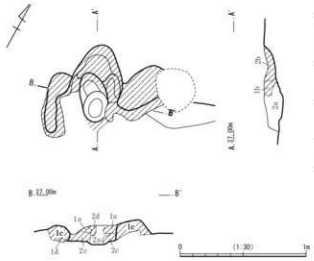
時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代前期と推定される。



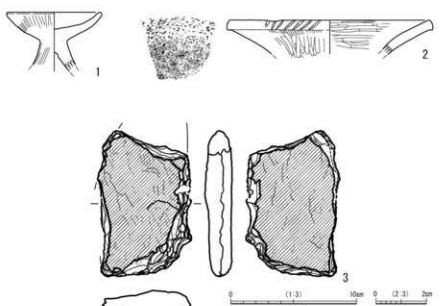
S176
1a　黒褐色土　10YR2/2　繰り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に微量、シルト（φ1～2mm）を部分的に微量に含む。
1b　黒褐色土　10YR2/2　繰り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～2mm）を全体に少量、炭化物（φ3～5mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～100mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ3～5mm）を部分的に微量に含む。
1c　黒褐色土　10YR2/2　繰り強い、粘性なし。シルトを部分的に多量、ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
1d　黒褐色土　10YR2/2　繰り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2　黒褐色土　10YR2/3　繰り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3　黒褐色土　10YR3/2　繰り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
4　黒褐色土　10YR2/2　繰りなし、粘性なし。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
5　黒褐色土・明黄褐色土　10YR3/2+6/6　繰り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

S177
1　黒褐色土　10YR2/2　繰り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～90mm）を部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ1～5mm）を部分的に少量含む。
2　黒褐色土　10YR2/2　繰り強い、粘性なし。炭化物（φ5～10mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
3　黒褐色土・明黄褐色土　10YR2/2+6/6　繰り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子を全体に多く含む。

第117図　76・77号竪穴建物跡（1）



第118図　76・77号竪穴建物跡（2）



第119図　76号竪穴建物跡出土遺物

第48表　76号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
1	土師器 高坏	口径：(7.4) 器高：<4.7> 底径：.	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	40%	赤褐（5YR4/6）	外面ミガキ、坏部内面ナデ
2	土師器 壺	口径：(16.0) 器高：<2.9> 底径：.	白色粒子・黒色粒子・長	良好	5% 未満	にぶい橙（7.5YR6/4）	口唇部外面キザミ、外面縦位ミガキ、内面横位ミガキ、内面煤付着

図版番号	器種	石材	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	所見
3	剥離縁石器	片岩	<5.8>	3.7	1.0	32.6	右側辺から下部にかけてやや粗めの調整が行われ鋸歯状になっている。

第 120 図　77 号竪穴建物跡出土遺物

第 49 表　77 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
1	土師器 甕	口径：(13.0) 器高：〈5.9〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・針・石英・礫	良好	5%	にぶい褐（7.5YR5/4）	口縁部内外面ハケ後横位ナデ，外面ハケ後ナデ，内面ヘラナデ・ナデ

78 号竪穴建物跡（第 121・122 図・第 50 表）

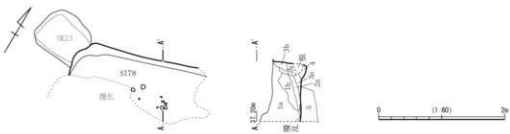
平面位置　J－2・3

重複関係　76 号竪穴建物跡より古く、23 号土坑より新しい。

遺構形態　遺構は緩やか北西角から北壁の一部が検出された。長軸 2.04 m以上、短軸 1.07 m以上、深さ 0.53 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土を主体とし、暗褐色土と褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（ハケ目調整、単口縁、常陸型）、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、砂岩製の台石＋敲石などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



SI78

1a　黒褐色土　10YR3/2　締り強い，粘性なし。　シルトを全体に多量，焼化物（φ3～15 mm）を部分的に少量，ローム ブロック（φ10～20 mm）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10 mm）を全体に，焼土（φ3～10 mm）を部分的に少量，白色粒子（φ1～3 mm）を全体に含む。

1b　暗褐色土　10YR3/3　締り強い，粘性なし。　シルトを全体に多量，ローム ブロック（φ10～20 mm）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10 mm）を全体に少量，焼土（φ1～10 mm）を部分的に微量に含む。

2a　黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性なし。　シルトを部分的に少量，ローム ブロック（φ10～20 mm）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10 mm）を全体に微量に含む。

2b　黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性なし。　ローム粒子（φ0.5～10 mm）を部分的に多く含む。

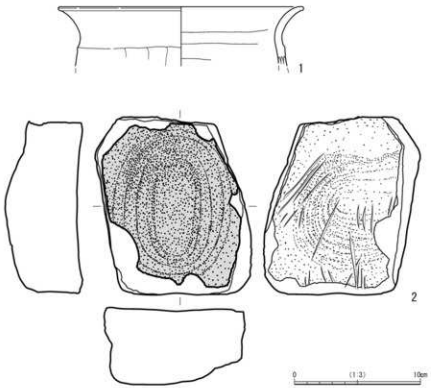
3a　黒褐色土　10YR3/2　締り強い，粘性なし。　シルトを部分的に微量，ローム ブロック（φ10～20 mm）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10 mm）を全体に多く，焼土（φ3～10 mm）を部分的に微量に含む。

3b　黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性なし。　白色粒子（φ1～3 mm）を全体に微量，ローム ブロックを部分的に多く，ローム粒子（φ0.5～10 mm）を全体に少量，焼土（φ1～10 mm）を部分的に少量含む。

4　褐色土　10YR4/6　締り強い，粘性なし。　シルトを部分的に少量，ローム ブロックを部分的に多く，ローム粒子（φ0.5～10 mm）を全体に多量に含む。

5　黄褐色土　10YR5/6　締り強い，粘性なし。　ローム ブロックを全体に多量，ローム粒子（φ0.5～10 mm）を全体に多量に含む。

第 121 図　78 号竪穴建物跡



第 122 図　78 号竪穴建物跡出土遺物

第 50 表　78 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：(19.2) 器高：(4.8) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・雲・チャ・ 石英・礫	良好	5%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
2	石皿	砂岩	14.0	12.0	6.0	1409.1	表面中央部は浅い皿状になっており、平滑。裏面は中央部が盛り上がっており、縦方向の線刻が多くみられる。

79 号竪穴建物跡（第 123 図）

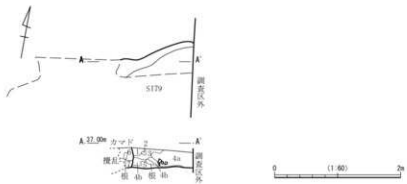
平面位置　J－3

重複関係　なし

遺構形態　遺構は床面の一部、北壁の一部が検出された。長軸 1.20 m以上、短軸 0.57 m以上、深さ 0.34 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は攪乱を顕著に受けており、構築材の一部が僅かに検出された。ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土、褐色土の自然堆積層である。南側の 80 号竪穴建物跡と同一の遺構の可能性がある。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（常陸型、ハケ目調整）、須恵器坏蓋模倣の坏、石英製の剥片などである。

時　　期　出土遺物の特徴から古墳時代後期と推定される。



S179
1．黄褐色土　10YR5/6　締り強い。粘性あり。ロームブロックを部分的に多量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2．褐色土　10YR4/4　締り強い。粘性あり。ロームブロックを全体に多量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3．黒褐色土　10YR2/2　締りあり。粘性あり。焼土を部分的に多量。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
4a．黒褐色土　10YR2/2　締りあり。粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ2～5mm）を部分的に微量に含む。
4b．黒褐色土　10YR2/2　締りあり。粘性あり。焼土（φ3～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
5．暗褐色土　10YR3/3　締りあり。粘性あり。炭化物（φ2～10mm）を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ5～20mm）を部分的に少量含む。
6．暗褐色土　7.5YR3/4　締り強い。粘性あり。焼土を全体に多量、シルトを全体に多量に含む。
7．にぶい黄褐色土　10YR5/4　締り強い。粘性あり。シルトを全体に多量。焼土を部分的に多量、ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第123図　79号竪穴建物跡

80号竪穴建物跡（第124～126図・第51表）

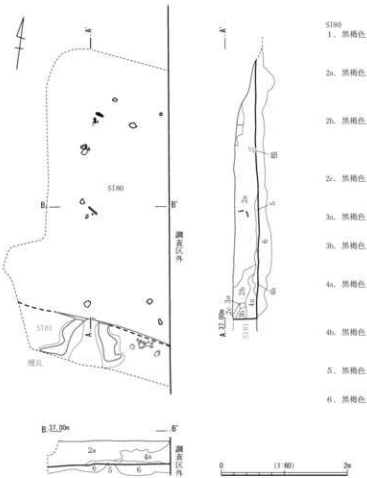
平面位置　Ⅰ・J－3・4

重複関係　81号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部、南壁の一部が検出された。長軸4.65ｍ以上、短軸1.95ｍ以上、深さ0.42ｍを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈、ピットは、検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（常陸型、単口縁、ハケ目調整）、器台（赤色、脚部円孔あり）、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、甑、須恵器甕、ロクロ成形の坏（内面黒色処理あり）、高台付坏、片岩製の二次加工石器、泥岩製の竈構築材、種別不明の骨片（２点・合計44.8ｇ）アプライト製の礫、砂岩、片岩製の礫片などである。

時　　期　出土遺物の特徴から古墳時代後期と推定される。



SI80

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルトを部分的に、炭化物（φ3～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に含む。

2a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。炭化物を部分的に少量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、焼土（φ3～10mm）を部分的に少量、シルトを全体に少量含む。

2b．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。シルトを部分的に多量、炭化物（φ3～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ3～5mm）を部分的に微量に含む。

2c．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。焼土（φ1～5mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

3a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

3b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ3～10mm）を部分的に少量含む。

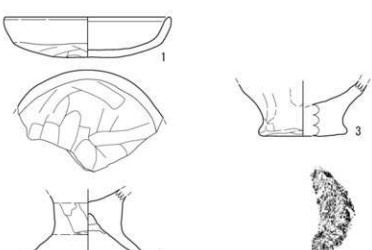
4a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルトを全体に少量、炭化物（φ5～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ5～10mm）を部分的に少量含む。

4b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ1～3mm）を部分的に微量に含む。

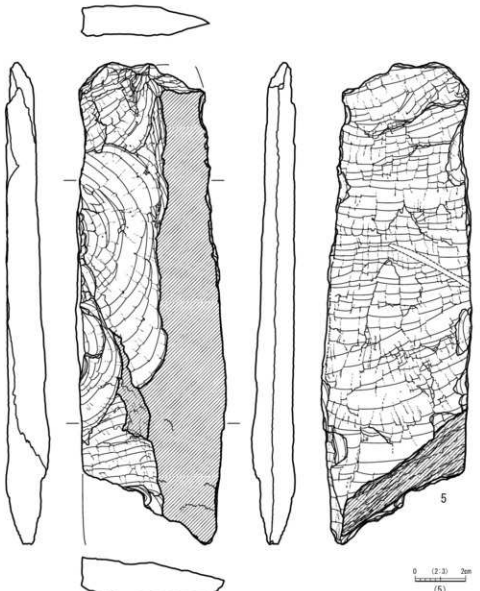
5．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量含む。

6．黒褐色土・褐色土　10YR2/2＋4/6　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、炭化物を部分的に多量、焼土（φ5～10mm）を部分的に少量含む。

第124図　80号竪穴建物跡



第125図　80号竪穴建物跡出土遺物（1）



第126図 80号竪穴建物跡出土遺物（2）

第51表 80号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 坏	口径：(13.0) 器高：<3.0> 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・チャ・石英	良好	30%	にぶい黄橙(10YR6/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ、外面煤付着
2	土師器 高坏	口径：- 器高：<5.6> 底径：(9.8)	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・針・石英	良好	10%	にぶい橙(7.5YR6/4)	脚部外面縦位ヘラナデ、裾部内外面横位ナデ、煤付着（破損後）
3	土師器 鉢	口径：- 器高：<4.4> 底径：(6.6)	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	5%	にぶい赤褐(5YR5/4)	外面ヘラナデ・指頭痕、内面ヘラナデ・ナデ
4	土師器 鉢	口径：- 器高：<4.8> 底径：(5.6)	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	5%	橙(5YR6/6)	外面ナデ、内面ヘラナデ・ナデ、底部網代痕？

図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	所見
5	二次加工石器	片岩	<19.6>	5.9	1.5	213.4	左側辺部に薄手の加工が繰り返し施される。

81号竪穴建物跡（第127～130図・第52表）

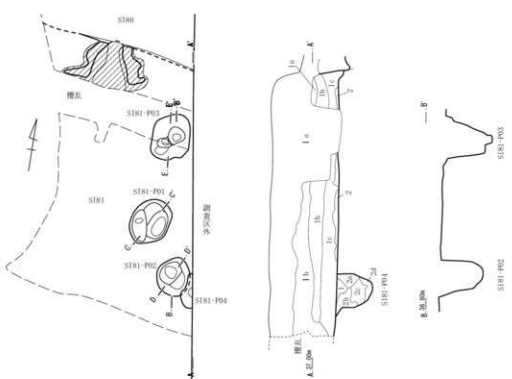
平面位置　H・I－3・4

重複関係　80・90号竪穴建物跡より古い。

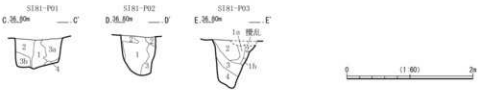
遺構形態　遺構は床面の一部が検出され、長軸4.5ｍ以上、短軸2.97ｍ以上、深さ0.49ｍを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがある。竈は北竈であまり破壊されておらず、燃焼部を中心に左右の構築材が検出されている。竈構築材はシルト質土である。焚口の底面は赤化、硬化していないが、内部には焼土を主体とした土層の堆積が認められる。このカマドは煙道が遺構外にあまり延びていない形状である。ピットは4基検出され、重複を含めて3基の主柱穴が検出されている。覆土黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁、S字状口縁＋ハケ目調整、ハケ目調整、単口縁）、器台（脚部円孔あり）、高坏（赤彩あり）、坏、須恵器坏蓋模倣の坏、甑、埦、ロクロ成形の坏、アブライト製の二次加工石器、縄文時代中期の加曾利Ｅ式土器の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、砂岩製礫、礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第127図　81号竪穴建物跡（1）



SI81

1a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量，焼土（φ3～5mm）を部分的に微量，白色粒子（φ1～3mm）を部分的に微量に含む。
1b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量，炭化物（φ3～5mm）を部分的に微量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に，焼土（φ1～5mm）を部分的に少量含む。
1c．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性なし。炭化物（φ2～10mm）を部分的に微量，ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量，焼土（φ1～5mm）を部分的に少量含む。
2．明黄褐色土・黒褐色土　10YR6/6+2/2　締り強い，粘性なし。炭化物（φ10～20mm）を部分的に少量，ロームブロックを全体に多量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量，焼土を部分的に多く含む

SI81-P01

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性あり。ロームブロック（φ10～100mm）を部分的に多量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性あり。ロームブロックを部分的に多量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3a．黒褐色土　10YR3/2　締り強い，粘性あり。ロームブロック（φ10～100mm）を全体に多く，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3b．黄褐色土　10YR5/6　締り強い，粘性あり。ロームブロックを全体に多量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
4．黄褐色土　10YR5/6　締り強い，粘性あり。ロームブロックを全体に多量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI81-P02

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性あり。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量，焼土（φ3～10mm）を部分的に少量含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性あり。ロームブロックを部分的に多く，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量，焼土（φ3～20mm）を部分的に少量含む。
3．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性あり。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

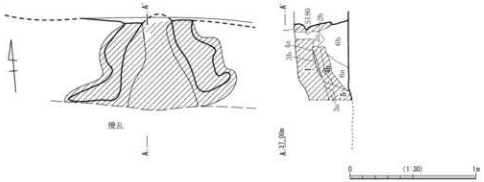
SI81-P03

1a．黒褐色土　10YR2/3　締り強い，粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
1b．黒褐色土　10YR2/3　締り強い，粘性なし。炭化物（φ10～20mm）を部分的に少量，ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2．黄褐色土　10YR5/6　締り強い，粘性なし。ロームブロックを全体に多量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3．黒褐色土・黄褐色土　10YR2/3+5/6　締り強い，粘性なし。炭化物（φ10～20mm）を部分的に微量，ロームブロックを全体に多く，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
4．黄褐色土・黒褐色土　10YR5/6+2/3　締り強い，粘性なし。ロームブロックを全体に多量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI81-P04

1．黒褐色土　10YR2/3　締り強い，粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に含む。
2a．黒褐色土・黄褐色土　10YR2/3+5/6　締り強い，粘性なし。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を含む。
2b．黒褐色土・黄褐色土　10YR2/3+2/3　締り強い，粘性なし。炭化物（φ10～20mm）を部分的に微量，ロームブロック（φ10～150mm）を部分的に多量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2c．黒褐色土　10YR2/3　締り強い，粘性なし。ロームブロック（φ10～30mm）を全体に多く，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量，焼土（φ0.5～10mm）を部分的に微量に含む。
2d．黒褐色土　10YR2/3　締り強い，粘性なし。ロームブロックを部分的に多量，ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量，焼土（φ5～10mm）を部分的に微量含む。

第128図　81号竪穴建物跡（2）



SI-81 カマド

1．にぶい黄橙色土　10YR6/4　締り強い、粘性あり。シルトを全体に多量、焼化物（φ5～10mm）を部分的に少量、地土を部分的に多く含む。

2a．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性あり。シルトを全体に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、地土（φ5～10mm）を部分的に少量含む。

2b．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性あり。シルトを全体に多く、ロームブロック（φ10～20mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、地土（φ3～20mm）を部分的に多く含む。

3a．明褐色土　7.5YR5/6　締り強い、粘性なし。地土を全体に多量、シルトを全体に多量、焼化物を部分的に多く含む。

3b．明褐色土　7.5YR5/6　締り強い、粘性あり。地土を全体に多量に含む。

4a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。シルトを全体に多量、焼化物（φ3～5mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、地土（φ3～20mm）を全体に少量含む。

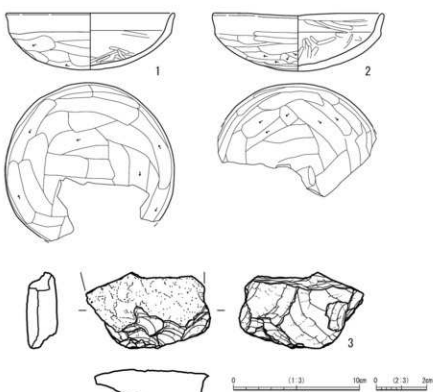
4b．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性あり。シルトを全体に多く、ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、地土（φ3～15mm）を部分的に少量含む。

5．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多く、焼化物（φ5～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、地土を全体に多く含む。

6a．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性あり。シルトを全体に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、地土（φ5～10mm）を部分的に微量含む。

6b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。シルトを部分的 に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、地土（φ3～10mm）を部分的に少量含む。

第129図　81号竪穴建物跡（3）



第130図　81号竪穴建物跡出土遺物

第 52 表　81 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 坏	口径：13.2 器高：4.5 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	99%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・ヘラナデ、口縁部外面～内面黒色処理の痕跡
2	土師器 坏	口径：(13.4) 器高：4.6 底径：-	白色粒子・赤色粒子・雲・針・石英・礫	良好	30%	橙 (7.5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・ナデ、内面煤付着

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
3	打製石斧	アプライト	<2.8>	5.0	1.2	21.6	上部を大きく欠損。刃部は丁寧に調整が施される。

86 号竪穴建物跡（第 131 図）

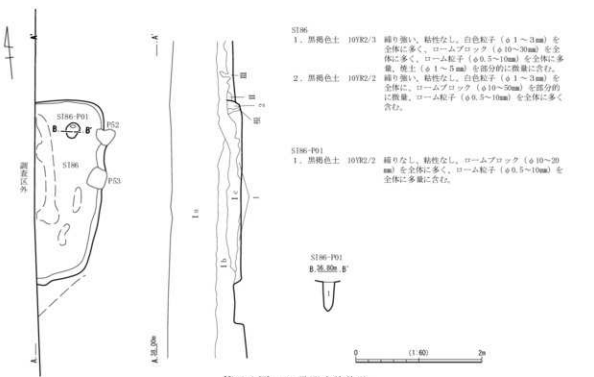
平面位置　Ⅰ・J－2

重複関係　ピット－ 52・53 より古く、85 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部、東壁、北壁と南壁の一部が検出された。長軸 2.92 m以上、短軸 1.11 m以上、深さ 0.14 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は緩やかに立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは小規模であるが主柱穴と推定される 2 号ピットが北東角の床面から検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（常陸型、ハケ目調整）、高坏、坏（内面黒色処理あり）、須恵器甕、ロクロ整形の坏、砂岩、片岩製の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第 131 図　86 号竪穴建物跡

87 号竪穴建物跡（第 132 ～ 134 図・第 53 表）

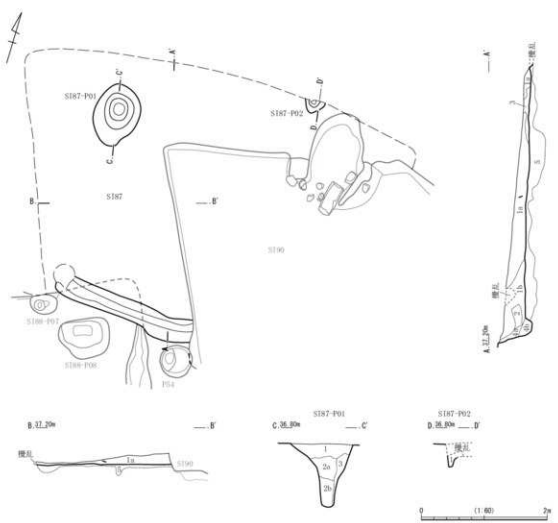
平面位置　G－2・3、H－2～4

重複関係　88・90 号竪穴建物跡より古い。

遺構形態　遺構は床面の一部、南壁の一部が検出された。長軸 4.35 m 以上、短軸 3.55 m 以上、深さ 0.26 m を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。南壁際からは周溝が検出されている。竈は検出されていないが、ピットは 2 基検出され、北西の 1 号ピットが主柱穴の可能性がある。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（常陸型、単口縁、ハケ目調整、S 字状口縁）、壺、器台、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、塊、須恵器坏、土師質土器の小皿、縄文時代前期の黒浜式、後期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、砂岩製の敲石＋磨石、砂岩、片岩、石英製の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代中期と推定される。



第 132 図　87 号竪穴建物跡（1）

SI87

1a．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～100mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ１～５mm）を部分的に微量、白色粒子（φ１～３mm）を部分的に微量に含む。

1b．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ１～10mm）を部分的に微量、白色粒子（φ１～３mm）を部分的に微量に含む。

2．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。白色粒子（φ１～３mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

3．黒褐色土・黄褐色土　10YR2/2＋5/6　縞り強い、粘性なし。　ロームブロック（φ10～100mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

4a．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。白色粒子（φ１～５mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

4b．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ１～５mm）を部分的に微量に含む。

5．黄褐色土・黒褐色土　10YR5/6＋2/2　縞り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI87-P01

1．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性あり。シルトを部分的に少量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に含む。

2a．褐色土　10YR4/4　縞り強い、粘性強い。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

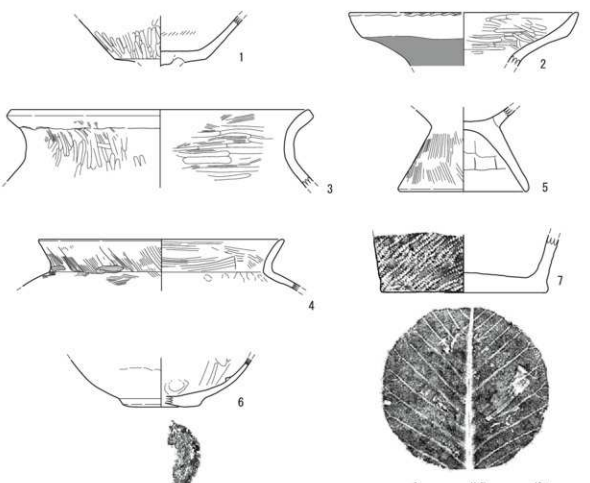
2b．褐色土　10YR4/4　縞り強い、粘性強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

3．黄褐色土　10YR5/6　縞り強い、粘性強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI87-P02

1．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第 133 図　87 号竪穴建物跡（２）



第 134 図　87 号竪穴建物跡出土遺物

第 53 表　87 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 高坏	口径：. 器高：〈4.0〉 底径：.	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・針・石英	良好	15%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	内外面ミガキ・ナデ、外面煤付着
2	土師器 壺	口径：(18.0) 器高：〈4.2〉 底径：.	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・針・石英・礫	良好	5%	にぶい赤褐 (2.5YR5/4)	口唇部刻み、口縁部外面横位ナデ、頸部外面ミガキ・赤彩、内面ミガキ、
3	土師器 甕	口径：(23.6) 器高：〈6.2〉 底径：.	白色粒子・赤色粒子・チャ・雲・針・石英・礫	良好	5%	にぶい黄橙 (10YR6/3)	口縁部外面横位ナデ、頸部外面ミガキ・ナデ、内面横位ミガキ・ナデ
4	土師器 甕	口径：(19.4) 器高：〈4.2〉 底径：.	白色粒子・黒色粒子・雲・針・石英・礫	良好	5%	にぶい褐 (7.5YR5/4)	口縁部外面斜位ハケ後横位ナデ、外面ハケ後ナデ、口縁部内面横位ハケ後横位ナデ、内面ナデ・指頭痕
5	土師器 台付き甕	口径：10.0 器高：〈6.7〉 底径：.	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・針・石英・礫	良好	40%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	外面縦位・斜位ハケ、内面ヘラナデ・ナデ、裾部内外面横位ナデ
6	土師器 甑	口径：. 器高：〈3.9〉 底径：(5.8)	白色粒子・黒色粒子・雲・針・石英・礫	良好	5%	にぶい黄橙 (10YR7/3)	外面ナデ、内面ヘラナデ・ナデ、焼成後穿孔 1 箇所残、底部木葉痕、内面・底部煤付着
7	弥生土器 壺	口径：. 器高：〈4.6〉 底径：13.0	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	15%	褐灰 (10YR5/1)	外面縄文 LR、内面ナデ、底部木葉痕

88 号竪穴建物跡（第 135 ～ 138 図・第 54 表）

平面位置　F・G－2・3

重複関係　85・87 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面、北壁、西壁、東壁の一部が検出された。長軸 5.19 m、短軸 4.05 m、深さ 0.44 m を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で北壁のほぼ中央に位置して検出された。竈構築材はシルト質土で、右袖に部分的に泥岩の構築材を使用している。焚口の底面は赤化、硬化しており被熱を受けている。ピットは 12 基検出され、主柱穴は、北西で 2 基（13・14 号ピット）、北東で 1 基（8 号ピット）の 3 基が検出されている。覆土は黒褐色土と褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（常陸型、単口縁）、器台（脚部に円孔あり）、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、甑、埦、須恵器甕、蓋、ロクロ整形の坏（内面黒色処理あり）、土師質土器の小皿縄文時代中期の阿玉台式の土器片、弥生時代中期の龍門寺式、後期の十王台式の土器片、瀬戸焼の皿、泥岩製の支脚、竈構築材、砂岩、片岩、泥岩、凝灰岩製の礫片などである。

時　　期　出土遺物の特徴から古墳時代後期と推定される。

89 号竪穴建物跡（第 139 ～ 142 図・第 55 表）

平面位置　F・G－3・4

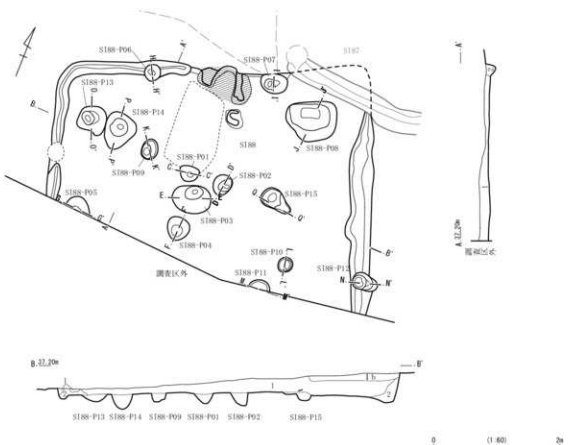
重複関係　90 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部と西壁の一部が検出された。長軸 4.43 m以上、短軸 4.28 m以上、深さ 0.50 m を測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で規模が大きく幅が約 1 mほどで、形状が保存されたまま検出されている。竈構築材はシルト質土で、泥岩の構築材を部分的に使用している。天盤の左右に一カ所ずつ掛け口と思われる埋没したピットが

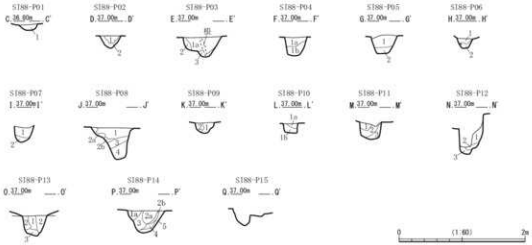
検出されている。焚口の底面は赤化、硬化しており被熱を受けている。ピットは６基検出されているが、主柱穴はない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　物　出土遺物は、土師器甕（常陸型、ハケ目調整、単口縁）、壺、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、甑、塊（小形）、須恵器甕、蓋、堤瓶、坏身、ロクロ整形の坏、高台付坏、土師質土器の小皿、片口鉢、甕、砂岩製の敲石＋磨石、アプライト製の敲石、砂岩製の台石、片岩製の二次加工石器、玉髄製の礫、砂岩、片岩、ホルンフェルス、泥岩、頁岩製の礫片などである。

時　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から古墳時代後期と推定される。



第 135 図　88 号竪穴建物跡（１）



SI88-P01
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。白色粒子（φ１～３mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に含む。

SI88-P02
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ１～２mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI88-P03
1a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ１～３mm）を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ１～５mm）を部分的に微量に含む。
2．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI88-P04
1a．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ１～３mm）を全体に、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ１～３mm）を部分的に微量に含む。
1b．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI88-P05
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。貝化物（φ１～３mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、焼土（φ１～10mm）を部分的に少量、白色粒子（φ１～３mm）を全体に少量含む。
2．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI88-P06
1．暗褐色土　10YR3/3　締りあり、粘性あり。白色粒子（φ0.5～２mm）を全体に、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2．黄褐色土　10YR5/6　締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI88-P07
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ３～10mm）を部分的に微量に含む。
2．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI88-P08
1．黒褐色土　10YR2/2　締りあり、粘性あり。ロームブロック（φ10～50mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、焼土（φ１～10mm）を部分的に微量、貝化物（φ３～５mm）を部分的に微量に含む。
2a．黒褐色土　10YR2/2　締りあり、粘性あり。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2b．黒褐色土　10YR2/2　締りあり、粘性あり。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3．黄褐色土　10YR5/6　締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
4．黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI88-P09
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI88-P10
1a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
1b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

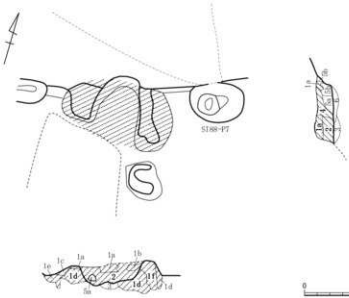
SI88-P11
1．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に、貝化物（φ５～10mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。シルト（φ５～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
3．黄褐色土＋黒褐色土　10YR5/6＋2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI88-P12
1．黒褐色土　10YR2/2　締りあり、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2．黄褐色土　10YR5/6　締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3．黒褐色土　10YR3/2　締りなし、粘性あり。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第136図　88号竪穴建物跡（2）

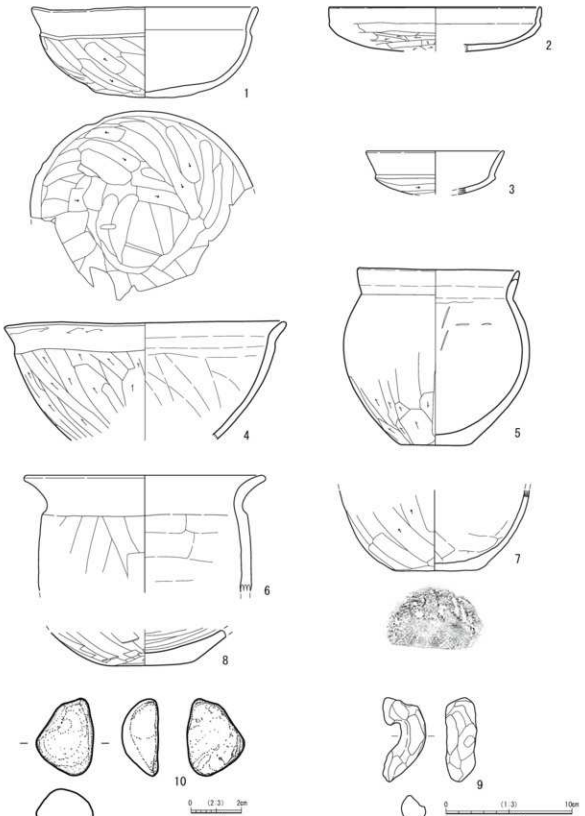
SI88-P13
1．黒褐色土・黄褐色土　10YR2/2＋5/6　縁り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　縁り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3．黒褐色土　10YR2/2　縁り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI88-P14
1．黄褐色土　10YR5/6　縁り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2a．黒褐色土　10YR2/2　縁り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に散量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ5～10mm）を部分的に散量含む。
2b．黒褐色土　10YR2/2　縁り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
3．褐色土　10YR4/6　縁り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
4．黒褐色土　10YR2/3　縁り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
5．黄褐色土　10YR5/6　縁り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。



SI-88 カマド
1a．にぶい黄褐色土　10YR7/4　縁り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土を部分的に多量、炭化物（φ1～2mm）を部分的に微量に含む。
1b．にぶい黄褐色土　10YR5/4　縁り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土を全体に多量に含む。
1c．暗褐色土　10YR3/4　縁り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、炭化物（φ5～10mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ3～20mm）を部分的に少量含む。
1d．褐色土　10YR4/6　縁り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、シルトを全体に多く、焼土（φ5～10mm）を部分的に少量含む。
1e．褐色土　10YR4/4　縁り強い、粘性なし。シルトを全体に多く、ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
1f．橙色土　5YR6/6　縁り強い、粘性なし。シルトを全体に多量に含む。
2．暗褐色土　10YR3/3　縁り強い、粘性なし。焼土を全体に多量、シルトを全体に多量、炭化物（φ1～3mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
3．明赤褐色土　5YR5/6　縁り強い、粘性なし。焼土を全体に多量に含む。
4．暗褐色土　10YR3/3　縁り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、炭化物（φ1～3mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、焼土（φ1～10mm）を部分的に少量含む。
5a．黒褐色土　10YR2/2　縁り強い、粘性なし。シルトを部分的に少量、炭化物を部分的に多量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を含む。焼土（φ1～10mm）を部分的に少量含む。
5b．暗褐色土　10YR3/3　縁り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、シルトを部分的に少量含む。

第137図　88号竪穴建物跡（3）

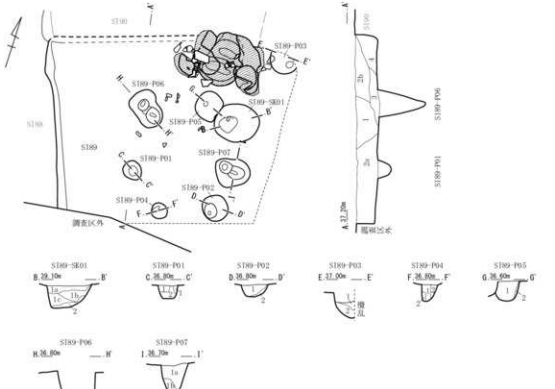


第 138 図　88 号竪穴建物跡出土遺物

第54表 88号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 鉢	口径：(17.8) 器高：7.1 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英	良好	60%	橙 (5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ、外面煤付着
2	土師器 坏	口径：(16.8) 器高：〈4.9〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲	良好	30%	にぶい黄橙 (10YR6/3)	口縁部内外面横位ナデ、底部外面ヘラケズリ、内面横位ナデ
3	土師器 坏	口径：(10.8) 器高：〈3.4〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	10%	にぶい褐 (7.5YR5/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ、内外面煤付着
4	土師器 鉢	口径：22.2 器高：〈9.1〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英	良好	20%	にぶい黄褐色 (10YR5/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位および斜位ケズリ、内面横位ナデ
5	土師器 甕	口径：12.9 器高：13.9 底径：5.1	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・チャ・石英	良好	80%	赤褐 (5YR4/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ケズリ後横位ナデ、内面横位ナデ
6	土師器 甕	口径：(18.8) 器高：〈9.1〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	5%	明赤褐 (2.5YR5/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
7	土師器 鉢	口径：- 器高：〈6.4〉 底径：6.4	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	20%	明赤褐 (5YR5/6)	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ、内面煤付着
8	土師器 甕	口径：- 器高：〈3.0〉 底径：7.2	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	黄橙 (10YR6/3)	外面縦位ケズリ、内面横位ナデ
9	土師器 甑	口径：長さ〈6.7〉 器高：幅3.4 底径：厚さ2.5	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	5% 未満	灰褐 (7.5YR4/2)	ナデ、外面煤付着、把手

図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	所見
10	磨石	チャート	3.1	2.3	1.5	13.1	三角形状を呈し、やや肉厚。全体に平滑で光沢をもつ。



SI89

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。炭化物（φ5～10mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～10mm）を全体に少量、白色粒子（φ1～3mm）を部分的に少量含む。

2a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。炭化物（φ3～15mm）を全体に少量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～10mm）を部分的に少量、白色粒子（φ1～3mm）を部分的に少量含む。

2b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。白色粒子（φ1～3mm）を全体に、炭化物（φ1～10mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ3～10mm）を部分的に少量含む。

3．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。白色粒子を部分的に少量、炭化物（φ1～5mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、焼土（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。

4．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。白色粒子（φ1～3mm）を部分的に微量、炭化物（φ3～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～70mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～10mm）を全体に少量含む。

SI89-SK01

1a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。炭化物（φ5～10mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、焼土（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。

1b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルトを部分的に少量、炭化物（φ5～30mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。

1c．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。炭化物（φ5～10mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ3～10mm）を部分的に微量に含む。

2．黒褐色土・黄褐色土　10YR2/2+5/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI89-P01

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI89-P02

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

SI89-P03

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に含む。

SI89-P04

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～3mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

2．黄褐色土・黒褐色土　10YR5/6+2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI89-P05

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～100mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

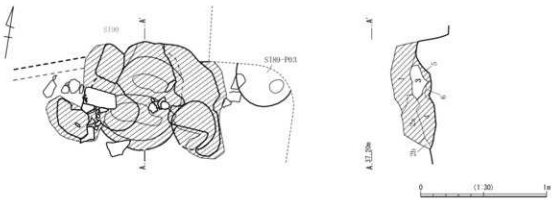
2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI89-P07

1a．黒褐色土　10YR2/3　締りなし、粘性あり。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

1b．黒褐色土　10YR2/3　締りなし、粘性あり。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

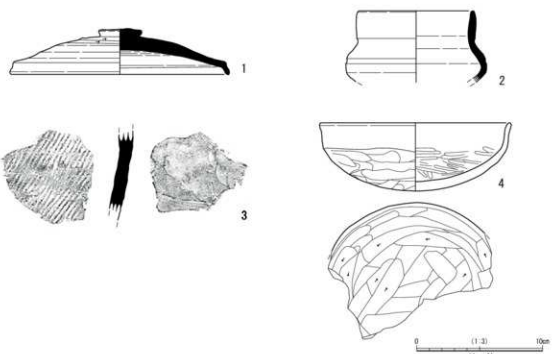
第139図　89号竪穴建物跡（1）



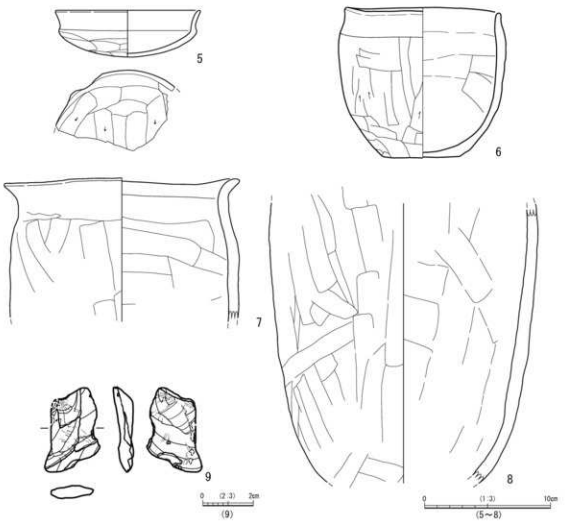
S189-カマド

1．にぶい黄褐色土　10YR5/4　縞り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼化物（φ1～5mm）を部分的に少量、焼土を部分的に含む。
2a．黒褐色土　10YR3/2　縞り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土（φ5～20mm）を部分的に少量含む。
2b．黒褐色土　10YR2/3　縞り強い、粘性なし。シルトを部分的に少量、焼土（φ5～10mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に少量含む。
3．赤褐色土　5YR4/6　縞り強い、粘性なし。焼土を全体に多量、シルトを部分的に多く含む。
4．明赤褐色土　5YR5/6　縞り強い、粘性なし。焼土を全体に多量、シルトを全体に多く、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
5．黒褐色土　10YR2/3　縞り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土（φ3～10mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に少量含む。
6．にぶい黄褐色土　10YR7/4　縞り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土を部分的に多く含む。

第140図　89号竪穴建物跡（2）



第141図　89号竪穴建物跡出土遺物（1）



第142図 89号竪穴建物跡出土遺物（2）

第55表 89号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 蓋	摘み径：3.4 器高：3.7 底径：(17.2)	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・チャ・針・石英・礫	良好	55%	灰 (5Y6/1)	内外面ナデ、外面上部回転ヘラケズリ
2	須恵器 短頸壺	口径：(9.0) 器高：〈5.7〉 底径：.	白色粒子・赤色粒子・雲・チャ・石英・礫	良好	10%	灰 (5Y6/1)	内外面ナデ
3	須恵器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・針・石英・礫	良好	5%未満	黄灰 (2.5Y6/1)	外面平行叩き痕、内面ヘラナデ・ナデ
4	土師器 坏	口径：(15.0) 器高：5.5 底径：.	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	35%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ
5	土師器 坏	口径：(11.4) 器高：3.7 底径：.	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	30%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
6	土師器 甕	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	95%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ケズリ後下端部横位ケズリ、内面横位ナデ
7	土師器 甕	口径：(18.2) 器高：〈11.4〉 底径：.	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	25%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
8	土師器 甕	口径：- 器高：〈22.2〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	25%	にぶい橙(7.5YR6/4)	外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	所見
9	剥片	頁岩	3.7	2.7	0.5	3.5	打点・打面をもつ縦長剥片。

90号竪穴建物跡（第143～145図・第56表）

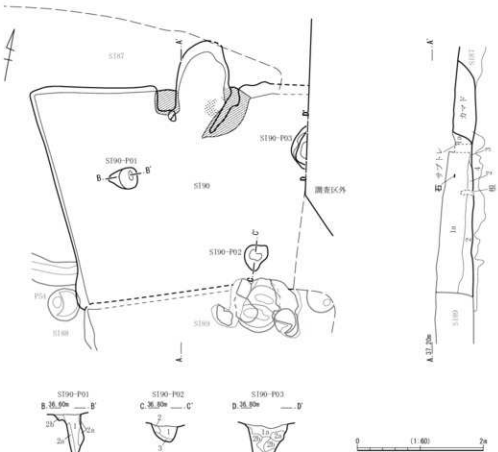
平面位置　F－3、G－3・4

重複関係　89号竪穴建物跡、54号ピットより古く、87号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部、北壁と西壁の一部が検出された。長軸4.43ｍ以上、短軸4.28ｍ以上、深さ0.50ｍを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈であるが幅が１ｍ以上と規模が大きい。意図的に破壊されて潰れており、竈構築材の泥岩の天板が外されて焚口の床面に放置されて検出されている。竈構築材はシルト質土で、泥岩の構築材を部分的に使用しており、頑丈な構造を持っていたものと推定される。ピットは５基検出されているが、主柱穴はない。覆土は黒褐色土を主体とし、褐色土を含む自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（ハケ目調整、単口縁、常陸型、台付）、壺（折返し口縁、装飾あり）、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、甑、塊、須恵器甕、壺、蓋、坏、高台付、土師質土器の小皿、折返し口縁の甕、弥生時代後期の十王台式の土器片、土製の支脚？、石英製の剥片、片岩製の磨石、片岩製の抉状耳飾り、泥岩製の竈構築材、泥岩製の支脚、砂岩、泥岩製の礫、砂岩、片岩、片麻岩、石英、泥岩製の礫片などである。

時　　期　古墳時代後期と推定される。



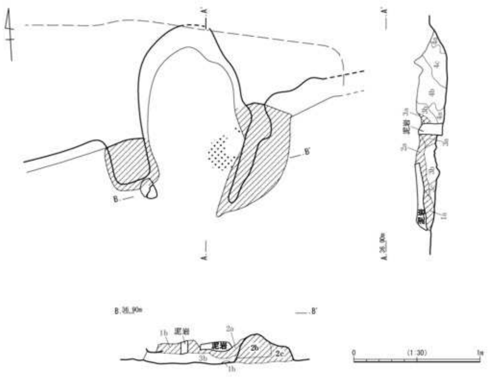
ST90
1a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性なし。白色粒子（φ１～５㎜）を部分的に少量，炭化物（φ１～10㎜）を部分的に少量，ロームブロック（φ10～30㎜）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多く，焼土（φ３～10㎜）を部分的に少量含む。
1b．黒褐色土　10YR3/2　締り強い，粘性なし。白色粒子（φ１～３㎜）を全体に多く，炭化物（φ２～15㎜）を全体に多く，ロームブロック（φ10～20㎜）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多く，焼土（φ１～10㎜）を部分的に少量含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性なし。炭化物（φ５～10㎜）を部分的に散量，ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多く，ロームブロック（φ10～50㎜）を部分的に少量，焼土（φ５～10㎜）を部分的に散量含む。
3．褐色土　10YR4/6　締り強い，粘性なし。ロームブロックを部分的に多量，ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量，焼土（φ５～10㎜）を部分的に散量に含む。
4．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性なし。ロームブロックを全体に多量，ローム粒子（φ0.5～10）を全体に多量に含む。

ST90-P01
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性なし。炭化物（φ10～20㎜）を部分的に少量，ロームブロック（φ0.5～10㎜）を全体に多く含む。
2a．黒褐色土　10YR2/2　締りあり，粘性なし。ロームブロック（φ10～30㎜）を部分的に多く，ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多く含む。
2b．黒褐色土・黄褐色土　10YR2/2+5/6　締りあり，粘性なし。ロームブロックを部分的に多量，ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量に含む。

ST90-P02
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性なし。シルトを部分的に少量，ロームブロック（φ10～50㎜）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量，焼土（φ３～15㎜）を部分的に少量含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性なし。ロームブロック（φ10～20㎜）を部分的に少量，ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に，焼土（φ５～15㎜）を部分的に少量，シルトを部分的に少量含む。
3．黒褐色土・黄褐色土　10YR2/2+5/6　締り強い，粘性あり。ロームブロックを全体に多量，ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量に含む。

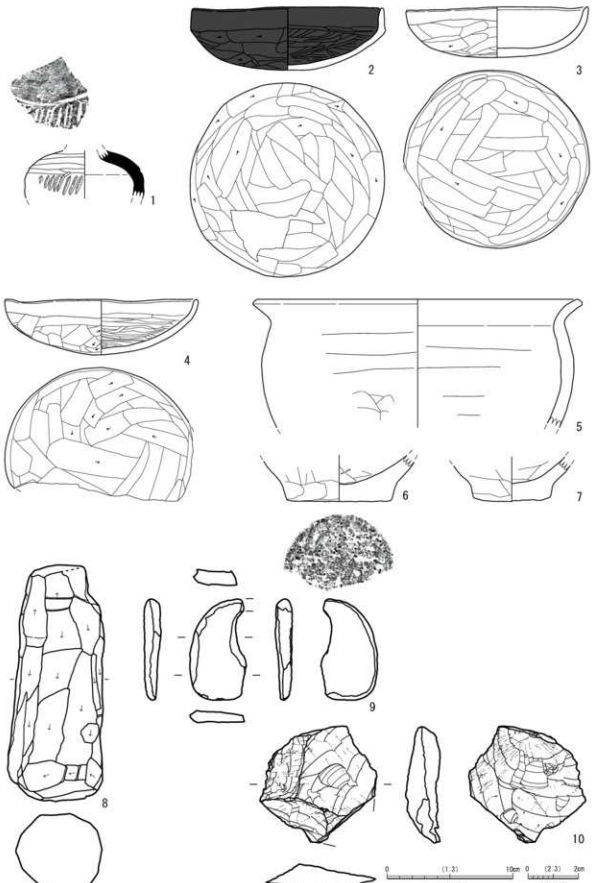
ST90-P03
1a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性なし。白色粒子（φ１～２㎜）を全体に少量，ロームブロック（φ10～60㎜）を全体に，ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多く含む。
1b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い，粘性なし。ロームブロック（φ10～30㎜）を全体に多く，ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量に含む。
2a．黄褐色土・黒褐色土　10YR5/6+2/2　締り強い，粘性なし。ロームブロック（φ10～60㎜）を全体に多く，ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量に含む。
2b．黄褐色土・黒褐色土　10YR5/6+2/3　締り強い，粘性なし。ロームブロックを全体に多量，ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量に含む。

第 143 図　90 号竪穴建物跡（１）



SI90-カマド
1a. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量に含む。
1b. にぶい黄褐色土　10YR5/4　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量に含む。
2a. 暗褐色土　10YR3/3　締り、粘性。焼土を全体に多く、シルトを全体に多量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2b. 灰黄褐色土　10YR5/2　締り強い、粘性あり。シルトを全体に多量、炭化物（φ5～10mm）を部分的に微量、焼土（φ1～20mm）を部分的に少量含む。
2c. 暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性あり。シルトを全体に多量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～20mm）を部分的に少量含む。
3a. 褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性なし。焼土を全体に多量、シルトを全体に多量に含む。
3b. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。焼土を全体に多く、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
3c. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。焼土（φ1～10mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
4a. 黒褐色土・黄褐色土　10YR2/2+5/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
4b. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルトを部分的に少量、ロームブロック（φ10～50mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ5～10mm）を部分的に少量含む。
4c. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルトを部分的に多く、ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ5～15mm）を部分的に少量含む。

第144図　90号竪穴建物跡（2）



第145図 90号竪穴建物跡出土遺物

第 56 表　90 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 はそう	口径：- 器高：〈3.8〉 底径：-	白色粒子・赤色粒子・礫	良好	5% 未満	灰 (N4/0)	内外面ロクロナデ後横位沈線で帯状に区画し、櫛歯状工具による斜位の刺突
2	土師器 坏	口径：15 器高：4.9 底径：-	白色粒子・石英・礫	良好	95%	黒褐 (7.5YR3/1)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ、全面黒色処理
3	土師器 坏	口径：14.4 器高：4.4 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・針・石英・礫	良好	95%	橙 (7.5YR6/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
4	土師器 坏	口径：15 器高：4.5 底径：-	白色粒子・雲・石英・礫	良好	60%	にぶい褐 (7.5YR5/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ、内外面煤付着
5	土師器 甕	口径：〈25.6〉 器高：〈10.3〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	5%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面上位横位ナデ・下位ヘラケズリ、内面横位ナデ
6	土師器 甕	口径：- 器高：〈3.7〉 底径：8.0	白色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	5%	にぶい褐 (7.5YR5/4)	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
7	土師器 甕	口径：- 器高：〈3.5〉 底径：6.0	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	5%	赤褐 (5YR4/6)	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
8	支脚	泥岩	<18.7>	<7.6>	<7.8>	611.2	一部は欠損や風化しているものの、ケズリの単位がわかる。面取り成形。
9	抉状耳飾	片岩	4.2	2.3	0.6	6.3	右側欠損。楕円形型で中央孔は楕円形。全体に板状。
10	剥片	石英	4.3	4.7	1.1	22.2	打点・打面のある剥片。

第５節　奈良・平安時代

（１）遺構の概要

奈良時代の遺構は、竪穴建物跡が１軒検出され、平安時代の遺構は、竪穴建物跡８軒、焼土遺構１基が検出されている。遺構の平面分布は、調査区北区では少なく、西区で平安時代の竪穴建物跡がまとまって検出されている。

（２）竪穴建物跡

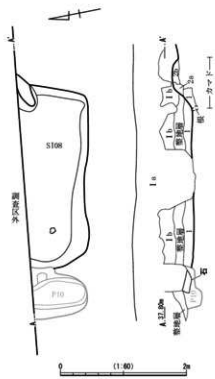
８号竪穴建物跡（第 146・147 図・第 57 表）

平面位置　AH・AI－28・29

重複関係　ピット－10より古い。

遺構形態　遺構は床面の一部、南壁と東西の壁の一部が検出された。平面形は隅丸方形で P10 に切られている。長軸 3.07 m以上、短軸 1.15 m以上、深さ 0.19 mを測る。竈は東竈で、片袖と煙道部が検出されている。竈構築材はシルト質土である。ピットは検出されなかった。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

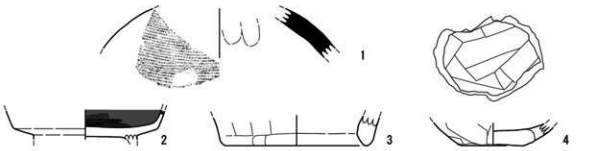
遺　　物　出土遺物は、土師器甕、甑、ロクロ整形内面黒色処理の高盤、高台付坏、須恵器坏蓋模



SI08
1．黒褐色土　10YR3/1　締りあり、粘性あり。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

SI08カマド
1．に忌い黄褐色土　10YR5/3　締り強い、粘性あり。シルトを全体に多量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に多く、焼土（φ1～20mm）を部分的に微量に含む。
2a．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性あり。シルトを部分的に多量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2b．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性あり。シルトを部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

第 146 図　８号竪穴建物跡



第147図　8号竪穴建物跡出土遺物

第57表　8号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	須恵器 壺	口径：- 器高：〈3.9〉 底径：-	赤色粒子・石英・礫	良好	5% 未満	褐灰 (10YR5/1)	外面横位ハケ、内面指押え・ナデ
2	土師器 高盤	口径：- 器高：〈2.2〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・角・石英	良好	10%	にぶい黄橙 (10YR7/3)	外面横位ナデ、内面ミガキ・黒色処理、高台欠損
3	土師器 椀	口径：- 器高：〈2.3〉 底径：(11.2)	白色粒子・石英・礫	良好	5% 未満	にぶい橙 (7.5YR6/4)	外面ヘラケズリ、内面ナデ
4	土師器 甕	口径：- 器高：〈1.8〉 底径：(5.0)	白色粒子・赤色粒子 色粒子・石英	良好	5% 未満	にぶい赤褐 (5YR5/4)	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

倣の坏、須恵器甕、壺、器面に「×」の刻印のある坏、縄文時代前期の土器片、泥岩、片岩製の礫片、近現代の磁器破片などである。

時　　期　出土遺物の特徴から奈良時代と推定される。

46号竪穴建物跡（第148～151図・第58表）

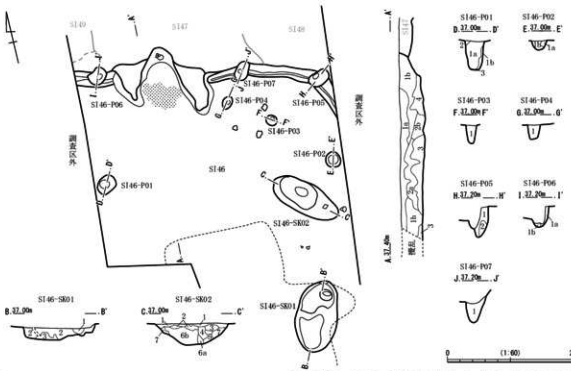
平面位置　AC～AE－4～6

重複関係　47～49号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部、北壁と東壁の一部が検出された。長軸4.54 m以上、短軸3.7 m以上、深さ0.41 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、北壁から東壁の際で周溝が検出されている。壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で、両袖と煙道部が検出されている。竈構築材はシルト質土で、焚口の床面には赤化、硬化した焼土範囲が残存している。土坑は2基検出され、ピットは12基検出されたが、主柱穴は不明である。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（常陸型、ハケ目、有段口縁）、器台（ハケ目調整）、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、赤彩の坏、甑、塊、須恵器甕、蓋、坏の破片、ロクロ整形内面黒色処理の坏（墨書あり）、高台付坏、土師質土器の小皿、片麻岩製の敲石、縄文時代中期、後期の土器片、片麻岩製の敲石、片岩製の磨石、片麻岩製の凹石＋敲石＋磨石、泥岩製の砥石、泥岩製の礫、片岩、泥岩、石英製の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。



SI46

1a. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ 1～3 mm）を全体に少量、炭化物（φ 1～5 mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ 10mm～）を部分的に少量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ 1～10mm）を部分的に少量含む。

1b. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ 1～3 mm）を部分的に少量、炭化物（φ 1～5 mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ 10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ 1～10 mm）を部分的に少量含む。

2a. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ 1～3 mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ 10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ 1～10mm）を部分的に少量、シルトを部分的に含む。

2b. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、炭化物（φ 5～10mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ 10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ 0.5～10 mm）を全体に少量、焼土（φ 1～10mm）を部分的に少量含む。

3．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、炭化物（φ 3～5 mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ 10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ 0.5～10 mm）を部分的に少量、焼土（φ 1～20mm）を部分的に少量含む。

4．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。シルトを部分的に、焼土を全体に多量、炭化物（φ 5～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ 10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に含む。

SI46-SK01

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ 10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に含む。

2．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多量に含む。

3．褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI46-SK02

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。炭化物（φ 5～15mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ 10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ 3～20mm）を部分的に少量、シルト（φ 5～30 mm）を部分的に少量含む。

2．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多量、シルトを部分的に少量含む。

3．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ 10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ 3～5 mm）を部分的に微量に含む。

4．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。シルトを部分的に少量、ロームブロック（φ 10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多く含む。

5．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多量に含む。

6a. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ 10～50mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多く含む。

6b. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ 10～50mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多量に含む。焼土を含む。

7．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。シルトを部分的に多量、ロームブロック（φ 10～50mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI46-P01

1a. 黒褐色土　10YR2/2　締めあり、粘性なし。　焼土（φ 1～3 mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ 10～50 mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ 0.5～ 10 mm）を全体に少量含む。

1b. 黒褐色土　10YR2/2　締めあり、粘性なし。　ロームブロック（φ 10～20 mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ 0.5～ 10 mm）を全体に少量含む。

2．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。　焼土（φ 3～ 10 mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ 10～30 mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ 0.5～ 10 mm）を全体に多く含む。

3．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。　ロームブロック（φ 10～20 mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ 0.5～ 10 mm）を全体に多量、焼土（φ 5～ 15 mm）を部分的に少量含む。

SI46-P02

1a. 黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。　ロームブロック（φ 10～30 mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ 0.5～ 10 mm）を全体に多量に含む。

1b. 黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。　ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ 0.5～ 10 mm）を含む。

SI46-P03

1．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性あり。　ロームブロック（φ 10～ 30 mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ 0.5～ 10 mm）を全体に多く含む。

SI46-P04

1．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性あり。　炭化物（φ 3～ 10 mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ 10～ 50 mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ 0.5～ 10 mm）を全体に多く、焼土（φ 3～ 10 mm）を部分的に少量含む。

SI46-P05

1．黒褐色土　10YR2/2　締めあり、粘性あり。　ロームブロック（φ 10～ 50 mm）を部分的に多量、ローム粒子（φ 0.5～ 10 mm）を全体に多量に含む。

2．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性あり。　ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ 0.5～ 10 mm）を全体に多量に含む。

SI46-P06

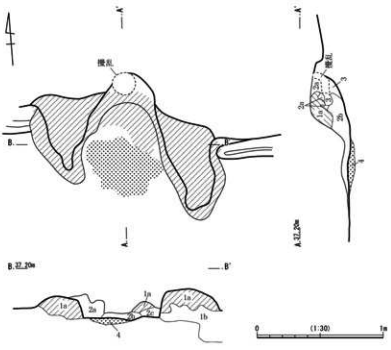
1a. 暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性あり。　ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ 0.5～ 10 mm）を全体に多量に含む。

1b. 明黄褐色土　10YR6/6　締り強い、粘性あり。　ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ 0.5～ 10 mm）を全体に多量に含む。

SI46-P07

1．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。　ロームブロック（φ 10～30 mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ 0.5～10mm）を全体に多く含む。

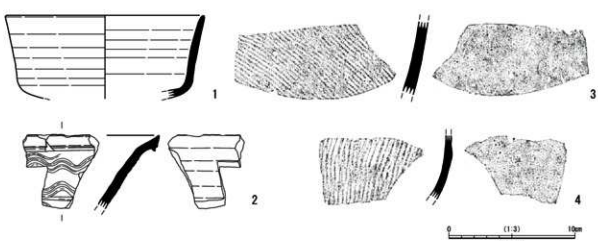
第 148 図　46 号竪穴建物跡



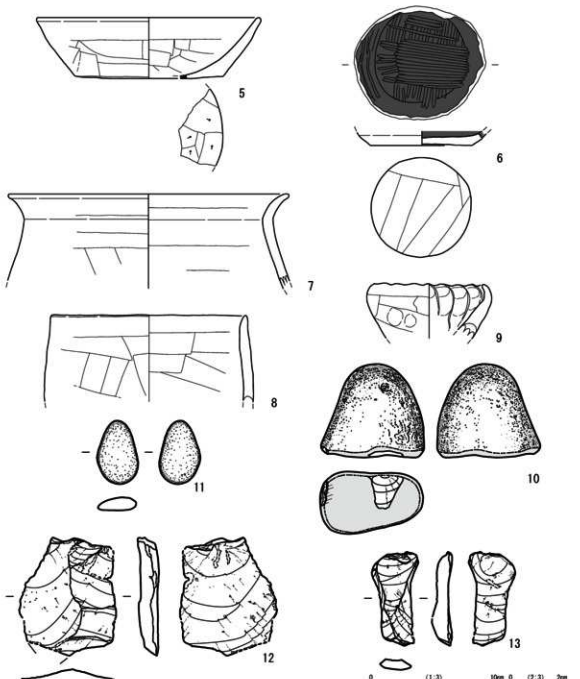
SI46 カマド

1a．褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土（φ１～10mm）を部分的に少量含む。
1b．褐色土　7.5YR4/3　締り強い、粘性なし。シルトを含む。焼土を全体に多量に含む。
2a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を含む。焼土（φ１～10mm）を部分的に微量に含む。
2b．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。炭化物（φ10～20mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～60mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ10～20mm）を全体に多量に含む。
2c．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。炭化物（φ１～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ１～10mm）を部分的に含む。
3．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを含む。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
4．暗赤褐色土　5YR3/6　締り強い、粘性あり。焼土を全体に多量に含む。

第 149 図　46 号竪穴建物跡カマド



第 150 図　46 号竪穴建物跡出土遺物（１）



第 151 図　46 号竪穴建物跡出土遺物（2）

第 58 表　46 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 坏	口径：(15.8) 器高：(6.6) 底径：.	白色粒子・赤色粒子・石英	良好	10%	黄灰 (2.5Y6/1)	内外面ロクロナデ
2	須恵器 甕	口径：. 器高：(5.8) 底径：.	白色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	5% 未満	黄灰 (2.5Y6/1)	外面横位波状文 2 条残

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
3	須恵器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・礫	良好	5% 未満	黄灰 (2.5Y4/1)	外面平行叩き痕、内面ヘラナデ・ナデ
4	須恵器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・石英・礫	良好	5% 未満	灰 (N4/0)	外面平行叩き痕、内面ヘラナデ・ナデ
5	土師器 坏	口径：(17.6) 器高：4.9 底径：(11.6)	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	10%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ、底部ヘラケズリ
6	土師器 内黒坏	口径：- 器高：(1.1) 底径：8.0	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・針・石英・礫	良好	5%	にぶい黄褐 (10YR5/3)	外面ヘラケズリ、内面ミガキ・ナデ・黒色処理、底部ヘラケズリ
7	土師器 甕	口径：(22.0) 器高：(7.6) 底径：-	白色粒子・石英・礫	良好	5%	明赤褐 (5YR5/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
8	土師器 甕	口径：(15.2) 器高：(6.9) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	10%	にぶい褐 (7.5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面横位・縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
9	土師器 ミニチュア	口径：(8.6) 器高：(4.4) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・礫	良好	10%	にぶい赤褐 (5YR5/4)	外面ヘラナデ・指頭痕、内面指押え

図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	所見
10	スタンプ型石器	砂岩	7.4	8.2	5.5	486.1	下端面は一部を除き使用により平滑になっている。また、下端面から側面にかけても使用により丸く滑らかになっている。
11	磨石	砂岩	2.1	1.6	0.5	3.0	扁平で楕円形の形状。
12	剥片	黒色頁岩	(4.7)	3.8	0.7	13.8	打点・打面の残る縦長剥片。下部欠損。
13	剥片	黒色頁岩	3.7	1.9	4.4	3.4	打点・打面の残る縦長剥片で打面は自然面。

47号竪穴建物跡（第152～153図・第59表）

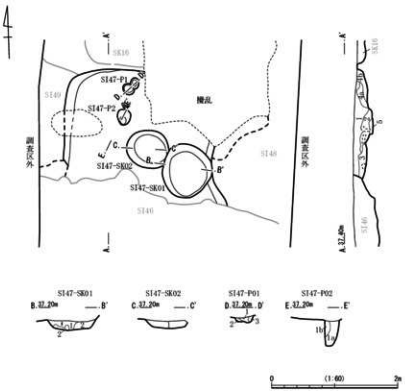
平面位置　AE－45

重複関係　46号竪穴建物跡より古く、49号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部と北壁と西壁の一部が検出された。長軸2.59 m以上、短軸2.16 m以上、深さ0.31 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。土坑は2基検出され、ピットは2基検出されたが主柱穴はない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　物　出土遺物は、土師器甕、縄文時代前期、中期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、頁岩製の石鏃、泥岩製の竈構築材、片麻岩製の礫、泥岩製の礫片などである。

時　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。



SI47

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ１～３mm）を全体に少量、炭化物（φ１～10mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、焼土（φ１～10mm）を部分的に少量、シルトを部分的に少量含む。

2．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ１～３mm）を部分的に散量、シルト（φ１～10mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

3．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ１～３mm）を全体に少量、シルトを全体に、ロームブロック（φ10～100mm）を部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ１～10mm）を部分的に少量含む。

4a．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ１～３mm）を全体に少量、焼土（φ１～３mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

4b．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ１～３mm）を部分的に、焼土（φ１～３mm）を全体に少量、ロームブックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

5．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI47-SK01

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。炭化物（φ５～10mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～70mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ５～15mm）を部分的に、シルト（φ３～50mm）を部分的に少量含む。

2．褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を多量、シルト（φ３～50mm）を部分的に含む

SI47-SK02

1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。炭化物（φ３～10mm）を部分的に少量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ３～15mm）を部分的に少量、シルト（φ３～50mm）を部分的に少量含む。

SI47-P01

1．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

2．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

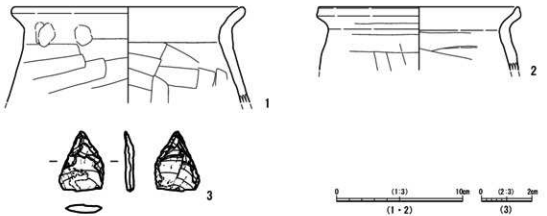
3．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI47-P02

1a．黒褐色土　10YR2/2　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、炭化物（φ１～３mm）を部分的に散量に含む。

1b．黒褐色土　10YR2/2　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

第 152 図　47 号竪穴建物跡



第 153 図　47 号竪穴建物跡出土遺物

第 59 表　47 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：(18.0) 器高：(7.6) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	5%	にぶい橙(7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ前調痕、外面横位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
2	土師器 甕	口径：(15.8) 器高：(5.0) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	5% 未満	明赤褐(5YR5/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	所見
3	石鏃未製品	頁岩	2.4	1.7	0.3	1.3	打点・打面を基部とし先端部から調整。左側面の欠損で終了。

50 号竪穴建物跡（第 154 ～ 157 図・第 60 表）

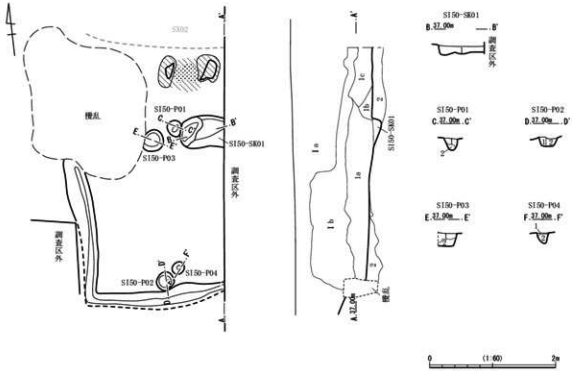
平面位置　Y・Z－4

重複関係　2 号性格不明遺構より古い。

遺構形態　遺構は、床面、西壁の一部が検出され、長軸 4.04 m以上、短軸 2.70 m以上、深さ 0.44 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、西壁と南壁の際では周溝が検出されている。壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で両袖が部分的に検出されている。竈構築材はシルト質土で構成され、部分的に泥岩の構築材が使用される。焚口の床面は赤化、硬化している。竈の覆土内から土師器、須恵器、焼成粘土塊などが検出されている。土坑は竈の南側から 1 基検出され、ピットは 4 基検出されているが、主柱穴はない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（単口縁平底）、須恵器坏蓋模倣の坏、内面黒色処理の椀、須恵器甕、坏、土師質土器の小皿、縄文時代中期、後期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、片岩・珪質頁岩製の二次加工石器、泥岩製の竈構築材、砂岩製の礫、砂岩、アプライト、片麻岩製の礫片などである。

時　　期　出土遺物の特徴から平安時代と推定される。



SI50
1a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。炭化物（φ5～15mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ3～10mm）を部分的に微量に含む。
1b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ3～15mm）を部分的に微量に含む。
1c．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。シルトを部分的に多量、炭化物（φ3～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ3～5mm）を部分的に少量含む。
2．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI50-SK01
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

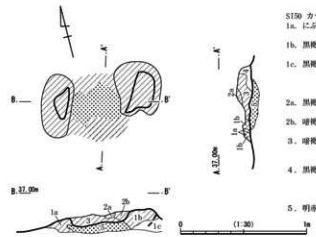
SI50-P01
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
2．褐色土　10YR4/4　締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI50-P02
1．黒褐色土　10YR2/2　締りあり、粘性あり。ロームブロック（φ10～50mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2．褐色土　10YR4/4　締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI50-P03
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ5～10mm）を部分的に微量に含む。
2．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～50mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI50-P04
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第154図　50号竪穴建物跡



5150 カマド

1a. にぶい黄橙色土　10YR6/4　縞り強い、粘性あり。シルトを全体に多量、炭化物（φ3～5mm）を部分的に微量に含む。

1b. 黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性あり。シルトを全体に多く、焼土を部分的に多く含む。

1c. 黒褐色土　10YR2/3　縞り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、炭化物（φ5～10mm）を部分的に少量、焼土（φ5～10mm）を部分的に少量含む。

2a. 黒褐色土　10YR3/2　縞り強い、粘性あり。シルトを部分的に多量、焼土を全体に多く含む。

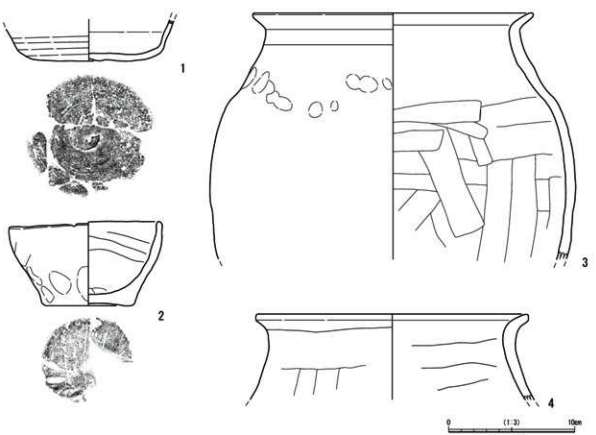
2b. 暗褐色土　10YR3/3　縞り強い、粘性あり。焼土（φ3～10mm）を全体に多く、シルトを全体に多く含む。

3．暗褐色土　10YR3/4　縞り強い、粘性あり。シルトを全体に多量、ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土を部分的に多く含む。

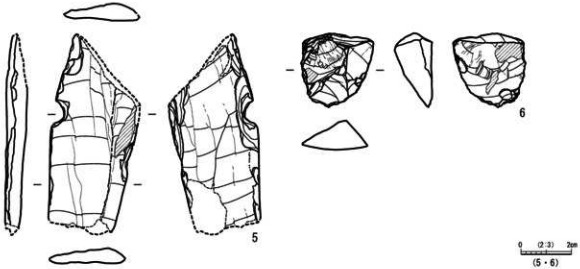
4．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性あり。炭化物（φ5～10mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土を全体に多量に含む。

5．明赤褐色土　5YR5/6　縞り強い、粘性あり。焼土を全体に多量に含む。

第 155 図　50 号竪穴建物跡カマド



第 156 図　50 号竪穴建物跡出土遺物（1）



第157図　50号竪穴建物跡出土遺物（2）

第60表　50号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 坏	口径：- 器高：〈3.3〉 底径：9.0	白色粒子・黒色粒子・チャ・雲・石英	良好	55%	明赤褐 (5YR5/6)	内外面ナデ、底部回転ヘラケズリ、須恵器模倣
2	土師器 鉢	口径：11.8 器高：6.6 底径：6.8	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・チャ・石英・礫	良好	95%	にぶい赤褐 (5YR5/4)	外面ヘラケズリ・指頭痕、内面ヘラナデ・ナデ、底部木葉痕
3	土師器 甕	口径：〈22.0〉 器高：〈19.6〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	20%	明褐 (7.5YR5/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面器面剥落・指頭痕、内面ヘラナデ・ナデ
4	土師器 甕	口径：〈22.0〉 器高：〈6.9〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	5%	明赤褐 (5YR5/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	所見
5	二次加工石器	片岩	8.0	3.1	0.8	21.0	上・下部欠損。左右側面に二次加工が施されている。
6	二次加工石器	珪質頁岩	3.0	2.8	1.2	9.1	左右側面、下部に細かな二次加工が施されている。

53号竪穴建物跡（第158・159図・第61表）

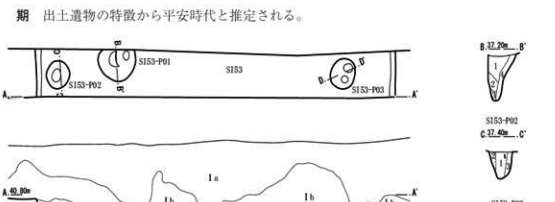
平面位置　V－56・W－36・37

重複関係　なし

遺構形態　遺構は床面の一部、北壁と南壁の一部が検出された。長軸5.72ｍ以上、短軸0.67ｍ以上、深さ0.39ｍを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがある。北壁は緩やかに、南壁は急角度に立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは3基検出され、南側の1号ピットが主柱穴の可能性がある。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺　物　出土遺物は、土師器甕（常陸型、ハケ目）、坏、ロクロ成形の坏、高台付坏（弥生時代後期の十王台式の土器片、砂岩製の磨石、砂岩製の礫、泥岩、アプライト、片岩、石英斑岩製の礫片などである。

時　期　出土遺物の特徴から平安時代と推定される。



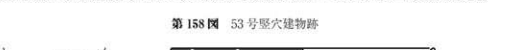
SI53
1．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ1～3㎜）を全体に少量含む。
2．暗褐色土　10YR3/4　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に少量、ローム粒子（φ1～3㎜）を全体に少量、焼土（φ10～30㎜）を部分的に微量に含む。
3．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ1～10㎜）を全体に多く含む。

SI53-P01
1a．黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20㎜）を部分的に微量、ローム粒子（φ1～3㎜）を全体に微量に含む。
2．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締りあり、粘性あり。ロームブロック（φ20～50㎜）を全体に少量、ローム粒子（φ1～5㎜）を全体に多く含む。
1b．黒褐色土　10YR2/3　締りなし、粘性あり。ロームブロック（φ10㎜～）を部分的に少量、ローム粒子（φ1～3㎜）を全体に微量に含む。
3．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ5～10㎜）を部分的に微量、ローム粒子（φ1～3㎜）を全体に少量含む。

SI53-P02
1．黒褐色土　10YR3/2　締りなし、粘性あり。ロームブロック（φ10㎜～）を部分的に微量、ローム粒子（φ1～3㎜）を全体に少量含む。
2．褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～15㎜）を全体に多く、ローム粒子（φ1～3㎜）を全体に多く含む。
3．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～15㎜）を部分的に少量、ローム粒子（φ1～3㎜）を全体に少量含む。

SI53-P03
1．暗褐色土　10YR3/4　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～30㎜）を部分的に微量、ローム粒子（φ1～5㎜）を全体に微量に含む。

第 158 図　53 号竪穴建物跡



第 159 図　53 号竪穴建物跡出土遺物

第 61 表　53 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
1	土師器 高台付坏	口径：- 器高：〈2.3〉 底径：5.0	白色粒子・針・雲	良好	5%	黒（N2/0）	外面ナデ、内面ミガキ・ナデ、全面黒色処理、高台欠損
2	土師器 甕	口径：〈20.6〉 器高：〈7.8〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	5%	にぶい赤褐（5YR5/4）	口縁部内外面横位ナデ、外面横位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

54号竪穴建物跡（第160～162図・第62表）

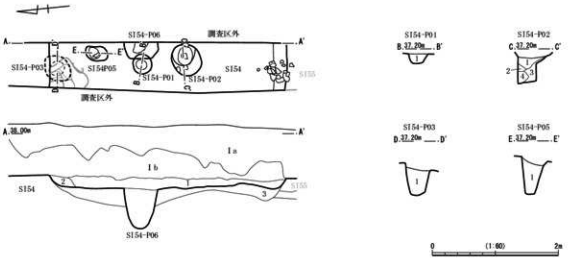
平面位置　U・V－36

重複関係　55号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部、北壁と南壁の一部が検出された、長軸3.77ｍ以上、短軸0.80ｍ以上、深さ0.23ｍを測る。床はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。竈は、北竈で右袖の一部が検出されている。竈構築材はシルト質土で、使用面は被熱による赤化、硬化を受けていない。ピットは５基検出されているが主柱穴はない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（常陸型、単口縁）、須恵器坏蓋模倣の坏、ロクロ整形の坏、内面黒色処理の鉢、須恵器蓋、坏、鉢、高台付坏、古銭破片、鉄製品、土師質土器の小皿、縄文時代前期の土器片、凝灰岩製の砥石、片岩製の礫片などである。

時　　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。



S154
Ⅰa．黒褐色土　10YR2/2　締りなし、粘性なし。ローム粒子（φ１～５mm）を部分的に微量に含む。
Ⅰb．黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ１～５mm）を部分的に少量含む。
１．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。焼化物（φ５～10mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ１～３mm）を全体に微量、焼土（φ５～10mm）を部分的に微量に含む。
２．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。焼化物（φ５～８mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ１～３mm）を全体に少量、焼土（φ５～10mm）を部分的に少量含む。
３．黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性なし。ロームブロックを全体に少量、ローム粒子（φ１～３mm）を全体に微量に含む。

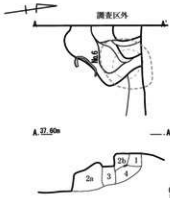
S154-P01
１．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子を部分的に微量に含む。

S154-P02
１．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。焼化物（φ３～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ１～５mm）を全体に微量、焼土（φ１～５mm）を部分的に微量に含む。
２a．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～40mm）を全体に少量、ローム粒子（φ１～５mm）を全体に多く含む。
２b．暗褐色土　10YR4/4　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ15～60mm）を全体に多く、ローム粒子（φ１～５mm）を全体に多く含む。
３．暗褐色土　10YR3/3　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ１～５mm）を全体に少量含む。

S154-P03
１．黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性なし。ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子（φ１～５mm）を全体に少量含む。

S154-P05
１．黒褐色土　10YR2/2　締りあり、粘性なし。ロームブロックを部分的に少量、ローム粒子（φ１～３mm）を全体に微量、粘土（φ５～10mm）を全体に微量に含む。

第160図　54号竪穴建物跡



SI54 カマド

1．黒褐色土　10YR2/3　締りあり、粘性なし。　ローム粒子（φ1～5mm）を全体に微量に含む。

2a．灰黄褐色土　10YR6/2　締り強い、粘性なし。　ロームブロック（φ1～5mm）を全体に微量、焼土（φ5～8mm）を部分的に微量、粘土（φ1～30mm）を全体に多量に含む。

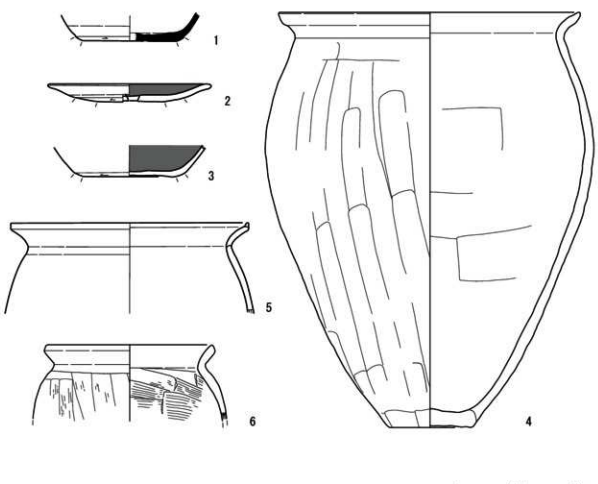
2b．灰黄褐色土　10YR4/2　締り強い、粘性なし。　ローム粒子（φ1～5mm）を全体に少量、粘土（φ5～20mm）を全体に多量に含む。

2c．灰黄褐色土　10YR5/2　締り強い、粘性なし。　ローム粒子（φ1～5mm）を全体に微量、粘土（φ10～20mm）を全体に多く含む。

3．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。　炭化物（φ5～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に微量、ロームブロックを部分的に微量に含む。

4．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。　炭化物（φ5～10mm）を全体に微量、ローム粒子（φ5～20mm）を全体に少量含む。

第161図　54号竪穴建物跡カマド



第162図　54号竪穴建物跡出土遺物

第 62 表　54 号竪穴建物跡出土遺物観察表

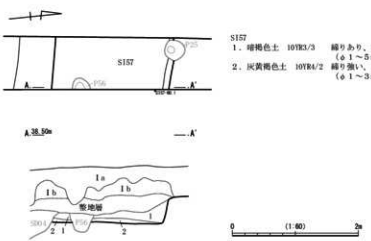
図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 坏	口径：- 器高：〈2.1〉 底径：(7.5)	白色粒子・石英	良好	5%	灰 (N5/0)	内外面ロクロナデ、底部外面回転ヘラケズリ
2	土師器 皿	口径：- 器高：〈1.2〉 底径：(5.4)	白色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	30%	にぶい褐 (7.5YR5/4)	内外面ロクロナデ、体部下端および底部外面回転ヘラケズリ、内面黒色処理・細かなミガキ、底部穿孔あり
3	土師器 坏	口径：(20.5) 器高：(7.2) 底径：-	白色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	20%	にぶい橙 (7.5YR6/4)	内外面ロクロナデ、体部下端および底部外面回転ヘラケズリ、内面黒色処理・細かなミガキ
4	土師器 甕	口径：(23.8) 器高：33.1 底径：6.6	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	30%	黒褐 (10YR3/2)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
5	土師器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	5%	橙 (5YR6/8)	口縁部内外面横位ナデ、外面斜位ナデ、内面横位ナデ、常陸型甕
6	土師器 甕	口径：(13.2) 器高：(6.1) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	5%	暗赤褐 (5YR3/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ハケ状痕が残るヘラナデ・ナデ

57 号竪穴建物跡（第 163 ～ 165 図・第 63 表）

平面位置　Q・R－36

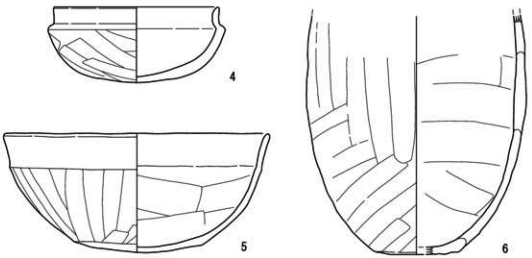
重複関係　4 号堀跡、25 号ピットより古い。

遺構形態　遺構の平面形は隅丸方形で、２５号ピットに切られる。長軸 1.94 m以上、短軸 0.83 m以上、



第 163 図　57 号竪穴建物跡

第 164 図　57 号竪穴建物跡出土遺物（１）



第165図　57号竪穴建物跡出土遺物（2）

第63表　57号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 高台付坏	口径：(13.2) 器高：5.7 底径：(8.2)	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・礫	良好	25%	にぶい黄褐(10YR5/3)	外面ナデ、内面ミガキ・黒色処理
2	土師器 皿	口径：(13.4) 器高：2.0 底径：(6.4)	白色粒子・赤色粒子・雲	良好	20%	灰黄褐(10YR5/2)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・黒色処理
3	土師器 皿	口径：(12.8) 器高：1.8 底径：(5.6)	白色粒子・赤色粒子・雲・チャ	良好	30%	にぶい褐(7.5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ミガキ・黒色処理
4	土師器 坏	口径：(12.8) 器高：6.0 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英	良好	40%	褐(7.5YR4/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ
5	土師器 鉢	口径：20.8 器高：9.5 底径：-	白色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	55%	にぶい褐(7.5YR5/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
6	土師器 甕	口径：- 器高：〈19.0〉 底径：4.4	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長・石英・礫	良好	10%	灰褐(7.5YR4/2)	外面上位縦位ヘラケズリ・下位斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

深さ0.35 mを測る。床はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。竈、主柱穴は検出されていない。覆土は暗褐色土の自然堆積層である。

遺　物　出土遺物は、土師器甕（常陸型、単口縁）、鉢（内面黒色処理と非黒色処理）、皿（内面黒色処理）ロクロ整形内面黒色処理の高台付坏、底部穿孔の皿、砂岩製の砥石などである。

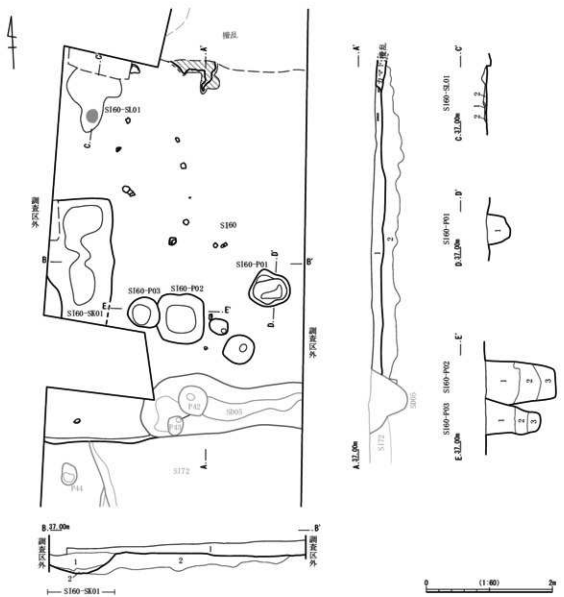
時　期　出土遺物の特徴から平安時代と推定される。

60 号竪穴建物跡（第 166 ～ 169 図・第 64 表）

平面位置　O・P－2・3

重複関係　5 号溝より古く、72 号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は床面の一部と南壁の一部が検出された。長軸 5.44 m以上、短軸 4.16 m以上、深さ 0.24 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で形状は右袖を中心に不定形で部分的に残されている。竈構築材はシルト質土である。北西側の床面では



第 166 図　60 号竪穴建物跡（1）

SI60
1．黒褐色土　10YR2/2　縁り強い、粘性あり。炭化物（φ５～10mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ２～５mm）を部分的に少量含む。
2．黄褐色土　10YR5/6　縁り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

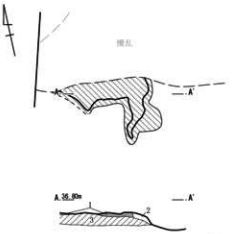
SI60-SL01
1．明黄褐色土　10YR6/8　縁り強い、粘性あり。シルトを全体に多量、焼土を全体に多量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　縁り強い、粘性あり。炭化物を部分的に多く、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土を部分的に多く含む。

SI60-SK01
1．黒褐色土　10YR2/2　縁り強い、粘性あり。炭化物（φ３～５mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ３～５mm）を部分的に微量含む。
2．黒褐色土　10YR3/2　縁り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI60-P01
1．黒褐色土　10YR2/2　縁り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

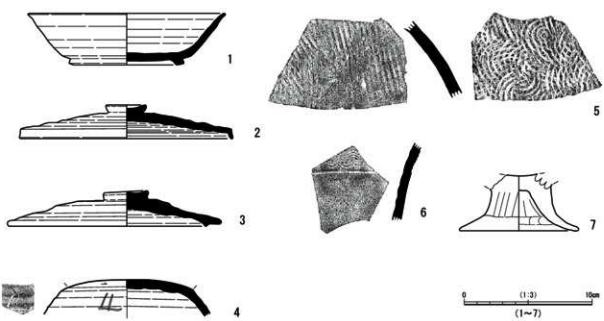
SI60-P02
1．黒褐色土　10YR2/2　縁りあり、粘性あり。ロームブロック（φ10～150mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　縁りなし、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3．黒褐色土　10YR2/2　縁りなし、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SI60-P03
1．黒褐色土　10YR2/2　縁り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～150mm）を全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2．黒色土　10YR2/1　縁り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3．明黄褐色土　10YR6/6　縁り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

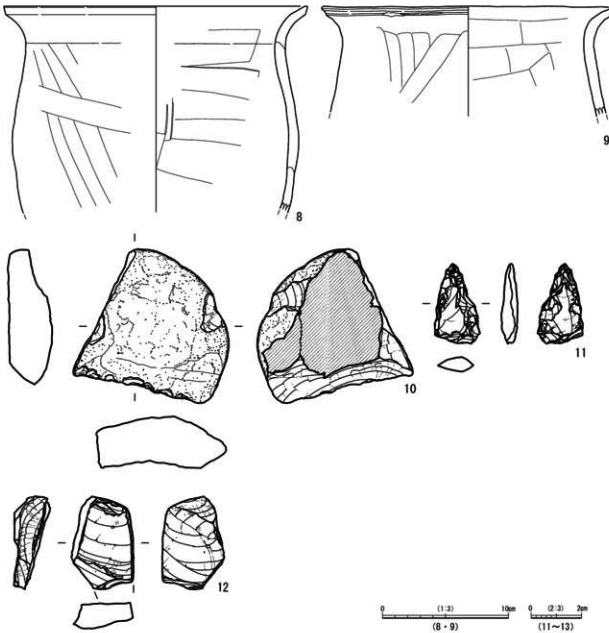


SI-60 カマド
1．暗褐色土　10YR3/4　縁り強い、粘性あり。シルトを全体に多量、炭化物（φ５～10mm）を部分的に微量、焼土（φ３～10mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
2．黒褐色土　10YR2/3　縁り強い、粘性あり。炭化物（φ３～10mm）を全体に少量、焼土（φ１～10mm）を全体に少量含む。
3．黒褐色土　10YR2/2　縁り強い、粘性あり。シルトを全体に多く、炭化物（φ３～５mm）を部分的に微量、焼土（φ３～10mm）を全体に少量含む。

第167図　60号竪穴建物跡（２）



第168図　60号竪穴建物跡出土遺物（１）



第169図 60号竪穴建物跡出土遺物（2）

第64表 60号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 高台付坏	口径：(15.2) 器高：4.0 底径：8.6	白色粒子・黒色粒子	良好	10%	褐灰 (10YR4/1)	内外面ナデ
2	須恵器 蓋	摑み径：3.2 器高：2.6 裾径：16.4	白色粒子・黒色粒子・雲・石英	良好	60%	褐灰 (10YR5/1)	内外面ロクロナデ、頂部回転ヘラケズリ後摑み貼り付け
3	須恵器 蓋	摑み径：3.4 器高：2.8 裾径：15.2	白色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	70%	にぶい黄橙 (10YR6/3)	内外面ロクロナデ、頂部回転ヘラケズリ後摑み貼り付け、摑みが中心よりややずれる
4	須恵器 蓋	頂径：6.0 器高：(2.7) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・チャ・石英	良好	40%	黄灰 (2.5Y6/1)	内外面ロクロナデ、底部回転ヘラケズリ、底部内面ヘラ書きあり

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
5	須恵器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英	良好	5% 未満	灰白 (2.5Y7/1)	外面平行線タタキ、内面同心円状当て具痕
6	須恵器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	灰 (N6/0)	内外面ロクロナデ、外面６本一単位の櫛歯状工具による波状紋
7	土師器 高坏	口径：- 器高：〈4.3〉 底径：9.0	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・長	良好	40%	にぶい黄橙 (10YR6/3)	外面縦位ヘラナデ、裾部内外面横位ナデ、内面ヘラナデ・ナデ
8	土師器 甕	口径：〈24.0〉 器高：〈16.3〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・礫	良好	10%	褐 (7.5YR4/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
9	土師器 甕	口径：〈23.0〉 器高：〈8.7〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	10%	にぶい褐 (7.5YR5/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位・斜位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	所見
10	楔形石器	石英	6.6	6.2	1.8	80.3	表面はほぼ自然面で下部に所々剥離面がある。断面は下部に向かうに従い尖る。
11	石鏃未製品	チャート	3.3	1.8	0.6	3.4	細身の円基無茎か？全体に調整が施されている。
12	二次加工石器	砂岩	<3.8>	<2.4>	1.1	12.2	下部欠損。自然面を打面にした剥片で、左側側面に連続する加工が施されている。

不定形な炉跡が形成されている。西側中央の床面で隅丸長方形の土坑が１基検出されている。ピットは３基検出され、掘方が深いものであるが配置が不規則である。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　物　出土遺物は、土師器甕（常陸型、単口縁、ハケ目調整、有段口縁）、台付甕、、器台、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、甑（把手あり、なし）、鉢（内面黒色処理）、須恵器甕壺、蓋、坏、高台付坏、縄文時代前期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、鉄製品３点（総重量27.5 g・釘１点、その他不明）、砂岩製剥片、砂岩製磨石、チャート製石鏃、石英製の楔形石器、砂岩、片麻岩、礫岩の礫、砂岩、頁岩、アプライト、泥岩、片岩製の礫片などである。

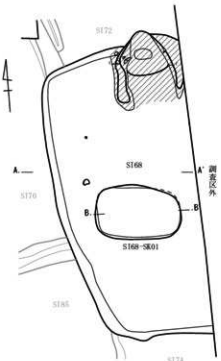
時　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から奈良時代と推定される。

68号竪穴建物跡（第170・171図・第65表）

平面位置　Ｍ・Ｎ－３

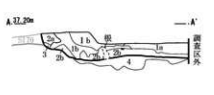
重複関係　70・72・74・85号竪穴建物跡より新しい。

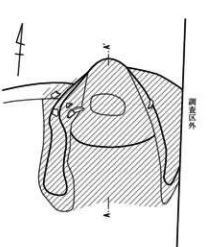
遺構形態　遺構は床面の一部、西壁と北壁、南壁の一部が検出された。長軸1.94以上m、短軸1.11m以上、深さ0.22 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は北竈で左袖、右袖の一部で構成され不定形な形状である。竈構築材はシルト質土で、構築材の一部に泥岩を使用している。南西寄りの床面で隅丸長方形の土坑が１基検出されている。ピットは検出



SI68
1a. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。炭化物（φ5～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、焼土（φ3～10mm）を部分的に少量含む。
1b. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。白色粒子（φ1～3mm）を部分的に少量、炭化物（φ3～5mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ3～5mm）を部分的に少量含む。
2a. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。白色粒子（φ3～5mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土を含む。
2b. 黒褐色土　10YR2/2　締りあり、粘性あり。白色粒子（φ1～2mm）を部分的に少量、炭化物（φ5～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～70mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ3～5mm）を部分的に微量に含む。
3．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
4．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ3～5mm）を部分的に少量含む。

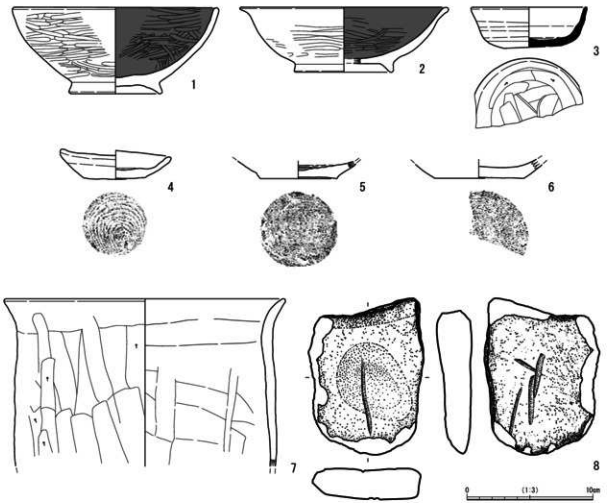
SI68-SK01
1．暗褐色土　10YR3/3　締りなし、粘性強い。炭化物（φ5～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～5mm）を部分的に含む。
2a. 黒褐色土　10YR2/2　締りなし、粘性強い、シルトを部分的に少量、ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～3mm）を部分的に微量に含む。
2b. 黒褐色土　10YR2/2　締りなし、粘性強い、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に多量、焼土（φ3～5mm）を部分的に含む。
3．褐灰色土　10YR4/1　締りなし、粘性強い。シルトを全体に多量に含む。





SI68 カマド
1a. 黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土（φ5～10mm）を部分的に多く含む。
1b. 暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、焼土（φ3～10mm）を全体に、炭化物（φ3～5mm）を部分的に微量に含む。
2a. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ1～3mm）を部分的に微量に含む。
2b. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルトを部分的に微量、炭化物（φ5～10mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に微量、焼土（φ3～5mm）を部分的に微量に含む。
3a. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルトを全体に多量、炭化物（φ3～5mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ3～30mm）を部分的に少量含む。
3b. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。シルトを部分的に少量、ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

第170図　68号竪穴建物跡



第 171 図　68 号竪穴建物跡出土遺物

第 65 表　68 号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 高台付坏	口径：(16.0) 器高：6.8 底径：7.0	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	20%	橙 (7.5YR6/6)	外面横位ミガキ、内面横位・斜位ミガキ・黒色処理
2	土師器 高台付坏	口径：(16.4) 器高：5.1 底径：(7.6)	白色粒子・黒色粒子・雲・石英・礫	良好	25%	にぶい橙 (5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面横位ミガキ、内面横位・斜位ミガキ・黒色処理
3	土師器 坏	口径：(9.0) 器高：3.3 底径：4.4	白色粒子・黒色粒子	良好	50%	灰 (N5/0)	口縁部内外面横位ナデ、底部ヘラケズリ
4	土師器 坏	口径：8.6 器高：2.4 底径：4.8	白色粒子・赤色粒子・雲・礫	良好	95%	にぶい褐 (7.5YR5/3)	内外面ナデ・煤付着
5	土師器 坏	口径：- 器高：(1.4) 底径：6.0	白色粒子・黒色粒子・雲・針・石英・礫	良好	15%	にぶい橙 (5YR6/4)	内外面ナデ
6	土師器 坏	口径：- 器高：(1.5) 底径：(7.0)	白色粒子・黒色粒子・雲・礫	良好	10%	にぶい橙 (5YR6/4)	内外面ナデ
7	土師器 甕	口径：(22.2) 器高：(13.2) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英	良好	10%	褐 (7.5YR4/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

図版番号	器種	石材	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	所見
8	砥石（荒砥）	砂岩	<12.3>	<9.2>	2.8	414.7	表中央に大きく浅い凹あり。中央に溝が入る裏面は全体に平坦で、タテ方向に溝が数本さざまれる。縁辺部はぼろぼろと欠損している。

されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　物　出土遺物は、土師器甕（ハケ目調整）、高坏、須恵器坏蓋模倣の坏、鉢、須恵器、甕、蓋、坏、土師質土器の鉢、坏、小皿、弥生時代後期の十王台式の土器片、泥岩製の支脚、竈構築材、陶器のすり鉢、鉢の破片、砂岩製の礫、砂岩、緻穏岩、斑レイ岩、片岩製の礫片などである。

時　期　出土遺物と遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。

1号焼土遺構（第 172・173 図・第 66 表）

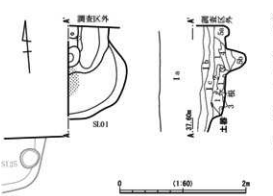
平面位置　ＡＩ・ＡＪ－19

重複関係　なし

遺構形態　遺構の平面形は楕円形で、長軸 1.49 m以上、短軸 0.96 m以上、深さ 0.54 mを測る。中央南寄りに赤化、硬化した焼土範囲が残存している。

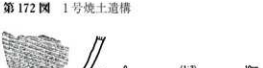
遺　物　覆土からは弥生土器の壺の破片が出土した他、炭化した雑穀と思われる炭化物粒が検出された。

時　期　遺構の切り合い関係から平安時代と推定される。



SI01
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。　炭化物を全体に多く、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土を全体に多く含む。
2．暗赤褐色土　5YR3/4　締り強い、粘性あり。　焼土を全体に多量に含む。
3．黒色土　10YR1.7/1　締りなし、粘性なし。　炭化物（φ1～2mm）を全体に多量に含む。
4．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。　炭化物を部分的に多量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に散量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に、焼土を部分的に多く含む。
5a．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性あり。　ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、炭化物を部分的に多量に含む。
5b．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性あり。　ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第 172 図　1号焼土遺構



第 173 図　1号焼土遺構出土遺物

第 66 表　1号焼土遺構出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙(10YR6/3)	附加条２種

第６節　中世

（１）遺構の概要

中世の遺構は、太田城の堀跡と考えられるものが４条と柱穴２基などが検出されている。遺構の平面分布は、堀跡が調査区の北東隅と調査区の西区北西側でそれぞれ一条ずつ、調査区の西区・東区のほぼ中央付近でそれぞれ一条ずつの合計４条で、東西に横走するものと推定されることから、それぞれ調査区内で二つの堀跡の西端と東端を検出した可能性が高い。また、試掘調査結果を参照すると、北側の堀跡は第一次試掘調査の 18 トレンチ検出の堀跡に、中央の堀跡は、第一次試掘調査の 13・14 トレンチから検出された堀跡に接続するものと思われる。

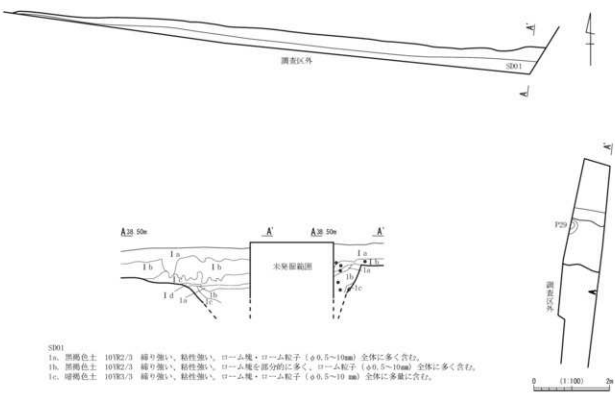
（２）堀跡

１号堀跡（第 174 図）

平面位置　AE・AF － 36、AG-32 ～ 36

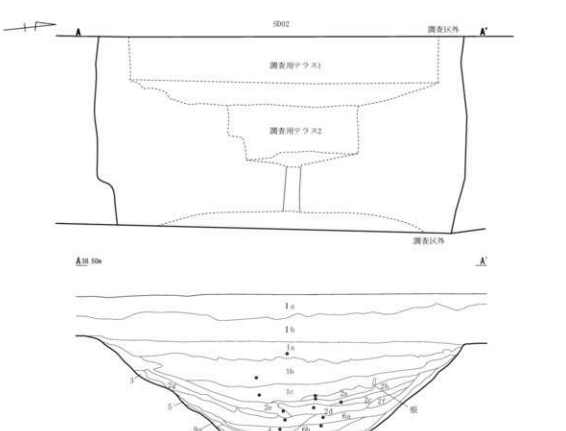
重複関係　１・２号竪穴建物、１号井戸跡、４号土坑、29 号ピットより新しい。

遺構形態　遺構は、当初は AG のラインに沿って西に長く延びる堀跡の北側の掘方が検出されたが、南側の東区を掘削したところ南側の堀跡の掘方が検出された。遺構の大部分は、調査区外に位置し、今回の発掘調査では掘方の両端を部分的に検出したに過ぎないが、当初想定されていた堀跡の配置



SD01
1a．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性強い。ローム塊・ローム粒子（φ0.5～10mm）全体に多く含む。
1b．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性強い。ローム塊を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）全体に多く含む。
1c．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性強い。ローム塊・ローム粒子（φ0.5～10 mm）全体に多量に含む。

第 174 図　１号堀跡



第175図　2号堀跡（1）

外で検出された。サイズは長軸12.15m、推定短軸4.31mで検出面から0.58mの覆土まで掘削した。検出面はⅡ～Ⅲ層上である。覆土は、黒褐色土と暗褐色土のローム層を含むシルト質土である。

遺　　物　出土遺物は、縄文時代前期の土器片、土師器甕、高坏、甑、須恵器甕などであり、遺構の形成、機能の年代に直接関係する遺物は検出されていない。

時　　期　遺構の年代を直接推定する遺物は存在しないが、1号井戸より新しく、土師器、須恵器の混在から、平安時代以降と推定される。

2号堀跡（第175～177図、第67表）

平面位置　AF～AH－4・5

重複関係　なし

遺構形態　遺構は、平成29年の第二次調査のトレンチ①で検出された東西に横走する堀跡である。堀跡は薬研堀でサイズは長軸4.07m、短軸7.73m、深さ3.69m、底面幅は0.29～0.35mを測る。1号堀跡と接続する可能性があるが、他の遺構配置を考慮すると、遺構外において堀跡の配置が途

SD02

1a. 黒褐色土 10YR2/2 締り強い、粘性強い、炭化物（φ5～10mm）・礫（φ5～20mm）を部分的に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、ローム塊（φ10mm～）・焼土（φ5～20mm）を部分的に微量含む。

1b. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性強い、炭化物（φ5～20mm）・礫（φ5～70mm）を部分的に少量、ローム塊（φ10～50mm）・焼土（φ5～10mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

1c. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性強い、炭化物（φ5～10mm）・ローム塊（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）全体に多量、焼土（φ3～10mm）・礫（φ5～10mm）を部分的に微量含む。

2a. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性強い、ローム塊（φ10～20mm）・焼土（φ5～20mm）・礫（φ20～50mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

2b. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性強い、ローム塊（φ10～100mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。

2c. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性強い、炭化物（φ5～10mm）を全体に微量、ローム塊（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に含む。

2d. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性強い、炭化物（φ10～20mm）・焼土（φ3～5mm）を部分的に微量、ローム塊（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、白色粒子（φ1～3mm）を全体に含む。

2e. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性強い、炭化物（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム塊（φ10～30mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。

2f. 黒褐色土 10YR3/2 締り強い、粘性強い、ローム塊（φ10～50mm）・礫（φ5～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）・白色粒子（φ1～5mm）を全体に含む。

2g. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性強い、ローム塊（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、焼土（φ3～5mm）・礫（φ10～50mm）を部分的に微量、白色粒子（φ1～5mm）を全体に少量含む。

3. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性強い、炭化物（φ5～10mm）・ローム塊（φ10～20mm）・焼土（φ2～5mm）・礫（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、白色粒子（φ1～5mm）を全体に含む。

4. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性強い、炭化物（φ3～10mm）・ローム塊（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、白色粒子（φ1～3mm）を全体に少量含む。

5. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性強い、炭化物（φ5～10mm）を部分的に少量、ローム塊（φ10～150mm）を部分的に含む。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、白色粒子（φ1～3mm）を全体に少量含む。

6a. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性強い、ローム塊（φ10～20mm）・礫（φ5～20mm）・焼土（φ5～10mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、白色粒子（φ1～5mm）を全体に含む。

6b. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性強い、炭化物（φ5～10mm）・ローム塊（φ10～20mm）・焼土（φ3～5mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、白色粒子（φ1～5mm）を全体に含む。

6c. 黒褐色土 10YR2/3 締り強い、粘性強い、炭化物（φ5～20mm）・ローム塊（φ10～20mm）・焼土（φ3～5mm）部分的に微量、礫（φ5～10mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）・白色粒子（φ1～5mm）を全体に多く含む。

6c'. 黒褐色土 10YR2/3 締り弱い、粘性強い、白色粒子（φ1～3mm）を全体に多く、炭化物（φ5～10mm）・ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、ローム塊（φ10～20mm）を部分的に少量含む。

6d. 黒褐色土 10YR2/3 締り弱い、粘性強い、白色粒子（φ1～3mm）・礫（φ10～200mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ1～5mm）を部分的に微量含む。

7a. 暗褐色土 10YR3/3 締り弱い、粘性強い、白色粒子（φ1～5mm）・ローム粒子（φ0.5～10mm）・礫（φ10～200mm）を全体に含む。ローム塊（φ10～20mm）を部分的に少量、白色粒子（φ1～3mm）を全体に少量含む。

7b. 暗褐色土 10YR3/3 締り弱い、粘性強い、白色粒子（φ1～3mm）・ローム塊（φ10～20mm）・礫（φ10～50mm）を部分的に少量、炭化物（φ5～10mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

7c. 暗褐色土 10YR3/3 締り弱い、粘性強い、白色粒子（φ1～5mm）・ローム塊（φ10～20mm）・礫（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

8. にぶい黄褐色土 10YR4/3 締り強い、粘性強い、炭化物（φ10～30mm）・ローム塊（φ10～20mm）・礫（φ10～50mm）・白色粒子（φ1～3mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

9a. 暗褐色土 10YR3/3 締り強い、粘性強い、白色粒子（φ0.5～5mm）・ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、ローム塊（φ10～100mm）・礫（φ10～50mm）を部分的に少量含む。

9b. にぶい黄褐色土 10YR4/3 締り強い、粘性強い、ローム塊を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、シルトを全体に多く含む。

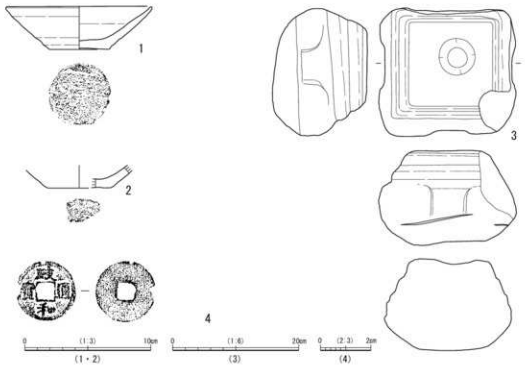
9c. 暗褐色土 10YR3/3 締り弱い、粘性強い（φ1～3mm）・ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、礫（φ5～20mm）を部分的に少量、ローム塊を部分的に多量含む。

10. にぶい黄褐色土 10YR4/3 締りやや強い、粘性強い、砂を全体に多量、シルトを全体に多く含む。

第176図 2号堀跡（2）

中で変化したり、分岐したりする可能性がある。遺構の形態は、横断面を見ると堀跡の上場と下場の幅の比率は22～26倍であり、勾配がかなり高い。覆土は、1～5層まではレンズ状の黒褐色土と暗褐色土の堆積であるが6～7層は礫やローム層を多く含み人為的な埋め戻しの可能性がある。8～10層は斜面の自然堆積である。覆土は火山灰分析を実施するための土壌サンプルを採集した。

遺　物　出土遺物は、上位の攪乱層では縄文時代前期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、土師器甕、高坏、坏、甑、須恵器甕、ロクロ整形の高台付坏、土師質土器の小皿破片、甕、北壁の9c層から北宋の正和年間に鋳造された正和通宝（隷書・1111年初鋳）が出土し、6d層下部から風化した砂岩製の宝篋印塔の笠石が正位で出土している。宝篋印塔笠石は、上段は三段、下部は台形で、隅飾突起は一弧輪郭形で外反する。上面の窪みは3㎜の深さである。現状で帰属時期は不明であるが、16世紀頃の所産であろうか。土師質土器の小皿は、器形が残存するものの特徴は、ロクロ成形で、口径に対して底形が大きく、器形は直線的に立ち上がり、器壁が厚い。底部は回転糸切後、板目底。帰属年代は16世紀中～17世紀前ごろである。他に陶器の蓋、炻器の甕、磁器の碗、酒坏、砂岩製の台石、泥岩製の竈構築材、砂岩、片麻岩製の礫、砂岩、泥岩、アプライト製の礫片などである。



第 177 図　2号堀跡出土遺物

第 67 表　2号堀跡跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
1	土師質かわらけ	口径：（11.7） 底径：4.8 器高：〈3.4〉	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・金雲母	良好	40%	にぶい橙色（5YR6/4）	ロクロ整形。底部回転糸切り後、板状圧痕。内面見込みに指ナデ
2	土師質かわらけ	口径：- 底径：（5.0） 器高：〈1.8〉	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・金雲母	良好	5% 未満	にぶい赤褐（5YR5/4）	ロクロ整形。底部回転糸切り後、板状圧痕
4	銅製品銭	全長：2.40 孔径：0.66 厚み：0.20 重量：2.2g	—	—	—	—	政和通宝の銭書。北宋　1111 年初鋳

図版番号	器種	石材	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	所見
3	宝篋印塔	片岩	21.8	19.8	15.2	8.4kg	砂岩。上段三段、下段台形。隅飾突起は弧輪郭形で外反。上面の窪み 3mm。風化が著しく、部分的に欠損する

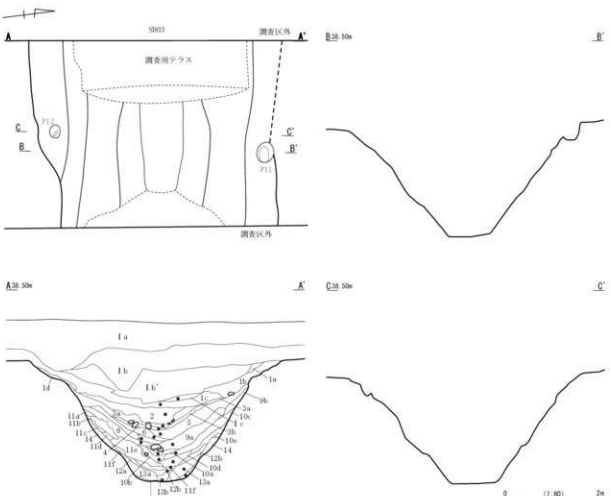
時　　期　覆土内の宝篋印塔と土師質土器の小皿は二次堆積の所産であり直接遺構の形成年代に関係がないものと思われる。2号堀跡の形状の特徴から、戦国期から織豊期の佐竹氏の勢力拡大の時期と推定される。

３号堀跡（第 178 ～ 180 図、第 68 表）

平面位置　R・S－３・４

重複関係　11・12 号ピットより古い。

遺構形態　堀跡は薬研堀でサイズは長軸 3.95 m、短軸 5.34 m、深さ 2.56 m、底面幅は 0.61 ～ 0.91 mを測り、２号堀跡よりサイズは小さい。４号堀跡と接続する可能性があるが、第二次試掘調査の結果から、他の遺構配置を考慮すると、敷地内の中央付近で南に分岐する可能性がある。遺構の形態は、横断面を見ると、検出面から約 0.5 mまで壁の勾配が緩やかで、0.5 ～ 2 mの間は上位より勾配が急となる。２m以下ではさらに勾配が急になり底面に至っており、堀跡の断面形状に角度の変化が見られる。覆土はⅠａ～Ⅰｂ層まで人為的に厚く堆積しているが、1a ～２層まではレンズ状に堆積する。3a ～ 10b 層までは礫を多く含み２号堀跡と同様な黒褐色土を主体とした土層が堆積し、人為的な埋め戻しが行われた可能性がある。11a 層以下はローム層を多く含むようになり、自然堆積の可能性がある。



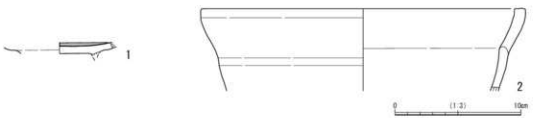
第 178 図　３号堀跡（１）

SD03
1a. 黒褐色土 10YR2/2 縁り弱い、粘性強い。白色粒子（φ1～3mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に散量、焼土（φ1～5mm）を部分的に散量、礫（φ10～150mm）を部分的に少量含む。
1b. 黒褐色土 10YR2/2 縁り弱い、粘性強い。礫（φ10～150mm）を部分的に少量、炭化物（φ5～15mm）・ローム塊（φ10～20mm）を部分的に散量、ローム粒子（φ0.5～10mm）・白色粒子（φ1～3mm）を全体に少量含む。
1c. 黒褐色土 10YR2/2 縁り弱い、粘性強い。白色粒子（φ1～3mm）を全体に多く、炭化物（φ1～15mm）・ローム塊（φ10～30mm）・礫（φ10～50mm）を部分的に散量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
1d. 黒褐色土 10YR2/2 縁り弱い、粘性強い。ローム塊（φ10～20mm）・焼土（φ1～3mm）を部分的に散量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、白色粒子（φ1～2mm）を全体に含む。
2. 黒褐色土 10YR2/2 縁り弱い、粘性強い。ローム塊（φ10～50mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、礫（φ10～100mm）を含む。白色粒子（φ1～5mm）を全体に含む。炭化物（φ3～10mm）を部分的に散量含む。
3a. 黒褐色土 10YR2/2 縁り弱い、粘性強い。礫（φ10～100mm）を部分的に多く、炭化物（φ5～10mm）・ローム塊（φ10～20mm）を部分的に散量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
3b. 黒褐色土 10YR2/2 縁り弱い、粘性強い。礫（φ10～100mm）を部分的に多く、ローム塊を部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
4. 黒褐色土 10YR3/2 縁り弱い、粘性強い。砂を全体に多量、礫（φ10～150mm）を部分的に含む。ローム塊（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
5. 黒褐色土 10YR2/2 縁り弱い、粘性強い。炭化物（φ1～15mm）・礫（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム塊（φ10～20mm）を部分的に散量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～10mm）・白色粒子（φ1～3mm）を全体に少量含む。
6. 黒褐色土 10YR2/2 縁り弱い、粘性強い。砂・ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、白色粒子（φ1～2mm）を全体に多く、炭化物（φ10～20mm）・ローム塊（φ10～20mm）・焼土（φ1～3mm）を部分的に散量含む。
7. 黒褐色土 10YR2/2 縁り弱い、粘性強い。砂・ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、ローム塊（φ10～20mm）を部分的に少量、礫（φ10～20mm）を部分的に散量含む。
8. 黒褐色土 10YR2/2 縁り弱い、粘性強い。炭化物（φ10～20mm）・ローム塊（φ10～20mm）を部分的に散量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、砂を全体に少量含む。
9a. 黒褐色土 10YR3/2 縁りやや強い、粘性強い。炭化物（φ10～20mm）・ローム塊（φ10～50mm）・礫（φ10～200mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）・砂を全体に多量、焼土（φ5～10mm）を部分的に散量含む。
9b. 暗褐色土 10YR3/3 縁り弱い、粘性強い。砂を全体に少量、白色粒子（φ1～3mm）を全体に多く、炭化物（φ5～10mm）を全体に散量、ローム塊（φ10～50mm）・焼土（φ3～5mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
10a. 黒褐色土 10YR2/3 縁り弱い、粘性強い。ローム塊を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
10b. 黒褐色土 10YR2/2 縁り弱い、粘性強い。礫（φ10～70mm）を部分的に少量、ローム塊を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
10c. 黒褐色土 10YR2/2 縁り弱い、粘性強い。炭化物（φ5～15mm）を部分的に散量、ローム塊を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、礫（φ10～150mm）を部分的に少量含む。
10d. 黒褐色土 10YR2/2 縁り弱い、粘性強い。炭化物（φ5～10mm）・焼土（φ1～5mm）を部分的に散量、ローム塊（φ10～30mm）を部分的に含む。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
10e. 黒褐色土 10YR3/2 縁り強い、粘性強い。炭化物（φ5～15mm）を全体に少量、ローム塊を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
11a. 黒褐色土 10YR3/2 縁り強い、粘性強い。ローム塊を部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
11b. 黄褐色土 10YR5/6 縁り強い、粘性強い。ローム塊を全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
11c. 黒褐色土 10YR3/2 縁り強い、粘性強い。ローム塊（φ1～3mm）を部分的に多く、ローム塊を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
11d. 褐色土 10YR4/6 縁り強い、粘性強い。白色粒子（φ1～3mm）を部分的に多く、ローム塊を全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
11e. 黒褐色土 10YR2/2 縁り強い、粘性強い。ローム塊を部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、炭化物（φ5～10mm）・礫（φ10～30mm）を部分的に散量含む。
11f. 灰白色土 10YR7/1 縁り強い、粘性強い。ローム塊を部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
12a. 黄褐色土 10YR5/6 縁り強い、粘性強い。ローム塊・ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
12b. 黄褐色土 10YR5/6 縁り強い、粘性強い。ローム塊を全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量、軽石を部分的に多量含む。
13a. 暗褐色土 10YR3/4 縁り強い、粘性強い。ローム塊・ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
13b. 褐色土 10YR4/4 縁り強い、粘性強い。ローム塊・ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
14. 褐色土 10YR4/4 縁り強い、粘性強い。ローム塊・ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量含む。
15. 黒褐色土 10YR2/2 縁り強い、粘性弱い。シルトを全体に少量含む。

第179図 3号堀跡（2）

遺　物　出土遺物は、上位の撹乱層では瓦質の内耳鍋、土師質土器の小皿、土師器甕、高坏、須恵器甕、ロクロ整形の高台付坏、片岩、片麻岩製の礫片などが出土している。瓦質の内耳鍋は、体部は直線的に立ち上がり、口縁部と体部の境目が屈曲して、やや内湾する。口縁端部は体部よりやや厚く、断面方形で作られ水平である。体部の成形は横ナデが施されている。この土器は15世紀後半に位置づけられる。底面の15層の床面付近で出土した内面黒色処理の高台付の皿の底部破片は、ロクロ整形で底部切り離し後に高台を貼り付ける。内面は黒色処理が施され、ミガキが施されているが風化して判別困難である。この土器は9世紀第四四半期頃に位置づけられる。

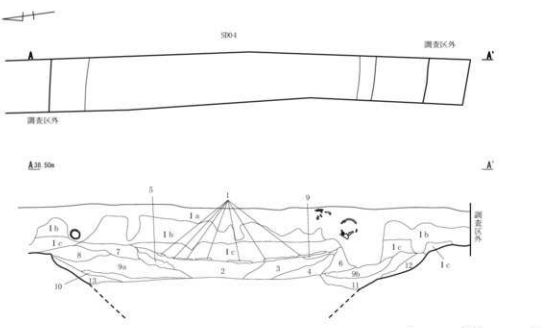
時　期　底面の15層から出土した高台付皿の年代から、少なくともこの堀跡は9世紀後半以降に形成されたものと推定される。



第 180 図　3 号堀跡出土遺物

第 68 表　3 号堀跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師器 皿	口径：- 器高：〈1.0〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子	良好	5% 未満	黄灰 (2.5Y6/1)	ロクロ整形。底部回転糸切り後、貼付高台。内面黒色処理。ミガキ方向は風化により不明。
2	土師質 内耳鍋	口径：〈25.6〉 器高：〈6.5〉 底径：-	白色粒子・雲母岩・黒色雲母	良好	5% 未満	外：灰褐色 (5YR5/2) 内：にぶい橙色 (7.5YR6/4)	輪積みロクロ整形。横ナデ。



SD04
1．黒色土　10YR1.7/1　締り弱い、粘性弱い、炭化物（φ5～10mm）を全体に多量含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締り弱い、粘性強い、ローム粒子（φ1～5mm）を部分的に少量含む。
3．暗褐色土　10YR3/3　締り弱い、粘性強い、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に少量含む。
4．暗褐色土　10YR3/4　締り弱い、粘性強い、ローム粒子（φ1～7mm）を全体に多く含む。
5．黒褐色土　10YR3/2　締り弱い、粘性強い、ローム粒子（φ1～5mm）を部分的に多く含む。
6．黒褐色土　10YR2/3　締り弱い、粘性強い、ローム粒子（φ1～3mm）を全体に微量含む。
7．暗褐色土　10YR3/3　締り弱い、粘性強い、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に少量含む。
8．暗褐色土　10YR3/3　締り弱い、粘性強い、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に微量含む。
9a．黒褐色土　10YR2/3　締り弱い、粘性強い、ローム粒子（φ1～3mm）を部分的に微量含む。
9b．黒褐色土　10YR3/2　締り弱い、粘性強い、ローム塊を部分的に微量、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に微量含む。
10．黒褐色土　10YR3/2　締り弱い、粘性強い、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に微量含む。
11．黒褐色土　10YR2/3　締り弱い、粘性強い、ローム塊を部分的に微量、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に少量含む。
12．暗褐色土　10YR3/3　締り弱い、粘性強い、ローム塊を微量、ローム粒子（φ1～5mm）を多く含む。
13．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締り弱い、粘性強い、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に少量含む。

第 181 図　4 号堀跡

4号堀跡（第181図）

平面位置　Q・R－36

重複関係　57号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　堀跡は調査範囲の制約のため、検出面から深さ0.5ｍまでの掘削にとどめたが、幅6.0ｍ、深さ0.6ｍで、西側の3号堀跡より幅が広い。遺構の形態は不明であるが、3号堀跡と接続するならば、薬研堀であろう。検出面からの壁の傾斜も3号溝に類似して緩やかである。覆土は中央部の1c層直下の炭化物層の薄層1層が幅2.7ｍの範囲で検出されているが、埋め戻しされた層位上で火を焚いた痕跡の様である。

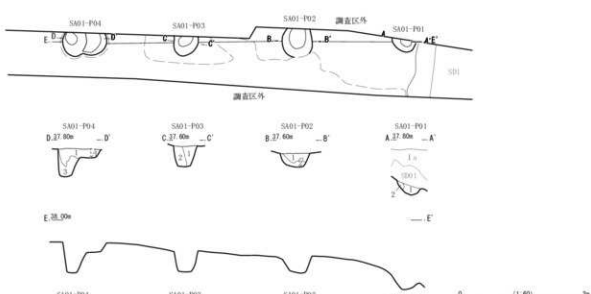
遺　　物　出土遺物は、土師器甕（ハケ目調整）、甑、陶器の擂鉢破片、泥岩製の支脚、砂岩製の礫、礫片などである。

時　　期　部分的な深さまでの調査にとどまったため、遺構の構築年代は不明であるが、3号堀跡との接続を考慮すると、9世紀後半以降には構築されたものと推定される。

（3）柵列

1号柵列（第182図）

1号溝の東端の南側壁面から南側の検出面において、柵列を検出した。



SA01-P01
1．黒褐色土　10YR2/3　締りあり、粘性なし。ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。
2．褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に多量に含む。

SA01-P02
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ20mm～）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。
2．にぶい黄褐色土　10YR5/4　締りあり、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

SA01-P03
1．黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～15mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
2．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～50mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

SA01-P04
1．にぶい黄褐色土　10YR4/3　締りあり、粘性あり。ロームブロック（φ15～30mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
2．にぶい黄褐色土　10YR5/4　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ20～100mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

第182図　1号柵列

第７節　時期不明の遺構

（1）遺構の概要

時期不明の遺構は、竪穴建物跡６軒、井戸４基、土坑 24 基、正確不明遺構１基、ピット 53 基である。

（2）竪穴建物跡

17 号竪穴建物跡（第 183 図）

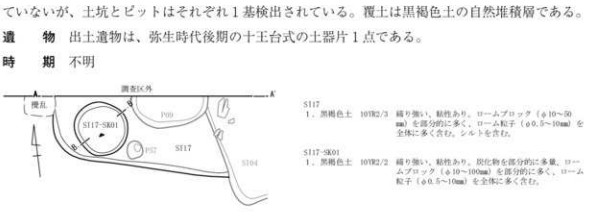
平面位置　AH － 29・30

重複関係　４号竪穴建物跡、９号ピットより古い。

遺構形態　遺構は、床面の一部、西壁と南壁の一部が検出され、長軸 2.81 m以上、短軸 1.30 m以上、深さ 0.14 mを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていないが、土坑とピットはそれぞれ１基検出されている。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、弥生時代後期の十王台式の土器片１点である。

時　　期　不明



第 183 図　17 号竪穴建物跡

49 号竪穴建物跡（第 184 図）

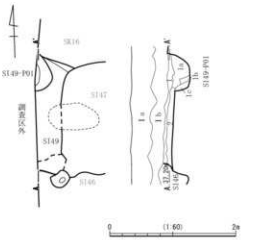
平面位置　ＡＥ－４

重複関係　46・47 号竪穴建物跡より古い。

遺構形態　遺構は、床面と北壁の一部が検出され、長軸 2.17 m以上、短軸 1.09 m以上、深さm 0.19 を測る。床はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。竈は検出されていない。ピットは１基検出されたが主柱穴はない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　物　出土遺物は、常陸型の土師器甕破片、砂岩製の礫などである。

時　期　不明



SI49
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～3㎜）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～30㎜）を部分的に、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を部分的に少量含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締りあり、粘性あり。白色粒子（φ1～3㎜）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20㎜）を部分的に、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に少量。焼土（φ1～10㎜）を部分的に少量含む。

SI49-P01
1a．黒褐色土　10YR2/3　締りあり、粘性あり。白色粒子（φ1～3㎜）を部分的に散量、ロームブロック（φ10～30㎜）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に含む。
1b．黒褐色土　10YR2/2　締りあり、粘性あり。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量に含む。
1c．黒褐色土　10YR2/2　締りあり、粘性あり。焼土（φ3～15㎜）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～30㎜）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多く含む。

第184図　49号竪穴建物跡

55号竪穴建物跡（第185・186図・第69表）

平面位置　U－36

重複関係　54・56号竪穴建物より古い。

遺構形態　遺構は、床面の一部が検出され、長軸1.97ｍ以上、短軸0.75ｍ以上、深さ0.35ｍを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがある。竈は検出されていない。ピットは3基検出されているが主柱穴はない。覆土は黒褐色土とにぶい黄褐色土の自然堆積層である。

遺　物　出土遺物は、土師器甕（常陸型）、須恵器甕破片、ロクロ成形内面黒色処理、底部穿孔の皿などである。

時　期　不明

56号竪穴建物跡（第185図）

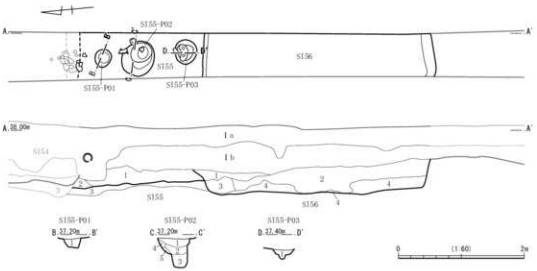
平面位置　T－36

重複関係　55号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は、床面の一部、北壁と南壁の一部が検出され、長軸3.72ｍ以上、短軸0.68ｍ以上、深さ0.57ｍを測る。床はほぼ平坦で踏み締まりがあり、壁は緩やかに立ちあがる。竈は検出されていない。ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土と暗褐色土の自然堆積層である。

遺　物　出土遺物は、土師器甕、須恵器坏蓋模倣の坏などである。

時　期　不明



S155

1a. 黒褐色土　10YR2/2　締りなし、粘性なし。ローム粒子（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。
1b. 黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ1～5mm）を部分的に少量含む。
1. 黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性なし。焼化物（φ5～20mm）を全体に少量、ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子（φ1～3mm）を全体に微量に含む。
2. にぶい黄褐色土　10YR4/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に多く含む。
3. にぶい黄褐色土　10YR4/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に微量に含む。

S155-P01

1. 暗褐色土　10YR3/3　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ5～10mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に微量に含む。

S155-P02

1. 黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性なし。焼化物（φ3～10mm）を全体に少量、ローム粒子（φ1～5mm）を部分的に微量、地土（φ5～10mm）を部分的に微量に含む。
2. 暗褐色土　10YR3/3　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ5～10mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に微量に含む。
3. 褐色土　10YR4/4　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に少量含む。
4. 黒褐色土　10YR2/3　締りあり、粘性なし。ローム粒子（φ1～3mm）を部分的に微量に含む。
5. 褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ1～5mm）を全体に少量、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に多量に含む。

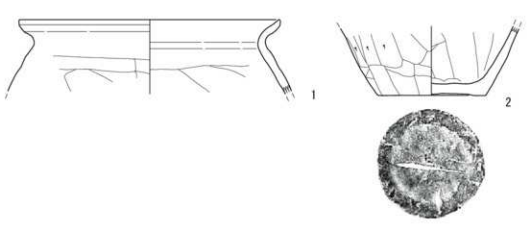
S155-P03

1. 黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ5～10mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。

S156

1a. 黒褐色土　10YR2/2　締りなし、粘性なし。ローム粒子（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。
1b. 黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ1～5mm）を部分的に少量含む。
1. 黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。焼化物（φ5～10mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に微量、地土（φ10mm～）を部分的に微量に含む。
2. 黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性あり。ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に微量に含む。
3. 暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に微量、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に微量に含む。
4. 灰黄褐色土　10YR4/2　締り強い、粘性あり。ロームブロックを多く、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に多く含む。

第185図　55・56号竪穴建物跡



第186図　55号竪穴建物跡出土遺物

第69表　55号竪穴建物跡出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 甕	口径：(20.6) 器高：(5.9) 底径：.	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	10%	にぶい橙(7.5YR6/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面上位横位ヘラケズリ・下位縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
2	土師器 甕	口径：. 器高：(5.5) 底径：8.4	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	10%	にぶい褐(7.5YR5/3)	外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ、底部周囲指押え

65号竪穴建物跡（第187図）

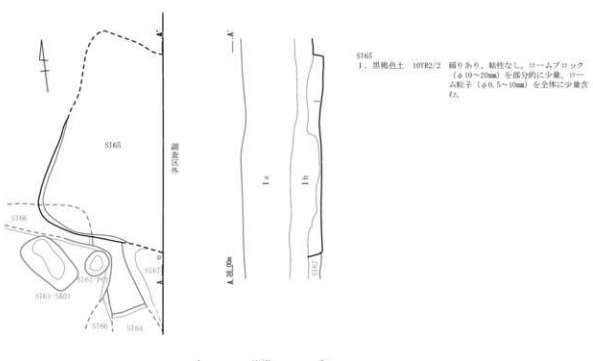
平面位置　Q・R－3

重複関係　66・67号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は、床面の一部、西壁と南壁の一部が検出され、長軸3.23以上m、短軸2.13 m以上、深さ0.24 mを測る。床ほぼ平坦で踏み締まりがあり、掘方は浅いが壁は急角度で立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物は、土師器は甕（ハケ目調整）、内面黒色処理の鉢、弥生時代後期の十王台式の土器片、砂岩製の礫片などである。

時　　期　不明



第187図　65号竪穴建物跡

69号竪穴建物跡（第188図）

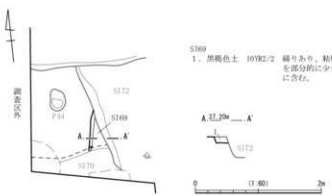
平面位置　N－2

重複関係　68・70・72号竪穴建物跡より古い。

遺構形態　遺構は、僅かに床面の一部と西壁が検出され、長軸0.61ｍ以上、短軸0.29ｍ以上、深さ0.09ｍを測る。床はほぼ平坦で、掘方は浅いが壁は急角度で立ち上がる。竈、ピットは検出されていない。覆土は黒褐色土の自然堆積層である。

遺　　物　出土遺物なし。

時　　期　不明



第188図　69号竪穴建物跡

（3）井戸

1号井戸（第189・191図・第70表）

平面位置　AG－36・37

重複関係　1号堀跡より古い。

遺構形態　長軸2.20ｍ、短軸1.39ｍ、深さ0.92ｍ以上で、西側の3号堀跡より幅が広い。遺構の形態は楕円形である。覆土は黒褐色土を主体とし、黒色土・明褐色土・褐色土を含むシルト質土である。

遺　　物　出土遺物は、縄文時代前期の土器片、弥生時代後期の十王台式の土器片、土師器甕（常陸型、ハケ目調整）、土師質土器の小皿、近世の陶磁器破片、砂岩、片岩、石英製礫片である。

時　　期　不明

2号井戸（第189図）

平面位置　AH－21

重複関係　33号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構は西壁が部分的に検出され、長軸1.41ｍ以上、短軸0.53ｍ以上、深さ1.16ｍ以上である。遺構の形態は不明である。覆土は黒褐色土を主体とし、暗褐色土と黒色土を含むシルト質土である。

遺　　物　出土遺物はない。

時　　期　不明

3号井戸（第190図）

平面位置　Q－3

重複関係　66号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　遺構の形態は円形で長軸1.02m、短軸0.96m、深さ0.72mである。遺構の形態は不定形である。覆土は黒褐色土を主体とし、にぶい黄橙色土を含むシルト質土である。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕（常陸型、ハケ目調整）、坏、埦、須恵器甕、ロクロ成形坏、内面黒色処理の鉢、土師質土器の小皿、白磁の小皿などである。

時　　期　不明

4号井戸（第190・192図・第71表）

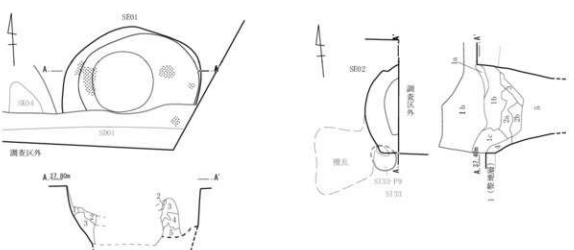
平面位置　L－2

重複関係　20号土坑より古く、71号竪穴建物跡より新しい。

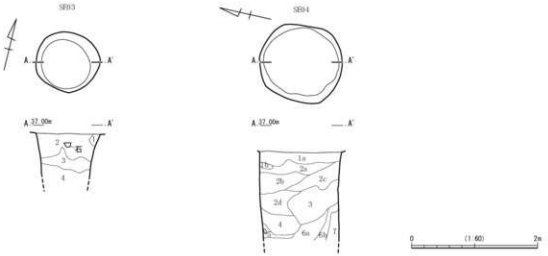
遺構形態　遺構の形態は円形で、長軸1.31m、短軸1.26m、深さ1.39m以上で、西側の3号堀跡より幅が広い。遺構の形態は不定形である。覆土は黒褐色土を主体とし、黄褐色土、褐色土を含むシルト質土である。

遺　　物　出土遺物は、弥生時代後期の十王台式の土器片、土師器甕（ハケ目調整）、高坏（ハケ目調整、ミガキ）、埦（内面黒色処理あり）、須恵器（壺、坏）、土師質土器の小皿、砂岩製の台石、片岩製の礫片などである。

時　　期　不明



第189図　1・2号井戸



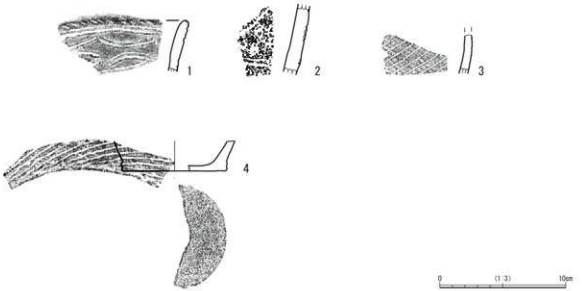
SE03
1．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2．明褐色土　7.5YR5/6　締り強い、粘性あり。焼土を全体に多量に含む。
3．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性あり。焼土を部分的に多く、ロームブロックを部分的に多量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
4．黒色土　10YR2/1　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
5．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SE02
1a．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。炭化物（φ1～5mm）を部分的に微量。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。
1b．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性なし。炭化物（φ1～5mm）を部分的に微量。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～15mm）を部分的に微量に含む。
1c．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～70mm）を部分的に少量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2a．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2b．黒褐色土　10YR2/2　締りなし、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
3．黒色土　10YR2/1　締り強い、粘性あり。炭化物（φ10～20mm）を部分的に微量。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
4．黒色土　10YR2/1　締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に多量に含む。
5．暗褐色土　10YR3/3　締りなし、粘性強い。ロームブロックを部分的に多量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SE03
1．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性あり。　シルトを全体に多く、炭化物（φ3～5mm）を部分的に微量。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に含む。焼土を含む。
2．にぶい黄橙色土　10YR6/4　締り強い、粘性あり。　砂粒を全体に多量。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
3．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。　ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
4．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。　ロームブロックを部分的に多量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SE04
1a．黒褐色土　10YR2/2　締りあり、粘性あり。ロームブロック（φ10～20mm）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量。炭化物（φ5～15mm）を部分的に微量に含む。
1b．黄褐色土　10YR5/6　締りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。焼土（φ3～5mm）を部分的に微量。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。焼土（φ5～10mm）を、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。
2c．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～150mm）を部分的に多量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2d．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～30mm）を全体に少量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に。焼土（φ3～5mm）を部分的に微量に含む。
3．黄褐色土　10YR5/6　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
4．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に含む。
5．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
6a．褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に少量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
6b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
7．褐色土　10YR4/4　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第190図　3・4号井戸



第 191 図　1 号井戸出土遺物

第 70 表　1 号井戸出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	縄文土器 深鉢	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/4)	半裁竹管状工具による木葉文を描く
2	縄文土器 深鉢	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	明赤褐 (5YR5/8)	撚糸 L 施文後、半裁竹管状工具で三角形文を描き、竹管状工具による円形刺突を描く
3	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5%未満	褐灰 (7.5YR4/1)	附加条 2 種
4	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・雲母	良好	5%未満	にぶい橙 (5YR7/4)	附加条 2 種　砂底

第 192 図　4 号井戸出土遺物

第 71 表　4 号井戸出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	土師質土器 かわらけ	口径：6.4 器高：2.4 底径：2.8	黒色粒子・赤色粒子・雲・針	良好	100%	にぶい橙 (7.5YR7/3)	内外面ナデ、底部静止糸切り、口縁部油煙痕

（4）溝跡

5号溝跡（第193図）

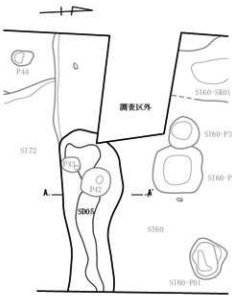
平面位置　O－3

重複関係　42・43号ピットより古く、60・72号竪穴建物跡より新しい。

遺構形態　長軸2.66ｍ、短軸0.96ｍ、深さ0.62ｍ以上で、西側の3号堀跡より幅が広い。

遺　　物　出土遺物は、土師器甕、須恵器坏蓋模倣の坏などである。

時　　期　不明

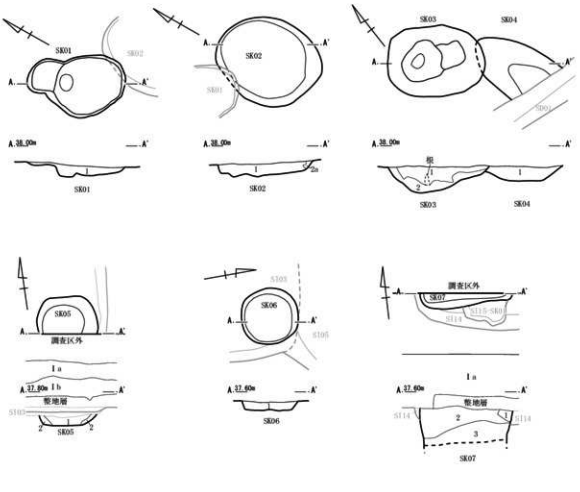


SD05
1a．黒褐色土　10YR2/2　縞りあり、粘性なし。炭化物（φ3～5mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ2～3mm）を部分的に少量含む。
1b．黒褐色土　10YR2/2　縞りあり、粘性なし。炭化物（φ5～10mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ2～5mm）を部分的に微量に含む。
1c．黒褐色土　10YR2/2　縞りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。
2．黄褐色土　10YR5/6　縞りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第193図　5号溝跡

（5）土坑

土坑は 22 基検出されている（第 194 ～ 202 図・第 72 ～ 76 表）。



SK01
1．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性あり。白色粒子（φ0.5～1mm）を全体に多く、ロームブロック（φ10～50mm）を全体に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、炭化物（φ1～10mm）を部分的に微量、焼土（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。

SK02
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性強い。ロームブロック（φ10～100mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に含む。
2a．褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性強い。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SK03
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ0.5～1mm）を部分的に微量に含む。
2．暗褐色土　10YR3/3　締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

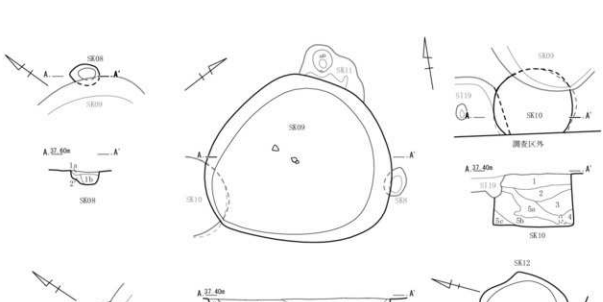
SK04
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に含む。

SK05
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に含む。
2．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性あり。　ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SK06
1．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に含む。

SK07
1．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～15mm）を部分的に含む。
3．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第 194 図　1～7 号土坑



SK08

1a. 黒褐色土　10YR3/2　縞り強い、粘性あり。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。

1b. 黒褐色土　10YR3/2　縞やなし、粘性あり。ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。

SK09

1a. 黒褐色土　10YR2/3　縞や強い、粘性なし。ロームブロック（φ5～10mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量、焼土（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。

1b. 黒褐色土　10YR3/2　縞や強い、粘性あり。ロームブロック（φ5～10mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に微量に含む。

1c. 黒褐色土　10YR3/2　縞や強い、粘性あり。ロームブロック（φ5～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。

1d. 黒褐色土　10YR2/2　縞やあり、粘性あり。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

1e. 黒褐色土　10YR3/1　縞やあり、粘性あり。ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量、焼土（φ2～5mm）を部分的に微量含む。

2．褐色土　10YR4/4　縞や強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

3．にぶい黄褐色土　10YR4/3　縞や強い、粘性なし。　ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

4．灰黄褐色土　10YR4/2　縞やあり、粘性あり。ロームブロック（φ30～100mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に多く含む。

5．黒色土　10YR2/1　縞やなし、粘性あり、貝化物（φ5～10mm）を全体に少量、ロームブロック（φ1～5mm）を全体に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に微量に含む。

SK10

1．黒褐色土　10YR3/2　縞や強い、粘性なし。ロームブロックを全体に少量、ローム粒子（φ1～5mm）を全体に少量含む。

2．黒褐色土　10YR2/2　縞やなし、粘性強い。ロームブロック（φ10～30mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量に含む。

3．黒色土　10YR2/1　縞りなし、粘性強い。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に微量含む。

4．にぶい黄褐色土　10YR6/4　縞りあり、粘性あり。ロームブロックを全体に多量に含む。

SK11

1　暗褐色土　10YR3/3　縞り強い、粘性なし。　ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

2　暗褐色土　10YR3/3　縞り強い、粘性なし。　ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、貝化物（φ1～5mm）を部分的に微量に含む。

3　黄褐色土　10YR5/6　縞り強い、粘性なし。　ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

SK12

1a　黒褐色土　10YR2/2　縞や強い、粘性なし。　白色粒子（φ1～5mm）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

1b　黒褐色土　10YR2/3　縞や強い、粘性なし。　ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ2～5mm）を部分的に微量、白色粒子（φ1～10mm）を部分的に微量、貝化物（～φ1mm）を部分的に微量、礫（～φ20mm）を部分的に微量に含む。

2a　黒褐色土　10YR2/2　縞や強い、粘性なし。　ロームブロック（φ10～100mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～20mm）を部分的に少量、白色粒子（φ1～10mm）を部分的に少量含む。

2b　黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。　白色粒子（φ1～2mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

2c　黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。　白色粒子（φ1～2mm）を部分的に少量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

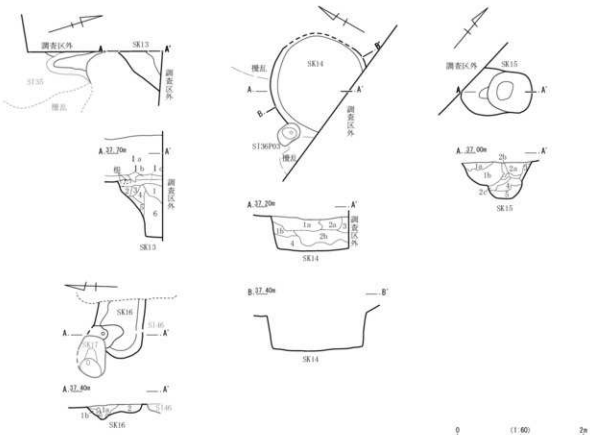
3a　黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。　ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量含む。

3b　黒褐色土　10YR2/2　縞りあり、粘性なし。　ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

3c　黒褐色土　10YR2/2　縞りあり、粘性なし。　ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く含む。

4　褐色土　10YR4/6　縞やあり、粘性あり。　ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10）を全体に多量に含む。

第195図　8～12号土坑



SK13

1．黒褐色土　10YR2/3　締りあり、粘性なし。　ローム ブロック（φ5～7㎜）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を部分的に微量に含む。

2．灰黄褐色土　10YR4/2　締り強い、粘性なし。　ローム ブロック（φ7～8㎜）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に少量、粘土（φ2～5㎜）を部分的に微量含む。

3．暗褐色土　10YR3/3　締りあり、粘性なし。　ローム ブロック（φ5～10㎜）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を部分的に少量含む。

4．黒褐色土　10YR3/2　締りあり、粘性なし。　ローム ブロック（φ5～7㎜）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を部分的に少量含む。

5．暗褐色土　10YR3/4　締りあり、粘性なし。　ローム ブロック（φ5～15㎜）を全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多く含む。

6．黒褐色土　10YR2/2　締りあり、粘性なし。　ローム ブロック（φ5～10㎜）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に微量に含む。

SK14

1a．黒色土　10YR2/1　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～3㎜）を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多く含む。

1b．黒色土　10YR2/1　締り強い、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を部分的に多量に含む。

2a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20㎜）を全体に少量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多く含む。

2b．黒色土　10YR2/1　締りなし、粘性なし。ロームブロック（φ10～50㎜）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量、焼土（φ1～10㎜）を部分的に微量に含む。

3．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～50㎜）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多く含む。

4．黒色土　10YR2/1　締りあり、粘性なし。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量に含む。

SK15

1a．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～3㎜）を部分的に微量、炭化物（φ1～5㎜）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20㎜）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に含む。

1b．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～3㎜）を部分的に微量、炭化物（φ5～10㎜）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～50㎜）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量に含む。

2a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～3㎜）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20㎜）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に少量、焼土（φ1～5㎜）を部分的に微量に含む。

2b．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ローム粒子（φ0.5～10㎜）を部分的に少量含む。

3．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多く含む。

4．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20㎜）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に少量含む。

5　褐色土　10YR4/6　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量に含む。

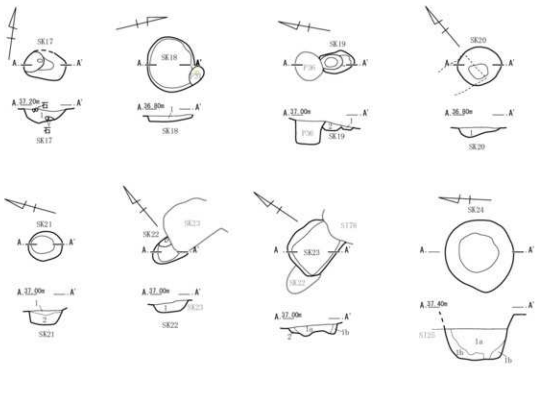
SK16

1a．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～3㎜）を全体に少量、炭化物（φ5～10㎜）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～50㎜）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多く含む。

1b．黒褐色土　10YR3/2　締り強い、粘性なし。白色粒子（φ0.5～1㎜）を部分的に微量、ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に少量含む。

2．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ロームブロックを全体に多く、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量、焼土（φ1～10㎜）を部分的に、白色粒子（φ1～3㎜）を全体に少量含む。

第196図　13～16号土坑



SK17
1．暗褐色土　10YR3/3　縞りあり、粘性なし。ロームブロック（φ10～100㎜）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に、焼土（φ3～5㎜）を部分的に少量含む。

SK18
1．黒褐色土　10YR3/2　縞り強い、粘性なし。白色粒子（φ1～5㎜）を全体に、炭化物（φ5～10㎜）を全体に、ロームブロック（φ10～50㎜）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多く含む。

SK19
1．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20㎜）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多く含む。
2．黒褐色土　10YR3/2　縞り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～50㎜）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多く含む。

SK20
1．黒褐色土　10YR2/2　縞りなし、粘性あり。炭化物（φ3～10㎜）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～100㎜）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量、焼土（φ3～10㎜）を部分的に微量に含む。

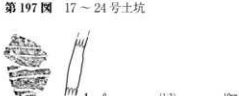
SK21
1．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～20㎜）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多く含む。
2．黒褐色土　10YR3/2　縞り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量に含む。

SK22
1．褐色土　10YR4/6　縞りあり、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量に含む。

SK23
1a．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～30㎜）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多く含む。
1b．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性あり。ロームブロックを全体に多量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多く含む。
2．黒褐色土　10YR3/2　縞り強い、粘性あり。ロームブロックを部分的に多量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量に含む。

SK24
1a．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～50㎜）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量、粘土（φ10～50㎜）を部分的に微量に含む。
1b．黒褐色土　10YR2/2　縞り強い、粘性あり。ロームブロック（φ10～100㎜）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10㎜）を全体に多量に含む。

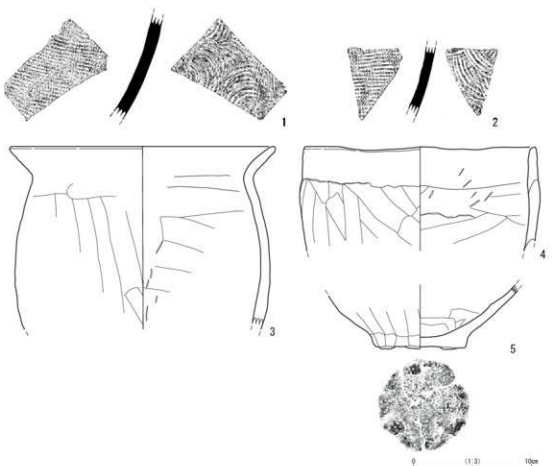
第197図　17～24号土坑



第198図　3号土坑出土遺物

第 72 表　3 号土坑出土遺物観察表

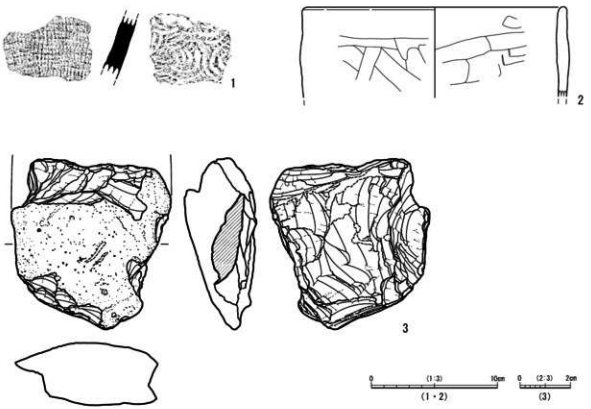
図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	縄文土器 深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・針	良好	5% 未満	にぶい黄橙 (10YR6/4)	横位沈線



第 199 図　9 号土坑出土遺物

第 73 表　9 号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・礫	良好	5% 未満	灰 (N5/0)	外面格子状叩き痕、内面同心円状当て具痕
2	須恵器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・礫	良好	5% 未満	灰 (N5/0)	外面格子状叩き痕、内面同心円状当て具痕
3	土師器 甕	口径：(22.2) 器高：(15.5) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲・針・　チャ・石英・礫	良好	10%	明赤褐 (2.5YR5/6)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
4	土師器 甕	口径：19.4 器高：(8.9) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲・石英・礫	良好	10%	にぶい褐 (7.5YR5/3)	口縁部内外面横位ナデ、外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ
5	土師器 甕	口径：- 器高：(5.5) 底径：7.4	白色粒子・黒色粒子・雲・針・　石英・礫	良好	10%	明赤褐 (5YR5/6)	外面縦位ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ。底部円状貼付け 3 箇所

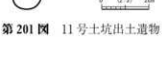


第 200 図　10 号土坑出土遺物

第 74 表　10 号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	須恵器 甕	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・石英・礫	良好	5% 未満	灰 (N5/0)	外面格子状叩き痕、内面同心円状当て具痕
2	土師器 甕	口径：(20.6) 器高：(7.2) 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英	良好	5%	褐 (7.5YR4/4)	外面ヘラケズリ、内面ヘラナデ・ナデ

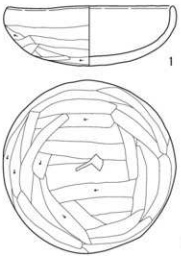
図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
3	打製石斧	砂岩	(7.3)	6.6	2.7	117.2	上部を大きく欠損。刃部は細かく調整されている。摩耗しれみを帯びる。



第 201 図　11 号土坑出土遺物

第 75 表　11 号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	石材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	所見
1	磨石	チャート	1.7	1.3	0.8	2.4	楕円形で全体に平滑で光沢を帯びる。



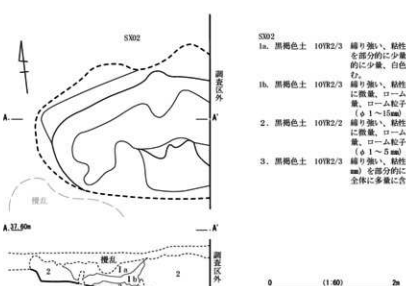
第 202 図　13 号土坑出土遺物

第 76 表　13 号土坑出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
1	土師器 坏	口径：13.0 器高：4.7 底径　—	白色粒子・黒色粒子・雲・針・　石英・礫	良好	95%	にぶい赤褐（5YR4/4）	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ。内面ナデ

（6）性格不明遺構

性格不明遺構は 1 基検出されている（第 203・204 図・第 77 表）。



SX02
1a．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を部分的に少量、白色粒子（φ1～3mm）を部分的に少量含む。
1b．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。炭化物（φ10～15mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～20mm）を部分的に微量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に少量、焼土（φ1～15mm）を部分的に微量に含む。
2．黒褐色土　10YR2/2　締り強い、粘性なし。炭化物（φ5～20mm）を部分的に微量、ロームブロック（φ10～50mm）を部分的に少量、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多く、焼土（φ1～5mm）を部分的に少量含む。
3．黒褐色土　10YR2/3　締り強い、粘性なし。ロームブロック（φ10～150mm）を部分的に多く、ローム粒子（φ0.5～10mm）を全体に多量に含む。

第 203 図　2 号性格不明遺構

第204図　2号性格不明遺構出土遺物

第77表　2号性格不明遺構遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
1	土師器 坏	口径：(13.0) 器高：(3.7) 底径：-	白色粒子・赤色粒子・雲・針・石英・礫	良好	10%	にぶい赤褐(5YR4/4)	口縁部内外面横位ナデ、外面ヘラケズリ、内面ナデ、口縁部外面～内面赤彩

(7) ピット

ピットは53基検出されている(第78表)。

第78表　時期不明遺構計測表・ピット

番号	グリッド	平面形	サイズ(m) 最大長	最大幅	最大深	壁面	床面	新旧関係	出土遺物	時期	備考
PIT-01	AH・AG-35	不整形	0.49	0.41	0.32	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-03	AG-33	ほぼ円形	0.36	0.3以上	0.27	急角度で立ち上がる	弧状	3号竪穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-04	AG-33	方形	0.26以上	0.21以上	0.53	急角度で立ち上がる	弧状	3号竪穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-05	AG-33	不整形	0.6	0.44以上	0.26	急角度で立ち上がる	弧状	3号竪穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-06	AH-33	不明	0.29以上	0.11以上	0.34	急角度で立ち上がる	弧状	5号竪穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-07	AH-33	長方形	0.53	0.4	0.33	急角度で立ち上がる	弧状	5号竪穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-08	AH-30	不整長方形	0.43以上	0.29以上	不明	急角度で立ち上がる	弧状	4号竪穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-09	AH-30	楕円形	0.61以上	0.26以上	0.13	急角度で立ち上がる	ほぼ平坦	4・17号竪穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-10	AI・AH-28	不整形	0.86以上	0.84以上	0.3	急角度で立ち上がる	弧状	8号竪穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-11	S-3	楕円形	0.43	0.36	0.37	急角度で立ち上がる	弧状	3号堀跡と重複、新旧不明	なし	不明	
PIT-12	R-3	楕円形	0.28	0.22	0.22	急角度で立ち上がる	弧状	3号堀跡と重複、新旧不明	なし	不明	
PIT-13	AI-20	不整形	0.57	0.43	0.5	急角度で立ち上がる	弧状	14号ピットより新しい	なし	不明	
PIT-14	AI-20	楕円形	0.52	0.37	0.56	急角度で立ち上がる	弧状	13号ピットより古い	なし	不明	
PIT-15	AI-17	円形	0.38	0.38	0.38	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	

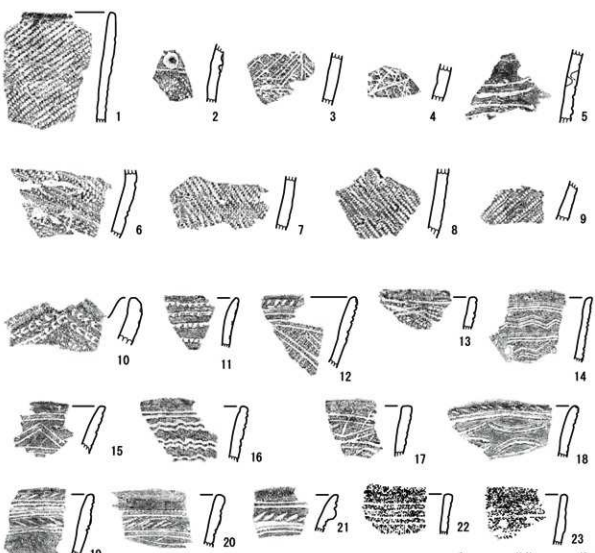
番号	グリッド	平面形	サイズ（m）			壁面	床面	新旧関係	出土遺物	時期	備考
			最大長	最大幅	最大深						
PIT-16	AI-17	隅丸長方形	0.49	0.41	0.33	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-17	AK- 8	不整楕円形	0.64	0.32	0.17	ゆるやかに立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-18	AK- 8	不整円形	0.3	0.23	0.26	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-19	AK- 7	不整円形	0.4	0.36	0.23	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-23	Z・Y37	円形	1.31	1.3	0.86	急角度で立ち上がる	弧状	59号竪穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-24	AA-37	不明	0.91以上	0.33以上	0.69	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-25	S-36	円形	0.32	0.32	0.19	急角度で立ち上がる	弧状	57号竪穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-26	S-36	不整形	0.36	0.33	0.22	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-27	S-36	楕円形	0.28	0.25	0.18	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-28	S-36	隅丸長方形	0.48	0.38	0.44	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-29	R-3	不整円形	0.28	0.27	0.24	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-30	R-3	不整形	0.72	0.7	0.26	急角度で立ち上がる	1は平坦	なし	なし	不明	
PIT-31	T- 3	楕円形	0.3	0.24	0.14	急角度で立ち上がる	弧状	18号土坑と重複、新旧不明	なし	不明	
PIT-32	T- 3	不整形	0.4	0.39	0.16	ゆるやかに立ち上がる	1は平坦	なし	なし	不明	
PIT-33	T-3	円形	0.24	0.22	0.27	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-34	T-3	不整円形	0.29	0.24	0.27	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-35	T-3	不整形	0.5	0.4	0.42	急角度で立ち上がる	弧状	37号ピットと重複、新旧不明	なし	不明	
PIT-36	T-3	楕円形	0.47	0.42	0.38	急角度で立ち上がる	1は平坦	19号土坑より新しい	なし	不明	
PIT-37	T-3	不整形	0.44	0.41	0.2	急角度で立ち上がる	1は平坦	35号ピットと重複、新旧不明	なし	不明	
PIT-38	T-3	不整形	0.49	0.4	0.27	急角度で立ち上がる	1は平坦	なし	なし	不明	
PIT-39	T-3	不整形	0.53	0.32	0.14	急角度で立ち上がる	1は平坦	40号ピットと重複、新旧不明	なし	不明	
PIT-40	T-3	楕円形	0.42	0.29	0.38	急角度で立ち上がる	弧状	39号ピットと重複、新旧不明	なし	不明	
PIT-41	Y- 3	不整円形	0.52	0.48	0.22	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	

番号	グリッド	平面形	サイズ（m）			壁面	床面	新旧関係	出土遺物	時期	備考
			最大長	最大幅	最大深						
PIT-42	O-3	円形	0.5	0.46	0.36	急角度で立ち上がる	弧状	5号溝より新しい	なし	不明	
PIT-43	O-3	隅丸方形	0.32	0.25	0.4	急角度で立ち上がる	弧状	5号溝より新しい	なし	不明	
PIT-44	N-3	不整形	0.34	0.24	0.27	急角度で立ち上がる	ほぼ平坦	なし	なし	不明	
PIT-45	K・L-3	円形	0.56	0.37	0.25	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-46	K-2	楕円形	0.29	0.29	0.31	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-47	J-2	不整円形	0.41	0.34	0.22	急角度で立ち上がる	ほぼ平坦	76号竪穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-48	J・K-3	楕円形	0.35	0.25	0.18	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-49	J-3	楕円形	0.38	0.33	0.23	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-50	J-2	楕円形	0.34	0.26	0.61	急角度で立ち上がる	ほぼ平坦	なし	なし	不明	
PIT-51	J-2	楕円形	0.43	0.3	0.2	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-52	J-2	不整形	0.3	0.27	0.38	急角度で立ち上がる	弧状	86号竪穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-53	J-2	方形	0.35	0.35	0.33	急角度で立ち上がる	弧状	86号竪穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-54	F・G-3	円形	0.52	0.51	0.49	急角度で立ち上がる	弧状	90号竪穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-55	AI-18	不整形	0.34	0.23	0.41	急角度で立ち上がる	弧状	なし	なし	不明	
PIT-56	R-36	不明	0.29以上	0.18以上	0.3	急角度で立ち上がる	弧状	57号竪穴建物跡より新しい	なし	不明	
PIT-57	AH-30	不整形	0.29	0.25	0.61	急角度で立ち上がる	弧状	17号竪穴建物跡より新しい	なし	不明	

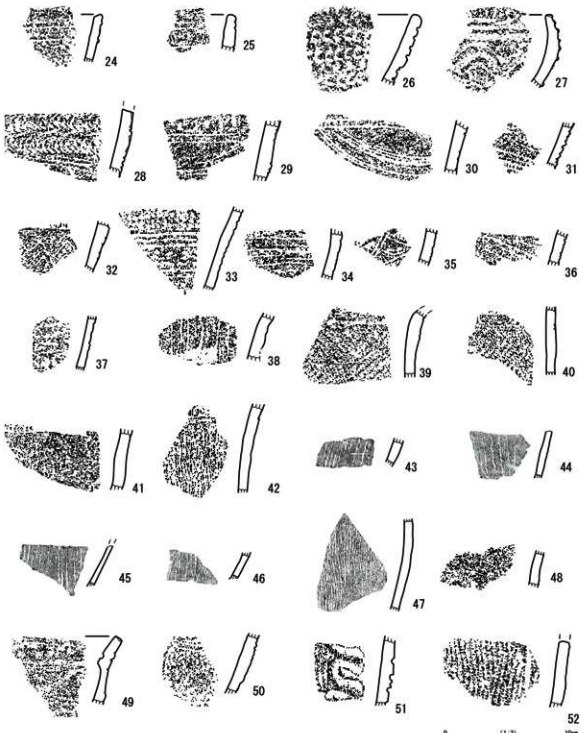
第８節　調査区内・遺構内出土遺物

（1）遺物の概要

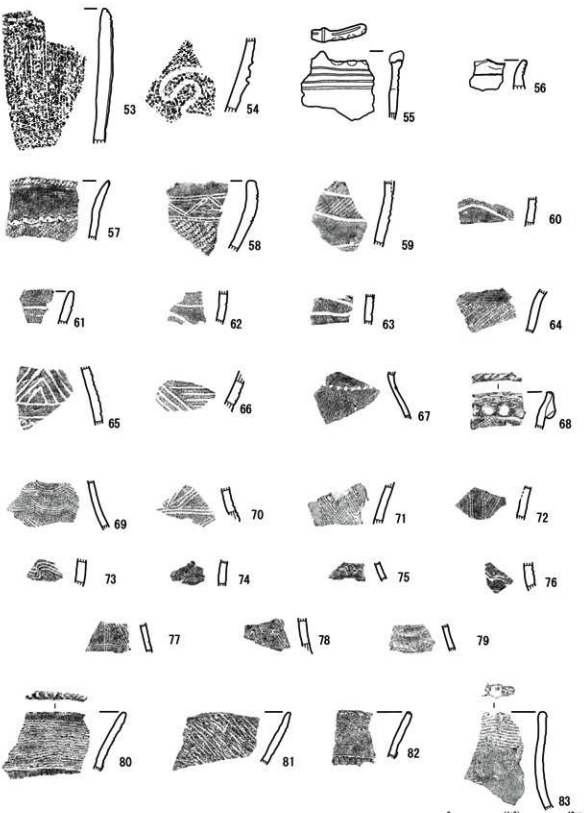
表土や撹乱から出土した遺物の他、遺構内からの出土ではあるが遺構の時期とは異なり混入品と考えられる遺物をここで報告する（第 205 ～ 213 図・第 79 表）。遺物の種類としては、縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、銭貨、石器である。



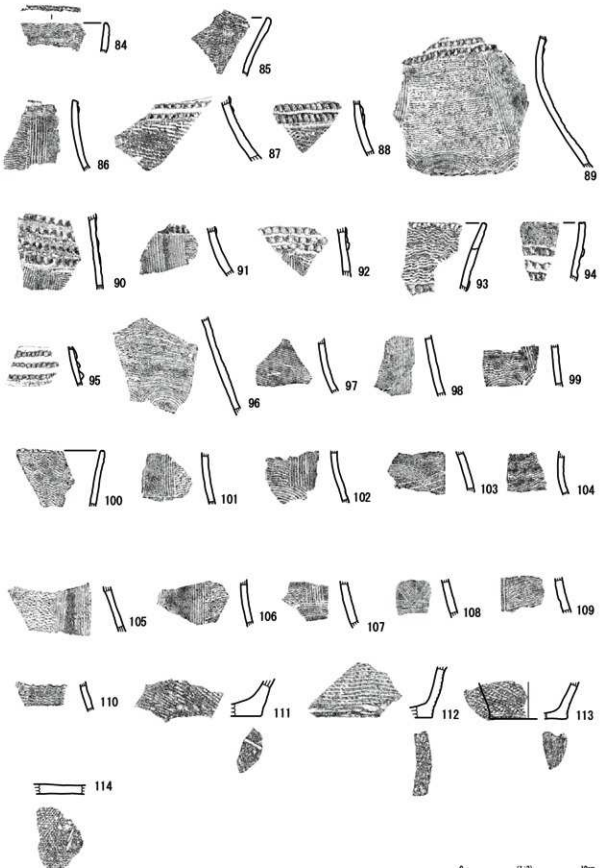
第 205 図　遺構外出土遺物（1）



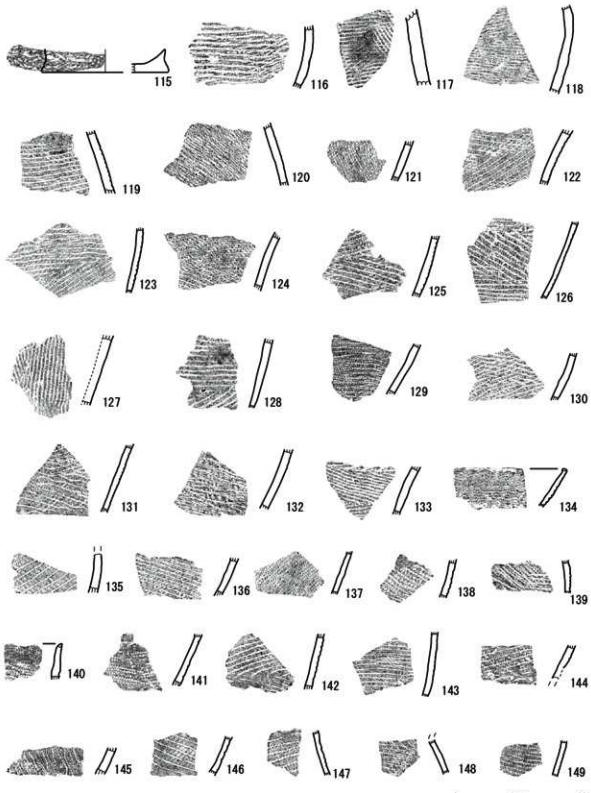
第206図　遺構外出土遺物（2）



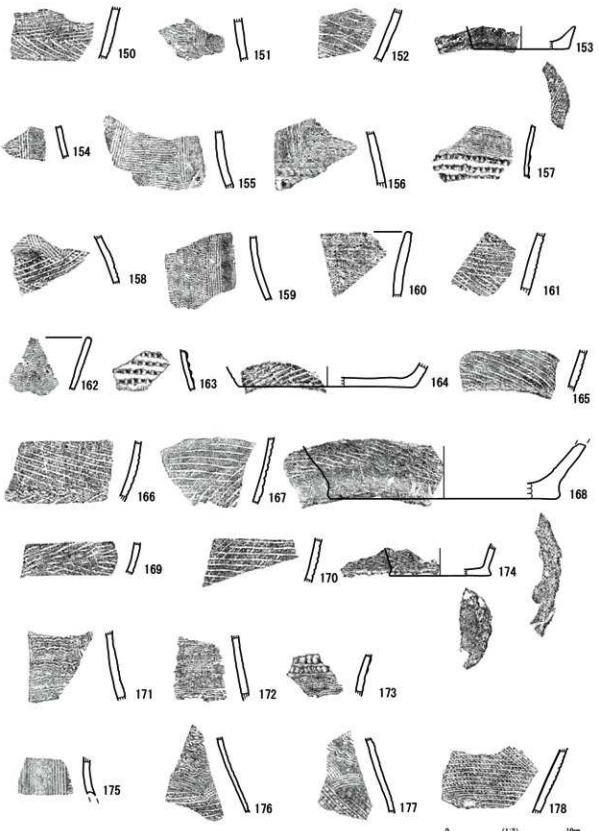
第 207 図　遺構外出土遺物（3）



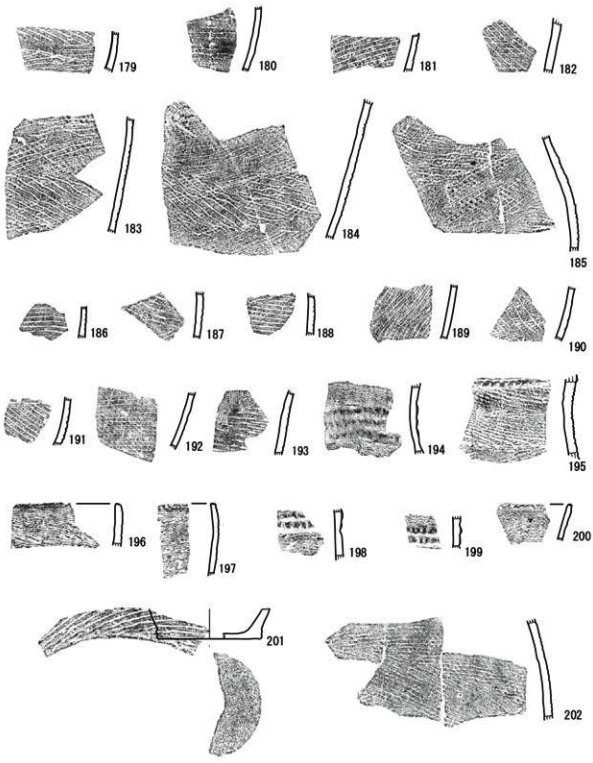
第208図　遺構外出土遺物（4）



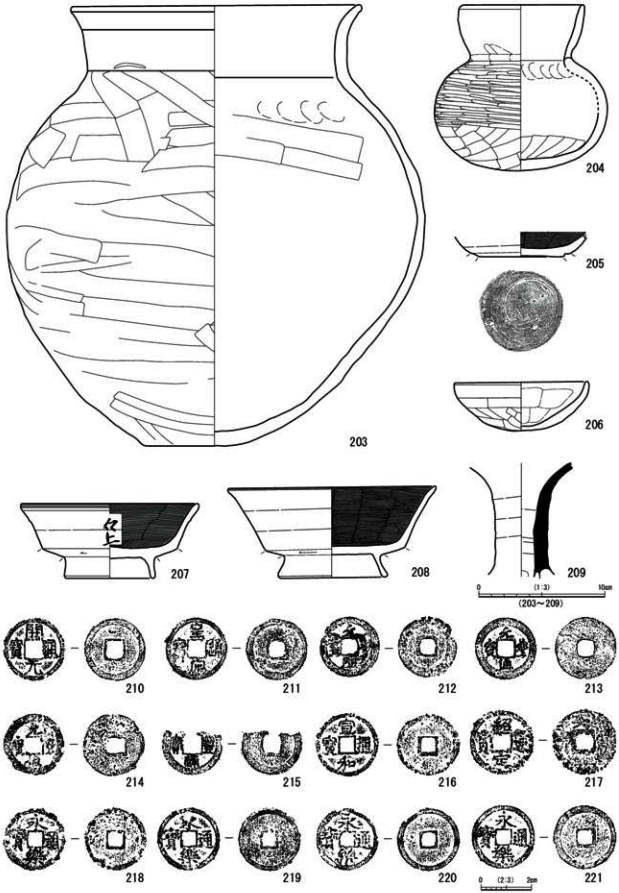
第209図　遺構外出土遺物（5）



第210図　遺構外出土遺物（6）

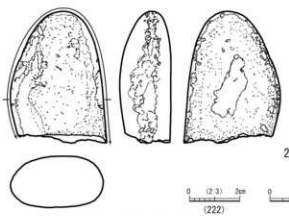


第 211 図　遺構外出土遺物（7）



第 212 図　遺構外出土遺物（8）

222



223

(222)　(223)

第 213 図　遺構外出土遺物（9）

第 79 表　遺構外出土遺物観察表

図版番号	種別・器種	法量 (cm)	胎土	焼成	残存率 (%)	色調	所見
1	縄文土器 深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・チャート・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/4)	LR 横位、繊維含む
2	縄文土器 深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・角閃石・チャート	良好	5%未満	暗赤褐 (2.5YR3/2)	RL 横位施文後円形文、繊維含む
3	縄文土器 深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・チャート・石英	良好	5%未満	褐灰 (10YR4/1)	RL 施文後、半裁竹管状工具によるモチーフを描く、繊維含む
4	縄文土器 深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・チャート	良好	5%未満	にぶい橙 (7.5YR7/4)	ヘラ状工具によるモチーフを描く、繊維含む
5	縄文土器 深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・角閃石・チャート・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/4)	２本同時施文具工具による横位沈線を描く、繊維含む
6	縄文土器 深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・角閃石・チャート・石英石英	良好	5%未満	橙 (7.5YR7/6)	RL 縦横位に施文して羽状縄文状にする、繊維含む
7	縄文土器 深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・チャート・石英	良好	5%未満	暗褐 (10YR3/3)	RL 縦横位に施文、繊維含む
8	縄文土器 深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・チャート・石英	良好	5%未満	明褐 (7.5YR5/8)	RL 縦横位に施文、繊維含む
9	縄文土器 深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・角閃石・チャート・石英	良好	5%未満	橙 (7.5YR6/6)	RL＋I 横位に施文、繊維含む
10	縄文土器 深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・角閃石・チャート・雲母	良好	5%未満	橙 (7.5YR6/6)	波状口縁、口縁部に沿って半裁竹管状による押引文、繊維含む
11	縄文土器 深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・角閃石・チャート・石英	良好	5%未満	橙 (7.5YR6/8)	口縁部に沿って半裁竹管状工具による押引文、繊維含む
12	縄文土器 深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・チャート	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	LR 施文後半裁竹管状工具で山型文を描く
13	縄文土器 深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・チャート・石英	良好	5%未満	褐 (7.5YR4/4)	LR 縦、竹管状工具で山型文を描く
14	縄文土器 深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	黄褐 (10YR5/6)	４本を一単位とする工具による横線文と波状文を重畳させる
15	縄文土器 深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい黄褐 (10YR5/3)	半裁竹管状工具による上下に区画し、内側に連続山型文を配置する
16	縄文土器 深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	竹管状工具による横線文と波状文を描く

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
17	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙(10YR6/3)	撚り糸R施文後、半裁竹管状工具によるモチーフを描く
18	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙(10YR6/4)	半裁竹管状工具による木葉文を描く
19	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英	良好	5%未満	黒褐(10YR3/1)	竹管状工具による有節沈線と斜位のキザミを施す
20	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子	良好	5%未満	褐(7.5YR4/6)	竹管状工具による平行沈線と斜位のキザミを施す
21	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子	良好	5%未満	褐(7.5YR4/6)	竹管状工具による平行沈線と斜位のキザミを施す
22	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・角閃石・石英	良好	5%未満	にぶい黄褐(10YR5/4)	竹管状工具による横位線と斜位沈線を描く
23	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙(10YR6/4)	竹管状工具による有節沈線と凹文を描く
24	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	灰黄褐(10YR4/2)	RL横施文後、竹管状工具による横位有節沈線と斜位有節沈線を描く
25	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英	良好	5%未満	灰白(10YR8/2)	撚り糸L施文後半裁竹管状工具による有節沈線
26	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英	良好	5%未満	灰白(10YR8/2)	半裁竹管状工具による上押引文を重畳させる
27	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	明褐(7.5YR5/8)	キザミがある微隆起でモチーフを描く
28	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	灰褐(7.5YR5/2)	半裁竹管状工具による横位区画後貝殻によるロッキング
29	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	明黄褐(10YR7/6)	撚糸R施文後、半裁竹管状工具による弧線文と刺突を描く
30	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	橙(7.5YR6/6)	撚糸R施文後、半裁竹管状工具による木葉文を描く
31	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	橙(7.5YR6/8)	LR施文後半裁竹管状工具による平行沈線文と爪型文を施す
32	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・角閃石・石英	良好	5%未満	明黄褐(10YR7/6)	撚糸R施文後、半裁竹管状工具による爪型文で横位区画し同一工具で波状文を描く
33	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙(10YR6/4)	刺突文と櫛歯状工具による横線を重畳させる
34	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	明黄褐(10YR6/6)	竹管状工具による平行沈線と爪型文を施す
35	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	明黄褐(10YR7/6)	撚糸L施文後、半裁竹管状工具によるモチーフを描く
36	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英	良好	5%未満	灰黄褐(10YR4/2)	LR横位施文後、半裁竹管状工具によるモチーフを描く
37	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい黄褐(10YR4/3)	半裁竹管状工具による押引文と変形爪型文を描く
38	縄文土器深鉢	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英	良好	5%未満	灰黄褐(10YR5/2)	半裁竹管状工具による縦位平行線を描く

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
39	縄文土器深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄褐(10YR5/4)	半裁竹管状工具による押引後、単節羽状縄文を施文、繊維含む
40	縄文土器深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	黒褐(10YR2/2)	LR横位施文後、半裁竹管状工具による爪型文を施す、繊維含む
41	縄文土器深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	黒褐(10YR2/2)	撚糸1施文後、半裁竹管状工具による爪型文を施す
42	縄文土器深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲	良好	5%未満	黒褐(10YR3/2)	付加条RL＋L・L施文後、半裁竹管状工具による平行線を描く
43	弥生土器壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい橙(7.5YR7/4)	撚糸R
44	弥生土器壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい橙(7.5YR7/4)	RLR＋R・R
45	弥生土器壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい橙(7.5YR6/4)	撚糸R
46	弥生土器壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英	良好	5%未満	褐灰(10YR4/1)	撚糸R
47	弥生土器壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5%未満	浅黄橙(10YR8/3)	軸縄不明＋L
48	縄文土器深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	明褐(7.5YR5/8)	結節文を施す
49	縄文土器深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	暗褐(7.5YR3/3)	隆帯に沿って有節沈線を施す
50	縄文土器深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子	良好	5%未満	橙(7.5YR7/6)	RL横位施文後、沈線による枠状に区画
51	縄文土器深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・角閃石・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙(10YR7/4)	LR施文後、蕨手文を描く
52	縄文土器深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・角閃石・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙(10YR7/4)	LR横位施文後、縦位に磨消す
53	縄文土器深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・角閃石・石英	良好	5%未満	黄橙(10YR7/8)	櫛歯状工具で縦位条線を描く
54	縄文土器深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・角閃石	良好	5%未満	明黄褐(10YR7/6)	LR施文後、蕨手文を描く
55	縄文土器深鉢	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・角閃石・石英	良好	5%未満	明赤褐(5YR5/8)	口縁部突起とキザミ、口縁部に沿って3条の沈線が巡り、頸部を無文帯とする
56	弥生土器壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	褐(7.5YR4/3)	口縁部外縁部に輪積み痕を残す、口唇部波状になる
57	弥生土器甕	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・角閃石	良好	5%未満	褐灰色(5YR4/1)	口唇部LR施文、無文部はさみ、胴部は上端に結節持つLRを横位施文する。
58	弥生土器甕	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・角閃石	良好	5%未満	にぶい黄橙色(10YR7/4)	口縁部に半截竹管状工具で横位区画した内部を同一工具で鋸歯文を描く。胴部以下LRを横位施文する。
59	弥生土器筒型土器	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・角閃石	良好	5%未満	にぶい黄橙(10YR6/3)	LR施文後、沈線で区画する
60	弥生土器筒型土器	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・白色針状物質	良好	5%未満	にぶい赤褐(5YR5/3)	LR施文後、沈線で区画する

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
61	弥生土器 隆型土器	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい赤褐（5YR5/4）	カナムグラ回転施文後、沈線の区画
62	弥生土器 隆型土器	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5%未満	灰黄褐（10YR4/2）	LR 施文後、沈線で区画する
63	弥生土器 隆型土器	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	灰褐（7.5YR5/2）	LR 施文後、沈線で区画する
64	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	褐灰（7.5YR4/1）	LR＋R・R
65	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子	良好	5%未満	浅黄橙（10YR8/4）	胴部 LR、沈線による横位区画後、重山型文
66	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5%未満	にぶい褐（7.5YR6/3）	沈線による斜位線で鋸歯状のモチーフを描くもと思われる
67	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5%未満	明黄褐（10YR7/6）	胴部上端に円形刺突列
68	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい橙（7.5YR7/4）	口唇部縄押圧、折返し口縁部に LR 施文下端を押圧、頸部５本同時施文具により山型文を描く
69	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・角閃石・石英	良好	5%未満	にぶい橙（7.5YR6/4）	５本を一単位とする櫛歯状工具による下向きの連弧文を３段以上巡らす
70	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・角閃石・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙（10YR6/4）	３本同時施文具により横位区画し連続山型文を施す
71	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・角閃石・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙（10YR7/4）	縦区画後、３本同時施文具により連続山型文を施す
72	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子	良好	5%未満	にぶい橙（5YR6/4）	縦区画後、３本同時施文具により連続山型文を施す
73	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい橙（7.5YR6/4）	縦区画後、本同時施文具によりにより連続山型文を施す
74	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲母	良好	5%未満	にぶい橙（7.5YR7/4）	３本同時施文具による横位文と連続山型文を施す
75	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子	良好	5%未満	灰黄褐（10YR5/2）	３本同時施文具による波状文を施す
76	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子	良好	5%未満	橙（5YR6/6）	２本同時施文具による波状文を２段以上施す
77	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい褐（7.5YR6/3）	２本同時施文具による波状文を施す
78	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい橙（7.5YR7/4）	３本同時施文具によりモチーフを描く
79	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・角閃石・石英・雲母	良好	5%未満	にぶい赤褐（5YR5/4）	３本一単位の櫛歯状工具による波状文
80	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・角閃石・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙（10YR7/3）	口唇部縄押圧、５本を一単位する櫛歯状工具による波状文を４段施す、頸部に上端を押圧する隆帯を施す
81	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい黄褐（10YR5/3）	RL＋L・L 縄文を施文
82	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲母	良好	5%未満	灰白（2.5Y8/2）	口唇部縄押圧、５本を一単位とする櫛歯状工具による波状文を４段、頸部に上端に押圧する隆帯を施す

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
83	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	にぶい橙（7.5YR7/4）	口縁部にキザミ、口唇部及び口縁部軸縄不明＋L
84	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・角閃石・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/4）	口唇部縄押圧、５本を一単位とする櫛歯状工具による波状文を施す
85	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/2）	４本本を一単位とする櫛歯状工具よる波状文を施す
86	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/3）	頸部上半上端押圧のある隆帯を巡らす、頸部下半８本を一単位とする櫛歯状工具により縦区画後波状文
87	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/3）	頸部に押圧のある隆帯を巡らし頸部軸縄不明＋Ｒを施文
88	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	にぶい橙（7.5YR7/4）	口縁部ＬＲ＋ｒを施文、頸部押圧のある隆帯を２段以上巡らす
89	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	灰黄（2.5Y6/2）	頸部上半上端キザミのある隆帯を巡らす、頸部下半５本を一単位とする櫛歯状工具によ横位の弧線文を施文後縦区画後、波状文
90	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/3）	押圧のある隆帯を４条巡らす、７本を一単位とする櫛歯状工具による縦区画後波状文
91	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/4）	押圧のある隆帯を１条以上巡らす、６本を一単位とする櫛歯状工具による縦区画後波状文
92	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR6/3）	押圧のある隆帯を３条以上巡らす、４本を一単位とする櫛歯状工具による縦区画と波状文
93	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/3）	口唇部縄文押圧、口縁部外面４本を一単位とする櫛歯状工具による波状文
94	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・雲母	良好	5% 未満	灰黄褐（10YR6/2）	口唇部縄文押圧、押圧のある隆帯を３条以上巡らす
95	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	褐灰（10YR4/1）	押圧のある隆帯を３条以上巡らす、櫛歯状工具による波状文
96	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・角閃石・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR6/3）	頸部外面６本を一単位とする櫛歯状工具による連弧文後波状文
97	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・雲母	良好	5% 未満	灰褐（7.5YR5/2）	頸部外面５本を一単位とする櫛歯状工具による横線文
98	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/3）	頸部外面８本を一単位とする櫛歯状工具による縦位区画後波状文
99	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	褐灰（5YR4/1）	頸部外面５本を一単位とする櫛歯状工具による連弧文後縦位区画後波状文
100	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・雲母	良好	5% 未満	にぶい褐（7.5YR5/3）	口唇部縄文押圧、５本を一単位とする櫛歯状工具による波状文
101	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・角閃石	良好	5% 未満	灰褐（7.5YR5/2）	５本を一単位とする櫛歯状工具による横位区画後縦区画後波状文
102	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・角閃石	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/3）	８本を一単位とする櫛歯状工具による連弧文後縦位区画後波状文
103	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	褐灰（10YR4/1）	胴部上半ＬＲ＋Ｌ・Ｌ縄文後８本を一単位とする櫛歯状工具による連弧文後縦位区画後波状文
104	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・雲母	良好	5% 未満	褐灰（7.5YR4/1）	６本を一単位とする櫛歯状工具による波状文

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
105	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	灰黄褐（10YR4/2）	7本を一単位とする櫛歯状工具による縦位区画後波状文
106	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/2）	8本を一単位とする櫛歯状工具による連弧文後縦位区画後波状文
107	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	にぶい橙（7.5YR6/4）	7本を一単位とする櫛歯状工具による横位区画後山型文
108	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・角閃石・石英・雲母	良好	5% 未満	灰黄褐（10YR5/2）	5本を一単位とする櫛歯状工具による縦位区画後波状文
109	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・角閃石・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/3）	4本を一単位とする櫛歯状工具による縦位区画後波状文
110	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR6/3）	付加条1種 RL＋L・L
111	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲母	良好	5% 未満	にぶい橙（7.5YR7/4）	付加条2種　砂底
112	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR6/3）	付加条2種
113	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・角閃石・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい褐（7.5YR6/3）	底部布目
114	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい赤褐（5YR5/4）	付加条2種　砂底
115	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/3）	頸部外面4本を一単位とする櫛歯状工具による縦位区画後波状文
116	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	にぶい橙（7.5YR7/4）	付加条1種 LR＋R・R
117	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英	良好	5% 未満	にぶい橙（7.5YR6/4）	付加条2種羽状縄文
118	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR6/3）	軸縄不明＋L
119	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・角閃石・石英	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/2）	軸縄不明＋L
120	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	にぶい褐（7.5YR6/3）	直前段多条のRL
121	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・角閃石・雲母	良好	5% 未満	にぶい褐（7.5YR5/3）	RL+R・R
122	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/3）	付加条2種羽状縄文
123	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲母	良好	5% 未満	灰白（10YR8/2）	付加条2種羽状縄文
124	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/3）	付加条2種羽状縄文
125	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/3）	付加条2種羽状縄文
126	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/2）	付加条2種羽状縄文

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
127	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・角閃石・石英	良好	5%未満	にぶい橙(7.5YR6/4)	付加条1種羽状縄文
128	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5%未満	黒褐(10YR2/2)	付加条2種羽状縄文
129	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英	良好	5%未満	褐灰(7.5YR4/1)	直前段多条のLR
130	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙(10YR7/3)	付加条2種羽状縄文
131	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい橙(7.5YR6/4)	付加条2種羽状縄文
132	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい褐(7.5YR6/3)	付加条2種
133	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい褐(7.5YR6/3)	付加条1種羽状縄文
134	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・角閃石・雲母	良好	5%未満	にぶい橙(7.5YR7/4)	口唇部キザミ、口縁部外面に4本一単位の櫛歯状工具による波状文
135	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5%未満	褐灰(7.5YR4/1)	付加条2種
136	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙(10YR6/3)	付加条2種
137	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	灰黄褐(10YR6/2)	直前段多条のLR
138	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙(10YR6/3)	RLR＋R・R
139	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい黄橙(10YR7/2)	直前段多条のRL
140	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子	良好	5%未満	灰褐(7.5YR5/2)	LR＋R・R
141	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい褐(7.5YR5/4)	直前段多条のRL
142	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙(10YR7/3)	付加条2種羽状縄文
143	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5%未満	灰褐(7.5YR5/2)	付加条1種LR＋R・R
144	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子	良好	5%未満	にぶい黄橙(10YR6/3)	付加条2種
145	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5%未満	にぶい褐(7.5YR6/3)	撚糸R
146	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・雲母	良好	5%未満	にぶい黄橙(10YR7/4)	付加条2種
147	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・雲母	良好	5%未満	灰黄褐(10YR5/2)	軸縄不明＋R
148	弥生土器 壺	口径：. 器高：. 底径：.	白色粒子・黒色粒子・雲母	良好	5%未満	灰黄褐(10YR6/2)	RL+R・R

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
149	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい赤褐（5YR5/4）	軸縄不明＋L
150	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲母	良好	5% 未満	灰白（10YR8/2）	付加条羽状縄文
151	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/3）	6本を一単位とする櫛歯状工具による連弧文後、縦位区画線後、波状文
152	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	褐灰（7.5YR4/1）	軸縄不明＋R
153	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR6/3）	底部網代痕
154	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	にぶい橙（7.5YR7/4）	4本を一単位とする櫛歯状工具による波状文後、縦位区画
155	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	浅黄橙（10YR8/4）	5本を一単位とする櫛歯状工具による連弧文後、縦位区画後波状文
156	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲母	良好	5% 未満	浅黄橙（10YR8/4）	頸部下半上端を押圧した隆帯を巡らす、7本を一単位とする櫛歯状工具による横位波状文区画後縦位区画後波状文
157	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい橙（7.5YR6/4）	押圧ある隆帯を3条巡らす、6本を一単位とする櫛歯状工具による波状文
158	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/2）	RL＋r付加縄2種，5本を一単位とする櫛歯状工具による弧線文後縦区画
159	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	灰黄褐（10YR5/2）	7本を一単位とする櫛歯状工具による縦位区画後波状文
160	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/3）	口唇部縄文押圧，口縁部6本を一単位とする櫛歯状工具による波状文
161	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	浅黄橙（10YR8/4）	付加縄2種羽状縄文
162	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	灰黄褐（10YR5/2）	口唇部縄文押圧，口縁部4本を一単位とする櫛歯状工具による波状文
163	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・雲母	良好	5% 未満	灰黄褐（10YR4/2）	頸部に押圧隆帯4条、以下6本一単位の櫛歯状工具で縦区画線、波状文を描く
164	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	灰黄褐（10YR5/2）	軸縄不明＋R
165	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	橙（5YR6/6）	軸縄不明＋L
166	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	灰黄褐（10YR6/2）	軸縄不明＋L
167	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい橙（5YR6/4）	付加条2種羽状縄文
168	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	にぶい橙（7.5YR7/4）	付加条2種羽状縄文
169	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・角閃石・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい橙（5YR7/4）	付加条2種羽状縄文
170	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	褐灰（7.5YR4/1）	軸縄不明＋L

図版番号	種別・器種	法量(cm)	胎土	焼成	残存率(%)	色調	所見
171	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	灰白 (10YR8/2)	3 本一単位の櫛歯状工具による縦位区画線後、波状文
172	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙 (10YR7/2)	5 本一単位の櫛歯状工具による波状文
173	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	灰黄褐 (10YR5/2)	押圧隆帯 2 条、以下 7 本一単位の櫛歯状工具による波状文
174	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙 (10YR7/2)	軸縄不明＋ℓ
175	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	灰黄褐 (10YR6/2)	5 本一単位の櫛歯状工具による縦区画線後、波状文
176	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい褐 (7.5YR6/3)	5 本一単位の櫛歯状工具による弧線文後、縦区画線後、波状文、地文は付加条 2 種
177	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	6 本一単位の櫛歯状工具による弧線文後、縦区画線後、波状文、地文は付加条 2 種
178	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	褐灰 (10YR5/1)	付加条 2 種羽状縄文
179	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	黄灰 (2.5Y4/1)	付加条 2 種羽状縄文
180	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙 (10YR7/2)	軸縄不明＋L
181	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	付加条 2 種
182	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	褐灰 (10YR5/1)	付加条 2 種羽状縄文
183	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	付加条 2 種羽状縄文
184	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	付加条 2 種羽状縄文
185	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙 (10YR6/3)	付加条 2 種羽状縄文
186	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい褐 (7.5YR5/3)	付加条 2 種
187	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙 (10YR7/3)	付加条 2 種羽状縄文
188	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	灰黄褐 (10YR6/2)	付加条 1 種 RL ＋ L・L
189	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・角閃石・石英	良好	5% 未満	にぶい褐 (7.5YR6/3)	直前段多条の L R
190	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	灰褐 (7.5YR6/2)	付加条 2 種羽状縄文
191	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・角閃石・石英・雲母	良好	5% 未満	褐灰 (7.5YR5/1)	付加条 1 種 RL ＋ L・L
192	弥生土器 壺	口径： 器高： 底径：	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	明褐灰 (7.5YR7/2)	付加条 2 種羽状縄文

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
193	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・角閃石・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい褐（7.5YR6/3）	6本一単位の櫛歯状工具による弧線文後、縦区画線後、波状文、地文は付加条2種
194	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・角閃石・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい赤褐（5YR5/4）	頸部に押圧隆帯3条、それより上に6本一単位の櫛歯状工具による波状文、隆帯より下に弧線文後、縦区画線後、波状文
195	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/3）	押圧隆帯以下に付加条2種羽状縄文
196	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR6/3）	5本一単位の櫛歯状工具にゆる波状文、口唇部キザミ
197	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい橙（7.5YR7/4）	5本一単位？の櫛歯状工具にゆる波状文、口唇部キザミ
198	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・角閃石・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい黄橙（10YR7/2）	押圧隆帯2条以上櫛描波状文
199	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい橙（7.5YR7/3）	押圧隆帯2条以上櫛描波状文
200	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	5% 未満	黒褐（7.5YR3/1）	5本一単位の櫛歯状工具による波状文、口唇部キザミ
201	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい橙（5YR7/4）	沈線による斜位線で鋸歯状のモチーフを描くも上塗われる
202	弥生土器 壺	口径：- 器高：- 底径：-	白色粒子・黒色粒子・角閃石・石英・雲母	良好	5% 未満	にぶい橙（7.5YR7/3）	付加条2種　砂底
203	土師器 甕	口径：22.8 器高：35.5 底径：8.5	白色粒子・赤色粒子・針・石英・礫	良好	70%	褐（7.5YR6/4）	3本一単位の櫛歯状工具による波状文
204	土師器 坩	口径：10.0 器高：12.9 底径：-	雲・針・石英・礫	良好	80%	明赤褐（5YR5/6）	付加条2種羽状縄文
205	土師器 坏	口径：－ 器高：〈1.7〉 底径：6.8	白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・石英	良好	30%	褐（7.5YR7/4）	内外面ロクロ整形、体部下端回転ヘラケズリ、底部外面回転糸切り後回転ヘラケズリ、内面刷毛処理・細かなミガキ
206	土師器 坏	口径：10.7 器高：3.8 底径：-	黒色粒子・針・石英	良好	完形	褐（7.5YR6/4）	口縁部内外面横位ナデ、外面ナデ、底部ヘラナデ
207	土師器 椀	口径：13.7 器高：5.6 底径：7.3	白色粒子・黒色粒子・角	良好	80%	明褐（7.5YR8/4）	ロクロ整形、底部外面回転ヘラケズリ後高台貼り付け、内面黒色処理・細かなミガキ、体部外面「笹（?）上」墨書あり
208	土師器 椀	口径：16.4 器高：7.1 底径：8.5	白色粒子・角・赤色粒子・石英	良好	90%	明褐（7.5YR8/4）	ロクロ整形、底部外面回転ヘラケズリ後高台貼り付け、内面黒色処理・細かなミガキ
209	須恵器 瓶	口径：- 器高：〈9.5〉 底径：-	白色粒子・黒色粒子・石英	良好	10%	灰（N 7/0）	ロクロ整形
210	銅製品 銭	全長：2.46 孔径：0.74 厚み：0.12 重量：2.6g	－	－	－	－	開元通寶の隷書。唐　621年初鋳。背上に「月」文あり。
211	銅製品 銭	全長：2.46 孔径：0.56 厚み：0.12 重量：2.9 g	－	－	－	－	皇宋通寶の篆書。北宋　1038年初鋳。
212	銅製品 銭	全長：2.38 孔径：0.57 厚み：0.11 重量：2.5g	－	－	－	－	元豊通寶の行書。北宋　1078年初鋳。

図版番号	種別・器種	法量（cm）	胎土	焼成	残存率（%）	色調	所見
213	銅製品 銭	全長：2.43 孔径：0.69 厚み：0.10 重量：2.6g	—	—	—	—	元豊通寶の行書。北宋　1078 年初鋳。
214	銅製品 銭	全長：2.43 孔径：0.61 厚み：0.15 重量：2.3g	—	—	—	—	元豊通寶の行書。北宋　1078 年初鋳。
215	銅製品 銭	全長：2.39 孔径：0.71 厚み：0.10 重量：1.5g	—	—	—	—	元豊通寶の篆書。北宋　1078 年初鋳。
216	銅製品 銭	全長：2.54 孔径：0.58 厚み：0.13 重量：2.8g	—	—	—	—	宣和通寶の隷書。北宋　1119 年初鋳。
217	銅製品 銭	全長：2.53 孔径：0.72 厚み：0.18 重量：3.0g	—	—	—	—	紹定通寶。南宋　1228 年初鋳。背上に「六」文あり。
218	銅製品 銭	全長：2.45 孔径：0.52 厚み：0.13 重量：2.9g	—	—	—	—	永樂通寶。明　1408 年初鋳。
219	銅製品 銭	全長：2.47 孔径：0.54 厚み：0.15 重量：3.1g	—	—	—	—	永樂通寶。明　1408 年初鋳。
220	銅製品 銭	全長：2.49 孔径：0.52 厚み：0.15 重量：2.8g	—	—	—	—	永樂通寶。明　1408 年初鋳。
221	銅製品 銭	全長：2.5 孔径：0.59 厚み：0.16 重量：4.1g	—	—	—	—	永樂通寶。明　1408 年初鋳。
222	銅製品 銭	全長：2.4 孔径：0.55 厚み：0.14 重量：4.4g	—	—	—	—	永樂通寶。明　1408 年初鋳。

図版番号	器種	石材	最大長（cm）	最大幅（cm）	最大厚（cm）	重量（g）	所見
223	磨石・敲石	砂岩	10.5	7.4	4.1	469.3	下部欠損。裏面中央部に平滑面。側縁部はまばらであるが全体的に敲打痕がみられる。

第５章　火山灰分析

第１節　はじめに

北関東地方東部に位置する茨城県域には、赤城、榛名、浅間、男体など北関東地方とその周辺に分布する火山のほか、箱根や富士など南関東地方、さらには中部地方、中国地方、九州地方など遠方に位置する火山から噴出したテフラ（火山砕屑物、いわゆる火山灰）が多く降灰している。

とくに、後期更新世以降に降灰したそれらの多くについては、層相や年代、さらに岩石記載的特徴などがテフラ・カタログ（町田・新井 2011）などに収録されており、考古遺跡でテフラに関する調査分析を行い、年代や層位が明らかな指標テフラを検出することで、考古遺物包含層や遺構の層位や年代に関する情報が得られるようになっている（古環境研究所 2007、早田 2020 など）。

常陸太田市太田城跡における発掘調査でも、層位や具体的な年代が不明な遺構や土層が認められたことから、野外調査を実施して土層やテフラ層の層序記載を行うとともに、高純度分析試料の採取、そして実験室内でのテフラ分析（テフラ検出分析・屈折率測定）を実施して、指標テフラの検出同定を行うことになった。土層調査の対象地点は、SD01 覆土断面、SD02 覆土断面、SD03 壁面、SI09 覆土断面、SD03 覆土断面の５地点である。

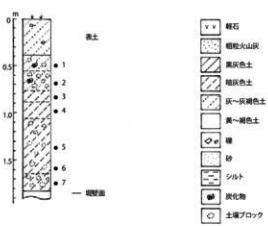
第２節　調査地点の土層層序

（１）SD01 覆土断面

SD01 の覆土は、下位より黄褐色土ブロックに富むやや灰色がかった暗褐色土（層厚 18cm）、黄褐色土ブロックを多く含むやや灰色がかった褐色土（層厚 58cm）、やや灰色がかった暗褐色土（層厚 17cm）、やや灰色がかった暗褐色土（層厚 12cm）、炭化物混じりで黄褐色土ブロックに富む灰褐色土（層厚 21cm）、炭化物混じりで黄褐色土ブロックを少し含む灰褐色土（層厚 16cm）、瓦や角礫混じりでやや暗い灰褐色土（層厚 39cm，礫の最大径 78mm）からなる（第 214 図）。

（２）SD02 覆土断面

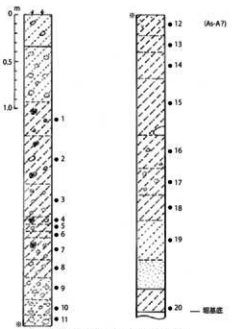
SD02 の覆土は、下位より暗灰色土（層厚 23cm）、黄灰色砂層（層厚 32cm）、灰褐色土（層厚 42cm）暗灰褐色土（層厚 27cm）、黄褐色土粒子混じり暗灰褐色土（層厚 28cm）、亜角礫混じり暗灰褐色泥質土（層厚 35cm）、基底に砂岩（宝居印塔）を含む炭化物混じり暗灰褐色土（層厚 88cm）、暗灰褐色土（層厚 18cm）、白色細粒軽石混じり暗灰褐色土（祖厚 22cm，軽石の最大径 3 mm）からなる（第 215 図）。



●：テフラ分析試料の層位，数字：テフラ分析の試料番号．

第 214 図　SD01 覆土（一部）の土層柱状図

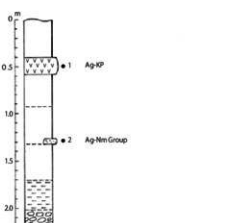
さらにその上位には、黄褐色土ブロックを多く含むやや暗い灰褐色土（層厚12cm）、黄褐色土粒子に富むやや暗い灰褐色土（層厚16cm）、黄褐色土粒子に富む灰褐色土（層厚23cm）、黄褐色土粒子を多く含む暗灰褐色土（層厚19cm）、炭化物混じりで黄褐色土粒子を多く含む暗灰褐色土（層厚23cm）、暗灰褐色土（層厚6cm）、黄褐色土ブロック混じり暗灰褐色土（層厚8cm）、炭化物や黄褐色土粒子を含む暗灰褐色土（層厚8cm）、黄褐色土粒子を多く含む暗灰褐色土（層厚34cm）、炭化物混じり暗灰褐色土（層厚52cm）、炭化物や礫を含む暗灰褐色土（層厚35cm，礫の最大径28mm）、黄褐色土ブロックを多く含む灰褐色土（層厚59cm）、瓦混じり灰褐色表土（層厚34cm）が認められる。



第215図　SD02 覆土の土層柱状図

（3）SD03 壁面

SD3 壁面では、砂礫層（層厚200cm 以上，礫の最大径180mm）の上位に、下位より灰色シルト層（層厚31cm）、褐色土（層厚39cm）、黄色粗粒火山灰層（ブロック状，最大層厚5cm）、褐色土（層厚34cm）、やや暗い褐色土（層厚34cm）、黄色細粒軽石層（層厚18cm，軽石の最大径7mm）、褐色土（層厚40cm 以上）が認められる（第216図）。このほかに、明確な層位関係は不明なものの、黄色粗粒火山灰層付近で、黄橙色細粒火山灰のブロックが認められた（試料3）。



第216図　SD03 壁面（一部）の土層柱状図

（4）SI09 覆土断面

奈良・平安時代の住居址と推定されているSI09 では、下位より黄褐色土ブロックに富む暗灰褐色土（層厚22cm）と白色粗粒火山灰混じり暗灰褐色砂質土（層厚16cm）が認められる（第217図）。このうち、下位の土層の上面が床面で、上位の土層は住居址の覆土に相当する。

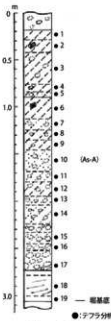
第217図　SI09 覆土の土層柱状図

（5）SD03 覆土断面

SD03 の覆土は、下位より褐色土（層厚6cm）、層理が発達したやや灰色がかった褐色土（層厚21cm）、褐色土（層厚6cm）、褐色土ブロック層（層厚21cm）、黄色粗粒火山灰層ブロックを含む

褐色土ブロック層（層厚6cm）、黄褐色土粒子に富む灰褐色土（層厚11cm）、黄褐色土および黒灰褐色土ブロック層（層厚8cm）、黄褐色土粒子に富む灰褐色土（層厚19cm）、黄褐色土粒子に富む灰褐色土（層厚10cm）、黄色土粒子を多く含む暗灰褐色土（層厚14cm）、黄色土粒子に富む灰褐色土（層厚9cm）、黄褐色土粒子を多く含む灰褐色土（層厚23cm）、黄色土粒子混じり暗灰褐色土（層厚10cm）、黄褐色土粒子を多く含む褐色土（層厚12cm）、黄褐色土粒子に富む灰褐色土（層厚12cm）、炭化物混じり暗灰褐色土（層厚22cm）からなる（第218図）。

その上位には、さらに黄褐色土ブロック混じりで砂を多く含む暗灰褐色土（層厚5cm）、亜角礫混じりで木灰ブロックを多く含む暗灰褐色土（層厚9cm，礫の最大径37mm）、褐色土ブロックを多く含む暗灰褐色土（層厚34cm）、炭化物混じり暗灰褐色土（層厚13cm）、暗灰褐色土（層厚10cm）、亜円礫混じりでやや灰色がかった褐色土（層厚18cm以上，礫の最大径106mm）が認められる。



第218図 SD03 覆土の土層柱状図

第3節　テフラ検出分析

（1）分析試料と分析方法

調査対象となった5地点において、基本的に厚さ5cmおきに採取された試料のうちの41点を対象として、テフラ粒子の量や特徴を定性的に把握するテフラ検出分析を行って、指標テフラの検出・同定を実施した。分析の手順は次のとおりである。

1）電子天秤を用いて試料7gを秤量。
2）超音波洗浄装置により泥分を除去。
3）恒温乾燥器により80℃で恒温乾燥。
4）実体顕微鏡下で観察。

（2）分析結果

テフラ検出分析によって、次の5種類の特徴的な軽石や火山ガラスを検出できた（第80表）。

タイプa：とくに細かく発泡した白色の軽石やスポンジ状軽石型ガラス。
タイプb：無色透明のバブル型ガラス。
タイプc：淡灰色、淡褐色、無色透明の分厚い中間型ガラス。
タイプd：スポンジ状に良く発泡した灰白色のスポンジ状軽石型ガラス。
タイプe：白色のスポンジ状軽石型ガラス。

第 80 表　テフラ分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			鉱物
		量	色調	最大径	量	形態	色調	
SD01覆土断面	1				(*)	md	cl	opx, cpx, (am)
	3				(*)	pm(sp)	p-br, p-gr	opx, cpx, (am)
	5				*	pm(sp)	p-br, wh	opx, cpx, (am)
	7				(*)	pm(sp)	wh, p-gr	opx, cpx, (am)
SD02覆土断面	1				(*)	pm(sp, fb)	wh, cl	opx, cpx, (am)
	2				(*)	pm(sp)	wh	opx, cpx, (am)
	3							opx, cpx, (am)
	4				(*)	md, pm(sp)	cl, p-gr	opx, cpx, (am)
	5				(*)	pm(sp)	p-br	opx, cpx, (am)
	6							opx, cpx, (am)
	7				(*)	pm(sp)	p-br	opx, cpx, am
	9				(*)	pm(sp)	p-br	opx, cpx, am, (bi)
	11							opx, cpx, am, (bi)
	12				(*)	pm(sp), md	gr-wh, cl	opx, cpx, am
	13				(*)	pm(fb)	cl	opx, cpx, am
	14							opx, cpx, am
	15				(*)	pm(sp)	p-br	opx, cpx, (am, bi)
	16							opx, cpx, am
	17				*	pm(sp)	gr-wh, wh, p-gr	opx, cpx, am
	18				(*)	pm(sp)	p-gr, p-br	opx, cpx, am
	19							opx, cpx, am
	20							opx, cpx, am

****:とくに多い, ***:多い, **:中程度, *:少ない, (*):非常に少ない. bw:バブル型, md:中間型, pm:軽石型, sp:スポンジ状, fb:繊維束状, wh:白色, y-wh:黄白色, p-br:淡褐色, p-gr:淡灰色, gr-wh:灰白色, cl:無色透明, opx:斜方輝石, cpx:単斜輝石, am:角閃石, bi:黒雲母. 鉱物:不透明鉱物以外, 鉱物の():量が少ないことを示す.

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス			鉱物
		量	色調	最大径	量	形態	色調	
SD02壁面	1							am, opx
	2							opx, am, (bi)
	3							opx, am, (bi)
SI09覆土断面	1				(*)	pm(sp)	gr-wh	opx, cpx, am
	2				(*)	pm(sp)	gr-wh	opx, cpx, (am)
SD03覆土断面	1				(*)	md	cl	opx, cpx, am, (bi)
	2							opx, cpx, am, (bi)
	3				*	pm(sp)	wh, p-gr	opx, cpx, am
	4				*	pm(sp)	wh, p-gr	opx, cpx, am
	5							opx, am, cpx
	6				*	pm(sp)	wh, gr-wh, p-gr	opx, cpx, am
	8				*	pm(sp)	wh, gr-wh, p-br	opx, cpx, am, (bi)
	10				*	pm(sp), md	p-gr, p-br	opx, cpx, am
	12				*	pm(sp)	p-gr, p-br	opx, cpx, am
	14				(*)	pm(sp)	p-gr	opx, cpx, am, (bi)
	15				(*)	md, pm(sp)	p-gr, p-br	opx, cpx, am
	16	(*)	wh	2.0mm	**	pm(sp)	y-wh, wh	opx, am, cpx
	17				*	pm(sp)>bw	wh, cl	opx, cpx, am, bi
	19				(*)	bw	cl	opx, cpx, am

****:とくに多い, ***:多い, **:中程度, *:少ない, (*):非常に少ない. bw:バブル型, md:中間型, pm:軽石型, sp:スポンジ状, fb:繊維束状, wh:白色, y-wh:黄白色, p-br:淡褐色, p-gr:淡灰色, gr-wh:灰白色, cl:無色透明, opx:斜方輝石, cpx:単斜輝石, am:角閃石, bi:黒雲母. 鉱物:不透明鉱物以外, 鉱物の():量が少ないことを示す.

タイプｆ：淡灰色や淡褐色のスポンジ状軽石型ガラス。

タイプｇ：わずかに灰色がかった白色のスポンジ状や繊維束状の軽石型ガラスで、光沢をもつものも認められる。なお、第80表では色調を白色と示す。

なお、磁鉄鉱など不透明鉱物をのぞく重鉱物（以降，重鉱物）としては、ほとんどの試料で、斜方輝石、単斜輝角閃石が認められ、試料によっては雲母が認められる。次に分析地点ごとにテフラの検出状況を記載する。

1）SD01 覆土断面

SD01では、タイプｃ、ｅ、ｆ、ｇの火山ガラスが認められた。とくに、最下位の試料では、タイプｅ、ｆ、ｇの３タイプが検出された。

2）SD02 覆土断面

SD02では、タイプａ、ｃ、ｄ、ｅ、ｆ、ｇの火山ガラスが認められた。試料12ではタイプｄ、試料２および試料１ではタイプｇの火山ガラスがやや目立つ。

3）SD03 壁面

SD03の壁面の試料で火山ガラスは認められなかったものの。試料３には扁平で薄めの特徴的な形態をもつ斜方輝石が多く含まれている。試料２には角閃石や斜方輝石、試料１には角閃石や斜方輝石が多く含まれている。

4）SI09 覆土断面

共伴する遺物から奈良平安時代の住居址と推定されているSI09では、試料２および試料１からタイプｄの火山ガラスが検出された。

5）SD03 覆土断面

SD03ではタイプａ～ｇのいずれもが認められた。とくに試料16では、タイプａの軽石（最大径2.0mm）が検出された。ほかに、試料８～６でタイプｄ、ｆ、ｇ、試料４～３でタイプｆが目立つ傾向にある。

第４節　屈折率測定

（1）測定試料と測定方法

テフラ検出分析では、細粒のテフラの確認が難しいため、同定精度を向上させるために、相対的にみて火山ガラスの含有度が高いSD03覆土断面を対象に高精度の屈折率測定を行った。測定試料は、試料10と試料４の２試料である。また、測定方法は温度変化型屈折率測定法（壇原，1993）で、

第81表　屈折率測定結果

表2　屈折率測定結果

地点・テフラ	火山ガラス		文献
	屈折率(n)	測定数	
太田城跡・SD03・試料4	1.513–1.522	31	本報告
	(1.513–1.518)	(26)	
	(1.520–1.522)	(5)	
太田城跡・SD03・試料10	1.512–1.526	33	本報告
	(1.512–1.513)	(2)	
	(1.518–1.520)	(24)	
	(1.523–1.526)	(7)	

北関東地方東部の代表的な後期更新世後半以降の指標テフラ(太字:広域テフラ)

浅間A(As-A, 1783年)		1.507–1.512	1)
浅間粕川(As-Kk, 1108年)		未詳	2)
浅間B(As-B, 1108年)		1.524–1.532	1)
榛名二ツ岳伊香保(Hr-FP, 6世紀中葉)		1.501–1.504	1)
榛名二ツ岳渋川(Hr-FA, 6世紀初頭)		1.500–1.502	1)
		1.498–1.505	3)
浅間C(As-C, 3世紀後半)		1.514–1.520	1)
鬼界アカホヤ(K-Ah, 約7,300年前)		1.506–1.513	1)
浅間総社(As-Sj, 約1.2万年前)		1.501–1.518	4)
男体七本桜(Nt-S, 約1.4～1.5万年前)		1.500–1.503	1)
男体今市(Nt-I, 約1.4～1.5万年前)		未詳	1)
浅間板鼻黄色(As-YP, 約1.5～1.65万年前)		1.501–1.505	1)
浅間大窪沢1(As-Ok1, 約2万年前)		1.500–1.502	1)
浅間白糸(As-Sr)		1.506–1.510	1)
男体片岡・小川(群)(Nt-Kt/Og)		未詳	1)
浅間板鼻褐色(群)	上部:	1.515–1.520	1)
(As-BP Group, 約2.4～2.9万年前)	中部:	1.508–1.511	1)
	(MP):	1.498–1.527	5)
	下部:	1.505–1.515	1)
姶良Tn(AT, 約3万年前)		1.499–1.500	1)
赤城鹿沼(Ag-KP, 約4.5万年前以前)		1.504–1.508	1)
榛名八崎(Hr-HP, 約5万年前)		1.505–1.508	1)
大山倉吉(DKP, 約3万年前*1)		1.508–1.514	1)

1)町田・新井(2011), 2)早田(1996), 3)早田(2014), 4)早田(未公表), 5)早田ほか(2016). 本報告・3)・4)・5)温度変化型屈折率法(壇原, 1993). 1)・2)温度一定型屈折率測定法(新井, 1972, 1993). *1:放射性炭素(^{14}C)年代.

分析篩による篩別で得た1/8-1/16mm粒子のうちの火山ガラスを対象とした。

（2）測定結果

屈折率の測定結果を指標テフラの屈折率特性と合わせて第81表に、また測定値の内訳を第82表に示した。SD03覆土断面の試料10に含まれる火山ガラス（33粒子）の屈折率（n）は、1.512-1.526である。この値はtrimodal組成で、n：1.512-1.513（2粒子）、n：1.518-1.520（24粒子）、n：1.523-1.526（7粒子）からなる。このほかに、n：＞1.527の粒子もわずかに認められる。

また、SD03覆土断面の試料4に含まれる火山ガラス（31粒子）の屈折率（n）は、1.513-1.522である。この値はbimodal組成で、n：1.513-1.518（26粒子）とn：1.520-1.522（5粒子）からなる。このほかに、n：＞1.527の粒子もわずかに認められる。

第82表　SD03屈折率測定値

試料4 火山ガラスの屈折率(n)	粒子数
1.4960～1.4969	0
1.4970～1.4979	0
1.4980～1.4989	0
1.4990～1.4999	0
1.5000～1.5009	0
1.5010～1.5019	0
1.5020～1.5029	0
1.5030～1.5039	0
1.5040～1.5049	0
1.5050～1.5059	0
1.5060～1.5069	0
1.5070～1.5079	0
1.5080～1.5089	0
1.5090～1.5099	0
1.5100～1.5109	0
1.5110～1.5119	0
1.5120～1.5129	0
1.5130～1.5139	2
1.5140～1.5149	8
1.5150～1.5159	5
1.5160～1.5169	1
1.5170～1.5179	8
1.5180～1.5189	2
1.5190～1.5199	0
1.5200～1.5209	1
1.5210～1.5219	4
1.5220～1.5229	0
1.5230～1.5239	0
1.5240～1.5249	0
1.5250～1.5259	0
1.5260～1.5269	0
測定粒子の合計	31

測定：温度変化型屈折率測定法（壇原，1993）

試料10 火山ガラスの屈折率(n)	粒子数
1.4960～1.4969	0
1.4970～1.4979	0
1.4980～1.4989	0
1.4990～1.4999	0
1.5000～1.5009	0
1.5010～1.5019	0
1.5020～1.5029	0
1.5030～1.5039	0
1.5040～1.5049	0
1.5050～1.5059	0
1.5060～1.5069	0
1.5070～1.5079	0
1.5080～1.5089	0
1.5090～1.5099	0
1.5100～1.5109	0
1.5110～1.5119	0
1.5120～1.5129	2
1.5130～1.5139	0
1.5140～1.5149	0
1.5150～1.5159	0
1.5160～1.5169	0
1.5170～1.5179	0
1.5180～1.5189	9
1.5190～1.5199	13
1.5200～1.5209	2
1.5210～1.5219	0
1.5220～1.5229	0
1.5230～1.5239	4
1.5240～1.5249	0
1.5250～1.5259	3
1.5260～1.5269	0
測定粒子の合計	33

測定：温度変化型屈折率測定法（壇原，1993）

第5節　考察

（1）テフラ粒子の由来について

テフラ検出分析により検出されたテフラ粒子のうち、タイプaの火山ガラスは、岩相から約4.5万年前以前に赤城火山から噴出した赤城鹿沼テフラ（Ag-KP，新井，1962，荒牧，1968，町田・新井，2011など）に由来すると考えられる。このAg-KPは、SD03壁面において一次堆積層を認めることができた（試料1）。層位関係やテフラの分布状況から、試料2が採取されたテフラ層は、赤城行川テフラ群（Ag-Nm2・Ag-Nm1，鈴木，1990）の可能性が高い。また、試料3の細粒テフラ層は、層相や岩相から、約5.5万年前以前に中国地方の大山火山から噴出した広域テフラの大山倉吉軽石（DKP，町田・新井，1979，2011）と考えられる。

このような結果から、常陸太田市市街地中心部が広がる台地の形成は、DKP降灰期を少し遡る時期である可能性が高いことがわかる。

タイプbの火山ガラスは、岩相から約2.8～3万年前に南九州の姶良カルデラから噴出した姶良Tn火山灰（AT，町田・新井，1976，2011）と考えられる。また、タイプcの火山ガラスは、岩相から、約1.5～1.65万年前に浅間火山から噴出した浅間板鼻黄色軽石（As-YP，新井，1962，町田・新井，

1992，2003）で代表される浅間火山軽石流期のテフラに由来すると考えられる。

タイプｄの火山ガラスは、岩相や屈折率特性から、３世紀後半に浅間火山から噴出した浅間Ｃ軽石（As-C，荒牧，1968，新井，1979，坂口，2010）と考えられる。屈折率が測定できた火山ガラスの多くは、屈折率特性から As-C と考えられる。

タイプｅの軽石や火山ガラスは、その岩相や重鉱物の組み合わせから、６世紀初頭の榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA，新井，1979，坂口，1986，早田，1989，町田・新井，2011 など）、あるいは６世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP，新井，1962，坂口，1986，早田，1989，町田・新井，2011 など）に由来すると考えられる。さらに、タイプｆの火山ガラスは、高い屈折率特性をもつものに対応する可能性が高く、岩相も合わせると、1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Ｂテフラ（As-B，荒牧，1968，新井，1979）と考えられる。

そして、最上位にあるタイプｇの火山ガラスは、検出層位、岩相、屈折率特性などから、1783（天明３）年に浅間火山から噴出した浅間Ａ軽石（As-A，荒牧，1968，新井，1979）と考えられる。

（2）テフラの産状から推定される遺構の層位や年代

SD01 覆土断面では、分析対象とした覆土最下位の試料から、岩相上で As-A の可能性がある火山ガラスが検出された。したがって、この遺構の埋没は As-A 降灰後と考えられる。

SD02 覆土断面では、試料２や試料３で岩相上で As-A と考えられる火山ガラスが検出された。ただし、タイプａの火山ガラスはテフラ検出で認められなかったものの、後述するように SD03 覆土の中部に As-A の降灰層準のある可能性があって、SD02 覆土断面でも As-A に似たタイプｄの火山ガラスが認められる。そこで、ここでは、白色の軽石が検出された試料 12 付近に As-A の降灰層準があると考えたい。なお、覆土最下部付近にあってローム層ブロックの混入が少ない試料 18 や試料 17 からは、As-B の火山ガラスが少量検出された。

奈良平安時代と推定されている SI09 の覆土から検出されたタイプｄの火山ガラスは、遺構の推定年代からも、As-A ではなく、As-C であることを示唆している。

SD03 覆土断面では、試料 10 付近に As-A の降灰層準があると推定される。また、最下部付近から採取された試料 15 からは、As-B の火山ガラスがごく少量検出された。以上のことから、大規模な堀の遺構である SD02 と SD03 が As-B 降灰後に造られたことや、これらの堀の覆土の中位付近に As-A の降灰層準がありそうなことが判明した。重要な年代指標となる As-A の検出量が推定降灰層準で少ないことや、As-A によく似た As-C が土層中に多く含まれていることなどから、今後さらに高精度のテフラ分析を実施して、より明確な層位把握が実施されることを期待する。また、考古学的な研究成果を合わせたより詳細な検討も望まれる。

第６節　まとめ

太田城跡におけるテフラの調査分析の結果、下位より、大山倉吉テフラ（DKP，約 5.5 万年前以前）、赤城行川テフラ群（Ag-Nm Group）、赤城鹿沼軽石（Ag-KP，約 4.5 万年前以前）、姶良 Tn 火山灰（AT，

約2.8～3万年前)、浅間板鼻黄色軽石（As-YP，約1.5～1.65万年前）など浅間火山軽石流期のテフラのような後期旧石器時代以前のテフラやテフラ層のほかに、北関東地方の古墳時代以降の考古学的編年研究に有効利用されている浅間C軽石（As-C，3世紀後半)、榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA，6世紀初頭)、榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP，6世紀中葉)、浅間Bテフラ（As-B，1108年)、そして浅間A軽石（As-A，1783年）などに由来するテフラ粒子を検出できた。

引用・参考文献

新井房夫　1962「関東盆地北西部地域の第四紀編年」『群馬大学紀要自然科学編』10、p.1-79。
新井房夫　1972「斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定－テフロクロノロジーの基礎的研究」『第四紀研究』11、p.254-269。
新井房夫　1979「関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層」『考古学ジャーナル』no.53、p.41-52。
新井房夫　1993「温度一定型屈折率測定法」日本第四紀学会編『第四紀研究試料分析法2』p.136-149。
荒牧重雄　1968「浅間火山の地質」『地団研専報』no.14、p.1-45。
壇原　徹　1993「温度変化型屈折率測定法」日本第四紀学会編『第四紀試料分析法2－研究対象別分析』p.149-158。
古環境研究所　2007「栗島遺跡の土層とテフラ」国土交通省日立河川国道事務所・(財)茨城県教育財団編『栗島遺跡』p.273-278。
町田　洋・新井房夫　1976「広域に分布する火山灰－姶良Tn火山灰の発見とその意義－」『科学』46、p.339-347。
町田　洋・新井房夫　1979「大山倉吉軽石層－分布の広域性と第四紀編年上の意義」『地学雑誌』88-5、p.313-320。
町田　洋・新井房夫　2011『新編火山灰アトラス－日本列島とその周辺（第2刷)』東京大学出版会、p.336 。
坂口　一　1986「榛名二ツ岳起源FA･FP層下の土師器と須恵器」群馬県教育委員会編『荒砥北原遺跡・今井　神社古墳群・荒砥青柳遺跡』、p.103-119。
坂口　一　2010「高崎市・中居町一丁目遺跡周辺集落の動向－中居町一丁目遺跡H22の水田耕作地と周辺集落　との関係－」群馬県埋蔵文化財調査事業団編『中居町一丁目遺跡3』p.17-22。
早田　勉　1989「6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害」『第四紀研究』27、p.297-312。
早田　勉　1996「関東地方－東北地方南部の示標テフラの諸特徴－とくに御岳第1テフラより上位のテフラについて－」『名古屋大学加速器質量分析計業績報告書　7』、p.256-267。
早田　勉　2020「結城市城の内遺跡火山灰分析について」結城市教育委員会・(有)毛野考古学研究所編『城の内遺跡Ⅱ』p.41-50。
鈴木毅彦　1990「テフロクロノロジーからみた赤城火山最近20万年間の噴火史」『地学雑誌』99-2、p.60-75。

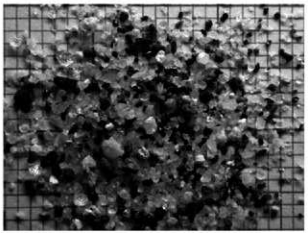


写真１　SD02 覆土断面・試料２（落射光）
わずかに灰色をおびた白色のスポンジ状軽石型ガラスがごく少量含まれている。背後は１㎜メッシュ。

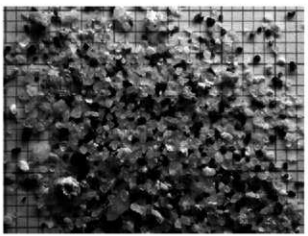


写真２　SD03 覆土断面・試料３（落射光）
わずかに灰色をおびた白色や灰白色のスポンジ状軽石型ガラスが少量含まれている。背後は１㎜メッシュ。

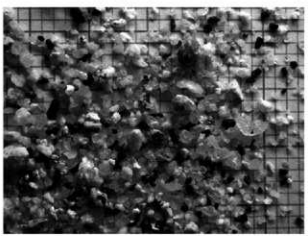


写真３　SD03 覆土断面・試料８（落射光）
わずかに灰色をおびた白色、灰白色、淡褐色のスポンジ状軽石型ガラスが少量含まれている。背後は１㎜メッシュ。

第６章　総括

第１節　地形・地質・立地・火山灰分析

（１）地形・地質・立地

太田城跡の立地する地形は、久慈川支流の源氏川と谷津川にはさまれた中位砂礫段丘群の台地上平坦面に位置する。調査区内の地形は、ほぼ平坦であるが近世の土地利用により大きく地形は改変されており旧地形の様相として捉えることはできない。しかし、調査区で確認された基本層序の堆積状況では、東から西へ緩い下り勾配がある。

遺跡の地形は、標高約 38 ｍの台地平坦面の西よりであるが、縄文時代から奈良平安時代まで、特に古墳時代後期から飛鳥時代頃の竪穴建物跡と遺物が多く出土しており、古墳時代以降に太田城跡の所在する台地上に継続的に多く人々が移住し、土地利用が開始されたことが今回の調査で確認された。この点は、周辺の古墳時代の遺跡分布の傾向とも一致している。しかし、本来、生活に不可欠な水を得るには太田城跡の地形は高位であり、井戸を掘っても水位が恒常的に高く安定している、あるいは帯水層が上位にあると考えることはできない。他の生活上の理由から、例えば、経済的な土地利用の拡大、古墳造営、勢力基盤の拡大などにより、太田城跡の台地上に占地した可能性があろう。

太田城の機能した当時の生活面に関しては、近代の日本たばこ産業の操業時代に著しい土地利用と改変により変更を受けており、厳密に今回の検出された遺構確認面を生活面として評価することは慎重に成らざるを得ない。この点は、今後の調査において検討される必要があろう。

（２）火山灰分析

今回の調査で検出された、考古学的編年研究で有効な指標となる広域火山灰と地域火山灰は、古期から大山倉吉火山灰（ DKP、約 5.5 万年前以前降灰）、赤城行川火山灰群（Ag-Nm Group）、赤城鹿沼軽石（Ag-KP、約 4.5 万年前以前降灰）、姶良 Tn 火山灰（AT、約 2.8 ～ 3 万年前降灰）、浅間板鼻黄色軽石（As-YP、約 1.5 ～ 1.65 万年前降灰）など、後期旧石器時代までの火山灰、さらに歴史時代以降の浅間 C 火山灰（As-C、３世紀後半降灰）、榛名二ツ岳渋川火山灰（Hr-FA、６世紀初頭）、榛名二ツ岳伊香保火山灰（HA-FP、６世紀中葉）、浅間 B 火山灰（As-B、1,108 年降灰）、浅間 A 軽石（As-A、1,783 年降灰）などである。

先に実施された常陸太田市の長者屋敷遺跡（諸星・宅間・山口 2018）において初めて市域の火山灰分析が実施されたが、その結果と比較すると、大山倉吉火山灰、赤城行川火山灰群、浅間 C 軽石、浅間 A 軽石などの火山灰がローム層中から、あるいは遺構覆土中から新たに確認された。以上の成果から、当該地域において確認可能な指標火山灰が増加したことになり、遺跡、遺構、遺物の相対的編年研究のスケールの精度が向上し、より細かい遺跡、遺構、遺物の相対的な年代関係の検討が可能となった点は、本調査の大きな成果の一つである

第２節　各時代の概要

（1）後期旧石器時代

常陸太田市では、現在明確に後期旧石器時代の遺跡が層位的に確認されていないが、竪穴建物跡の覆土内から、頁岩製の剥片（SI46・89）が２点、流紋岩製の剥片（SI10）が１点確認されている。これらは、使用石材、風化の度合いと石器の形態から後期旧石器時代に属する可能性があることを指摘しておきたい。

（2）縄文時代

縄文時代は、竪穴建物跡１軒検出されたが、後世の土地利用により攪乱を受けており、良好な状態では検出されていない。竪穴建物跡は前期に属すると思われる。縄文土器は前期の繊維土器、興津式土器などが遺構の包含層から検出されている。

石器は、石鏃、斧形石器、微細剥離された剥片、剥片、両極剥離石器、石核、台石、凹石、敲石などが検出されている。

（3）弥生時代

弥生時代は、竪穴建物跡２軒が検出され、いずれも後期の十王台式土器が検出されている。18号竪穴建物跡からは、地床炉を伴い、多くの土器片、土製紡錘車や礫製石器などが検出された。過少ではあるが、弥生時代にも太田城の土地利用の痕跡が確認された。

（4）古墳時代

古墳時代は、67軒の竪穴建物跡が検出され中期から後期に継続的に占地されている。帰属時期が確実な住居の構成は、前期が６軒、中期が９軒、後期が39軒であり、後期に継続的な土地利用の体制が整ったものと推定される。前期の竪穴建物跡では、SI73は単口縁のハケ目調整の甕、壺、坩などが炉跡範囲から集中して出土している。中期の竪穴建物跡では、SI28から有段口縁平底の甕、単口縁の甕が出土し、SI29から赤彩された埦が出土し、SI87から赤彩の壺、単口縁の甕、台付甕、高坏などが出土している。後期の竪穴建物跡では、SI15で坏身模倣坏が纏まって出土し、SI88で単口縁、常陸型の甕、坏蓋模倣坏、鉢、甑の把手などが出土している。

（5）奈良・平安時代

奈良時代は、８号竪穴建物跡１軒が検出され過少である。平安時代は、竪穴建物跡８軒と炭化した穀物が検出された焼土遺構１基などが検出されているが、古墳時代より著しく土地利用の痕跡が減少している。また、太田城が構築されたとされる12世紀末頃の遺構が確認されていない点は、後世の土地改良によるものか、あるいは土地利用の度合いが低かったのか、今回の調査では判断することはできないので、今後の調査において検討される必要があろう。

（6）中世以降

太田城が機能した時代の遺構は、堀跡４条であるが、これらは東西を横断する同一の堀跡の可能性があるため、２条の堀跡が調査区北側と中央で確認された可能性がある。調査地点は、城の縄張りでは搦手に位置すると推定され、２号堀跡は第一次試掘調査において北側の北郭と南側の三郭を区画するための堀であると推定されている（菊池・西野 2010）。今回の調査において、２号堀跡は、東側の１号堀跡に接続する可能性があり、やはり城の空間を区画するための機能を持っていた可能性がある。１号堀跡と２号堀跡は、接続に際して平面形状が直線系なのか、屈曲するのか現状では不明であり、今後の調査でその配置と形状を確認する必要がある。

３号堀跡は、第一次試掘調査の結果と一致しており、南側の本郭を区画する堀であると推定されている（菊池・西野 2010）。しかし、東側において４号堀跡が検出されたことから、調査区中央で３号堀跡が南に屈曲するのみでなく、東に横走する可能性も考えられる。現状において、３号堀跡と４号堀跡は絵図においてその存在が確認されないため、北側の堀跡とは時期を違えて機能し、何らかの理由により埋め戻され機能が停止した可能性も考えられる。いずれにしても、今後の調査でその配置と形状を確認する必要がある。

底面が検出された２・３号堀跡の規模と形状を比較すると、双方ともに薬研堀であるが、規模は２号堀跡の方が大きく、深い。また、底面は２号堀跡の方が狭い。これら二つの堀跡の形成年代が同一のものかどうかを、今後検討する必要があろう。

各堀跡と火山灰分析の結果を対照すると、１号堀跡の最下層の 1b 層の試料から浅間Ａ軽石（As-A）が検出されたことから、堀跡の埋没は 18 世紀末以降と推定される。

２号堀跡は、４から６b 層の試料から浅間Ａ軽石（As-A）が検出されたことから、この層準が浅間Ａ軽石（As-A）の降灰の時期であると推定されている。また、最下層の試料からは、浅間Ｂ火山灰（As-B）が検出されているが、一次堆積層ではないことから堀跡が 12 世紀以降に形成された可能性がある。

３号堀跡は、10a 層付近で浅間Ａ軽石（As-A）の降灰層準が推定され、最下層の 13b 層付近で浅間Ｂ火山灰（As-B）が検出されたことから、この遺構が 1108 年以降に構築された可能性が指摘されている。

これらの火山灰分析の結果と堆積層、文献による史実を対照させると、若干の点が指摘できる。２号堀跡の 1a 層～ 6a 層までの堆積層には炭化物や焼土が含まれている。6b 層付近が 1783 年の浅間Ａ軽石（As-A）の降灰層準であると推定されている。さらに、３号堀跡の２～ 10d 層において炭化物が含有されており、10 a 層付近が浅間Ａ軽石（As-A）の降灰層準と推定されている。こうした堆積層の含有物は何に由来するであろうか。浅間Ａ軽石（As-A）の降灰以降の太田城の出来事として、1804 年（文化元年）に火災により屋敷が消失したとされている。また、火山灰分析は実施しなかったが、４号堀跡の１層からは炭化物を多量に含むことが確認されている。

以上の各堀跡覆土の火山灰分析の結果と堆積層の検討から、太田城では浅間Ａ軽石（As-A）の降灰以降に火災が生じていた可能性が推定される。この点を考慮すると、２・３号堀跡の覆土が、自然堆積層よりも火災後の人為的な埋め戻しによるものが主体である蓋然性が高いことが推定されよう。

第３節　遺物の概要

（1）古銭

検出面で検出された古銭は全て渡来銭であるが、古い順に開元通寶（初鋳 621 年・唐）１枚、皇宋通寶（篆書・初鋳 1038 年・北宋）１枚、元豊通寶（篆書・行書・初鋳 1078 年・北宋）４枚、宣和通寶（隷諸・初鋳 1119 年・北宋）１枚、紹定通寶（初鋳 1228 年・南宋）１枚、永樂通寶（初鋳 1408 年・明）４枚である。また、遺構出土の古銭として、２号堀跡から正和通寶（初鋳 1111 年・北宋）が検出されている。これらの古銭は、佐竹氏が太田城に居城した時代に使用されていたものと推定される。

（2）石製品

２号堀跡の 6d 層から砂岩製の宝篋印塔傘部が検出された。この宝篋印塔は現時点で類例が確認されていないが、関東の宝篋印塔の型式において、加工が退化していること、砂岩を使用するなどの特徴から、年代的に室町時代中期（14 ～ 15 世紀）ごろに比定される可能性がある（斎木 1986）。この宝篋印塔は、２号堀跡出土の政和通寶出土の 9c 層よりも相対的に出土層位が新しく、推定年代に矛盾がない可能性がある。また、火山灰分析の結果を考慮すると、この遺物は浅間Ａ軽石（As-A）の降灰層準より下位の覆土から出土しており、相対的な年代とも矛盾がない。

（3）土器

太田城に直接関連する遺物は、かわらけと内耳鍋であるが、これらの製作年代は２号堀跡出土の 6c 層出土のかわらけが 16 世紀中頃～ 17 世紀前半の年代であるが、6b 層付近の浅間Ａ軽石（As-A）の降灰層準を考慮すると、相対的な編年関係に矛盾がない。

３号堀跡出土の内耳鍋は 15 世紀後半の時期である。最下層の 15 層出土の高台付皿の破片は９世紀第四四半期頃に位置づけられるが、13b 層の浅間Ｂ火山灰（As-B）が検出されているが相対的な年代関係は矛盾がない。これらの遺物に関して、佐竹氏にまつわる出来事としては、当主佐竹義盛の死後の相続問題に端を発した家臣山入氏との抗争である「山入一揆」による太田城を舞台とした戦闘、1590 年の水戸城への転居、秋田への国替えの時期などであり、佐竹氏の権力の縮小、太田城の機能が衰退する時期に帰属する遺物である。

また、堀跡の形状と出土遺物を考慮すると、上記のとおり堀跡の形成年代が異なる可能性も考慮されよう。

今回の発掘調査により、縄文時代から平安時代までの連綿と続く集落跡が多くの遺物や遺構と共に確認されたこと、太田城に関わる堀跡と遺物が検出された点は、常陸太田市の地域史を解明するうえで非常に重要な発見であると考えられる。

Summary

Ota-jo castle is located in the western part of downtown Hitachiota city, N36° 32′ 48″, E140° 31′ 16″. It is situated on the middle sandy gravel terraces, at the left side of the Genji-gawa river in Hitachiota city, Ibaraki Prefecture. The extent of remains covers large area of Baba-cho, Sakae-cho, Nakajo-cho, Uchibori-cho about 0.4 kilometers long in east-west orientation and 1.0 kilometers long in south-north orientation.

It is said that Ota-jo castle is built by Michinobu FUJIWARA of FUJIWARA no Hidesato line, at the end of the Heian period in 1109. In 1131, the third-generation successor of the Satake family, Takayoshi SATAKE moved to this castle from the Masaka-jo castle and it became the castle of the SATAKE family. After that, the SATAKE family yielded the castle to the enemy something temporarily, in 1180 and 1407 and so on. In 1590, the twentieth-generation successor of the Satake family, Yoshinobu SATAKE moved to Mito from this castle. After that it became the castle of his father and called "Kita-jiro".

At this castle, there were two times prospecting survey concerned about the project business in the area of buried cultural properties. First prospecting excavation and second Prospecting excavation was conducted by Hitachiota city board of education in 2007 and 2017.

At first prospecting excavation, the surveyors said that two moats were found from the northern part and the central part to the southern part in the investigation area and those were moats inside Ota-jo castle. The surveyors presume that the northern part of it is a moat for dividing between two areas, the northern section and the third section, of this castle.

At second prospecting excavation, the surveyors said that at the northwest part of the investigation area, two moats were found and one of which coincides with the moat which found at the northern part of the investigation area first prospecting excavation.

And many remains which belong Kofun period to Heian period were found in the investigation area.

This first excavation was conducted by a contractor or surveyor: a private company, Tokyo air and survey in Saitama prefecture and Hitachiota city board of education performed appreciate direction, coaching, and supervision to them in June to September 2019.

In this excavation, we were found each of settlement remains, 90 house pits, 4 moats, a ditch, 3 wells, 23 pits, a hearth on the pit, a pit line, two remains having unclear functions, 54 pillar holes which were placed during Jomon period, Yayoi period, and Nara period to Heian period and Medieval period.

In medieval period, 4 moats were found in the northern part and in the central part of the excavation area.

In the northern part, a pair of moats was found which runs from the east to the west. It becomes the part of a moat which found first prospecting excavation, which divides between

two areas, the northern section and the third section, of this castle. Unearthed relics were Haji potteries: Kawarakes from the early-17th century, a Hokyoin-to pagoda and a coin: Seiwa Tsuho from the year 1111 A.D. to 1117 A.D.

In the southern part, a pair of moats was found which runs from the east to the west. It becomes the part of a moat which found first prospecting excavation, and divides between two areas, the third section and the castle. Unearthed relics were Haji potteries: a Naiji doki from the latter half of the 15th century, a flat plate with high stand from the 4th quarter of 9th century.

Up to now, 13 coins were found in the investigation area from 7th to 15th century.

Based on this excavation, we suggested that two of moats is concerned with Ota-jo castle in the medieval period. Most of unearthed relics were from 12th to the early 17th century. It was the time from its time of foundation of the castle to after the moving to Mito by Yoshinobu SATAKE.

From the above, it can be pointed out that this excavation area was as a part of Ota-jo castle and might be possible that the tradition of its time of foundation of the castle by Michinobu FUJIWARA in 1109 is correct.

Translated by Ryoichi MOROHOSHI: Tokyo Air and Survey Co., Ltd. Department of Cultural Properties

引用・参考文献

茨城県農地局農地計画課 1995『土地分類基本調査　日立』
茨城城郭研究会 2006『図説　茨城の城郭』国書刊行会
梅原　郁　2011「中世渡来銭の謎」『古文化研究』10、1 ～ 76 頁
奥沢哲也　2016『瑞龍古墳群』茨城県教育財団文化財調査報告第 415 集、公益財団法人茨城県教育財団
川村満博　2003a「茨城県内出土の非ロクロ成形かわらけ編年案」『領域の考古学』、阿久津久先生還暦記念事業実行委員会、347 ～ 358 頁
川村満博　2003b「茨城県南部を中心に見た 12 世紀後半～ 15 世紀のロクロ成形かわらけについて」『研究ノート』12 号、財団法人茨城県教育財団埋蔵文化財部、85 ～ 96 頁
川村満博　2007「中世初頭から中期の常陸の国かわらけについて」『菟玖波』、川井・齋藤・佐藤先生還暦記念事業実行委員会、229 ～ 238 頁
菊池壮一・西野保　2010『常陸太田市内遺跡調査報告書　第２集』、常陸太田市教育委員会
熊澤和彦・新井　聡　1992『常陸那珂港関係埋蔵文化財調査報告書２』茨城県教育財団文化財調査報告第 77 集、㈶茨城県教育財団
越田真太郎　2007「県内の在地土器」『茨城中世考古学の最前線』第１分冊、茨城県考古学協会、44 ～ 56 頁
斎木　勝　1986『関東型寶篋印塔の研究」『千葉県文化財センター研究紀要』10、㈶千葉県文化財センター、355 ～ 404 頁
櫻木晋一　2016『貨幣考古学の世界』ニューサイエンス社
鈴木公雄　1992「出土備蓄銭と中世後期の銭貨流通」『史学』Vol.61,No.3/4、1 ～ 56 頁
鈴木康司・大森昌衛　1953「阿武隈山地の西南縁に分布する新生界の地史学的研究　その２」『地質学雑誌』第 59 巻第 689 号、35 ～ 46 頁
田口雄子　2007「県央・県北のかわらけ」『茨城中世考古学の最前線』第１分冊、茨城県考古学協会、13 ～ 22 頁
田村雅樹　2017『茨城県北部における土師質皿」『研究ノート』第 14 号、公益財団法人茨城県教育財団、115 ～ 122 頁
千葉隆司　2008「銚子石の石塔文化」『筑波学院大学紀要』３、159 ～ 168 頁
冨山章一　2015『奥七郡から出発』茨城新聞社
中根節男　1989『常陸那珂港関係埋蔵文化財調査報告書１』茨城県教育財団文化財調査報告第 52 集、㈶茨城県教育財団
芳賀友博・寺内久永　2005『村松白根遺跡Ⅰ』茨城県教育財団文化財調査報告第 250 集、㈶茨城県教育財団
蜂須紀夫編　1977『茨城県　地学のガイド』コロナ社
常陸太田市　1999『常陸太田市の歴史散歩』再版
常陸太田市史編さん委員会　1984『常陸太田市史　通史編　上』
諸星良一・宅間清公・山口憲一 2018 『長者屋敷遺跡　第８次』、常陸太田市教育委員会

写 真 図 版

調査区全景（上空から）

調査区（南上空から）

図版 2

SI01・02 完掘（北東より）

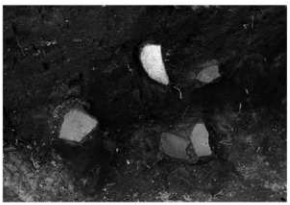
SI01 遺物出土状況（北東より）

SI01 完掘（北東より）

SI02 完掘（南西より）

SI03・05 遺物出土状況（東より）

SI03 遺物出土状況（東より）



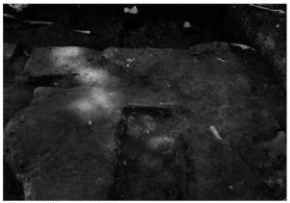
SI03 遺物出土状況（東より）

SI04 完掘（南より）

SI05 遺物出土状況（南より）

SI06 遺物出土状況（南より）

SI06 遺物出土状況（南より）



SI07 完掘（南より）

SI08 断面・P9 断面（南より）

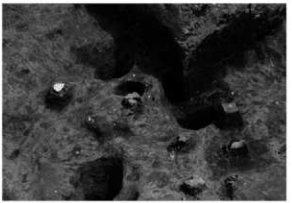
SI09 ｶﾏﾄﾞ遺物出土状況（南より）

SI09 ｶﾏﾄﾞ遺物出土状況（南より）

SI09 遺物出土状況（南より）

図版 4

SI10 ｶﾏﾄﾞ完掘（南南東より）



SI11 遺物出土状況（南西より）

SI11 遺物出土状況（南西より）

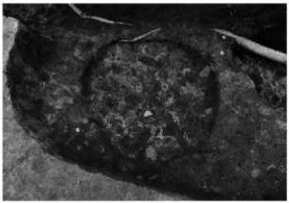
SI12 遺物出土状況（北東より）

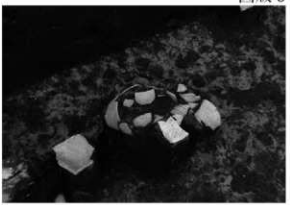
SI14･SK07 断面（南より）

SI15･PIT01 遺物出土状況（東より）

SI15 遺物出土状況（北東より）

SI16 完掘（南東より）


SI17･SK01 完掘（南より）


SI18 遺物出土状況（南東より）

SI18 遺物出土状況（南南東より）

SI18 遺物出土状況（北西より）

SI19 カマド堀方完掘（南より）

SI20 完掘（南より）

SI21 遺物出土状況（北東より）

SI22 遺物出土状況（南より）

図版 6

SI23 遺物出土状況（南より）

SI24･25 断面 A（東より）

SI24 遺物出土状況（南南東より）

SI26 完掘（南より）

SI27･遺物出土状況（南より）

SI28 遺物出土状況（西より）

SI29 完堀（南より）

SI30 遺物出土状況（西より）

SI31 完掘（南より）

SI32 断面 A（西より）

SI33 遺物出土状況（南より）

SI35 完堀（南より）

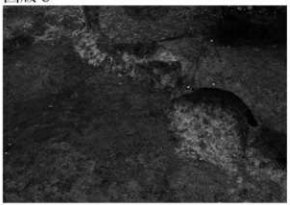
SI36 カマド遺物出土状況（南より）

SI37 完掘（南より）

SI38 断面 A（西より）

SI39･43 断面 A（東より）

図版 8



SI40 遺構検出（南より）

SI41 遺物出土状況（北より）

SI42 完掘（東より）

SI44 焼土検出状況（東より）

SI45 完掘（南より）

SI46 遺物出土状況（西より）

SI47 完掘（東より）

SI48 完掘（西より）

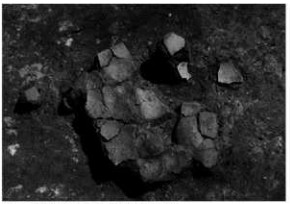
SI49 完掘（東より）

SI50 遺物出土状況（北より）

SI51 完堀（北より）

SI52 完堀（北より）

SI53 完堀（北より）



SI54 遺物出土状況 (2)（南より）

SI54 完堀（南より）

SI55 完堀（南より）

図版 10

SI56 完堀（南より）

SI57 完堀（南より）

SI58 完堀（北より）

SI59 完堀（東より）

SI60 遺物出土状況（東より）

SI61･62･63 断面（東より）

SI64 完掘（西より）

SI65 完掘（西より）

SI66 断面 A（北より）

SI67 断面（西より）

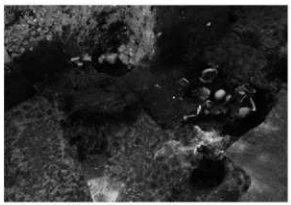
SI69 断面 B（北より）

SI70 遺物出土状況（南より）

SI70 完掘（東より）

SI71 遺物出土状況・SE04 完掘（西より）

SI72 完掘（北東より）



SI73・SL01 遺物出土状況（南東より）

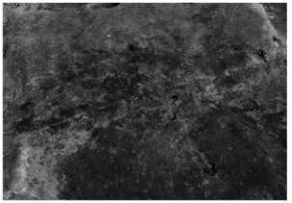
図版 12

SI73 遺物出土状況（南東より）

SI74 完掘（東より）

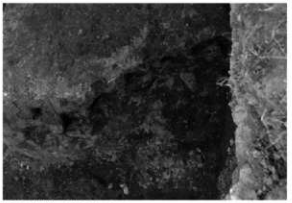
SI75･84 完掘（西より）

SI76 完掘（南より）



SI77 完掘（西より）

SI78 完掘（南より）

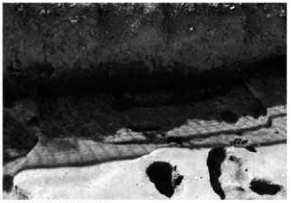


SI79 完掘（南より）

SI80 遺物出土状況（南より）

SI81 ｶﾏﾄﾞ検出（西より）

SI85 完掘（東より）


SI86 完掘（東より）

SI87 断面 A（西より）

SI88 ｶﾏﾄﾞ検出（南より）

SI89 ｶﾏﾄﾞ検出（南より）

SI90 ｶﾏﾄﾞ検出（南より）

SD02 遺構検出（東より）

図版 14

SD02 遺物検出状況（東より）

SD03 断面（東より）

SD03 断面（東より）

SD04 完堀（各方位より）

SD05 完掘（南西より）

SE02 完掘（西より）

SK09 遺物検出（南西より）

SK10 遺物検出（南より）

1

2

3

SI01

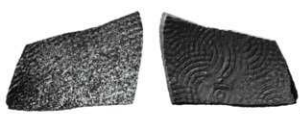
1

SI02

1

2

SI04


1

2

3

SI03

1

2

SI05

図版 16

3

4

SI05

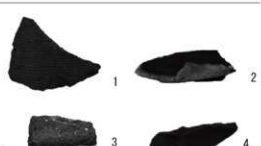
1

2

3

4

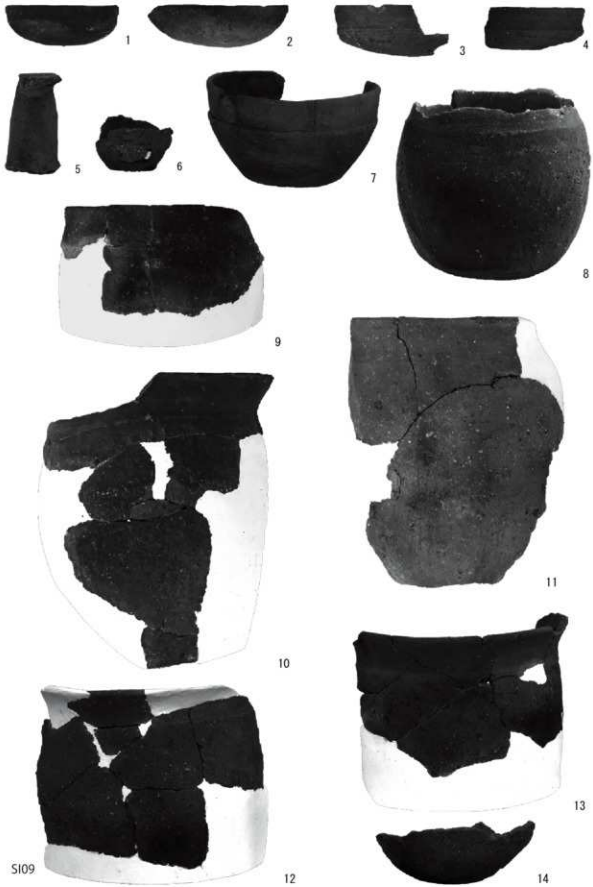
SI06



1 2 3 4

SI08

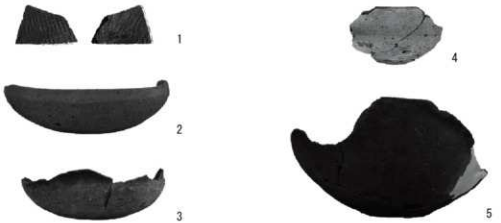
遺物図版（2）



SI09

遺物図版（3）

図版 18



SI10

SI11

遺物図版（4）

SI12

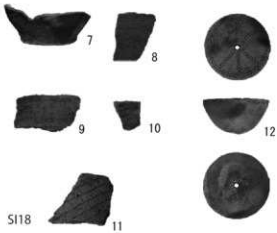
SI14

SI15

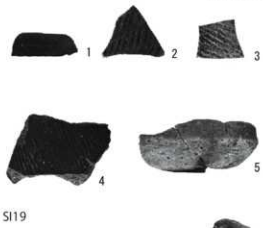
SI16

図版 20

SI18
遺物図版（6）

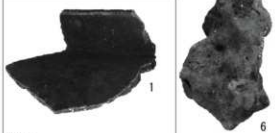


SI18



SI19

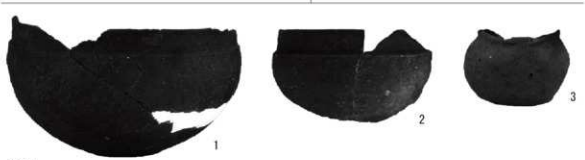
SI20



SI21

SI22

SI23



SI24

SI25

SI26

遺物図版（7）

図版 22

1

2

SI28
遺物図版（8）

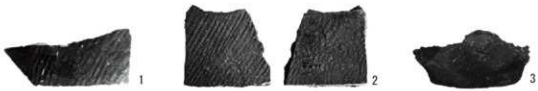
SI29

SI31

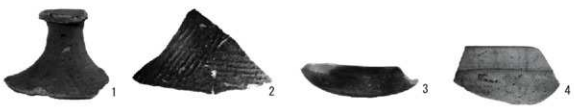
SI33

SI36

図版 24



SI38



SI39

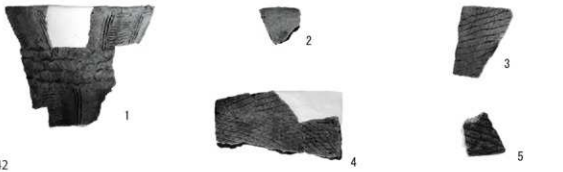
SI41

遺物図版 (10)

5

6

図版 26



SI42

SI43

SI44

SI45

SI46

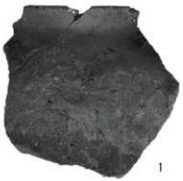
遺物図版 (12)

SI47

SI48

SI50

図版 28



SI52

SI53

SI54

遺物図版（14）

1

2

SI55

1

2

3

4

5

6

SI57

1

SI58

1

2

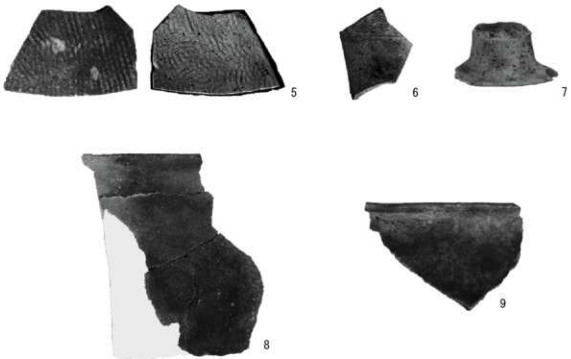
3

4

SI60

遺物図版（15）

図版 30



SI60

SI61

SI64

SI67

遺物図版（16）

1

2

3

4

5

6

7

SI68

1

2

SI70

1

SI71

1

SI72

図版 32

1

2

3

4

5

6

7

SI73
遺物図版 (18)

SI73

SI76

SI77

SI78

SI80

SI81

SI84

SI87

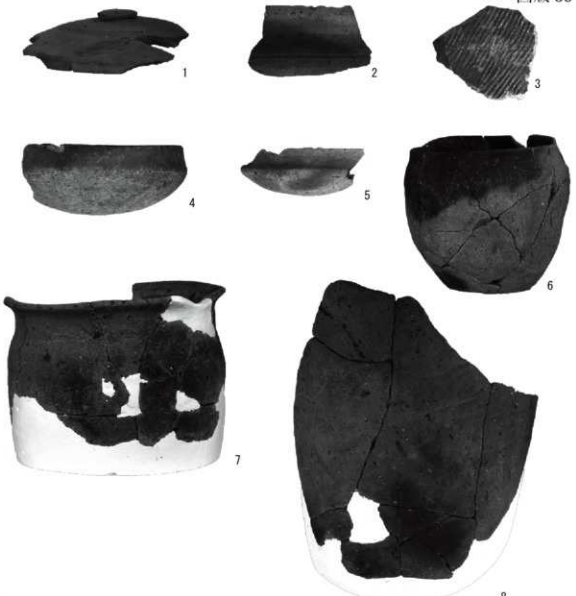
遺物図版（19）

図版 34

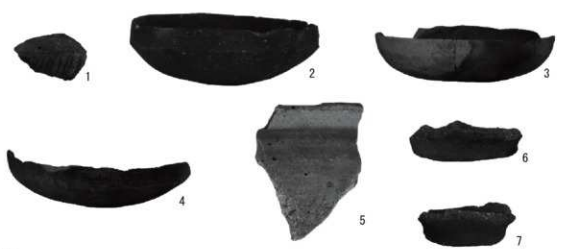
SI87

SI88

遺物図版 (20)

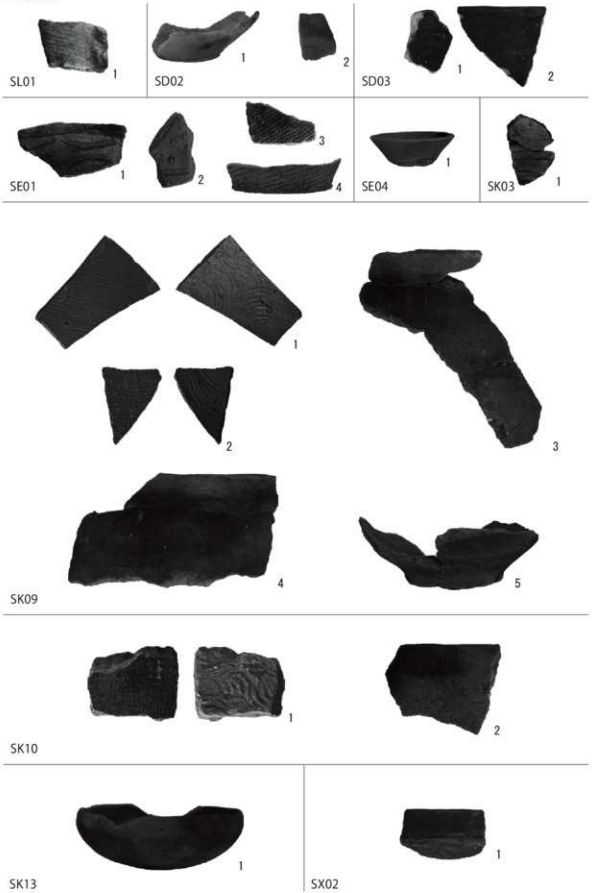


SI89

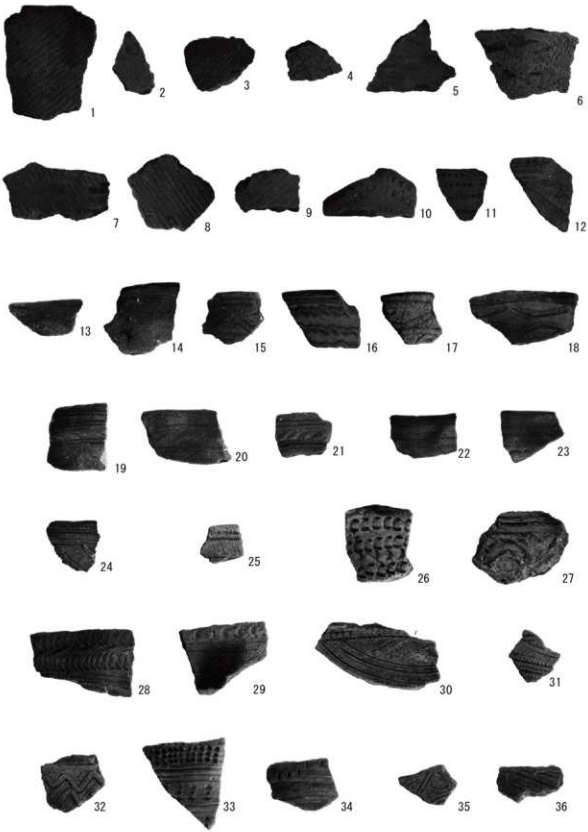


SI90

図版 36

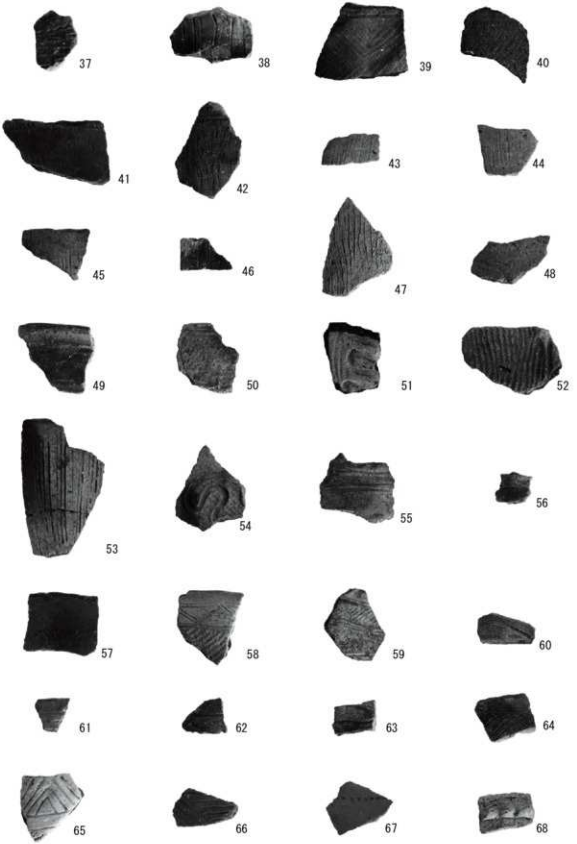

SL01
1
SD02
1
2
SD03
1
2
SE01
1
2
3
4
SE04
1
SK03
1
1
2
3
4
5
SK09
1
SK10
1
SK13
1
SX02
1

遺物図版（22）


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36

遺構外
遺物図版（23）

図版 38



遺構外
遺物図版 (24)

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

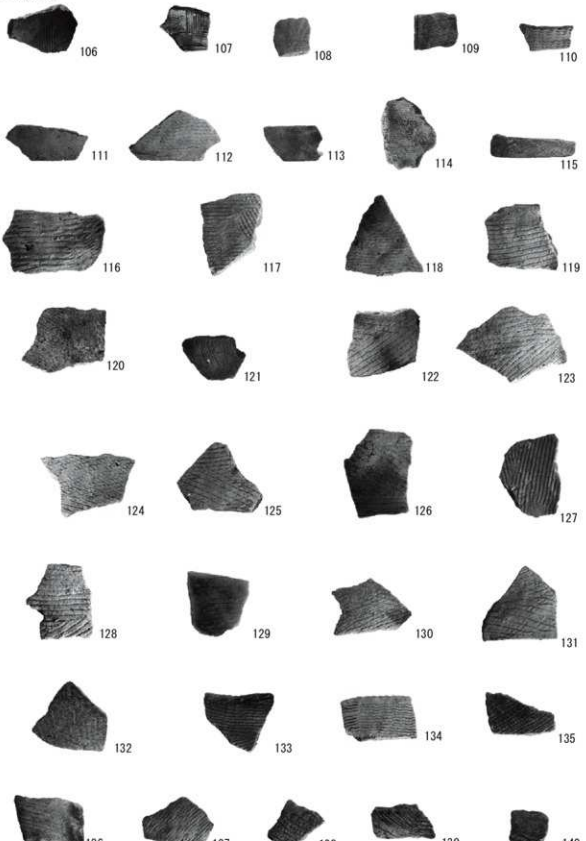
103

104

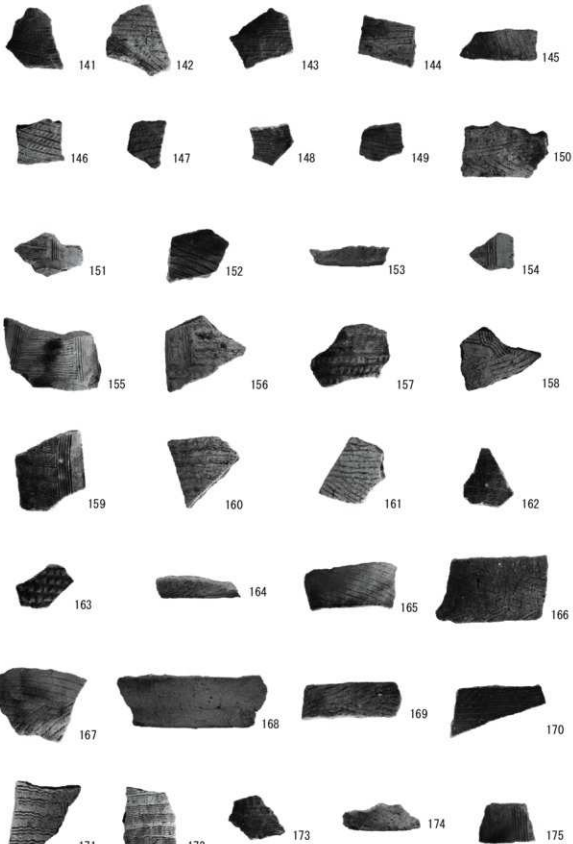
105

遺構外
遺物図版（25）

図版 40



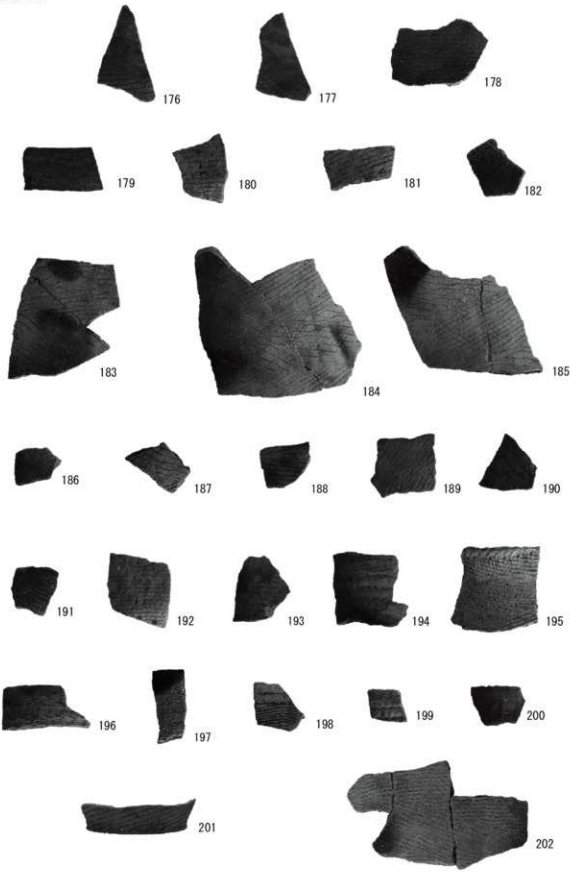
遺構外
遺物図版 (26)


141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175

遺構外

遺物図版（27）

図版 42



遺構外
遺物図版 (28)

遺構外
遺物図版（29）

図版 44

4

5

SI03

3

4

5

SI04

6

7

SI10

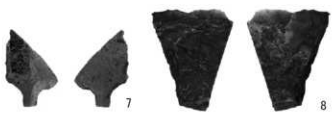
8

9

10

SI11

SI15

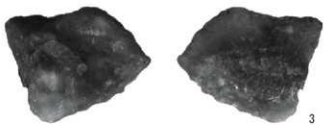


SI16

SI18

SI20

図版 46

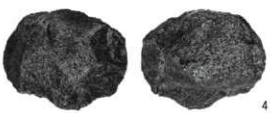


SI21

SI22

SI24

SI26



SI33

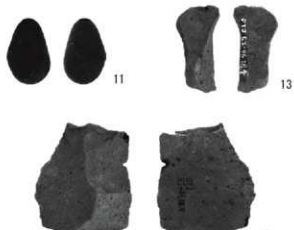
SI31

SI37

SI41

SI42

SI43



SI46

遺物図版（33）

図版 48

SI47

SI50

SI60

SI64

SI68

SI70

SI73

SI76

2

SI78

5

SI80

図版 50

3

SI81

10

SI88

9

SI89

8

9

10

SI90

3

SD02

3

SK10

1

SK11

223

遺構外

遺物図版（36）

4

SD02

210

211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

222

遺構外

報告書抄録

ふりがな	おおたじょうあと
書名	太田城跡
副書名	市道 3175・3181・3182・3184 号線（JT 跡地外周）道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	常陸太田市内埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 15 集
編著者名	山口 憲一・諸星 良一
編集機関	株式会社　東京航業研究所
所在地	〒 350-0855　埼玉県川越市大字伊佐沼 28 番 1　　TEL049-229-5771
発行機関	常陸太田市教育委員会
所在地	〒 313-0055　茨城県常陸太田市西二町 2200　　TEL0294-72-3201
発行年月日	西暦 2021 年（令和 3 年）3 月 23 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
おおたじょうあと 太田城跡	ひたちおおたしさかえちょう 常陸太田市栄町 102 番地 1	212	129	36° 32′ 47″	140° 31′ 17″	20190610 ～ 20190930	1539.59㎡	道路改良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
太田城跡	集落跡	・弥生 ・古墳 ・古代 ・中世	・竪穴建物跡　85 ・堀跡　4 ・溝跡　1 ・井戸　4 ・柵列　1 ・焼土遺構　1 ・土坑　24 ・性格不明遺構　1 ・ピット　53	縄文土器、石器、弥生土器、土師器、須恵器、土師質土器、陶磁器、鉄製品、銭貨、土製品、石製品、礫、礫片	・縄文時代から奈良、平安時代の集落を調査した。竪穴建物跡の帰属時期は、古墳時代前期～後期を主体とし、他は縄文・弥生・奈良・平安時代に帰属する。

要約	・太田城跡は、久慈川支流の源氏川と谷津川にはさまれた台地上平坦面に位置する中世の遺跡である。今回の調査では縄文時代から平安時代までの連綿と続く集落跡が多くの遺物や遺構と共に確認された。また、太田城に関わる堀跡と遺物が検出された。

常陸太田市内遺跡調査報告書

太 田 城 跡

市道 3175・3181・3182・3184 号線（JT 跡地外周）

道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第 15 集

発行年月日　2021（令和 3）年 3 月 23 日

編　　集　株式会社東京航業研究所

〒 350-0855　埼玉県川越市大字伊佐沼 28 番 1

TEL 049-229-5771

発　　行　常陸太田市教育委員会

〒 313-0055　茨城県常陸太田市西二町 2200

TEL 0297-72-3201

印　　刷　関東図書株式会社

〒 336-0021　埼玉県さいたま市南区別所 3-1-10

TEL 048-862-2901